

エクアドル共和国
チンボラソ県持続的総合農村開発
プロジェクト
中間レビュー調査報告書

平成 26 年 11 月
(2014 年)

独立行政法人国際協力機構
農村開発部

農村
JR
14-117

エクアドル共和国
チンボラソ県持続的総合農村開発
プロジェクト
中間レビュー調査報告書

平成 26 年 11 月
(2014 年)

独立行政法人国際協力機構
農村開発部

序 文

独立行政法人国際協力機構は、エクアドル共和国政府の要請を受けて、2012年3月14日から2017年3月13日までの5年間の予定で、チンボラソ県政府、農牧漁業省、環境省、教育省、保健省をカウンターパート機関として、住民の生計向上及び生活環境の改善に向けた開発事業の実施基盤の整備を目的とした「チンボラソ県持続的総合農村開発プロジェクト」を実施しています。

今般、本プロジェクトの中間時点を迎えたことを受け、協力期間前半における実績を確認し、計画に対する達成度の検証を行い、評価5項目の観点から評価を行うとともに、プロジェクト後半の活動計画について検討することを目的として、2014年9月9日から9月26日まで、当機構国際協力専門員の永代成日出を団長とする中間レビュー調査団を現地に派遣し、プロジェクト活動の評価を行いました。

その結果、プロジェクトはおおむね順調に進捗し、プロジェクト終了までに所期の成果をほぼ達成できる見込みが高いことと判断されました。ただし、所期の成果達成をより確実なものとするうえで、いくつか改善すべき点もみられたので、そのため必要な対策について提言を行っています。

本報告書は、同調査団によるエクアドル共和国政府関係者との協議並びに調査・評価結果を取りまとめたものであり、本プロジェクトの今後の運営並びに関連する国際協力の推進に広く活用されることを期待します。

ここに、本調査にご協力いただいた内外の関係各位に対し、心から感謝の意を表します。

平成26年11月

独立行政法人国際協力機構

農村開発部長 北中 真人

目 次

序 文

目 次

プロジェクト位置図

写 真

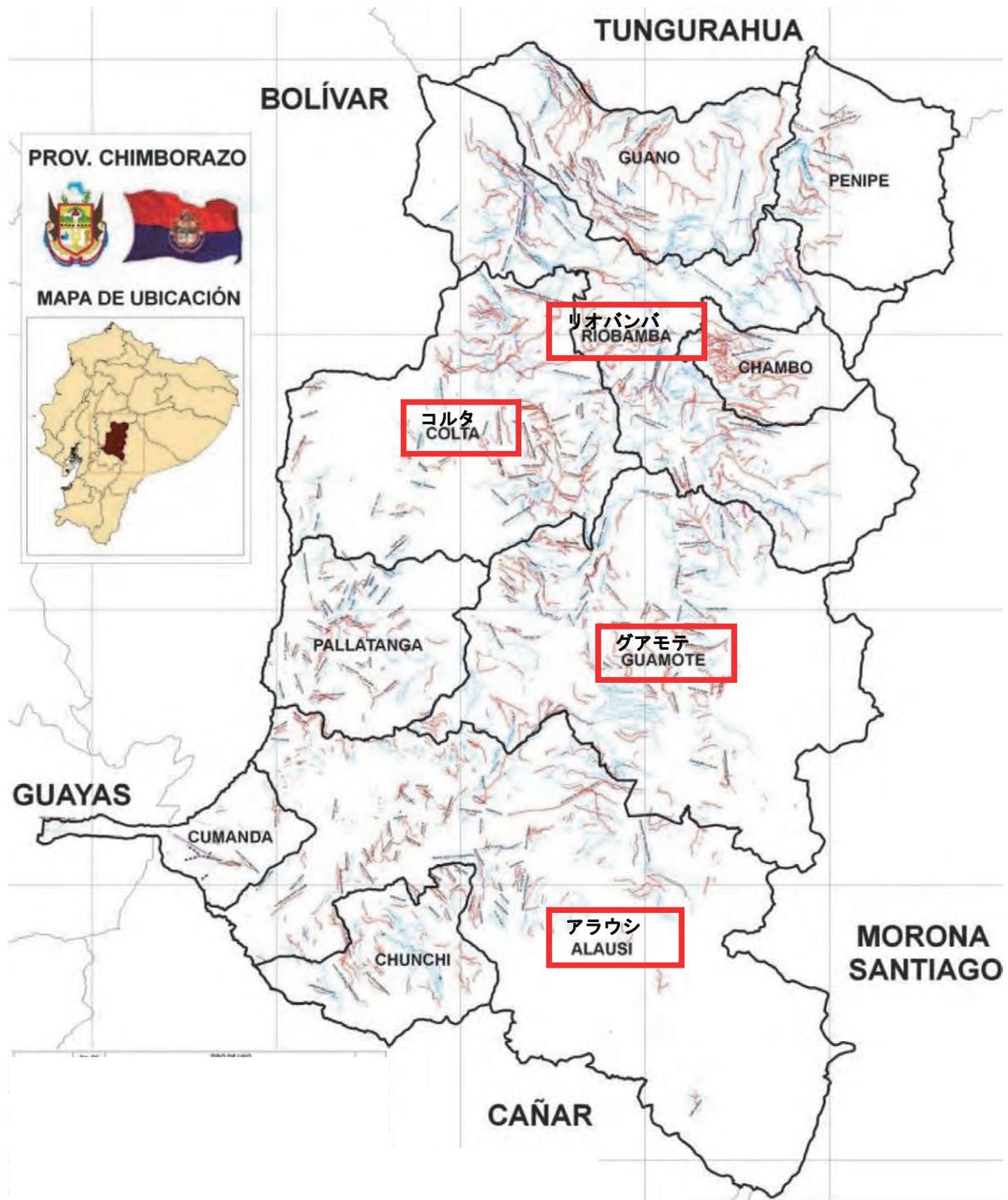
略語表

評価調査結果要約表

第1章 中間レビュー調査の概要	1
1-1 中間レビュー調査の目的	1
1-2 中間レビュー合同評価団メンバー	1
1-3 調査日程	1
1-4 中間レビューの方法	1
第2章 プロジェクトの概要	3
2-1 プロジェクトの概要	3
2-2 プロジェクトの要約	3
第3章 プロジェクトの実績	5
3-1 投入実績	5
3-2 アウトプットの実績	6
3-3 プロジェクト目標の達成見込み	12
3-4 実施プロセスの検証	12
第4章 評価結果	15
4-1 妥当性	15
4-2 有効性	17
4-3 効率性	18
4-4 インパクト	20
4-5 持続性	21
4-6 結論	22
第5章 提言	24
第6章 団長所感	27
付属資料	
1. 調査日程	31
2. PDM ver.2	32

3. JICA 専門家派遣実績	35
4. 本邦研修実績	36
5. 供与機材実績	37
6. 日本側負担現地経費	38
7. エクアドル側カウンターパート配置実績	39
8. エクアドル側負担経費	41
9. アウトプット 1 に関連した活動の詳細	43
10. アウトプット 2 に関連した活動の詳細	65
11. アウトプット 3 に関連した活動の詳細	73
12. ミニッツ (合同評価報告書含む)	88

プロジェクト位置図



□は実証対象地域の郡

出所：PLAN DE DESARROLLO Y ORDENAMIENTO TERRITORIAL 2011

写



プロジェクト関係者へのインタビュー調査
(チンボラソ県庁舎にて)

真



プロジェクトによって導入されたクイの飼育
方法の実践



プロジェクトによって導入された天水集水タ
ンクによるウォーターハーベストの実践



プロジェクトで導入されたチョチョマメ栽培
技術の個人圃場における実践



プロジェクトで導入された養鶏方法の実践



集落苗畑における植林用苗木栽培の実践



プロジェクトで設置された貯水池
(アラウシ郡)



プロジェクトで導入した製粉機 (アラウシ郡)



教育省の協力により展開した学校菜園



水土保持のための浸透溝設置工事



テラス工



プロジェクトで開発された穀物保存用サイロ



フェリア（市）における生産物販売
（鶏卵、鶏肉、チョコチョマメパン）



チョコチョマメの加工販売（煮豆）



合同評価調査団内における評価結果取りまとめ作業



合同調整委員会における合同評価調査団による中間レビュー結果の報告



合同調整委員会における中間レビュー結果報告に関するミニッツ署名

略 語 表

略 語	英語 / スペイン語	日 本 語
CCC	Comité de Coordinación Conjunta	合同調整委員会
COOTAD	Código Orgánica de Ordenamiento Territorial Autonomía y Descentralización	国土編成、自治、地方分権組 織法
COP	Comité Operativo de Proyecto	運営委員会
CORPOPURUWA	Corporación de Productores de Leguminosas y Granos Andinos del Pueblo Puruwa Chimborazo	種子生産組合
C/P	Counterpart / Contraparte	カウンターパート
DPA	Desarrollo Participativo y Asociativa	参加型開発/組織化
ESDRUC	Escuela de Desarrollo Rural Comunitario	農民野外学校
FAO	Food and Agriculture Organization of the United Nations / Organización de las Naciones Unidas para La Alimentación y Agricultura	食糧農業機関
GAD	Gobierno Autónomo Descentralizado	地方自治政府
GADPCH	Gobierno Autónomo Descentralizado de la Provincia de Chimborazo	チンボラソ県政府
IEPARC	Incremento de Los Ingresos Económicos de Los Pequeños Productores Agrarios en La Región Cajamarca	カハマルカ州小規模農家生 計向上プロジェクト
INIAP	Instituto Nacional de Investigaciones Agropecuarias	国立農牧研究所
JICA	Japan International Cooperation Agency / Agencia de Cooperación Internacional del Japón	独立行政法人国際協力機構
MAE	Ministerio de Ambiente	環境省
MAGAP	Ministerio de Agricultura, Ganadería, Acuicultura y Pesca	農牧漁業省
MINEDUC	Ministerio de Educación	教育省
MSP	Ministerio de Salud Pública	保健省
OJT	On-the-Job Training / Entrenamiento en la práctica	オン・ザ・ジョブ・トレー ニング
PCM	Project Cycle Management / Manejo de Ciclo del Proyecto	プロジェクト・サイクル・マ ネジメント
PDM	Project Design Matrix / Matriz del Diseño de Proyecto	プロジェクト・デザイン・マ トリックス
PDOT	Plan de Desarrollo y Ordenamiento Territorial	テリトリアル計画

略 語	英語 / スペイン語	日 本 語
PMSK	Abreviatura en Kichuwa del proyecto Minka Sumak Kawsay y en español Proyecto de “Fortalecimiento Estructural del Desarrollo Rural Integral Sostenible para la Reducción de la Pobreza en la Provincia de Chimborazo de la República del Ecuador” y “Desarrollo Rural Integral Sostenible en la Provincia de Chimborazo”.	「チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト」及び「チンボラソ県持続的総合農村開発プロジェクト」のキチュア語の略称
PO	Plan of Operations / Plan Operativo	活動計画
PRORRICAT	Proyecto de Reactivación del Proyecto de Riego y Drenaje de la Cuenca del Río Catarama	カタラマ流域灌漑事業活性化プロジェクト
qq	quintal	キンタル（質量単位） 1 キンタル=約 45.3 kg
R/D	Record of Discussions / Registro de Discusión	実施合意文書
SETECI	Secretaria Técnica de Cooperación Internacional	国際協力省
UDRI	Unidad de Desarrollo Rural Integral	総合農村開発ユニット
UNACH	Universidad Nacional de Chimborazo	チンボラソ大学
WFP/PMA	World Food Program / Programa Mundial de Alimentos	世界食糧計画

評価調査結果要約表

1. 案件の概要		
国名：エクアドル共和国	案件名：チンボラソ県持続的総合農村開発プロジェクト	
分野：農業	援助形態：技術協力プロジェクト	
所轄部署：農村開発部	協力金額（評価時点）：約2億7,000万円	
協力 期 間	(R/D)：2011年12月7日	先方関係機関：チンボラソ県政府（GADPCH）、農牧漁業省（MAGAP）、環境省（MAE）、保健省（MSP）、教育省（MINEDUC）
	協力期間：2012年3月14日～ 2017年3月13日（5年間）	日本側協力機関：なし
		他の関連協力：なし
1-1 協力の背景と概要		
<p>エクアドル共和国（以下、「エクアドル」と記す）チンボラソ県は、人口約40万人の山岳地域のほぼ中央部に位置する。同県は、主要な生計手段である農業所得の低さに加え、質の低い教育・医療・基礎インフラによる劣悪な生活環境及び自然資源の劣化（森林破壊による流域荒廃、土壌浸食など）に起因して、山岳地域10県のなかでも深刻な貧困問題を抱えている。</p> <p>これらの複合的な問題を解決するためには、多分野に及ぶ総合開発の観点からの中長期的な開発戦略の策定が必要である。そこで、独立行政法人国際協力機構（以下、「JICA」と記す）は、エクアドル政府の要請を受け、貧困削減に向けた参加型の持続的総合農村開発の実施体制を整備することを目標とした「チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト」を2009年2月から2011年8月まで実施した。これにより、「チンボラソ県持続的総合農村開発戦略」の策定及び同戦略に基づいた開発計画の策定を行った。</p> <p>このプロジェクトの実施を通じて、①本戦略を持続的に実施に移すために、各集落のレベルで住民の直面する課題を的確に把握し、上記戦略の枠組みに沿って、これに対応する計画を策定・実施する必要があること、②①と併せて、住民の主体性の形成と自助努力による生活環境の改善や収入の向上、テリトリアル計画（Plan de Desarrollo y Ordenamiento Territorial：PDOT）などの行政が推進する参加型開発への理解・協力を促進する必要があること、及び③総合的な開発戦略を適切に実施するために、複数のセクターにまたがる関係行政機関の連携・調整による実施体制の強化と、課題分析・計画策定・計画実施にかかる関係組織の能力を向上させる必要があることが、新たな課題として認識されるに至った。</p> <p>こうした背景の下、エクアドル政府は、これらの課題に取り組むため、改めて、わが国に対して後続プロジェクトの協力を要請した。JICAは、プロジェクトの必要性や要請の妥当性を確認するため、2011年7月14日から8月4日にかけて詳細計画策定調査を実施した。この結果、プロジェクトの枠組みが合意され、2011年12月7日に実施合意の署名が行われた。</p> <p>そして、2012年3月から2017年3月までの5年間の予定で、チンボラソ県政府（Gobierno Autónomo Descentralizado de la Provincia de Chimborazo：GADPCH）、農牧漁業省（Ministerio de Agricultura, Ganadería, Acuacultura y Pesca：MAGAP）、環境省（Ministerio de Ambiente：MAE）、教育省（Ministerio de Educación：MINEDUC）、保健省（Ministerio de Salud Pública：MSP）をカウンターパート（Counterpart：C/P）機関として、住民の生計向上及び生活環境の改善に向けた開発事業の</p>		

実施基盤の整備を目的とした「チンボラソ県持続的総合農村開発プロジェクト」が開始された。今回、本プロジェクトの目標達成度や成果等を分析するとともに、プロジェクトの残り期間の課題及び今後の方向性について確認し、中間レビュー報告書に取りまとめることを目的として、中間レビュー調査が実施された。

1-2 協力内容

(1) 上位目標

チンボラソ県農村部の住民の生活の質が改善される。

(2) プロジェクト目標

実証対象地域における住民の生計の向上及び生活環境が改善されるとともに、普及対象地域において生活の質の改善に向けた開発事業の実実施基盤が整備される。

(3) 成果（アウトプット）

- ①実証対象地域の農家が、生計向上についての基礎的知識・技術を習得し実践する。
- ②実証対象地域において、農家が生活環境改善についての基礎的知識・技術（環境、保健、教育）を習得し実践する。
- ③持続的総合農村開発のための、参加型開発にかかる各関係機関の職員や技術者・普及員の能力が強化される。
- ④持続的総合農村開発のための関係機関の連携が強化される。
- ⑤持続的総合農村開発のための体制構築・手法確立のためのガイドラインが策定される。

(4) 投入

1) 日本側

専門家派遣：専門家 6 名（長期専門家 2 名、短期専門家 4 名）

本邦研修：2 名（2 コース）、第三国研修：9 名（1 コース）、在外事業強化費：36 万 5,231.87 米ドル（約 3,790 万円）

2) エクアドル側

C/P 配置：30 名（GADPCH：19 名、MAGAP：3 名、MAE：2 名、MSP：2 名、MINEDUC：4 名）

ローカルコスト支出（GADPCH のみ）：農村開発事業実施コスト及び C/P 給与等、施設提供（GADPCH 内プロジェクト事務所、倉庫 2 カ所、駐車場）

2. 評価調査団の概要

	担当分野	氏 名	所 属
日本側	団長	永代 成日出	独立行政法人国際協力機構 国際協力専門員
	協力企画	村上 亮介	独立行政法人国際協力機構 農村開発部第二チーム職員
	評価分析	大森 廣寿	公益社団法人 国際農林業協働協会
	通訳	菅野 喜巳	一般財団法人 日本国際協力センター

エクアドル側	Licda. Transito Llucu	チンボラソ県副知事
	Ing. Pablo Erazo	農牧漁業省計画局分析官
	Eco. Sandra Cuenca	農牧漁業省国際協力課分析官
	Ing. Paulina Japón	環境省国内森林部技師
	Ing. Erika Benevidas Orellana	国際協力庁評価部技師
調査期間	2014年9月9日～9月26日	評価種類：中間レビュー調査

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

(1) 成果1～5の達成状況は以下のとおりである。

成果1：実証対象地域の農家が、生計向上についての基礎的知識・技術を習得し実践する。

指標 1-1：実証対象地域における50%以上の協力対象農家が生計向上にかかる知識・技術を習得し実践する。

現地調査で確認した範囲では、実証対象地域で行われている農民野外学校（Escuela de Desarrollo Rural Comunitario：ESDRUC）の参加者は、研修を受けた生計向上にかかる技術を自分の圃場でも実践している。優良種子を使い、等高線栽培を行い、施肥・病虫害予防を行っている。

成果2：実証対象地域において、農家が生活環境改善についての基礎的知識・技術（環境、保健、教育）を習得し実践する。

指標 2-1：実証対象地域における研修受講者の50%以上が環境保全にかかる知識・技術を実践する。

現地調査で確認した範囲では、ESDRUCの参加者は、研修を受けた環境保全にかかる何らかの技術を自分の圃場で実践している。圃場周囲に防風用樹木を植栽し、テラス、浸透溝、排水溝などを実践している。

指標 2-2：実証対象地域における研修受講者の50%以上が予防保健にかかる知識・技術を実践する。

現地調査で確認した範囲では、ESDRUCの参加者は、研修を受けた予防保健にかかる何らかの技術を自分の家庭で実践している。予防保健への意識が高まり、農作業後や食事前の手洗いを行っている家庭もみられた。

指標 2-3：実証対象地域における研修受講者の50%以上が栄養改善にかかる知識・技術を実践する。

現地調査で確認した範囲では、ESDRUCの参加者は、研修を受けた栄養改善にかかる何らかの技術を自分の家庭で実践している。栄養改善への意欲が高まり、これまでのジャガイモ中心の食事からマメ科作物や野菜類を意識的に取り入れた食事を以前より増やすようになっている。

指標 2-4：実証対象地域の該当者の50%以上が識字及びポスト識字教育を受講する。

実施体制が整っていないことと、農民側の希望が少ないことにより、識字教育は行われていない。

成果3：持続的総合農村開発のための、参加型開発にかかる各関係機関の職員や技術者・普及員の能力が強化される。

指標3-1：参加型開発に関する研修を職員・技術者・普及員の80%以上が受講する。

参加型開発に関する研修を職員・技術者・普及員の90%以上が受講している。

指標3-2：参加型開発に関する研修を受けた職員・技術者・普及員の50%以上が、その知見をコミュニティプロジェクトの運営に適用している。

参加型開発に関する研修を受けたすべての職員・技術者・普及員が、その知見を集落の参加型開発に応用している。

成果4：持続的総合農村開発のための関係機関の連携が強化される。

指標4-1：技術支援ユニットが機能している。

技術支援ユニットが集落で活動する普及員を指導するなど、技術的中核として機能している。技術支援ユニットは、参加型開発、農業生産、流通、環境、保健、教育の6つのサブユニットで構成されている。

指標4-2：普及ネットワークが機能している。

プロジェクトでは、チンボラソ州政府、県下の郡、区、集落を協定により結びつけ、県から集落までの普及ネットワークを構築することをめざしている。プロジェクト対象4郡の1つであるアラウシ郡とは、既に州政府と郡政府の協定書締結が完了している。現在、アラウシ郡政府とその郡下にある区政府との協定書締結の準備が進められており、近いうちにこれら協定書に基づく具体的な活動が開始される予定である。州政府は、他の3郡とも協定締結のための協議を進めているところである。

指標4-3：関係機関で連携した農村開発事業が各集落で実施される。

MAGAP、MAE、MSP、MINEDUCと連携して、それぞれ農牧生産振興、水土保全・環境教育、予防保健・栄養改善、学校菜園指導といった農村開発事業が各集落で実施されている。

成果5：持続的総合農村開発のための体制構築・手法確立のためのガイドラインが策定される。

指標5-1：持続的総合農村開発のための体制構築・手法確立のためのガイドラインを関係機関に提出する。

ガイドラインの骨子となる「総合農村開発の支援戦略」は既にまとめられている。また、総合農村開発支援戦略策定、技術移転ツール作成、普及の仕組みづくりが進められている。プロジェクト活動が順調に進めば、プロジェクト終了までに達成される可能性があると思定される。

(2) プロジェクト目標の達成状況は以下のとおりである。

実証対象地域における住民の生計の向上及び生活環境が改善されるとともに、普及対象地域において生活の質の改善に向けた開発事業の実施基盤が整備される。

指標1：実証対象地域の協力対象農家の収入が、生計向上についての基礎的知識、技術により30%向上する。

生計向上に関して行っている優良種子導入、適正な栽培技術適用による増産、流通改善活

動（市場開拓、付加価値創出）によって、事業に参加している農家の収入が改善されつつある。
指標 2：プロジェクト活動により、実証対象地域の 50%以上の協力対象農家の生活環境に関する満足度が高まる。

植林や環境教育、公共保健サービスへのアクセス強化、学校菜園（収穫物の給食への利用）により、参加農家の間に、生活環境改善活動に対して高い満足度が生まれている。

指標 3：普及対象地域の持続的総合農村開発のための体制構築・手法確立のためのガイドラインが関係機関により合意される。

ガイドラインの骨子は「総合農村開発の支援戦略」として既にまとめられている。今後、プロジェクト活動による内容の充実・手法の確立に加え、持続的総合農村開発のための仕組みづくりが行われていくことになっている。

(3) 上位目標の達成予測は以下のとおりである。

チンボラソ県農村部の住民の生活の質が改善される。

指標 1：普及対象地域で生計向上についての基礎的知識・技術により生計向上が実現する。

本プロジェクトの目標が達成されれば、将来的に見込みはあると思われるが、現状では、実証対象地域での検証が行われている段階であり、本プロジェクト対象地域外である普及対象地域で、生計向上についての基礎的知識・技術により、生計向上が実現するかどうかについての具体的予想は困難である。

指標 2：プロジェクトで導入された環境・保健・教育分野の生活環境改善にかかる知識・技術が普及対象地域で実践される。

本プロジェクトの目標が達成されれば、将来的に見込みはあると思われるが、現状では、実証対象地域での検証が行われている段階であり、本プロジェクト対象地域外である普及対象地域で、プロジェクトで導入された環境・保健・教育分野の生活環境改善にかかる知識・技術が実践されるかどうかについての具体的予想は困難である。

3-2 評価結果の要約

評価 5 項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）にかかる評価結果は以下のとおりである。

(1) 妥当性

チンボラソ県は貧困率が高く、貧困層の多くが小規模な農業に従事している。これらの農家の生活の質を高めるために、生計向上、生活環境の改善、農村開発実施体制の整備が必要とされている。したがって、本プロジェクトは対象地域のニーズに合致したものである。また、本プロジェクトは地域活性化をめざすものであり、その考え方は「エクアドル国家開発計画 2013-2017」「国土編成、自治、地方分権組織法」「チンボラソ県テリトリアル計画」と整合している。したがって、本プロジェクトとエクアドル国家政策及びチンボラソ県政策との整合性は高いと判断できる。そして、日本の「対エクアドル国別援助方針」では、格差是正と持続的発展を協力の重点分野の 1 つとして挙げており、本プロジェクトは日本の政策とも整合性が高い。

(2) 有効性

アウトプット1から4の活動を通して得られる方法論や技術論をより充実させていくことによって、それらを活用して作られる持続的総合農村開発のガイドライン（アウトプット5）の内容がより効果的かつ実用的になると見込まれる。このガイドラインが単なる報告書でなく、今後のチンボラソ県の農村開発のモデルとして役立てられるためには、そのガイドラインを活用していく仕組みが構築されることが不可欠である。それがプロジェクト目標の指標の1つとなっている。ガイドラインの骨子は「総合農村開発の支援戦略」として既にまとめられており、それに基づいた実施基盤づくりが普及ネットワークの構築として取り組み始められている。個々の活動は順調に進められてきているので、プロジェクト目標の達成の見込みは大きいと考えられる。今後、個々の活動の手法・ツールの取りまとめとともに、仕組みの実現が大いに期待されている。

(3) 効率性

プロジェクト活動は、アウトプット2の指標2-4の識字教育を除いて、おおむね計画どおりに実施されている。活動とアウトプット間には適切な因果関係が成立しており、諸活動の結果として、各アウトプットの実現が見込まれている。両国側の各種投入ともおおむね計画どおりに行われ、各活動に利用されている。日本側の投入の課題としては、適切な人材をリクルートできなかったために、2014年6月から着任予定の収入源創出の長期専門家が配置できていない。また、エクアドル側の投入の課題としては、2014年、一部の資機材（種子、肥料、消毒薬等）の投入のタイミングが播種時期に遅れたことと、納入されたジャガイモ種子の一部に品質に問題があったことが挙げられる。

(4) インパクト

本プロジェクトでは「チンボラソ県農村部の住民の生活の質が改善される」が上位目標として掲げられている。上位目標が達成されるには、プロジェクトで策定されるガイドラインを反映した普及ネットワークと、その持続的実践を担う総合農村開発ユニット（県、郡、区、集落）の整備がチンボラソ県農村部全体で進められ、集落普及員制度が整い、かつ農民が農民に技術移転を行うシステムが県全体に広まることが求められる。プロジェクト後半で想定されているこの仕組みづくりが順調に進めば、プロジェクトの成果をチンボラソ県農村部すべてに普及させる基盤が形づくられるはずである。よって上位目標達成の見込みは十分にありと想定される。プロジェクトの実施によるネガティブなインパクトは、特に観察されていない。

(5) 持続性

本プロジェクトの活動は国や県の政策とも整合しており、プロジェクト・ディレクターであるクリカマ知事の任期は2019年5月までである。協力期間中に、彼の強いイニシアティブで農村開発事業の制度化が図れれば持続性は担保されると見込まれる。一方、本プロジェクトの総合農業開発モデルを体現化することになる普及ネットワークは、県政府だけでなく、郡政府、区政府、集落（村議会）の積極的協力がなくては実現困難なものであるが、既にア

ラウシ郡で普及ネットワーク構築の手續きが進行中であり、今後、徐々に他の3つの郡政府と区政府もその構想に加わってくるだろうと期待されている。省庁との連携については、今後もさらなる強化が期待されている。持続性の観点から、受益者の財政面も考慮しなければならない。受益者自身が、プロジェクト終了後、すべてのコストを負担し続けられないようでは、将来的に受益者が事業を止めてしまう可能性が大きく、そのような事業は持続性を担保できないこととなる。初期投資がある程度かかる収入源創出活動（例えばパン製造）については維持管理や減価償却の考えを農家に指導し、持続性を図っていく必要がある。現在、プロジェクトの指導により、農民は活動の持続性を担保するための共同基金を設けている。C/P職員の技術面については、必要な技術・知識がOJTや研修により強化されている。プロジェクト終了に向けて、持続性を担保し、技術者が自立できるように、図っていくことが求められている。

(6) 結論

プロジェクトは、その目標に向かって、正しい方向に進んでいるといえる。今後プロジェクト活動が円滑に進捗すればプロジェクト目標と上位目標の達成は可能であると判断されるが、その前提として下記の提言に示す検討や改善が求められる。

4. 提言

(1) プロジェクトに対する提言

- ①持続的総合農村開発事業の実施基盤の整備に重点を置いた活動の実施
- ②生計向上と生活環境改善の両者からなるバランスのとれた農村開発事業の実施
- ③優良種子及び小動物の生産・供給システムの整備
- ④集落普及員制度の整備
- ⑤収入源創出活動のさらなる促進
- ⑥農牧業技術/営農分野についてのマニュアル・リフレットの作成
- ⑦水土保全活動のさらなる促進
- ⑧事業効果検証のための定量的調査の実施
- ⑨受益農家の援助依存からの脱却と自助努力の促進
- ⑩総合農村開発に向けた実施体制のさらなる強化と受益集落に対する組織強化
- ⑪本プロジェクト活動計画（Plan of Operations：PO）の見直し
- ⑫関係省庁間及び各省庁内部における連携の強化

(2) JICA に対する提言

- ①計画どおりに専門家を派遣することに最大限の努力を行うとともに、併せてエクアドル国内や近隣国のリソースも有効に活用する可能性についても検討する。

第1章 中間レビュー調査の概要

1-1 中間レビュー調査の目的

「チンボラソ県持続的総合農村開発プロジェクト」(以下、「本プロジェクト」)は、2012年3月に開始された5年間の技術協力プロジェクトである。今般プロジェクト開始後2年半が経過し、プロジェクト期間の中間時点を迎えたことから、独立行政法人国際協力機構（JICA）の中間レビュー調査団が派遣され、エクアドル側実施機関及び関係機関との合同による中間レビューが実施された。本中間レビューは、プロジェクトの進捗状況や実施プロセスを確認し、達成度の検証を行い、さらに評価5項目による分析の結果から、プロジェクトの残り期間の課題及び今後の方向性について検討し、合同評価報告書に取りまとめ、プロジェクト関係者に対し、中間レビュー結果を共有することを目的として実施された。

1-2 中間レビュー合同評価団メンバー

(1) 日本側評価メンバー

担当分野	氏名	所属
団長	永代 成日出	独立行政法人国際協力機構 国際協力専門員
協力企画	村上 亮介	独立行政法人国際協力機構 農村開発部第二チーム職員
評価分析	大森 廣寿	公益社団法人国際農林業協働協会
通訳	菅野 喜巳	一般財団法人日本国際協力センター

(2) エクアドル側評価メンバー

担当分野	氏名	所属
評価委員代表	Licda. Transito Lluco	チンボラソ県副知事
評価委員	Ing. Pablo Erazo	農牧漁業省計画局分析官
評価委員	Eco. Sandra Cuenca	農牧漁業省国際協力課分析官
評価委員	Ing. Paulina Japon	環境省国内森林部技師
評価委員	Ing. Erika Benevidas Orellana	国際協力庁評価部技師

1-3 調査日程

本調査は2014年9月9日から同年9月26日までの期間で行われた。調査スケジュールの詳細は付属資料1. 調査日程を参照のこと。

1-4 中間レビューの方法

本中間レビューはJICAの事業評価ガイドラインに従い、プロジェクト・サイクル・マネジメント（Project Cycle Management：PCM）手法によって実施された。基準として用いたプロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix：PDM）は2013年2月26日に改訂されたPDM第二版（付属資料2. PDM ver.2を参照）である。中間レビューのプロセスは以下に示すとおりである。

- (1) 関係者による評価のデザインの確認・合意
 - (2) 必要なデータ・情報の収集
 - (3) プロジェクトの進捗状況及び実施プロセスの確認
 - (4) 評価 5 項目による分析
 - (5) 分析結果から得られた課題や今後の方向性について検討
 - (6) 合同中間レビュー報告書の取りまとめ、及びエクアドル・日本国側双方で合意
- 必要なデータや情報の収集は以下の方法で実施した。

調査方法	情報源
資料レビュー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 詳細計画策定調査報告書、実施合意文書 (Record of Discussions : R/D)、事業進捗報告書、ベースライン調査報告書、その他プロジェクト作成資料 ・ その他関連資料・文書
聞き取り調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記エクアドル側実施機関 (チンボラソ州政府、農牧漁業省、環境省、教育省、保健省) 及びカウンターパート (Counterpart : C/P) 職員 ・ 日本人専門家 ・ 実証対象地域の農家及びその他関係者
踏査調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ コルタ郡 San Martín Alto 集落、Columbe 1 y 2 集落、San Bernardo 集落*、Huacona Grande 集落* ・ リオバンバ郡 Shilpala 集落、Rumicruz 集落* ・ グアモテ郡 Sarachupa 集落、S.F. de Bishud 集落、San Pablo de Tipín 集落、Chismaute Alto 集落、Jatumpamba 集落、Corpopuruwa 農協 ・ アラウシ郡 Pueblo Viejo 集落*、La Pacifica 集落*、アラウシ市庁*

* 合同調査視察先。他は日本側のみで視察。

収集した情報は「評価 5 項目」により分析された。評価 5 項目とは 1991 年に経済協力開発機構開発援助委員会 (OECD-DAC) で提唱された開発援助の評価基準であり、以下の 5 つの項目から成る。

5 項目	概要
妥当性	開発援助と、ターゲットグループ・相手国・ドナーの優先度並びに政策・方針との整合性の度合い。
有効性	開発援助の目標の達成度合いを測る尺度。
効率性	インプットに対するアウトプット (定性並びに定量的) を計測する。開発援助が期待される結果を達成するために最もコストのかからない資源を使っていることを示す経済用語。最も効率的なプロセスが採用されたかを確認するため、通常、他のアプローチとの比較を必要とする。
インパクト	開発援助によって直接または間接的に、意図的または意図せずに生じる、正・負の変化。開発援助が、地域社会・経済・環境並びにその他の開発の指標にもたらす主要な影響や効果を含む。
持続性	ドナーによる支援が終了しても、開発援助による便益が継続するかを測る。開発援助は、環境面でも財政面でも持続可能でなければならない。

出所：新 JICA 事業評価ガイドライン (2010 年 6 月)

第2章 プロジェクトの概要

2-1 プロジェクトの概要

エクアドル共和国（以下、「エクアドル」と記す）チンボラソ県は、人口約40万人の山岳地域のほぼ中央部に位置する。同県は、主要な生計手段である農業所得の低さに加え、質の低い教育・医療・基礎インフラによる劣悪な生活環境及び自然資源の劣化（森林破壊による流域荒廃、土壌浸食など）に起因して、山岳地域10県のなかでも深刻な貧困問題を抱えている。

これらの複合的な問題を解決するためには、多分野に及ぶ総合開発の観点からの中長期的な開発戦略の策定が必要である。そこで、JICAは、エクアドル政府の要請を受け、貧困削減に向けた参加型の持続的総合農村開発の実施体制を整備することを目標とした「チンボラソ県貧困削減のための持続的総合農村開発実施体制強化プロジェクト」（以下、「前プロジェクト」と記す）を2009年2月から2011年8月まで実施した。これにより、「チンボラソ県持続的総合農村開発戦略」の策定及び同戦略に基づいた開発計画の策定を行った。

このプロジェクトの実施を通じて、①本戦略を持続的に実施に移すために、各集落のレベルで住民の直面する課題を的確に把握し、上記戦略の枠組みに沿って、これに対応する計画を策定・実施する必要があること、②①と併せて、住民の主体性の形成と自助努力による生活環境の改善や収入の向上、テリトリアル計画（Plan de Desarrollo y Ordenamiento Territorial：PDOT）などの行政が推進する参加型開発への理解・協力を促進する必要があること、及び③総合的な開発戦略を適切に実施するために、複数のセクターにまたがる関係行政機関の連携・調整による実施体制の強化と、課題分析・計画策定・計画実施にかかる関係組織の能力を向上させる必要があることが、新たな課題として認識されるに至った。

こうした背景の下、エクアドル政府は、これらの課題に取り組むため、改めて、わが国に対して後続プロジェクトの協力を要請した。JICAは、プロジェクトの必要性や要請の妥当性を確認するため、2011年7月14日から8月4日にかけて詳細計画策定調査を実施した。この結果、プロジェクトの枠組みが合意され、2011年12月7日に実施合意の署名が行われた。

そして、2012年3月から2017年3月までの5年間の予定で、チンボラソ県政府（Gobierno Autónomo Descentralizado de la Provincia de Chimborazo：GADPCH）、農牧漁業省（Ministerio de Agricultura, Ganadería, Acuicultura y Pesca：MAGAP）、環境省（Ministerio de Ambiente：MAE）、教育省（Ministerio de Educación：MINEDUC）、保健省（Ministerio de Salud Pública：MSP）をC/P機関として、住民の生計向上及び生活環境の改善に向けた開発事業の実施基盤の整備を目的とした本プロジェクトが開始された。

2-2 プロジェクトの要約

本プロジェクトの概要は表2-1のとおりである。

表2-1 プロジェクト概要

協力期間	2012年3月14日～2017年3月13日（5年間）
実施機関	GADPCH、MAGAP、MAE、MINEDUC、MSP
実証対象地域	チンボラソ県内4郡の30集落（協力対象農家数：776世帯）

対象活動	生計向上、生活環境改善、実施体制整備
上位目標	チンボラソ県農村部の住民の生活の質が改善される。
プロジェクト 目標	実証対象地域における住民の生計の向上及び生活環境が改善されるとともに、普及対象地域において生活の質の改善に向けた開発事業の実施基盤が整備される。
アウトプット	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実証対象地域の農家が、生計向上[*]についての基礎的知識・技術を習得し実践する。 2. 実証対象地域において、農家が生活環境改善についての基礎的知識・技術（環境、保健、教育）を習得し実践する。 3. 持続的総合農村開発のための、参加型開発にかかる各関係機関の職員や技術者・普及員の能力が強化される。 4. 持続的総合農村開発のための関係機関の連携が強化される。 5. 持続的総合農村開発のための体制構築・手法確立のためのガイドラインが策定される。

* 生計向上とは、農牧生産性向上・営農・流通改善・収入源創出から構成される。

第3章 プロジェクトの実績

3-1 投入実績

3-1-1 日本側の投入

(1) 専門家派遣

表3-1に示すとおり、プロジェクト開始から2014年8月末まで以下の6名の専門家が派遣された。詳細は付属資料3. JICA 専門家派遣実績を参照のこと。

表3-1 専門家派遣実績

No.	指導科目	派遣期間		実績と予定				
		開始	終了	2012	2013	2014	2015	2016
1	チーフアドバイザー/持続的総合農村開発	2012.3.14	2015.3.8	→→→→→				
2	業務調整/参加型開発	2012.5.30	2015.5.29	→→→→→				
3	1年次：営農 2・3年次：持続的農業技術普及	2012.4.25	2015.2.26	→→→→→				
4	1年次：収入源創出/マーケティング 2年次：収入源創出/農産物流通	2012.4.18	2014.5.8	→→→→→				
5	水土保全	2012.11.9	2013.2.19	→				
6	水土保全	2014.6.30	2014.8.26	→				

(2) 本邦研修

表3-2に示すように2回の本邦研修と、1回のペルーへの第三国研修が実施され、合計11名のC/Pが参加した。詳細は添付資料4. 本邦研修実績を参照のこと。

表3-2 本邦研修実績

研 修	コース名	期 間	参加人数
第1回本邦研修	課題別研修「中南米地域生活改善を通じた農村開発」	2013年1月20日～ 2013年2月2日 (14日間)	1名
第2回本邦研修	課題別研修「中南米地域地域資源を活かした内発的地域経済開発」	2013年2月13日～ 2013年3月16日 (32日間)	1名
第三国研修 (ペルー)	持続的総合農村開発研修「持続的農業と自然資源の参加型管理」*	2013年7月9日～ 2013年7月16日 (8日間)	9名

* 在外事業強化費を利用した技術研修として実施された。

(3) 機材供与

ピックアップ2台、四駆1台、ミニバン2台、小型耕運機4台、テラー6台、ミニパワーショベル2台、パソコン等の事務機器等、合計32万2,858.72米ドル(約3,350万円)相当の機材が供与された。詳細は付属資料5. 供与機材実績を参照のこと。

(4) 在外事業強化費

JICAにより、2014年6月末までに現地備人費、ローカルコンサルタント契約、プロジェクト事務所活動や農民野外学校運営などを含む活動経費として36万5,231.87米ドル(約3,790万円)が支出された。詳細は付属資料6. 日本側負担現地業務費を参照のこと。

3-1-2 エクアドル側の投入

(1) C/Pの配置

2014年8月末現在、GADPCHから19名、MAGAPから3名、MAEから2名、MSPから2名、MINEDUCから4名のC/Pが配置されている。詳細は付属資料7. カウンターパート配置実績を参照のこと。

(2) 施設

プロジェクト事務所(118㎡)、倉庫2カ所(16㎡と18㎡)、駐車場(7台分)等の施設が提供されている。

(3) 運営経費

2014年7月末までに、チンボラソ州政府からプロジェクトの運営経費として合計90万1,656.61米ドル相当(約9,357万円、C/Pの人件費を含む)が支出されている。詳細は、付属資料8. エクアドル側負担経費を参照のこと。

3-2 アウトプットの実績

(1) アウトプット1: 実証対象地域の農家が、生計向上についての基礎的知識・技術を習得し実践する。

アウトプット1に関連した活動の詳細は、付属資料9. を参照のこと。

プロジェクトが設定した選定基準に従い、表3-3に示すように、アラウシ、グアモテ、コルタ、リオバンバの4郡から30集落が実証対象集落として選ばれている。

表 3-3 本プロジェクト実証対象集落 (2014 年)

郡		集 落	標 高 (m)	人 口 (人)
Alausí	1	La Pacífica	3,312	450
	2	La Merced (Tixán)	3,472	700
	3	Pueblo Viejo	2,742	900
	4	Pachagsí	3,157	750
Guamote	5	Atapo Santa Cruz	3,329	840
	6	Sarachupa	3,329	230
	7	San Pablo de Tipín	3,237	144
	8	San Francisco de Bishud	3,319	945
	9	Chismaute Alto	3,619	1,200
	10	San Lorenzo de Telan	3,478	358
	11	Jatunpamba	3,750	400
	12	Sancahuan Tiocajas	3,284	82
	13	San Vicente de Tipín	3,574	116
	14	Achullay	3,545	120
	15	San Martín Alto	3,383	300
Colta	16	La Merced (Columbe)	3,184	600
	17	Columbe lote 1 y 2	3,404	800
	18	Columbe lote 3 y 4	3,460	500
	19	Cashapamba	3,292	240
	20	San Bernardo	3,267	530
	21	Huacona Grande	3,477	100
	22	Canal Huacona	3,340	130
	23	El Lirio	3,480	600
	24	Rumiloma	3,550	120
	25	San Guisel Alto	3,700	80
	26	Balda Lupaxi	3,157	180
27	Llin Llin	3,237	303	
Riobamba	28	Rumicruz	3,271	340
	29	San Miguel de Quera	3,494	120
	30	Shipalá	3,330	100
合 計				12,278

実証対象 30 集落の総人口は 12,278 人、総世帯数は 2,200 程度である。その約 15% に当たる 352 世帯の代表者と、全集落のリーダー 30 名に対して、農牧生産、収入源創出、環境、保健、教育に関するベースライン調査を実施するとともに、対象集落踏査により農民の実情把握が行われた。

ベースライン調査結果及び各集落の実態調査結果に基づき、実証対象集落では、農民のニーズに基づいた生計向上にかかる研修計画が立てられた。そして、各集落の農民野外学校 (Escuela de Desarrollo Rural Comunitario : ESDRUC) への参加者によって組織された農民グループに対して研修

が実施されている。ESDRUC への参加者は1年ごとに入れ替わり、これまでの3年間で、男性 634 名、女性 1,071 名、合計 1,705 名が ESDRUC に参加している。

2014 年 8 月現在、まだプロジェクトの中間時点であり、生計向上に関する定量的調査が行われておらず、研修成果の習得・実践の度合いを示す定量的なデータはない。しかし、現地調査で収集した情報の範囲では、生計向上につながる種々のインパクトの事例が確認できたため、アウトプット 1 は順調に達成されつつあるといえる（表 3 - 4）。

表 3 - 4 アウトプット 1 の中間レビュー段階での達成状況

指 標	達成状況
1-1：実証対象地域における 50%以上の協力対象農家が生計向上にかかる知識・技術を習得し実践する。	1-1：現地調査で確認した範囲では、実証対象地域で行われている農民野外学校（ESDRUC）参加者は、研修を受けた生計向上にかかる技術を自分の圃場でも実践している。

注：まだプロジェクトの中間で便益に関する定量的調査が行われておらず、実績の割合を示すことが不可能。

(2) アウトプット 2:実証対象地域において、農家が生活環境改善についての基礎的知識・技術（環境、保健、教育）を習得し実践する。

アウトプット 2 に関連した活動の詳細は、付属資料 10. を参照のこと。

ベースライン調査結果と各集落の実態調査結果に基づき、関係省庁の公共サービスも考慮に入れて、生活環境改善にかかる研修計画が立てられた。

この計画に沿って、生活環境改善に関連する技術者及び普及員、並びに各集落の農民グループに対して生活環境改善にかかる活動・研修が実施された。活動の成果に関しては、参加型でモニタリング・評価が行われている。

2014 年 8 月現在、まだプロジェクトの中間時点であり、生活環境改善に関する定量的調査が行われておらず、研修成果の習得・実践の度合いを示す定量的なデータはない。現地調査で収集した情報の範囲では、生計向上につながる種々のインパクトの事例が確認できたため、アウトプット 2 は順調に達成されつつあるといえる（表 3 - 5）。

表 3 - 5 アウトプット 2 の中間レビュー段階での達成状況

指 標	達成状況
2-1：実証対象地域における研修受講者の 50%以上が環境保全にかかる知識・技術を実践する。	2-1：現地調査で見た範囲では、ESDRUC 参加者は、研修を受けた環境保全にかかる何らかの技術を自分の圃場で実践している。
2-2：実証対象地域における研修受講者の 50%以上が予防保健にかかる知識・技術を実践する。	2-2：現地調査で見た範囲では、ESDRUC 参加者は、研修を受けた予防保健にかかる何らかの技術を自分の家庭で実践している。
2-3：実証対象地域における研修受講者の 50%以上が栄養改善にかかる知識・技術を実践する。	2-3：現地調査で見た範囲では、ESDRUC 参加者は、研修を受けた栄養改善にかかる何らかの技術を自分の家庭で実践している。
2-4：実証対象地域の該当者の 50%以上が識字及びポスト識字教育を受講する。	2-4：実施体制が整っていないことと、農民側の希望が少ないことにより、識字教育は行われていない。

注：まだプロジェクトの中間で便益に関する定量的調査が行われておらず、実績の割合を示すことが不可能。

(3) アウトプット3：持続的総合農村開発のための、参加型開発にかかる各関係機関の職員や技術者・普及員の能力が強化される。

アウトプット3に関連した活動の詳細は、付属資料11.を参照のこと。

参加型開発に関する研修として、「組織活動」「複合農業」「自然資源のコミュニティ管理」「参加型コミュニティ・プロジェクト・マネジメント」の4つのテーマの研修を実施機関・関係機関職員及び普及員を対象に実施している。

各研修の受講率は表3-6のとおりであり、すべてのテーマで90%以上となっている。

表3-6 実施機関・関係機関職員及び普及員の研修受講率

テーマ	組織活動	複合農業	自然資源の コミュニティ管理	参加型コミュニティ・プロジェクト・マネジメント
参加型開発支援ユニット (受講者数/対象者数)	10/10	7/7	7/7	5/5
プロジェクトC/P 技師・普及員 (受講者数/対象者数)	29/29	24/25	16/17	17/19
受講率 (PDM 成果指標 80%)	100%	97%	96%	92%

表3-7は、アウトプット3の指標の中間レビュー段階での達成状況を示しており、アウトプット3は、順調に達成されつつあるといえる。

表3-7 アウトプット3の中間レビュー段階での達成状況

指 標	達成状況
3-1：参加型開発に関する研修を職員・技術者・普及員の80%以上が受講する。	3-1：参加型開発に関する研修を職員・技術者・普及員の90%以上が受講している。
3-2：参加型開発に関する研修を受けた職員・技術者・普及員の50%以上が、その知見をコミュニティプロジェクトの運営に適用している。	3-2：参加型開発に関する研修を受けたすべての職員・技術者・普及員が、その知見を集落の参加型開発に応用している。

(4) アウトプット4：持続的総合農村開発のための関係機関の連携が強化される。

図3-1は今後整備する予定の普及ネットワークの概念図である。GADPCHの生産振興部の中にある総合農村開発ユニット（Unidad de Desarrollo Rural Integral：UDRI）が農村開発の技術指導を各郡のUDRIに行い、各郡UDRIがそれぞれの管轄下の区のUDRIに技術普及を行い、区UDRIが集落UDRIを指導していくという普及の流れになっている。

この普及ネットワークの構築に向けて、GADPCHは実証対象地域4郡のうちの1つであるアラウシ郡政府と普及ネットワークに関する協定を締結し、さらに現在アラウシ郡がその域内の区政府と普及ネットワークに関する協定を協議中である。他3郡においても現在調整が進められている。

また、GADPCH は、多岐にわたる農村開発活動を、その分野ごとに担当する関連省庁と連携しながら本プロジェクトを進めている。具体的には、農牧部門はMAGAPと、環境部門はMAEと、保健部門はMSPと、学校菜園活動はMINEDUCと連携して遂行されている。

表3-8は、アウトプット4の指標の中間レビュー段階での達成状況を示している。アウトプット4は、順調に達成されてきているといえる。

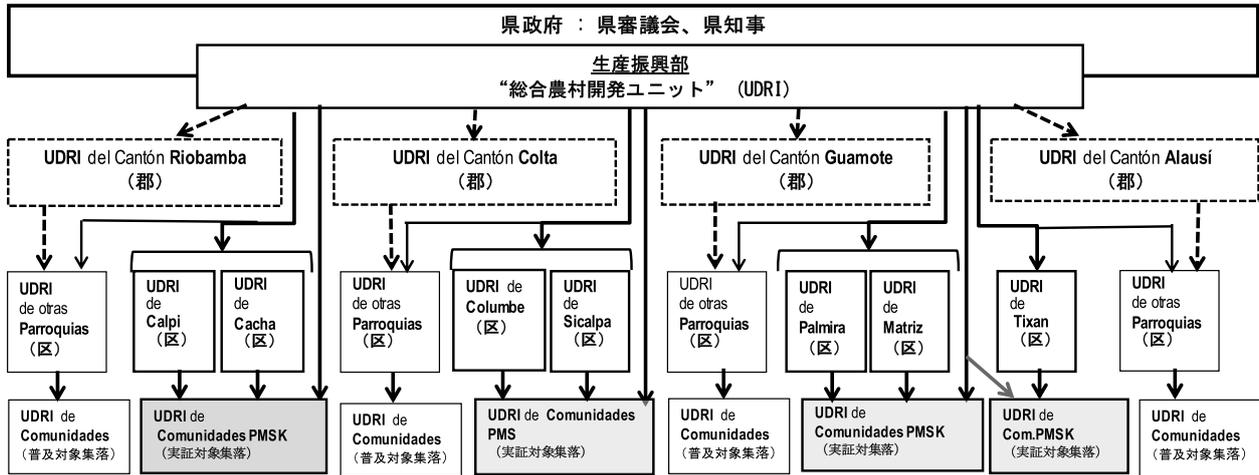


図3-1 普及ネットワークの概念図

表3-8 アウトプット4の中間レビュー段階での達成状況

指 標	達成状況
4-1：技術支援ユニットが機能している。	4-1：技術支援ユニットが集落で活動する普及員を指導するなど、技術的中核として機能している。
4-2：普及ネットワークが機能している。	4-2：図3-1の普及ネットワークの構想が関係者間で合意されている。アラウシ郡では、ネットワーク構築に必要な手続きが進められており、近いうちに具体的な活動が開始される予定である。
4-3：関係機関で連携した農村開発事業が各集落で実施される。	4-3：MAGAPと協力した農牧生産振興、MAEと協力した水土保全と環境教育、MSPと協力した予防保健と栄養改善、MINEDUCと協力した学校菜園指導など、関係機関で連携した農村開発事業が各集落で実施されている。

(5) アウトプット5：持続的総合農村開発のための体制構築・手法確立のためのガイドラインが策定される。

アウトプット1～3で示したように、実証対象地域30集落において、生計向上、生活環境改善、参加型開発の活動が順調に展開され、豊富な経験が積み重ねられている。これらの経験と、普及対象地域（農村部）の現状と課題を基に、持続的総合農村開発のために体制構築・手法確立のためのガイドラインがプロジェクト終了までに策定される見込みである。

そのための、総合農村開発支援戦略策定、技術移転ツール作成（研修教材・手法）、普及の仕組みづくり（普及ネットワーク構築、総合農業開発ユニット創設）などが行われつつある。ガ

イドラインの骨子は、既に「総合農村開発の支援戦略」としてまとめられており、今後これに各分野の手法・ツールなどが肉づけされていくことになっている。

表3-9は、技術移転ツールの一環として作成されたマニュアル等の作成実績を示すものである。

表3-10は、アウトプット5の指標の中間レビュー段階での達成状況を示している。アウトプット5は、プロジェクト活動が順調に進めば、プロジェクト終了までに達成される可能性はあると考えられる。

表3-9 マニュアル等の作成実績

No.	タイトル (和名)	タイトル (西語名)	出版年月	成果品形態	制作ユニット
1	参加型農村開発教材シリーズ1：組織活動	Serie de Desarrollo Rural Participativo 1 : "Asociatividad"	2013年4月	紙芝居教材、普及員ガイドブック	参加型開発/ 組織化支援ユニット
2	参加型農村開発教材シリーズ2：複合農業	Serie de Desarrollo Rural Participativo 2 : "Agricultura Integral"	2013年6月	紙芝居教材、普及員ガイドブック	参加型開発/ 組織化支援ユニット
3	チョコマメ栽培技術パンフレット	Guía Técnica de cultivo de CHOCHO	2013年7月	三ツ折り小冊子	生産支援ユニット
4	参加型農村開発教材シリーズ3：自然資源のコミュニティ管理	Serie de Desarrollo Rural Participativo 3 : "Manejo Comunitario de Los Recursos Naturales"	2013年10月	紙芝居教材、普及員ガイドブック	参加型開発/ 組織化支援ユニット
5	小農の複合農業技術メニュー	Tecnologías de Chakra Integral Familiar para Pequeños Agricultores	2013年10月	技術普及ポスター	運営ユニット
6	ジャガイモ害虫防除技術パンフレット	Guía Técnica Control de GUSANO BLANCO	2013年10月	三ツ折り小冊子	生産支援ユニット
7	共同販売ガイド	Guía de Comercialización Asociativa	2013年11月	普及ガイドブック	流通支援ユニット
8	学校菜園手引き	Mi Huerto Escolar	2013年11月	普及ガイドブック	教育支援ユニット
9	自給養鶏ガイド	Guía Técnica : Manejo de Gallinas de campo	2014年1月	三ツ折り小冊子	生産支援ユニット
10	アンデス穀物レシピ集	Preparación de Alimentos de Mi Chakra	2014年3月	普及ガイドブック	流通支援ユニット
11	参加型農村開発教材シリーズ4：参加型コミュニティ・プロジェクト・マネジメント	Serie de Desarrollo Rural Participativo 4 : "Manejo Participativo de Proyecto Comunitario"	2014年5月、7月	紙芝居教材、普及員ガイドブック	参加型開発/ 組織化支援ユニット
12	アグロフォレストリー	Agroforesteria	2014年7月	技術普及ポスター	環境支援ユニット
13	植林用苗床管理ガイド	Manejo de Viveros Forestales	2014年7月	普及ガイドブック	環境支援ユニット

表3-10 アウトプット5の中間レビュー段階での達成状況

指 標	達成状況
5-1：持続的総合農村開発のための体制構築・手法確立のためのガイドラインを関係機関に提出する。	5-1：プロジェクト活動が順調に進み、総合農村開発支援戦略策定、技術移転ツール作成、普及の仕組みづくりなどが適切に行われていけば、プロジェクト終了までに達成されることが想定される。ガイドラインの骨子となる「総合農村開発の支援戦略」は既にまとめられている。

3-3 プロジェクト目標の達成見込み

プロジェクト目標は、「実証対象地域における住民の生計の向上及び生活環境が改善されるとともに、普及対象地域において生活の質の改善に向けた開発事業の実施基盤が整備される」である。

本プロジェクトによって、生計向上及び生活環境改善の活動が展開され、成果を上げてきている。それらを基に、普及対象地域（チンボラソ県の農村部全域）にプロジェクトの成果を普及するための開発事業の実施基盤づくりとして、「普及ネットワーク」の構築と機能強化が進められる予定である。

現時点のアウトプットの実績、プロジェクト活動の状況等をおかんがみて、プロジェクト目標の達成の見込みは大きいと判断される。

表3-11は、プロジェクト目標の指標の中間レビュー段階での達成状況を示している。

表3-11 プロジェクト目標の指標の達成状況

指 標	達成状況
1：実証対象地域の協力対象農家の収入が、生計向上についての基礎的知識、技術により30%向上する。	1：現地調査で確認した範囲では、生計向上に関する活動（優良種子導入、適正栽培技術の適用、流通改善活動等）によって、実証対象地域の農家の収入が改善されつつある。
2：プロジェクト活動により、実証対象地域の50%以上の協力対象農家の生活環境に関する満足度が高まる。	2：現地調査で確認した範囲では、植林や環境教育、公共保健サービスへのアクセス強化、学校菜園（収穫物の給食への利用）により、参加農家の間に、生活環境改善活動に対して高い満足度が生まれている。
3：普及対象地域の持続的総合農村開発のための体制構築・手法確立のためのガイドラインが関係機関により合意される。	3：ガイドラインの骨子は「総合農村開発の支援戦略」として既にまとめられている。今後、プロジェクト活動による内容の充実・手法の確立に加え、持続的総合農村開発のための仕組みづくりが行われていくことになっている。

注：まだプロジェクトの途中で便益に関する定量的調査が行われておらず、実績の割合を示すことが不可能。

3-4 実施プロセスの検証

(1) プロジェクト活動の実施

各プロジェクト活動は、プロジェクトの活動計画（Plan of Operations：PO）に従っておおむね順調に実施されてきている。ただし、当初予定されていた識字教育活動は、集落から要求がでなかったことにより、実施されていない。¹

¹ プロジェクト・デザイン作成時は識字率の低さから、識字教育活動を行う予定であった。しかし実際には、識字教育の需要が高い青年層の識字率は既に高く、識字教育の需要の低い高齢層の識字率が低い状況であり、集落としての識字教育に対する優先度は低かったと推察される。

(2) プロジェクトの運営・実施体制

本プロジェクトのエクアドル側実施機関は、GADPCH、MAGAP、MAE、MSP、MINEDUCと多岐にわたり、さらに今後は、県政府の下郡政府、区政府もかかわっていく計画である。そのため、各関係機関間の調整には多大な労力が必要とされるが、各関係者の尽力により活動はおおむね円滑に進められてきている。具体的にはこれまでに、中央官庁も参加する4回の合同調整員会（Comité de Coordinación Conjunta：CCC）、県レベルの6回の運営委員会（Comité Operativo de Proyecto：COP）、必要に応じた幹部会議、県知事との月例会議、技術ユニットごとの会議、週例の普及員会議の開催によって、活動報告や計画策定、意思決定が行われてきた。

プロジェクトの運営・実施体制は、「3-2 アウトプットの実績」の「(4) アウトプット4」で述べたように整備され、関係機関の連携を得て順調に活動が進められている。

(3) 技術移転の方法

農家への技術指導に必要な知識・技術について、関係機関の技術者・普及員は、研修・セミナーや日常のプロジェクト活動を通して習得してきている。

農家への技術移転については、当初「高地農業改良センター」を設置し、現地に適合した技術体系をまとめ、実践的改良技術の発信源とする構想もあったが、適地が見つからなかったため、農牧技術の研修は集落レベルで現地に行って実施することとなった。同センター建設の取りやめは、第4回COPで承認された。

技術移転の具体的な方法は、日本人専門家が技術者に指導し、技術者が普及員に指導し、普及員が集落での活動を行うのが基本となっている。しかし、30集落に対して普及員が5名であり、集落までの交通事情を考慮しても普及員が直接定期的に集落を訪問することは困難である。そのためプロジェクトでは、技術者4名も集落への訪問を行い普及員のサポートをしている。

今後は、「3-2 アウトプットの実績 (4) アウトプット4」の普及ネットワークを構築し、各集落から集落普及員を選定してもらうことで、普及員の訪問回数を抑えた技術移転の方法へ移行することをめざしている。

(4) 関係者の参加・貢献

本プロジェクトのエクアドル側実施機関は、GADPCH、MAGAP、MAE、MSP、MINEDUCと多岐にわたり、各専門分野の技術支援ユニットは関係省庁の機関から支援を受けて、プロジェクト活動を進めることが可能となっている。

プロジェクト終了後も関係機関からの技術的な支援体制を維持したまま、チンボラソ県が持続的に事業を運営していくことができるように、チンボラソ県政府生産振興部を中心とした関連機関の連携体制の整備を進めている。

(5) PDMの改訂

プロジェクトの正式な会議で合意を得て、PDMは2回版が変更された。初めのPDM（ver.0）は詳細設計調査団のときに作成された素案であった。それがプロジェクト開始時（R/D 締結時）に正式なものとなしPDM（ver.1）となった。そして、プロジェクトを実際に行っていくなかで、プロジェクトの実情に合うように、変更が行われた。中間レビュー開始時点のPDMはver.2である。今後も、プロジェクトの進行状況で必要になった場合は改訂される可能性がある。

表 3 - 12 PDM の改訂

版の変更	改訂日	主な改訂理由
ver.0 ⇒ ver.1	2011 年 12 月 7 日 (R/D 締結時)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ver.0 は詳細設計調査団時に残されたもので正式な承認を得たものではなかった。 ・ ver.1 で初めて正式なものが位置づけられた。
ver.1 ⇒ ver.2	2013 年 2 月 26 日 (運営指導調査団が来訪し、第 4 回 COP で協議し、承認)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指標の数値化。 ・ 言葉の定義。 ・ 「高地農業改良センター」を設置しないことになり、PDM から削除した。

第4章 評価結果

4-1 妥当性

(1) 対象地域のニーズとの整合性

「2-1 プロジェクトの概要」で述べたように、チンボラソ県は貧困率が高く、貧困層の多くが小規模な農業に従事している。これらの農家の生活の質を高めるためには、生計向上、生活環境の改善、農村開発実施体制の整備が必要とされている。このような対象地域のニーズは中間レビューの時点でも大きく変わっていない。

本プロジェクトは、生計向上を図るために、優良種子の導入、基本的栽培技術の改善、有畜複合農業の推進、農業機械化支援、農牧製品の販売促進、新規収入源創出など新しい営農体系の構築をめざしてきた。生活環境の改善のためには、水土保全の強化、ウォーターハーベストの促進、集落周辺の自然資源のコミュニティ管理、予防保健と栄養改善の促進、自給生産性（食糧安全保障）の向上、学校菜園活動などを行ってきた。また、実施体制の整備の分野では、参加型開発手法の農村開発事業への適用を強化し、集落民自身の自助努力・参加意識を促進することに取り組んできている。また農村開発技術の普及ネットワークの構築をはじめ、集落普及員制度を導入する構想を実現しようと取り組んでいる。これらの活動は、ベースライン調査や現地実態調査の結果として得られた農民のニーズに基づいて考え出された活動である。したがって、本プロジェクトは、対象住民のニーズと整合している。

(2) 政策との整合性

「エクアドル国家開発計画 2013-2017 (Plan Nacional para el Buen Vivir 2013-2017)」は、12の目的を掲げている。本プロジェクトは、目的3（国民の生活の質の向上）、目的4（市民の能力と潜在力の強化）、目的7（自然の権利の保障及び全地球的規模の持続可能性の推進）、目的8（持続可能な経済社会連帯システムの強化）、目的10（生産マトリックスの強化）に合致した活動を行っている。

表4-1 「国家開発計画 2013～2017年」の目的

目的1	民主国家の構築と市民の力の強化
目的2	多様性の下での平等性、統一性、包摂性、社会的地域の公平性の推進
目的3	国民の生活の質の向上
目的4	市民の能力と潜在力の強化
目的5	共通の話合いの場をつくり、国民のアイデンティティ、多様なアイデンティティ、他民族性、異文化性を強化する
目的6	人権尊重に基づく、司法改革の推進と総合的安全保障の強化
目的7	自然の権利の保障及び全地球的規模の持続可能性の推進
目的8	持続可能な経済社会連帯システムの強化
目的9	皆にふさわしい職の保障
目的10	生産マトリックスの強化
目的11	産業育成と技術革新のための戦略部門の主権と効率性の確立
目的12	主権と平和を尊重し、世界及びラテンアメリカ統合への戦略的取り組みを深化させる

また、本プロジェクトは、地域活性化にも貢献することが期待でき、地域活性化をめざす国土編成、自治、地方分権組織法（Código Orgánica de Ordenamiento Territorial Autonomía y Descentralización：COOTAD）やチンボラソ県のテリトリアル計画（PDOT）/チンボラソ県開発計画 2011 と共通する考え方をもっている。したがって、本プロジェクトと国家政策及び県政策との整合性は高いといえる。

日本側の支援政策においては、現行の「対エクアドル国別援助方針」のなかで格差是正と持続的発展を支援の重点分野の1つとして挙げており、本プロジェクトは日本の政策との整合性も高いといえる。

(3) 手段としての適切性

本プロジェクトは①生計向上、②生活環境の改善、③実施体制整備（参加型開発）により農家の持続的な生活の質の向上を実現するための戦略の構築に取り組んでいる。

それぞれのコンポーネントは持続的な小規模農家の生活の質を向上させるために必要なものであり、各関係機関は小規模農家への支援として総合的な農村開発を推進することが適切であると考えていることが確認されたことから、本プロジェクトの手法としての適切性があると判断できる。

(4) 政府・ドナーによる関連事業との連携

本プロジェクトはチンボラソ県庁の生産振興局が主管しており、本プロジェクトはチンボラソ県が実施するさまざまな農村開発事業とも密に連携して実施してきている。

また、MAGAP、MAE、MSP、MINEDUC は、それぞれが独自の農村開発事業を展開している。本プロジェクトの対象集落でも各省庁のさまざまな事業が実施されており、本プロジェクトと方針が一致したときには密接な連携の下、事業が実施されてきている。

例えば、本プロジェクトが、ジャガイモの優良種子、チョコマメとオオムギの優良種子を調達しているのは、国連食糧農業機関（Food and Agriculture Organization of the United Nations：FAO）のアンデス作物の種子生産プロジェクトで育成され、国立農牧研究所（Instituto Nacional de Investigaciones Agropecuarias：INIAP）の指導で設立された種子生産組合（Corporación de Productores de Leguminosas y Granos Andinos del Pueblo Puruwa Chimborazo：CORPOPURUWA）からである。また、その CORPOPURUWA が、本プロジェクトが指導して農家が生産したチョコマメとオオムギの一部を、世界食糧計画（World Food Program：WFP）の給食プログラムに買っている。

また、2014年に INIAP より、種子生産用にオオムギ2品種とコムギ1品種を貸与されている。

その他、日本の類似案件との連携として、2013年7月にペルーの「カハマルカ州小規模農家生計向上プロジェクト（Incremento de Los Ingresos Económicos de Los Pequeños Productores Agrarios en La Región Cajamarca：IEPARC）」、2014年5月にエクアドル国内の「カタラマ流域灌漑事業活性化プロジェクト（Proyecto de Reactivación del Proyecto de Riego y Drenaje de la Cuenca del Río Catarama：PRORRICAT）」への視察・意見交換が行われた。

4-2 有効性

(1) プロジェクト目標の達成見込み

「3-3 プロジェクト目標の達成見込み」で述べたとおり、アウトプット1から4の活動を通して得られた成果や教訓が、アウトプット5の持続的総合農村開発のガイドラインづくりに活用されていく見込みである。このガイドラインが単なる報告書でなく、今後のチンボラソ県の農村開発のモデルとして役立てられるためには、そのガイドラインを活用していく仕組みが構築されることが不可欠である。それがプロジェクト目標の指標の1つとなっている。

ガイドラインの骨子は「総合農村開発の支援戦略」として既にまとめられており、それに基づいた普及ネットワークの構築として実施基盤づくりが取り組み始められている。個々の活動は順調に進んでいるので、プロジェクト目標の達成の見込みは大きいと考えられる。今後、個々の活動の手法・ツールの取りまとめとともに、仕組みの実現が大いに期待されている。

(2) プロジェクト目標とアウトプットの因果関係

ガイドラインの素材づくりとなるアウトプット1から4の達成度を高め、アウトプット5のガイドラインづくりに生かし、その活用により実施基盤を構築するという活動の流れは納得のできるものであり、アウトプットの達成度を高めることが、プロジェクト目標の達成につながるという論理は無理なく受け入れることができるものである。

今後、アウトプット1～4から得られる方法論や技術論をより充実させることによって、アウトプット5のガイドラインの内容をより効果的かつ実用的なものとするができるであろう。プロジェクト期間の後半では、持続的総合農村開発のモデルとしての適用性や実用性も念頭に、各アウトプットの達成に向けた取り組みが期待される。

アウトプット5のガイドラインに関しては、それをプロジェクト終了後に普及対象地域であるチンボラソ県の全集落に応用していくために、実用的な実施基盤の構築に生かすことが強く求められている。また今後の実施基盤を構築する取り組みに関係機関の協力が求められる。

(3) プロジェクト目標実現のための外部条件

PDMのプロジェクト達成にかかわる外部条件として、「関係機関の政策が大きく変更されない」という条件が設定されていた。関係機関の政策に大きな変更はなかったが、関係機関の組織構造に大きな変化があった。

国家PDOTに準じて、国内がゾーン化され、チンボラソ県はゾーン3に組み入れられた。ゾーンは、チンボラソ県、コトパクス県、トゥングラワ県、パスタサ県の4県から構成されている。MAGAP、MSPは、チンボラソ県の県都であるリオバンバにゾーン3の事務所が置かれているが、MAE、MINEDUCはトゥングラワ県の県都であるアンバトにゾーン3の事務所が置かれている。

MAGAPとMAEには県の事務所があるが、国家PDOTにより保健と教育は県の管轄ではなくなったことを受け、MSPとMINEDUCは、ゾーン事務所の下に県事務所はなく、地区事務所となっている。チンボラソ県の場合、リオバンバ・チャンボ地区、チュンチ・アラウシ地区、パジャタンガ・クマンダ地区、コルタ・グアモテ地区、グアノ・ペニペ地区の5地区で構成されている。

国家PDOTは2010年に発表されたものであるが、徐々にその政策が実行に移されてきている。本プロジェクト開始時点では、ゾーンの事務所は置かれていたが、まだ各省に県の事務所

があった。しかし、プロジェクト実施中に、MSP と MINEDUC の県事務所はなくなった。本プロジェクトは県という枠組みで事業を実施することが想定されていたが、MSP と MINEDUC に関しては、その枠組みがなくなってしまった。MSP に関しては、ゾーン3の事務所がリオバンバにあるので日常的な協議相談が可能であるが、MINEDUC の場合、アンバトまで行かないと MINEDUC のゾーン3と協議できなくなってしまった。また、本プロジェクトの対象地域は、4郡にまたがるため、それらを管轄する3つの地区事務所がかかわってくることになった（コルタとグアモテの2郡を1つの地区事務所を担当。他2つは、それぞれ別の地区事務所の担当となっている）。したがって、プロジェクトが対応しなければならない省庁機関が増え、調整業務が以前より煩雑となっている。

4-3 効率性

(1) アウトプットの産出状況

各アウトプットの産出状況及び主な課題は表4-2に示すとおりである。各アウトプットの実現は、総じて順調に進んでいるとみられる。

表4-2 各アウトプットの産出状況及び主な課題

アウトプット	産出状況	主な課題
1：実証対象地域の農家が、生計向上についての基礎的知識・技術を習得し実践する。	現地調査で確認した範囲では、集落で行われている農民野外学校（ESDRUC）参加者は、研修を受けた生計向上にかかる技術を実践している。	農民組織の強化。 プロジェクト普及員の能力向上。
2：実証対象地域において、農家が生活環境改善についての基礎的知識・技術（環境、保健、教育）を習得し実践する。	現地調査で確認した範囲では、ESDRUC 参加者は、自然資源保全、予防保健、栄養改善にかかる何らかの技術を実践している。ただし、識字教育は、高齢者からの要望がなかったので行われていない。	農民組織の強化。 プロジェクト普及員の能力向上。 プロジェクト活動から識字教育を省くことの検討。
3：持続的総合農村開発のための、参加型開発にかかる各関係機関の職員や技術者・普及員の能力が強化される。	参加型開発に関する研修を職員・技術者・普及員の90%以上が受講し、その知見を現場での参加型開発の活動に応用している。	集落住民の参加意識の一層の醸成。 地方自治体（県、郡、区、将来は集落）の啓発。
4：持続的総合農村開発のための関係機関の連携が強化される。	関係機関と連携した技術支援ユニットが、農村開発事業を各集落で主管している。	県事務所がなくなった MSP・MINEDUC との連携の仕方。
5：持続的総合農村開発のための体制構築・手法確立のためのガイドラインが策定される。	プロジェクト活動が順調に進み、支援戦略策定、技術移転ツール作成、普及の仕組みづくりなどが適切に行われていけば、プロジェクト終了までに達成されると想定される。	手法・ツールの取りまとめ。 仕組みづくりの具体化。

上述のようなアウトプットの産出状況に貢献している要因として、以下が確認された。

- ・ 主要な C/P 機関である GADPCH の積極的な支援。
- ・ 農牧技術面での MAGAP の支援。例えば、FAO や INIAP から奨励品種の種子を入手する際の支援。鶏やクイの改良種入手の支援。農牧技術指導での支援など。
- ・ 環境教育面での MAE の支援。例えば、植林、再植林、土壌保全の指導など。
- ・ 集落の予防保健や栄養改善での MSP の支援。例えば、公共医療サービスの利用促進活動、家族計画の指導、アンデス食材を使った栄養改善及び食品衛生の実習など。
- ・ 学校菜園活動での MINEDUC の支援。16 校で学校菜園を行っている。野菜づくりを通して生物学や生産量の計算で算数の学習に役立っているだけでなく、栄養改善、予防保健、環境保全の実践的教育としても役立っている。

一方、アウトプットの産出における課題として、以下が確認された。

- ・ ESDRUC に参加していない農民からプロジェクトから恩恵を受けることができていないという不満が一部であったが、プロジェクト活動の対象を集落全体とするように努めることで軽減されてきている。
- ・ ESDRUC を行うことにより、農家の参加意識を少なからず高めることができてきているが、積極的な参加者とそうでもない参加者がどうしても生まれてしまっている。それゆえ、今後も農民の意識向上への対策が必要である。
- ・ 商業化支援は、採算のとれる収入源創出策を推進する必要がある。新たな市場へアクセスし、プロジェクトが支援してきた生産物の流通を促進することによって収入の向上を図ることが求められている。
- ・ 本プロジェクトが推進してきた技術面については、まだ一部の普及員は適切なレベルの知識水準に達しておらず、雇用が単年度になっていることなどの理由から十分なモチベーションをもつまでになっていない。したがって、プロジェクトとしては、普及員が農村開発に適切に貢献していけるように、彼らの技術水準や仕事の効率を高めるメカニズムをつくることが求められている。

(2) 活動とアウトプット産出の因果関係

現在までの活動は、上述したアウトプットの産出に寄与している。「3-4 実施プロセスの検証 (1) プロジェクト活動の実施」で述べたように、アウトプット 2 の識字教育を除いて、プロジェクト活動はおおむね計画どおりに実施されている。

諸活動の結果として、各アウトプットを達成できる見込みが生まれており、活動とアウトプット間には適切な因果関係が成立していると思なすことができる。

(3) 投入のタイミング・質・量

両国側の各種投入ともおおむね計画どおりに行われ、各活動に利用されている。日本側の投入の課題としては、適切な人材をリクルートできなかったために、2014 年 6 月から着任予定の収入源創出の長期専門家のポジションが埋まっていないことがある。前任者の残した成果を生かし、実効性のある農牧産物流通促進を指導できる人材が求められている。現在、プロジェクトでは前任者の指導を受けた技術者が活動しているが、さらなる販路の拡大等に関する技術指

導が必要とされている。その他の投入については、量、質、タイミングともに問題はなかった。

エクアドル側の C/P 職員は、おおむね適切に配置されている。プロジェクト開始時の 2012 年 9 月時点では県政府がプロジェクトに配置した人数は 12 名だったが、2014 年 7 月時点の人数は 19 名であり、県政府がプロジェクトを重視している姿勢が表れている。

エクアドル側の他の投入についていうと、おおむね問題はなかったが、2014 年、一部の資機材（種子、肥料、消毒薬等）については投入のタイミングが遅れた。また納入されたジャガイモ種子の一部に品質に問題があった。調達の遅れがプロジェクト活動に影響したことがあるので、調達の仕組みの改善が望まれる。

(4) アウトプット実現のための外部条件

アウトプット実現のための外部条件は「自然災害や異常気象が対象地域で発生しない」と設定されている。異常気象にもかかわらず、これまでアウトプット達成に影響を与えるような大きなマイナスの要因は確認されていないが、雨不足のような軽微な天候問題は生じている。

4-4 インパクト

(1) 上位目標の達成見込み

本プロジェクトでは「チンボラソ県農村部の住民の生活の質が改善される」が上位目標として掲げられている。中間レビューの時点での達成予測は時期尚早ではあるが、プロジェクト目標の 3 つの柱である、生計向上、生活環境の改善、実施体制整備がプロジェクト終了時までには達成される可能性が見込まれるので、プロジェクトの実証対象集落での成果を、チンボラソ県農村部に波及させていくことができるであろうと見込まれる。

上位目標が達成されるには、プロジェクトで策定されるガイドラインを反映した普及ネットワークと、その持続的実践を担う総合農村開発ユニット（県、郡、区、集落）の整備がチンボラソ県農村部全体で進められ、集落普及員制度が整い、かつ農民が農民に技術移転を行うシステムが県全体に広まることが求められる。

プロジェクト後半で想定されているこの仕組みづくりが順調に進めば、プロジェクトの成果をチンボラソ県農村部すべてに普及させる基盤が形づくられるはずである。よって上位目標達成の見込みは十分にあると想定される。

(2) 波及効果

本プロジェクトの波及効果として、次のようなものが挙げられる。

- ・ 本プロジェクトによって、持続的総合農村開発のモデルが構築され、上位目標であるチンボラソ県農村部の生活の質的向上がなされれば、構築されたモデルが県の枠組みを超えて、山岳地域の他の県にも普及伝播していくようになると想定される。
- ・ 生計向上や生活環境改善の活動がうまく行われている集落の住民は、積極的に農村開発に自主的に取り組むようになってきている。
- ・ 本プロジェクトが行った家庭菜園活動で、対象集落住民の野菜消費が増え、栄養改善につながることを期待できる。
- ・ ESDRUC への参加者の多くが、共同学習・作業を通じて、以前よりも強い一体感をもつようになっている。

- ・優良品種導入等による作物の収量の増加や、土壌保全や有機肥料などの投入による肥沃度の改良、チョコパン（チョコマメを用いたパン）や鶏肉や卵のような生産物の販売を通して新たな収入が生み出されたことによって、本プロジェクトに参加した農民たちは、将来に明るい展望を抱くようになってきている。
- ・協力対象集落の住民がチョコパンや鶏肉や卵を定期的に市場で販売するようになって、その製品の品質に対する信頼感から、固定客が生まれている。
- ・当初は、ESDRUC への参加者たちのみが恩恵を受けているという同一集落内の非参加者からの不満があったが、各集落の村議会との連携により、集落全体を対象に農村開発活動を行うことにより、上記の問題は解決しつつある。
- ・学校菜園における本プロジェクトによる技術指導は、教師と生徒だけに行われているのではなく、その運営に協力している集落の農民に対しても行われている。したがって、本プロジェクトが学校菜園に対して指導した技術が集落農民にも伝えられたり、本プロジェクトが集落農民に指導した野菜栽培技術が学校菜園活動に生かされたりしている。このように学校菜園は、生徒への学習の場だけではなく、学校と集落との絆を深める場となっている。
- ・協力対象集落で栽培されているチョコマメが CORPOPURUWA に販売され、同組合はそれを加工し煮豆にして、学校給食プロジェクトを行っている WFP に販売している。このように本プロジェクトの支援によりチョコマメの販路が確保され、住民の安定した営農につながっている。

4-5 持続性

(1) 政策・制度面

「4-1 妥当性」でも述べたとおり、本プロジェクトの活動はエクアドル政府の上位政策と整合している。また、県の政策とも整合していることが確認されている。プロジェクト・ディレクターであるクリカマ知事の任期は2019年5月までである。協力期間中に、彼のイニシアティブで農村開発事業の制度化が図られれば持続性は担保できるであろう。

一方、本プロジェクトの総合農業開発モデルを体現化するために、プロジェクトで検討が行われている普及ネットワークは、県だけでなく、郡、区、集落の積極的協力がなくては実現困難なものであるが、既にアラウシ郡が参加の意向を示しており、今後、徐々に他の郡と区政府その構想に加わってくるだろうと期待されている。

省庁との連携については、今後もさらなる強化が期待されている。

MINEDUC が、効率性の観点から、生徒 1,000 人以下の小学校の廃止を検討中であるという情報が広く流布しており、人口が少ない小規模な集落は、自分たちの集落の小学校が廃止されるのではないかと心配をしている。一方で、子どもの教育は、国家の将来の礎にかかわるものなので、簡単には小規模の小学校が廃止されることはないという意見もある。しかし、もしも小規模の小学校が廃止されることになると、農村開発事業での MINEDUC と連携の仕方にかかわるので、この問題がどうなるかを見極めることが求められている。

(2) 組織・財政面

プロジェクトのエクアドル側のローカルコストを支出しているのは GADPCH だけである。しかし、現在の予算はプロジェクト用の特別予算であるので、将来は UDRI の県政府内での農村

開発事業の制度化により、経常予算として活動費を確保することが事業の持続性のために必要とされる。また、普及ネットワークが整備され、郡、区が独自の予算で農村開発活動を行うことになれば、県の負担は軽減されていくことになるであろう。

MAGAP と MAE は県の事務所があるので、これら事務所と県が連携を図っていくことができると考える。また、MSP の場合はゾーン 3 の事務所がリオバンバにあるので、やはり連携が比較的しやすい状況にあるといえる。しかし、MINEDUC の場合、県内の 5 つの地区に所管が分かれてしまっているため、調整しにくい状況にある。

持続性の観点から、受益者の財政面も考慮しなければならない。受益者自身が、プロジェクト終了後、すべてのコストを負担し続けられないようでは、受益者が事業を止めてしまう可能性が大きく、そのような事業は持続性を担保できないこととなる。現在、プロジェクトの指導により、農民は活動の持続性を担保するための共同基金を設けている。

土壌保全策や有機肥料づくりなどの受益者が負担するコストが少ないものは、プロジェクト終了後も活動が継続する可能性は高い。一方、初期投資がある程度かかる収入源創出活動（例えばチョコマメのパン製造）については維持管理や減価償却の考えも農家に指導し、持続性を図っていく必要がある。

プロジェクト対象集落で作物栽培の単収が増大した理由として、改良農法を指導したこと、灌漑農業（ウォーターハーベストや貯水池）を導入したことなどとともに、無償で優良種子を配付したことが挙げられる。定量的な効果測定を行い、その結果を営農指導に生かして、農業生産の経済的な持続性を担保していくことが必要である。また、プロジェクト終了後、農民が優良種子を必要としたときに安価に購入できるようなシステムの整備も持続性を担保するために必要である。

(3) 技術面

C/P 職員の技術面については、必要な技術・知識が OJT や研修により強化されている。プロジェクト終了に向けて、持続性を担保できるように、技術者が自立できるように、図っていくことが求められている。

また、採算が取れる収入源創出活動を指導する能力を C/P が身につけることが求められており、そのためにも、空席となっている同分野の専門家の配置が求められている。

営農技術や環境保全技術に関しては、専門家や C/P の努力もさることながら、関係機関の参加もあり、プロジェクトの技術水準が農民のニーズを満たすものとなっており、今後も、その継続が望まれる。

MSP は、予防保健や栄養改善などの活動を、プロジェクト内ではなく、MSP 独自の活動の一貫として対象集落で実施している。持続的総合農村開発にとって保健は重要な要素であるが、国家 PDOT によって保健は県政府の管轄外と定められているので、必要に応じ、県政府と MSP が連携を保つことが求められている。MINEDUC と GADPCH との連携は、前述したように学校菜園活動を通して行われてきている。

4-6 結論

- ・ 本プロジェクトは、対象地域のニーズと合致しエクアドル側及び日本側の政策との整合性が高い。また小規模農家の生計向上や生活環境改善、そして開発事業の実施基盤構築に貢献する手

段としても適切であり、妥当性が高いと判断される。

- すべてのアウトプットの達成度を高め、本プロジェクトが目標としている持続的総合農村開発のガイドラインの内容が具体化され、有効性の高い農村開発事業モデルとしてまとめられることで有効性が高まると期待される。
- 効率性については、投入のタイミング、質、量が適切に行われ、それに見合ったアウトプットの産出状況が確認されており、重点的に活動を展開してきた生計向上、生活環境改善、実施基盤構築が達成されつつあることが確認された。
- インパクトに関して、上位目標の達成見込みについては、上述のとおりプロジェクト目標の達成が見込まれており、そして、その成果をチンボラソ県農村部全域に普及させる枠組みがプロジェクト期間内に整備されるので、十分に可能性があると考えられる。協力終了後の、普及対象地域での農村開発事業モデルの活用については、普及ネットワークの構築、UDRIの整備、集落普及員システムの確立によって、具体化される見込みである。
- 持続性については、現行の農村開発政策から考えて継続的な農家への公的支援が期待できる。なお、本プロジェクトの活動の継続や農村開発事業モデルの普及のためには、県における農村開発事業の制度化と、県、郡、区の行政組織の一体的取り組みが行われていくことが必要である。また、各専門分野に携わっている関係機関が、今後も農村開発実現に向けて協力し合っていくことが必要である。技術面においては、C/Pのさらなる技術強化が必要である。
- なお今後プロジェクト活動が円滑に進捗すればプロジェクト目標と上位目標の達成は可能であると判断されるが、その前提として下記の提言に示す検討や改善が求められる。

第5章 提言

(1) 開発事業実施基盤の整備に重点を置いた活動の実施

本プロジェクトの主目標は、協力終了後のエクアドル側による総合農村開発事業の継続と拡大に向けた実施基盤の整備にある。よってプロジェクト後半部においては、協力終了後の農村開発事業実施に向けたチンボラソ県庁内における当該部署の新設あるいは改編、人材と予算の持続的確保、必要な制度化並びに組織連携の強化や開発技術・手法の取りまとめなどに注力することが求められる。

以下、開発事業実施基盤の整備に向けた活動にかかる提言を、項目別に記述する。

- 1) これまでの実証対象地域におけるプロジェクト活動から必要性が認識されるようになった「UDRI」と「普及ネットワーク」を直ちに始動させ、その有効性、妥当性及び実現性を検討する必要がある。そして、それらの検討結果を基に本プロジェクト期間中に最終的な「UDRI」及び「普及ネットワーク」についてのオーソライズを行う必要がある。
- 2) プロジェクト後半部においては協力終了後の活動の継続と拡大を念頭に置いたC/Pの配置とその育成が求められる。
- 3) プロジェクト目標の指標に示されるガイドラインについて
 - a) 本プロジェクトの最終的なアウトプットの1つとなるガイドラインについては、その構成、内容並びに位置づけについての検討を通じてその素案を早急に作成する必要がある。
 - b) プロジェクト後半においては、その素案に沿って実証対象地域で提案された農村開発実施体制の試行と検証を行い、その結果を基に必要な改訂を行ったうえで具体的で実現性の高いガイドラインとして完成させることが重要である。
 - c) 策定されるガイドラインは協力終了後のエクアドル側の自助努力による総合農村開発事業の推進に資するものでなければならない。すなわちガイドラインは、プロジェクトの成果の活用によるチンボラソ県の山岳地帯の全郡全集落での総合農村開発事業の実施に必要な下記の内容から構成される必要があると判断される。
 - ①開発戦略（住民の生活の質の向上に向けたビジョン、総合農村開発手法、1集落に対する開発事業の実施期間、1集落の開発に必要な事業費、チンボラソ県内山岳地域全郡全集落に対する総合農村事業の実施期間という全体構想）
 - ②実施計画（開発戦略に基づいた年度ごとの農村開発事業実施計画）
 - ③実施体制
開発戦略と実施計画に基づいた農村開発事業の実施に不可欠な下記の3項目についての具体的な記述。
 - ・組織体系（農村開発事業の実施に必要な総合開発ユニットや普及ネットワーク、組織間連携）
 - ・人材の確保（農村開発事業実施に必要な各組織における技術者数、普及員数及び集落普及員数、並びにそのリクルート法等）
 - ・予算（農村開発事業の実施に向け各組織で確保すべき年度ごとの予算）
 - ④必要とされる制度構築
実施体制の整備に必要な条例、県令などを伴った制度構築面について
- d) ガイドラインとその付属書ともなるプロジェクト作成の各種マニュアルについては、関

係機関による合意のみならず、チンボラソ県における総合農村開発実施のためのガイドラインとしてオーソライズすることが望まれる。

(2) プロジェクトの円滑な実施に向けて

本プロジェクトの円滑な実施に向けて、日本側は計画どおりに専門家を派遣することに最大限の努力を行うとともに、併せてエクアドル国内や近隣国のリソースも有効に活用する可能性についても検討することが望まれる。

(3) バランスのとれた農村開発事業の実施

本プロジェクトの上位目標である「農村部住民の生活の質の改善」を実現するためには、生計向上と生活環境改善の両者からなる総合農村開発が必要不可欠である。これまでは生計向上に重点を置いた活動が実施されてきた感があるが、プロジェクト後半部においては両者間のバランスのとれた活動を実施し「住民の生活の質の向上」に資することが求められる。

(4) 優良種子及び小動物の生産と供給システム

農牧業生産性向上に向けた要件の1つは、優良種子及び小動物の生産と農家への供給システムの確立にある。よって関係機関である GADPCH、MAGAP、INIAP、FAO 間で協議・検討を行い、協力終了後の農村開発事業の拡大に向けた持続性のある「優良種子及び小動物の生産・供給システム」を整備していくことが求められる。

(5) 集落普及員制度の整備について

普及ネットワークで重要な役割を果たす集落普及員の存在は農村開発事業においては必要不可欠である。よって協力終了後の農村開発事業の拡大を念頭に集落普及員制度を早期に整備していく必要がある。なお、その整備に際しては、インセンティブの付与についての検討も行うことが望まれる。

(6) 収入源創出活動のさらなる促進

各種の収入源創出活動が実施されてきているが、その費用対効果についての分析が行われていない。機材の導入など初期投資が必要な事業についてはその減価償却費や維持管理費を勘案した費用対効果の分析を行い、収益性のある事業かどうかを明らかにして、将来的に普及可能な事業であるか否かの判断を行う必要がある。また収入源創出活動によるインパクトを増大させるためにはさらなる市場の開拓や事業のスケールアップ(例えば生産物の共同出荷によるスーパーマーケットへの直売など)についても検討していくことが勧められる。

(7) 農牧業技術/営農分野についてのマニュアル・リフレットの作成

農牧業技術/営農分野についての成果の取りまとめ業務に遅れがみられる。今後早急に、普及員用のジャガイモ、ダイズ、コムギ、チョコマメ、キヌアなどについての栽培技術マニュアル及び有機肥料製造や営農改善(輪作の導入など)に関するマニュアルなどを作成していく必要がある。また農民用には上記項目に関する簡単なリフレットを作成することが望まれる。また優良種子と改良小動物の生産と増殖に関する技術的な取りまとめも行うことが求められる。

(8) 水土保持活動のさらなる促進

土壌と水の保全は持続的農業にとって不可欠である。よって水土保持を本プロジェクトの重要な活動の1つとして取り組んでいるが、農家レベルにはまだ十分に浸透していない。よってプロジェクトの後半期間においては、土壌保全と植林等による水土保持の促進、及び実践的技術の取りまとめとその活用が必要とされる。

(9) 事業効果検証のための定量的調査の実施

プロジェクト開始時のベースライン時と比べ、本プロジェクトによる協力でどれくらい対象集落住民の生活の質が改善されたかを数値的に把握するため、定量的なモニタリング調査を行い、開発手法の適切性を証明する必要がある。

(10) 自助努力の促進

受益農家の援助依存からの脱却と自助努力の促進に向け、研修を通じた意識改革と経済的支援の提言を図っていく必要がある。

(11) 持続性の確立

協力終了後の持続性を担保するために、総合農村開発に向けた実施体制のさらなる強化と受益集落に対する組織強化についての研修を行っていく必要がある。

(12) 本プロジェクト活動計画の見直し

本中間レビューの提言を踏まえ、POの見直しを行う必要がある。

(13) 関係省庁間及び各省庁内部における連携の強化

本プロジェクトの促進のために、関係機関間の連携を強化するとともに、各省庁本部と地方機関の連携の強化も必要とされる。

第6章 団長所感

協力開始後約2年半が経過した本プロジェクトは関係者の尽力とプロジェクト・ディレクターを務めるチンボラソ県知事のイニシアティブにより、適切な実施体制が敷かれ活発な協力事業が展開されている。C/Pも県と関係省庁合わせて30名（そのうち16名がフルタイム）に上っている。

チンボラソ県農村部では、過去約40年にわたり農村開発事業が多くの機関によって実施されてきたにもかかわらず、農村住民の貧困問題が深刻化している。傾斜地農業が営まれている同農村部には、水土資源の劣化（土壌浸食と流域荒廃）に起因する低い農業生産性による貧困のスパイラルが存在する。しかしながら、これまでの農村開発事業は「いわゆるバラマキ」に終始してきたため、住民の「援助依存意識」の助長という結果のみが残り、肝心の貧困緩和にはつながらなかったと評価されている。

このような背景下、本プロジェクトでは、同県では初めてとなる水土保持をベースとした「持続的総合農村開発」を通して上位目標である「チンボラソ県農村部住民の生活の質の改善」を達成すべく、協力活動を展開している。なおプロジェクト目標は上位目標である住民の生活の質の改善に向けた「農村開発事業基盤の整備」であり、そのための技術と手法の開発、人材育成、関係機関の連携事業体制の構築などを実証対象地域4郡30集落での活動を通して行っている。

協力対象30集落では、住民の生活の質の改善を「生計向上」と「生活環境改善」という両面のアプローチで達成すべく実証活動を実施している。既にジャガイモ、オオムギ、コムギ、チョコマメなどの収量の増加（インタビュー結果によると農家レベルで単収の2倍以上の増加もみられる）、さまざまな収入源創出活動（パン製造、養鶏やクイの飼育・販売など）による現金収入の増加など具体的な成果が発現しつつある。また持続的農業に向け不可欠な「水土保持」に関しては、対象4郡に各1カ所の植林用苗畑場が設置され、今後植林活動が本格化する予定となっており、一方水土保持についてはテラス工、浸透溝などの水土保持対策技術が農家に指導されてきている。なお現在のところ協力対象農家数（直接受益農家）は776世帯、約4,800人である。

またプロジェクトでは開発事業整備の一環として、県、郡、区政府及び集落に至る普及ネットワークや総合開発ユニットの構築に向けた活動を既に開始しており、集落普及員の任命やチンボラソ県とアラワシ郡間の普及ネットワーク構築にかかる協定書の締結も終わっている。

このように成果は発現しつつあるが、全体的にみれば「農村開発事業基盤の整備」への第一歩を踏み出したところであり、プロジェクトの成否は今後本格化する活動次第であるといえる。現状では対象集落での開発事業に多くの労力と時間が割かれているが、協力後半部における活動の重点は、集落開発の成果、経験及び教訓を反映した「開発事業基盤の整備」に置く必要がある。本調査中に協議したチンボラソ県知事をはじめとするC/Pも協力終了後の事業持続性に向けた開発事業基盤の整備についての重要性は十分理解しており、その達成への環境は整っている（開発事業基盤の整備に向け具体的な必要な活動については、中間評価レポートの提言に明記した）。

今後のプロジェクト活動改善への提言は中間評価レポートに取りまとめたが、そのなかに示した「事業効果検証のための定量的調査の実施」は今後の活動で最も重要な点の1つである。上記したように対象集落で各種の農村開発事業が実施されているが、その費用対効果を含む「事業モニタリングや分析評価」などの定量的なインパクト調査はほとんど行われてきておらず、そのため今回の中間評価はその大部分が定性的なものとならざるを得なかった。この状況で開発事業を継続しても、裏づけのある普及に向けた開発技術や手法などの推奨ができない結果となる。費用対効果などの分析

結果に基づく技術や手法の推奨は開発事業基盤の整備にかかる最も重要な要素であり、早急に対策を講じることが強く求められる。

以上述べてきたように課題はあるものの、専門家と C/P は一丸となって農村部住民の生活の質の向上に向けた「持続的総合農村開発」に取り組んでおり、また受益者農民の開発に対する意識も徐々にではあるが「援助依存」から、コミュニティ共同基金設立に証左されるような「自立発展型」へ変わりつつある。開発協力の古くて新しい課題である「持続性の確保」に真正面から取り組んでいる本プロジェクトはチャレンジングな内容を含むが、両国関係者の本プロジェクト活動に対する意識は高く、当該地域農村部住民の貧困緩和に向けた大きな成果を生むと期待できる。

付 属 資 料

1. 調査日程
2. PDM ver. 2
3. JICA 専門家派遣実績
4. 本邦研修実績
5. 供与機材実績
6. 日本側負担現地経費
7. エクアドル側カウンターパート配置実績
8. エクアドル側負担経費
9. アウトプット 1 に関連した活動の詳細
10. アウトプット 2 に関連した活動の詳細
11. アウトプット 3 に関連した活動の詳細
12. ミニッツ（合同評価報告書含む）

1. 調査日程

添付資料1

エクアドル国チンボラソ県持続的総合農村開発プロジェクト 中間レビュー調査日程

	日付	行 程		宿泊地
		永代(総括)、村上(協力企画)、菅野(通訳)	大森(評価分析)	
1	2014/9/8	月	DL296 15:55 東京/成田 → 15:11 アトランタ DL673 17:41 アトランタ → 22:00 キト	キト
2	2014/9/9	火	09:00 エクアドル支所 打合せ 10:00 キト→リオバンバ 16:00-18:00 日本人専門家と打合せ	リオバンバ
3	2014/9/10	水	9:00-9:30 チンボラソ県表敬、インタビュー 9:30-10:00 県政府側評価調査団員に対するブリーフィング 10:00-18:00 運営ユニット、技術支援ユニット(C/P)との打合せ	リオバンバ
4	2014/9/11	木	MAGAP、MAE、MSP、MINEDUC県事務所長、 C/Pインタビュー	リオバンバ
5	2014/9/12	金	現地調査:サン・マルティン・アルト集落、コロンベ 1. 2集落(コルタ郡)	リオバンバ
6	2014/9/13	土	資料整理	リオバンバ
7	2014/9/14	日	9:00-13:00 現地調査 (Shilpala集落農場公開イベント視 察)	リオバンバ
8	2014/9/15	月	現地調査:AMサラチュバ集落、SF. ビシュ集落、 SP.デ・ティビン集落、CORPOPURWA(グアモテ 郡)	リオバンバ
9	2014/9/16	火	AM:リオバンバ→キト PM:表敬訪問及びエクアドル側評価調査団に対 するブリーフィング @国際協力庁	キト
10	2014/9/17	水	DL296 15:55 東京/成田 → 15:11 アトランタ DL673 17:41 アトランタ → 22:00 キト	キト
11	2014/9/18	木	団内打合せ AM:表敬訪問及び打合せ(エクアドル支所、MAGAP、MAE) PM:キト→リオバンバ	リオバンバ
12	2014/9/19	金	9:00-9:30 チンボラソ県表敬 日本人専門家との打合せ、運営ユニット、技術支援ユニットへのインタビュー	リオバンバ
13	2014/9/20	土	現地調査(グアモテ郡):AMチスマウテ・アルト集落、ハトウンバンバ集落(グアモテ郡)	リオバンバ
14	2014/9/21	日	資料整理	リオバンバ
15	2014/9/22	月	8:00-18:00現地調査: AMサン・ベルナルド集落(コルタ郡)、グアコナ・グランデ集落(コルタ郡)、 PMルミ・クルス集落(リオバンバ郡) (日エ調査団合流)	リオバンバ
16	2014/9/23	火	8:00-18:00現地調査(アラウシ郡): AMプエプロ・ピエホ集落、PMラ・パシフィカ集落、ラ・メルセー集落	リオバンバ
17	2014/9/24	水	技術支援ユニットとの協議 合同評価調査団内打合せ①	リオバンバ
18	2014/9/25	木	合同評価調査団内打合せ②	リオバンバ
19	2014/9/26	金	AM:合同評価調査団内打合せ③、合同評価調査報告書 署名、 ミニッツ案作成(本省送付) (PM:エクアドル側調査団員キトへ移動)	リオバンバ
20	2014/9/27	土	リオバンバ→キト	キト
21	2014/9/28	日	資料整理	キト
22	2014/9/29	月	合同調整委員会(評価結果発表・協議) ミニッツ協議・修正 ミニッツ署名・交換	キト
23	2014/9/30	火	エクアドル支所報告 在エクアドル日本国大使館報告 DL680 23:00 キト→	—
24	2014/10/1	水	→ 05:46 アトランタ DL295 13:30 アトランタ→	—
25	2014/10/2	木	→ 16:55 東京/成田	—

PDM ver.2

(2013年2月26日作成)

プロジェクト名: チンボラソ県持続的総合農村開発プロジェクト
 相手国実施機関: チンボラソ県政府、農牧漁業省、環境省、保健省、教育省
 協力期間: 2012年3月～2017年3月(5年間)
 対象地域: チンボラソ県農村部
 相手国実施機関: チンボラソ県、農牧漁業省、環境省、保健省、教育省
 裨益者: 実証対象地域: 県内4郡の30集落の住民
 普及対象地域: チンボラソ県全農村部の住民

プロジェクトの要約	指 標	指標の入手手段	外部条件
上位目標 チンボラソ県農村部の住民の生活の質が改善される。	1: 普及対象地域で生計向上についての基礎的知識・技術により生計向上が実現する。 2: プロジェクトで導入された環境・保健・教育分野の生活環境改善にかかる知識・技術が普及対象地域で実践される。	1. 現地調査	
プロジェクト目標 実証対象地域における住民の生計の向上及び生活環境が改善されるとともに、普及対象地域において生活の質の改善に向けた開発事業の実施基盤が整備される。	1: 実証対象地域の協力対象農家の収入が、生計向上についての基礎的知識・技術により30%向上する。 2: プロジェクト活動により、実証対象地域の50%以上の協力対象農家の生活環境に関する満足度が高まる。 3: 普及対象地域の持続的総合農村開発のための体制構築・手法確立のためのガイドラインが関係機関(注1)により合意される。	1. 現地調査 2. ガイドライン合意文書の確認	1. 対象地域の経済状況が著しく悪化しない。
アウトプット 1. 実証対象地域の農家が、生計向上(注2)についての基礎的知識・技術を習得し実践する。	1-1: 実証対象地域における50%以上の協力対象農家が生計向上にかかる知識・技術を習得し実践する。	1. 現地調査 2. プロジェクトの活動記録	1. 関係機関の政策が大きく変更されない。
2. 実証対象地域において、農家が生活環境改善についての基礎的知識・技術(環境、保健、教育)を習得し実践する。	2-1: 実証対象地域における研修受講者の50%以上が環境保全にかかる知識・技術を実践する。 2-2: 実証対象地域における研修受講者の50%以上が予防保健にかかる知識・技術を実践する。 2-3: 実証対象地域における研修受講者の50%以上が栄養改善にかかる知識・技術を実践する。	1. 現地調査 2. 各省の活動記録	

	2-4:実証対象地域の該当者（注3）の50%以上が識字及びポスト識字教育を受講する。		
3. 持続的総合農村開発のための、参加型開発にかかる各関係機関の職員や技術者・普及員の能力が強化される。	3-1: 参加型開発に関する研修を職員・技術者・普及員の80%以上が受講する。 3-2: 参加型開発に関する研修を受けた職員・技術者・普及員の50%以上が、その知見をコミュニティプロジェクトの運営に適用している。	1. 研修の受講記録 2. 活動記録 3. 現地調査	
4. 持続的総合農村開発のための関係機関の連携が強化される。	4-1: 技術支援ユニットが機能している。 4-2: 普及ネットワークが機能している。 4-3: 関係機関で連携した農村開発事業が各集落で実施される。	1. 活動記録 2. 現地調査 3. 普及ネットワークの規約の確認	
5. 持続的総合農村開発のための体制構築・手法確立のためのガイドラインが策定される。	5-1: 持続的総合農村開発のための体制構築・手法確立のためのガイドラインを関係機関に提出する。	1. 提出されたガイドラインの確認	
活動 1-1: 実証対象地域の選定及びベースライン調査を行う。 1-2: 関係機関の技術者及び普及員に対して、生計向上（注2）に関する能力強化を行う。 1-3: 農民グループを組織し、同グループのための生計向上にかかる研修計画の策定及び実施を支援する。 1-4: 研修成果を活用した農民グループによる生計向上のための活動計画の策定及び実施を支援する。 1-5: 農民グループによる、生計向上にかかる活動改善のための定期的なモニタリング・評価の実施を支援する。 2-1: 農民グループに対し、関係省庁の公共サービスを活用し、生活環境改善にかかる研修計画（環境保全・予防保健・栄養改善・識字教育等）の策定・実施を行う。 2-2: 研修成果を活用した農民グループによる生活環境改善にかかる活動実施を支援する。 2-3: 上記活動について、生活環境改善にかかる活動の改善のための農民グループによる定期的なモニタリング・評価を支援する。	投入 1. 日本側 <ul style="list-style-type: none"> ・ 長期専門家 Expertos de Largo Plazo <ol style="list-style-type: none"> 1) チーフアドバイザー/持続的総合農村開発 2) 業務調整/参加型開発 3) 収入源創出/流通 4) 営農 ・ 短期専門家 <ol style="list-style-type: none"> 1) 灌漑、水土保全、生活改善、ジェンダー・社会配慮等 ・ ローカルコンサルタント、第三国専門家 ・ 資機材調達 <ul style="list-style-type: none"> 水土保全資機材、車両（集落間移動用）、普及員用オートバイ（追加）、執務室用機材（複写機、パソコン等）、灌漑システムの小額資材等 ・ C/Pの本邦及び第三国研修 <ol style="list-style-type: none"> 1) 本邦研修（生活改善等） 2) 第三国研修（生活改善、収入源創出等） 3) ポリビア及びペルーの類似案件との技術交換 ・ コミュニティプロジェクトの実施にかかる予算（同予算は、プロジェクト協力期間の終了時には0%になるように減らしていく） 	1. 自然災害や異常気象が対象地域で発生しない。	前提条件 1. 対象地域の治安が確保される。 2. C/P 機関の関係者が頻繁に異動しない。

<p>3-1:持続的総合農村開発のための参加型開発サイクル（ニーズ把握、計画策定、事業実施、モニタリング評価、フィードバック）及びツール（組織化、生活環境改善にかかるツール等）に関するプロジェクト関係機関の職員能力強化研修を計画し、実施する（含むマニュアル類作成）。</p> <p>3-2: 習得した参加型開発に係る知見を基に、コミュニティプロジェクトの活動に適用する。</p> <p>4-1: 関係機関横断的な技術支援ユニットを設立する。 4-2: 県政府が中心となり関係機関とともに普及ネットワークを設立する。 4-3: 関係機関の連携による農村開発普及事業を実施する。</p> <p>5-1:実証対象地域における各活動の経験及び普及対象地域の農村の現状と課題を基に、持続的総合農村開発のための体制構築・手法確立のためのガイドラインの草案を策定する。</p>	<p>・セミナー、ワークショップ、農民の参加型研修に要する教材、ローカルコンサルタントによる調査にかかる経費、その他消耗品</p> <p>2. エクアドル側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクト・ディレクター ・ プロジェクト・マネジャー ・ プロジェクト要員（チンボラソ県政府職員、4郡政府の職員、農牧漁業省・環境省・保健省・教育省の各県事務所の職員） ・ プロジェクト予算(ランニングコスト、コミュニティプロジェクト実施経費等)・プロジェクト執務室（県庁内、事務備品、電話、インターネット完備） ・ 支援員 ・ プロジェクト用車両 	
---	---	--

注1:関係機関とは、県政府・関係省庁・郡(canton)政府・区(parroquia)政府を意味する。

注2:生計向上とは、農牧生産性向上・営農・流通改善・収入源創出から構成される。

注3:該当者とは、教育省によりリストアップされた者を指す。

JICA専門家派遣実績

長期専門家派遣

No.	専門家氏名	指導科目	派遣期間		所属先	実績					
			開始	終了		2012	2013	2014	2015	2016	
1	廣住 清	チーフアドバイザー/ 持続的総合農村開発	2012.3.14	2015.3.8	(有)フォーラム・ツー・ワン	→	→	→			
2	栗原 敏昭	業務調整/参加型開発	2012.5.30	2015.5.29	なし	→	→	→			

短期専門家派遣

No.	専門家氏名	指導科目	派遣期間		所属先	実績					
			開始	終了		2012	2013	2014	2015	2016	
1	井上 晴喜	1年次:営農 2・3年次:持続的農業技術普及	2012.4.25	2015.2.26	(株) 日本開発サービス	→	→	→			
2	岩瀬 剛史	1年次:収入源創出/マーケティング 2年次:収入源創出/農産物流通	2012.4.18	2014.5.8	ユニコ・インターナショナル (株)	→	→				
3	坂井 茂雄	水土保全	2012.11.9	2013.2.19	(株)オリエンタル・コンサルタンツ	→					
4	宇田川 弘勝	水土保全	2014.6.30	2014.8.26	国際航業(株)				→		

添付資料4

本邦研修実績

No.	研修員氏名	受入期間	コース名	受入国	受入機関	当時の役職	現在の役職 離職年月・離職先
1	アガピート・ムニョス	2013.1.20 - 2013.2.2	生活改善を通じた農村開発	日本	JICA筑波	チンボラソ県政府 生産振興部長	同左
2	ブランカ・ギハラ	2013.2.13 - 2013.3.16	地域資源を活かした内発的 地域経済開発	日本	JICA中部	チンボラソ県政府 計画部員	チンボラソ県政府 灌漑部員

添付資料5

供与機材実績

1. 供与機材								
No.	機材名	単価(US\$)	数量	価格(US\$)	入手日	保管先	使用頻度*	状態
1	車両(ピックアップ)Nissan Frontier(白、シルバー)	20,836.00	2	41,672.00	2012/3/15	県庁車庫	A	良好
2	パソコン(デスクトップ)OPTIPLEX 990/C15	825.00	5	4,125.00	2012/3/14	プロジェクト事務所	A	良好
3	パソコン(ラップトップ)LATITUDE E6320	1,276.00	2	2,552.00	2012/3/14	プロジェクト事務所	A	良好
4	モニターDELL 19	174.00	5	870.00	2012/3/14	プロジェクト事務所	A	良好
5	カラープリンタ HP LASER JET COLOR 3525DN	1,010.24	1	1,010.24	2012/3/19	プロジェクト事務所	A	良好
6	プリンター HP LASER JET 2055DN	363.88	1	363.88	2012/3/21	プロジェクト事務所	A	良好
7	ライセンス MS Office	280.00	7	1,960.00	2012/3/14	プロジェクト事務所	A	良好
8	小型耕運機 Solo 508	1,482.40	4	5,929.60	2012/11/19	県政府建機倉庫	B	良好
9	テラー Husqvarna TR530	3,100.00	6	18,600.00	2012/11/20	県政府建機倉庫	B	良好
10	ミニパワーショベル John Deere 35D	62,606.00	1	62,606.00	2012/12/21	県政府建機倉庫	A	良好
11	車両 Toyota Fortuner(黒)	35,290.00	1	35,290.00	2012/12/21	県政府車庫	A	良好
12	ミニバン Toyota Hiace(白、シルバー)	36,700.00	2	73,400.00	2013/1/31	県政府建機倉庫	A	良好
13	掘削機	74,480.00	1	74,480.00	2014/9/13	県政府建機倉庫		良好
	計			\$322,858.72				

*使用頻度:A:常時使用 - B:時々使用 - C:まれに使用

添付資料6

日本側負担現地業務費

As of 2014/07/10

(単位：US\$)

2012年度(2012年4月～2013年3月)

費目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
航空賃													0.00
旅費(航空賃以外)			138.80	135.40	38.00		30.00	140.80		162.00		30.00	675.00
業務契約(ローカルコンサルタント)													0.00
業務契約(ローカルコンNGO)					15,127.00	15,127.00							30,254.00
業務契約													0.00
謝金報酬(スタッフ以外)					700.00	1,400.00	700.00		700.00	700.00	1,002.40	1,400.00	6,602.40
会議費			509.05										509.05
一般業務費	178.34	308.30	440.00	7,775.39	1,698.81	2,531.98	7,649.60	14,568.10	10,487.51	15,416.86	17,717.77	23,721.75	102,494.41
合計	178.34	308.30	1,087.85	7,910.79	17,563.81	19,058.98	8,379.60	14,708.90	11,187.51	16,278.86	18,720.17	25,151.75	140,534.86

2013年度(2013年4月～2014年3月)

費目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
航空賃			15,872.78										15,872.78
旅費(航空賃以外)	30.00		336.00	10,095.59	30.00				21.00	132.00	21.00	132.00	10,797.59
業務契約(ローカルコンサルタント)													0.00
業務契約(ローカルコンNGO)													0.00
業務契約													0.00
謝金報酬(スタッフ以外)		901.00	1,802.00		901.00	1,802.00		901.00	1,802.00		901.00	1,802.00	10,812.00
会議費									927.60				927.60
一般業務費	7,324.39	17,784.28	11,354.99	18,377.47	1,908.73	3,254.45	7,281.94	25,353.09	10,711.81	11,614.20	27,837.15	11,856.13	154,658.63
合計	7,354.39	18,685.28	29,365.77	28,473.06	2,839.73	5,056.45	7,281.94	26,254.09	13,462.41	11,746.20	28,759.15	13,790.13	193,068.60

2014年度(2014年4月～2014年6月)

費目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
航空賃													0.00
旅費(航空賃以外)		90.00											90.00
業務契約(ローカルコンサルタント)													0.00
業務契約(ローカルコンNGO)													0.00
業務契約													0.00
謝金報酬(スタッフ以外)		1,802.00	901.00										2,703.00
会議費													0.00
一般業務費	16,631.93	415.58	11,787.90										28,835.41
合計	16,631.93	2,307.58	12,688.90	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	31,628.41

エクアドル側カウンターパート配置実績

No.	C/P氏名	役職名	担当分野	技術移転を行った 専門家氏名	実施機関での勤務期間		本プロジェクト従事期間					備考	
					From	To	2012	2013	2014	2015	2016		
1	マリアノ・クリカマ	チンボラン県知事	プロジェクト・ディレクター	廣住清	2012.3	現在に至る	■	■	■				本邦帰国研修員(2010年度)
2	アガビート・ムニョス	県政府生産振興部長	プロジェクト・マネジャー	廣住清	2012.3	現在に至る	■	■	■				本邦帰国研修員(2012年度)
3	アレハンドロ・グァノレマ	県政府生産振興部員	プロジェクト・サブマネジャー (運営ユニット)	廣住清、 栗原敏昭	2012.3	現在に至る	■	■	■				フェーズⅠ協力時、CP普及員
4	アルフォンソ・グスマン	県政府生産振興部員	プロジェクト普及員コーディネーター (運営ユニット)	廣住清、 栗原敏昭	2014.2	現在に至る			■				
5	ファウスト・ロベス	県政府生産振興部員	生産技術支援ユニット コーディネーター	井上晴喜	2012.7	2013.12		■					異動
6	マルシア・アルタミラーノ	県政府生産振興部員	流通技術支援ユニット コーディネーター	岩瀬剛史	2012.7	2013.12		■					異動
7	ルベン・アウカンセラ	県政府生産振興部員	参加型開発/組織化支援ユニット コーディネーター	栗原敏昭	2012.7	現在に至る	■	■	■				本邦帰国研修員(2010年度)、 2014年4月より専属化
8	マルセロ・ピノ	環境省 チンボラン県事務所職員	環境技術支援ユニット コーディネーター	廣住清	2012.3	現在に至る	■	■	■				非専属
9	オズワルド・アルバレス	農牧漁業省 チンボラン県事務所職員	生産技術支援ユニット員	井上晴喜	2012.3	現在に至る	■	■	■				非専属
10	ロベルト・カルロス・マタ	農牧漁業省 チンボラン県事務所職員	生産技術支援ユニット コーディネーター	井上晴喜	2014.3	現在に至る			■				
11	アレハンドロ・パレート	県政府生産振興部員	生産技術支援ユニット スーパーバイザー	井上晴喜	2012.3	2013.12	■	■					契約非更新
12	ダルウィン・カデナ	県政府生産振興部員	生産技術支援ユニット員	井上晴喜	2014.4	現在に至る			■				
13	ホルヘ・チリキンガ	県政府生産振興部員	生産技術支援ユニット 小家畜飼育スーパーバイザー	井上晴喜	2013.1	現在に至る		■	■				
14	ブランカ・ギハロ	県政府生産振興部員	流通技術支援ユニット員	岩瀬剛史	2013.1	2014.1		■					本邦研修帰国研修員、異動
15	ウゴ・フェルナンデス	県政府生産振興部員	生産技術支援ユニット コーディネーター	岩瀬剛史	2014.3	現在に至る			■				
16	ジャケリン・タピア	県政府生産振興部員	流通技術支援ユニット	岩瀬剛史	2012.7	現在に至る	■	■	■				非専属
17	マルセリーノ・グアマン	県政府社会管理部員	流通技術支援ユニット	岩瀬剛史	2012.7	現在に至る	■	■	■				非専属
18	ベロニカ・クルス	農牧漁業省 チンボラン県事務所技師	参加型開発/組織化支援ユニット員	栗原敏昭	2012.7	現在に至る	■	■	■				
19	フレディ・アバルカ	環境省 チンボラン県事務所技師	参加型開発/組織化支援ユニット員	栗原敏昭	2012.7	2013.7		■					
20	ミゲル・アクーニャ	環境省 チンボラン県事務所技師	参加型開発/組織化支援ユニット員	栗原敏昭	2013.7	現在に至る			■				
21	ウゴ・サバラ	県政府社会管理部員	参加型開発/組織化支援ユニット員	栗原敏昭	2012.7	2014.4	■	■					異動
22	バシリオ・チンボレマ	県政府社会管理部員	参加型開発/組織化支援ユニット員	栗原敏昭	2014.4	現在に至る			■				
23	ルシア・ガルシア	県政府生産振興部員	参加型開発/組織化支援ユニット員、 専属普及員	栗原敏昭	2012.3	2014.4	■	■	■				退職

No.	C/P氏名	役職名	担当分野	技術移転を行った 専門家氏名	実施機関での勤務期間		本プロジェクト従事期間					備考		
					From	To	2012	2013	2014	2015	2016			
24	フリオ・ログローニョ	県政府環境部員	環境技術支援ユニット員	廣住清	2012.7	2013.12	■	■						
25	デイシー・ミニユカ	保健省 チンボラン県事務所員	保健支援ユニットコーディネーター	廣住清	2012.3	2013.3	■							
26	シルバーナ・アンドレーデ	保健省 チンボラン県事務所員	保健支援ユニットコーディネーター	廣住清	2013.3	2013.12		■						退職
	ルス・ロシージョ	保健省 チンボラン県事務所員	保健支援ユニットコーディネーター	廣住清	2014.3	現在に至る			■					
27	ロベルト・ビスエテ	教育省 チンボラン県事務所員	教育支援ユニットコーディネーター	廣住清	2012.3	2013.12	■	■						退職
28	ビルヒリオ・ピラムンガ	教育省 チンボラン県事務所員	教育支援ユニットコーディネーター	廣住清	2012.3	2013.12	■	■						退職
29	サミュエル・グアラン	県政府生産振興部員	教育支援ユニットスーパーバイザー、 専属普及員	廣住清	2014.4	現在に至る			■					
30	アナ・ルシア・オレア	教育省 リオバンバ地区長	教育支援ユニット員	廣住清	2014.4	現在に至る			■					
31	フェルナンド・マウチェオ	教育省 アラウシ地区長	教育支援ユニット員	廣住清	2014.4	現在に至る			■					
32	ルイス・キシユペ	教育省 コルタ・グアモテ地区長	教育支援ユニット員	廣住清	2014.4	現在に至る			■					
33	セグンド・アニレマ	県政府生産振興部員	専属普及員	全専門家	2012.3	2013.12	■	■						契約非更新
34	マベル・ピンタグ	県政府生産振興部員	専属普及員	全専門家	2012.3	2013.12	■	■						契約非更新
35	フアン・カルロス・ガビン	県政府生産振興部員	専属普及員	全専門家	2012.3	現在に至る	■	■						
36	マルタ・チューチョ	県政府生産振興部員	専属普及員	全専門家	2012.3	2012.12	■							契約非更新
37	アルフレッド・ムニョス	県政府生産振興部員	専属普及員	全専門家	2013.1	現在に至る		■	■					
38	ラモン・カルグアチ	県政府生産振興部員	専属普及員	全専門家	2013.1	現在に至る		■	■					
39	ハイメ・クリカマ	県政府生産振興部員	専属普及員	全専門家	2013.4	現在に至る		■	■					
40	ニディア・ロドリゲス	県政府生産振興部員	専属普及員	全専門家	2014.3	現在に至る			■					
41	アニータ・ユキレマ	県政府生産振興部員	専属普及員	全専門家	2014.2	現在に至る			■					
42	ホルヘ・グアマン	県政府生産振興部員	専属普及員	全専門家	2014.4	現在に至る			■					

エクアドル側負担経費(US\$)*

(2014年7月現在)

2012年度チンボラソ県政府のローカルコスト負担

費目	2012年度												合計	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
教材制作		980.00		476.00										1,456.00
薬剤費用								746.00						746.00
建設資材費									500.00					500.00
農牧事業資機材費		3305.03								1,519.00	2,125.00			6,949.03
家畜飼育資機材費					2,174.00									2,174.00
ツール・備品		5000.00												5,000.00
雑費		4202.00				864.00								5,066.00
事務機器				1800.00										1,800.00
印刷費		670.00			782.00						4,000.00			5,452.00
植林用苗										19,800.00				19,800.00
機械類												18,000.00		18,000.00
薬剤費用			3193.00											3,193.00
飲食費					359.00				800.00	100.00	500.00			1,759.00
燃料費				225.60	368.40	439.20	531.60	501.60	420.00					2,486.40
車両維持管理費				96.65	65.13	650.62	404.61	137.09	244.00					1,598.10
運営スタッフ給与				2113.00	2113.00	2113.00	2113.00	2113.00	2697.00	2113.00	2113.00	2113.00	2113.00	19,601.00
技師給与				986.00	986.00	986.00	2,072.00	2,072.00	2,656.00	2,072.00	2,072.00	2,072.00	2,072.00	15,974.00
普及員給与				3305.00	3305.00	3305.00	3,305.00	3305.00	4765.00	3305.00	3305.00	3305.00	3305.00	31,205.00
運転手給与				1611.00	1611.00	1611.00	1,611.00	1611.00	3363.00	1611.00	1611.00	1611.00	1611.00	16,251.00
合計	-	14,157.03	3,193.00	10,613.25	11,763.53	9,968.82	10,037.21	10,485.69	15,445.00	30,520.00	15,726.00	27,101.00	159,010.53	

2013年度チンボラソ県政府のローカルコスト負担

費目	2013年度												合計	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
教材制作費											1,101.00			1,101.00
建設資材費等	26000													26,000.00
農牧事業資機材費	200000											124,287.08		324,287.08
家畜飼育資機材費	13000												3,392.00	16,392.00
ツール・備品等	13000													13,000.00
事務機器														-
印刷費														-
薬剤費														-
飲食費	70											1,500.00		1,570.00
燃料費	700													700.00
車両維持管理費	150													150.00
運営スタッフ給与	2113.00	2113.00	2113.00	2113.00	2113.00	2113.00	2113.00	2113.00	2113.00	2113.00	2113.00	2113.00	2113.00	25,356.00
技師給与	1972.00	1972.00	1972.00	1972.00	1972.00	1972.00	5424.00	5424.00	5424.00	5424.00	5424.00	5424.00	5424.00	44,376.00
普及員給与	4354.00	4354.00	4354.00	4354.00	4354.00	4354.00	5155.00	5155.00	5155.00	5155.00	5155.00	5155.00	5155.00	57,054.00
シヨベル操作員給与	670.00	670.00	670.00	670.00	670.00	670.00	670.00	670.00	670.00	670.00	670.00	670.00	670.00	8,040.00
合計	262,029.00	9,109.00	9,109.00	9,109.00	9,109.00	9,109.00	13,362.00	13,362.00	13,362.00	13,362.00	138,750.08	18,254.00	518,026.08	

* 県政府のみがプロジェクトのエクアドル側ローカルコストを負担している。

2014年度テンボラソ県政府のローカルコスト負担

費目	2014年度												合計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
教材制作費		14,074.00					15,763.00						29,837.00
建設資材費等													-
農牧事業資機材費													-
家畜飼育資機材費							9,690.00						9,690.00
ソール・備品等		32,518.00											32,518.00
事務機器							10,430.00						10,430.00
印刷費		34,390.00				3,896.00							38,286.00
薬剤費					75.00								75.00
飲食費		5,639.00		1,700.00									7,339.00
燃料費						10,650.00							10,650.00
車両維持管理費													-
建設費用							11,500.00						11,500.00
運営スタッフ給与			2,121.00	2,121.00	2,121.00	2,121.00	2,121.00						10,605.00
技師給与			6,337.00	6,337.00	6,337.00	6,337.00	6,337.00						31,685.00
普及員給与			5,864.00	5,864.00	5,864.00	5,864.00	5,864.00						29,320.00
シヨベル操作員給与			537.00	537.00	537.00	537.00	537.00						2,685.00
													-
合計	-	86,621.00	14,859.00	16,559.00	14,934.00	29,405.00	62,242.00	-	-	-	-	-	224,620.00

9. アウトプット1に関連した活動の詳細

添付資料 9

アウトプット1に関連した活動の詳細

プロジェクトに参加した集落では、農民のニーズに基づいた生計向上にかかる研修計画が立てられた。そして、各集落の農民野外学校（ESDRUC）参加者によって組織された農民グループに対して研修が実施された。研修の成果に関しては、参加型でモニタリング・評価が行われている。

表1は、各集落別のESDRUCへの参加者数を示している。参加者は各世帯から1名なので、これは参加世帯数とも読みとれる。集落の多くは、男性が出稼ぎに行くために、女性の参加者が多くなっている。ESDRUCの参加者は1年間に約20名であるが、参加者は毎年入れ替わるため、3年間行われると、1集落約60名（60世帯）の参加経験者が生まれることになる。3年間で、男性634名、女性1,071名、合計1,705名がESDRUCに参加してきている。

表1：ESDRUCへの参加者数（人）

No	集落	2012			2013			2014			合計		
		男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
1	LA PACIFICA	5	20	25	6	19	25	5	19	24	16	58	74
2	LA MERCED DE TIXAN			0	7	14	21	5	15	20	12	29	41
3	PUEBLO VIEJO	8	7	15	7	6	13	2	16	18	17	29	46
4	PACHACSI			0	1	26	27	1	26	27	2	52	54
5	ATAPO SANTA CRUZ	1	16	17	1	16	17	1	16	17	3	48	51
6	SARACHUPA	1	21	22	1	21	22	3	21	24	5	63	68
7	SAN PABLO DE TIPIN	14	7	21	14	7	21	16	8	24	44	22	66
8	SAN FRANCISCO DE BISHUD	11	11	22	11	11	22	11	9	20	33	31	64
9	CHISMAUTE ALTO	19	3	22	19	3	22	24	12	36	62	18	80
10	SAN LORENZO DE TELAN	13	12	25	15	12	27	15	12	27	43	36	79

11	JATUNPAMBA	2	22	24	4	30	34	4	32	36	10	84	94
12	SACAHUAN TIOCAJAS			0	6	9	15	6	9	15	12	18	30
13	SAN VICENTE DE TIPIN			0	10	15	25	10	15	25	20	30	50
14	ACHULLAY			0			0	8	13	21	8	13	21
15	SAN MARTIN ALTO	12	11	23	11	9	20	11	9	20	34	29	63
16	LA MERCED DE COLUMBE	4	16	20	7	37	44	7	37	44	18	90	108
17	COLUMBE GRANDE 1,2			0			0	4	21	25	4	21	25
18	COLUMBE 3,4	9	16	25	6	2	8	15	18	33	30	36	66
19	CASHA PAMBA	9	14	23	5	14	19	5	14	19	19	42	61
20	SAN BERNARDO	8	9	17	17	7	24	9	7	16	34	23	57
21	HUACONA GRANDE	6	15	21	7	18	25	5	20	25	18	53	71
22	CANAL HUACONA			0	4	5	9	4	5	9	8	10	18
23	EL LIRIO	10	16	26	10	16	26	10	16	26	30	48	78
24	RUMILOMA	3	8	11	1	13	14	1	13	14	5	34	39
25	SAN GUISEL ALTO			0			0	17	10	27	17	10	27
26	BALDA LUPAXI			0	7	23	30	7	23	30	14	46	60
27	UNIDAD EDUCATIVA LLINLLIN			0			0	37		37	37	0	37
28	RUMICRUZ	4	18	22	7	15	22	5	17	22	16	50	66
29	SAN MIGUEL DE QUERA			0	6	2	8	12	2	14	18	4	22
30	SHILPALA			0	7	14	21	14	6	20	21	20	41
31	SANTA TERESITA			0	12	12	24	12	12	24	24	24	48
合計				381			560			715	634	1071	1705

注1：No.27のLlinllinは地元の要望に応じて、農家後継者となる専修学校生徒に営農指導を行っている。

注2：2012年、2013年について何も記入がない集落は、離脱した集落に代わって、プロジェクトに新規参入した集落である。

ESDRUC の共同圃場は改良技術の展示普及のために利用された。例えば、共同圃場で優良品種栽培を実施するのに合わせて、参加者全員にも優良種子が配付される。共同圃場でまず改良農法を導入した優良種子栽培が参加者に指導される。その後、参加者は、各個人の圃場で優良種子の改良農業栽培を実践する。こうして、ESDRUC の全参加者が研修を受けた生計向上にかかる技術を自分の圃場で実践するシステムとなっている。

表 2 は、農民への研修実施に先だって、あるいは並行して、関係機関の技術者及び普及員に対して行われた、生計の向上にかかわる研修実績を示している。受講した技術者や普及員はその研修成果を活用して農民への指導を行っている。

表 3 は、2013 年 10 月から 2014 年 7 月までの期間に、各集落で生計の向上に関してどのような研修が実施されてきたかを表したものである。

表 2：生計向上分野のスタッフ向け研修実績

年度	コース名	研修内容	講師	開催日	期間	参加人数	対象者
2012	複合農業実践研修	グアモテ郡内の複合農業実践農家の圃場及び当人による複合農業技術（有機資材作製、小家畜飼育、野菜栽培、病虫害の生物防除等）の実習	セサル・アヨル氏（協力農家）	2012.9.17、18	2日間	7名	プロジェクト普及員
2012	農家組織による共同販売技術セミナー	日本や中南米他国の事例を踏まえた小農の組織的な販売・流通技術の研修	栗原敏昭専門家	2012.10.26	1日間	23名	県政府起業振興課普及員
2012	小型耕運機及びテレー操作研修	機械化推進の一貫で導入した小型耕運機及びテレー操作の実習をルミローマ集落の傾斜地で実施	Solo、Husqvarna 販売会社オペレーター	2012.11.15	1日間	約50名	プロジェクト普及員及びルミローマ集落
2012	ジャガイモとオオムギ・コムギの肥培管理	シエラ地域の重要作物であるジャガイモ、オオムギ、コムギについて生育に伴う肥培管理技術	INIAP（国立農牧研究所）の研究者	2012.11.29	1日間	20名	ESDRUCの参加農民、普及員、技術者。MAGAPの普及員。
2012-2013	（経営管理）基礎簿記、共同基金にかかわる共同セミナー	プロジェクト対象の28集落の住民を対象に実施。基礎簿記の記帳や管理の方法、共同基金設立の意義や設立の手法についてワークショップ形式で指導。	PMSK 技術者、PMSK 普及員、岩瀬剛史専門家	2013.1.20-2013.12.01	各3日間	400名程度	プロジェクト支援対象集落参加者
2012	農作物の収穫処理とクイの飼育	1)農作物の収穫処理の方法と重要性 2)クイの飼育と管理	INIAP の研究者	2013.1.31	1日間	30名	ESDRUCの参加農民、普及員、技術者。MAGAPの普及員。
2013-2014	（付加価値化）収穫後処理研修	プロジェクト対象の22集落の住民を対象に実施。農産物ごとに収穫後処理（選別、梱包、保存等）の各プロセスにおける留意点を現場で指導。	PMSK 技術者・普及員、岩瀬剛史専門家	2013.4.01-2014.4.30	各3日間	300名程度	プロジェクト支援対象集落参加者
2013-2014	（付加価値化）共同販売研修	プロジェクト対象の22集落の住民を対象に実施。共同販売を行うための条件（ロジ、梱包、先方との交渉等）を個別に指導。	PMSK 技術者、PMSK 普及員、岩瀬剛史専門家	2013.4.01-2014.4.30	各3日間	200名程度	プロジェクト支援対象集落参加者
2013-2014	（付加価値化）テンジクネズミ、鶏加工共同ワークショップ	プロジェクト対象の20集落の住民を対象に実施。集落で飼育されているテンジクネズミ、鶏の加工方法を集落巡回型のワークショップ形式で指導。	PMSK 技術者、PMSK 普及員、岩瀬剛史専門家	2013.4.01-2014.4.30	各3日間	300名程度	プロジェクト支援対象集落参加者

2013	(収入源創出) パン生産にかかわる共同ワークショップ	プロジェクト対象の3集落の住民を対象に実施。付加価値化の一環として、チョコチョマメを用いたパンの製造方法を集落巡回型のワークショップ形式で指導。	PMSK 技術者、PMSK 普及員、岩瀬剛史専門家	2013.6.01-12.01	各3日間	60名	プロジェクト支援対象集落参加者
2013 2014	職員対象の参加型農村開発手法「複合農業」ワークショップ	制作教材「複合農業」を活用し、作物多様化、家族農業、自然にやさしい農法、有畜複合、家族菜園、BPA、有機資材、地産池消等技術の研修	参加型開発ユニット、栗原敏昭専門家	2013.7.24～(継続的に随時各機関にて開催)	1日間	62名	DPA 支援ユニット員、プロジェクト普及員、県政府社会管理部員、MAGAP、MAE 職員
2013	アンデス地域の穀物	1)アンデス地域の穀物の食糧及び農家経営における重要性 2)優良種子の重要性 3)アンデス穀物の優良種子生産 4)ESDRUC でチョコチョマメの栽培技術指導の成果	INIAP 研究者、MAGAP 種子登録担当技術者、アンデス種子生産組合代表、PMSK 担当普及員、技術者、井上晴喜専門家	2013.8.16	1日間	70名	ESDRUC の参加農民、普及員、技術者。MAGAP の普及員。
2013 2014	職員対象の参加型農村開発手法「複合農業」ワークショップ	制作教材「複合農業」を活用し、作物多様化、家族農業、自然にやさしい農法、有畜複合、家族菜園、BPA、有機資材、地産池消等技術の研修	県政府(プロジェクト及び関係部署)・MAGAP・MAE 普及員	2013.8.19～(継続的に随時各集落にて開催)	1日間	計 1,089名	農家等集落住民(対象地域外も含む)
2013	(収入源創出) 収入源創出にかかわる共同セミナー	カナダ政府が実施するプロジェクトとの協働開催。座学、ワークショップを通じた C/P 職員の技術向上を目的に実施。	PMSK 技術者、カナダ政府機関技術者、岩瀬剛史専門家	2013.9.17	1日間	40名	PMSK 技術者・普及員、カナダ政府プロジェクト普及員等
2013	(付加価値化) 衛生管理研修	プロジェクト対象の2集落の住民を対象に実施。加工の際の衛生管理の重要性、留意点などについて現地で指導。	PMSK 技術者、PMSK 普及員、岩瀬剛史専門家	2013.9.30-2013.12.01	各3日間	40名	プロジェクト支援対象集落参加者
2013	(収入源創出) 収入源創出にかかわる優良事例(集落)訪問研修	共同販売・収入源創出にかかわる C/P の知識習得のために実施。自立発展のモデル集落と呼ばれるサリナス集落を訪問し、担当者からのレクチャーを受けるとともに、工場を視察。	集落企業の技術者	2014.2.13	1日間	20名	PMSK 技術者・普及員、世銀プロジェクト技術者、MAGAP 技術者

表 3： 集落別の生計向上分野の進捗状況

	集落	参加者数	農牧生産							
			生産基盤の整備	栽培技術の改善			作物の多様化	種子銀行運営	小家畜の飼育	研修
			a. テラス造成 b. 浸透溝造成 c. 排水溝造成 d. 貯水池の造成 e. 貯水池補修調査・計画中	a. 優良種子の導入 b. 自家採種	c. 等高線栽培 d 輪作の導入	e 有機肥料の導入 f. ミミズ堆肥 g. ボカシ	導入作物 a. ジャガイモ b. ソラマメ c. オオムギ d. コムギ e. チョチョマメ f. エンドウ g. キヌア h. トウモロコシ i. 牧草 j. 葉采 k. レンズマメ	a. ジャガイモ b. ソラマメ c. オオムギ d. チョチョマメ	a. クイ飼育の改善 b. 鶏飼育の改善	a. 土壌化学分析用試料採取方法 b. 栽培管理（ジャガイモ、ソラマメ、オオムギ、コムギ、チョコマメ、エンドウ、トウモロコシ） c. セミナー
1	La Pacifica	25	b), c), d)	◎	◎		a), b), c), d), e), i), k)	◎	a)	◎
2	La Merced (Tixán)	21	d), e)	◎	◎	f)	a), b), c), e), i)	◎	a), b)	◎
3	Pueblo Viejo	31	f)	◎	◎	e)	a), b), c), h), i)	a), d)	a)	◎
4	Pachagsi	27	f)	◎	◎	g)	a), c), d), e), f), i)	a), c), d),	a)	b)
5	Atapo Santa Cruz	17		◎	◎		a), b), c), f)	a), d)	a)	◎

6	Sarachupa	22		⊙	⊙	⊙	c), d), e), f), h), i), j)	d)	a)	⊙
7	San Pablo de Tipín	22		⊙	⊙		c), d), e), f), i)	c) d)	a), b)	⊙
8	San Francisco de Bishud	18		⊙	⊙		a), c), d), e), f), i)	c), d)	a)	⊙
9	Chismaute Alto	36		⊙	⊙	f)	a), b), c), i)	a), c)	a), b)	⊙
10	San Lorenzo de Telan	27		⊙	⊙	f)	a), b), c), i), f)	a)	a), b)	⊙
11	Jatunpamba	38		⊙	⊙	e), f)	a), b), c), i)	a), f)	a), b)	⊙
12	Sancahuan Tiocajas	15		a)			c), d), e), f), i)			b)
13	San Vicente de Tipín	25		a)			a), b), c), d), e), i)		a), b)	b)
14	Achullay	21		a)			a), b), c)		a)	b)
15	San Martin Alto	22		⊙	⊙		a), b), c), g), i)	a)	a)	⊙
16	La Merced (Columbe)	44		⊙	⊙		a), b), c), i)	a)	a)	⊙
17	Columbe lote 1 y 2	50		⊙	⊙		a), b), c), g), i)	a)	a)	⊙
18	Columbe lote 3 y 4	32		⊙	⊙		a), b), c), g), i)	a)	a)	⊙
19	Cashapamba	19		⊙	⊙		a), b), c), g), i)	a)	a), b)	⊙
20	San Bernardo	41	a), d)	⊙	⊙		a), b), c), g), h), i)	a)	a), b)	⊙

21	Huacona Grande	27	a), b), c), d)	◎	◎		a), b), c), i)	a)	a)	◎
22	Canal Huacona	7		◎	◎	e)	a), b), c)	a)	a)	◎
23	El Lirio	26		◎	◎	e)	a), b), c), i)	a)	a), b)	◎
24	Rumiloma	14		◎	◎	e)	a), b), c), i), j)	a)	a), b)	◎
25	San Guisel Alto	27		◎			a), b), c), i)			
26	Balda Lupaxi	30		◎		f)	a), b), c), i)		a)	
27	Llin Llin	37		◎						
28	Rumicruz	21	d)	◎	◎	e)	a), b), c), i)	a)	a), b)	◎
29	San Miguel de Quera	14		◎	◎		a), b), c), i)	a), d)	a)	◎
30	Shilpala	20		◎			b), c), d), e), i)		a)	b)

【凡例】 ◎：項目のすべてを実施済みまたは実施中 a、b、c～の記号：当該項目を実施済みまたは実施中

	集落	参加者数	農産物流通/収入源創出				
			販路拡大	付加価値化	新規収入源創出	研修	共同基金
			a. 直売市 b. 注文販売 c. 店舗、組織への販売	a. 選別 b. 重量管理 c. 共同出荷 d. 保管方法改善・パッケージ改良 e. クイ・鶏加工	a. チョチョマメの加工 b. 肥料生産 c. オオムギ加工 d. チーズ販売 e. クイ、鶏加工販売 f. オオムギパン g. ジャガイモ袋入り h. 鶏卵	a. 基礎簿記 b. 共同基金 c. 小動物加工 d. 収穫後処理 e. 販路拡大 f. 新規収入源創出研修	a. 共同基金管理
1	La Pacifica	25		a), b), c), d)		a), b), d)	◎

2	La Merced (Tixán)	21	c)	a), b), c), d)		a), b), d)	⊙
3	Pueblo Viejo	31	⊙	⊙	d), e)	⊙	⊙
4	Pachagsi	27	a)	a), b), c), d),		a), b)	⊙
5	Atapo Santa Cruz	17	a), c)	a), b), c), d)		a), b), c), d), e)	⊙
6	Sarachupa	22	⊙	⊙	a), e), f)	⊙	⊙
7	San Pablo de Tipín	22	⊙	⊙	a), e)	⊙	⊙
8	San Francisco de Bishud	18	a), c)	⊙	a)	⊙	⊙
9	Chismaute Alto	36	c)	a), b), c), d)		a), b), d), e)	⊙
10	San Lorenzo de Telan	27	⊙	⊙	e)	⊙	⊙
11	Jatunpamba	38	b)	⊙	e), g)	a), b), c), d), e)	⊙
12	Sancahuan Tiocajas	15					
13	San Vicente de Tipín	25	a)			a), b)	⊙
14	Achullay	21	a)			⊙	⊙
15	San Martin Alto	22	a)	a), b), c), d)		a), b), d), e)	⊙
16	La Merced (Columbe)	44				a), b), d), e)	⊙
17	Columbe lote 1 y 2	50	⊙	a), b), c), d)	e)	a), b), c), d), e)	⊙
18	Columbe lote 3 y 4	32	⊙	a), b), c), d)	e)	a), b), c), d), e)	⊙
19	Cashapamba	19	⊙	⊙	e)	⊙	⊙
20	San Bernardo	41	⊙	⊙	e)	⊙	⊙
21	Huacona Grande	27	c)	⊙	d), e)	⊙	⊙
22	Canal Huacona	7	c)	a), b), c), d)	e)	a), b), d), e)	⊙
23	El Lirio	26	⊙	⊙	e), h)	⊙	⊙
24	Rumiloma	14	⊙	⊙	d), e), f)	⊙	⊙
25	San Guisel Alto	27				a), b)	⊙
26	Balda Lupaxi	30	a)	a), b)		⊙	⊙
27	Llin Llin	37					
28	Rumicruz	21	⊙	⊙	b), e)	⊙	⊙

29	San Miguel de Quera	14	◎	a), b), c), d)		a), b), d), e)	◎
30	Shilpala	20					

【凡例】 ◎：項目のすべてを実施済みまたは実施中

a、b、c～の記号：当該項目を実施済みまたは実施中

生計向上分野の農業生産の領域で、プロジェクトは、種子選別の指導を行ってきた。例えば、ジャガイモの場合、従来、農民は、収穫物より、まず市場で販売できる形の良いものを選び、次に自家消費用を選び、残ったなかから種子用のジャガイモを選んできた。しかし、プロジェクトによって、初めに形の良い手ごろな大きさのものを種子用に選別し、次に販売可能な形の良いものを選び、残りを自家消費用にすることが指導された。これにより、ジャガイモの収穫が改善されたと多くの農民が感じている。

図 1 は、ジャガイモの種子別の単収予測である。前年の収穫物のなかから翌年の種イモを選び出して繰り返して使用していく方法だと、年々単収が減っていくのは避けられないことである。しかし、選別の仕方次第で単収の減り具合が異なってくる。種イモを最後に取り分けるこれまでのやり方より、プロジェクトが推奨している種イモを最初に取り分ける方法の方が、単収の逡減が緩やかになると予測されている（奨励品種を毎年その都度購入して使っていた場合は、INIAP によれば毎年前年より単収が多い品種が開発されているということなので、単収は上昇していくと予想されている）。

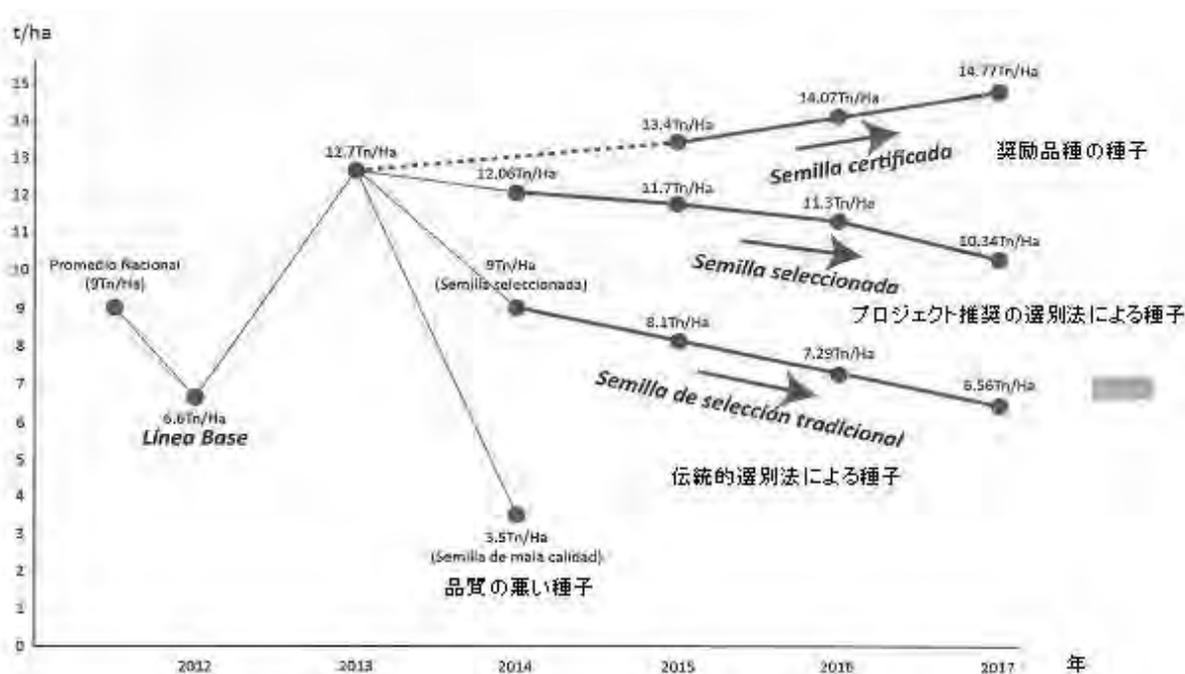


図 1：ジャガイモ使用種子別単収予測

プロジェクトは、農家が使用している種子の品質を向上させるために、ジャガイモ、オオムギ、コムギ、チョコマメの種子を増殖して配付することを計画・実行している。表 4 は、その途中経過を示している。収穫が終わったのは 1 集落のジャガイモと 2 集落のオオ

ムギである。収穫物からどれだけの量を種子に使用するかに関するデータがあるのは 1 集落のジャガイモのみである。

表 4：種子増殖計画

作物	集落	播種日	品種	面積 (ha)	種子量 (qq)	収穫日	収穫(qq)		
							合計	種子	消費
ジャガイモ	Jatunpampa	2013/11/8	Fripapa	0.7	25				
	Rumicruz	2013/10/23	Fripapa	0.7	25	2014/5/12	76	30	46
オオムギ	S.P. de Tipín	2014/2/26	Pacho	1.0	3	2014/8/22			
	Pachagsi	2014/3/7	INIAP Palmira 2014	1.0	3	2014/8/8	18		
コムギ	S.F. Bishud	2014/2/26	Cojitambo	1.0	3				
チョコマメ	S.F. Bishud	2014/3/5	INIAP 450 Andino	0.2	1				
	Rumicruz	2014/3/28	INIAP 450 Andino	2.0	1				

プロジェクトは、優良種子による生産性の向上とともに、作物の多角化にも取り組んでいる。農民の要望を聞きつつ、各集落の自然条件を考慮してどんな作物を導入するかを決めてきた。表 5 は、プロジェクトがどの集落にどんな作物の優良種子を導入してきたかを示している。ジャガイモ、オオムギ、コムギ、メイズなど従来から栽培されていたが、プロジェクトによって優良種子が導入されたものと、チョコマメ、レンズマメ、野菜などのように、従来あまり生産されてこなかったが、プロジェクトによって栽培が広まったものがある。

表 5：プロジェクトによる作物導入

郡	集落	標高 (m)	参加者 (人)	ジャガイモ	ソラマメ	オオムギ	エンドウマメ	メイズ	キヌア	チョコマメ
Alausí	La Pacífica	3,312m	21	○	○	○				○
	La Merced (Tixán)	3,472m	20	○	○	○				○
	Pueblo Viejo	2,742m	31	○	○	○		○		
	Pachagsi	3,157m	21	○		○				○
Guamote	Atapo Santa Cruz	3,329m	17	○	○	○	○			

	Sarachupa	3,329m	21			○				○
	San Francisco de Bishud	3,319m	20			○				○
	San Pablo de Tipín	3,237m	22			○				○
	Chismaute Alto	3,619m	35	○	○	○				
	San Lorenzo de Telan	3,478m	30	○	○	○				
	JatumPampa	3,750m	36	○	○	○				
	Santa Teresita	3,284m	25			○				○
	Sancahuan Tiocajas	3.284m	15			○				○
	San Vicente de Tipín	3.574m	25	○		○				○
	Achullay	3.545m	25	○	○	○	○			
Colta	San Martín Alto	3,383m	20		○	○				○
	La Merced (Columbe)	3,184m	38	○	○	○				○
	Columbe lote 1 y 2	3,404m	50	○	○	○				○
	Columbe lote 3 y 4	3,460m	30	○	○	○				○
	Cashapamba	3,292m	22	○	○	○				○
	San Bernardo	3,267m	41	○	○	○				○
	Canal Guacona(Huacona)	3,340m	7	○	○	○				
	El Lirio	3,480m	27	○	○	○				
	Rumiloma	3,550m	14	○	○	○				
	San Guisel Alto	3,700m	12	○	○	○	○			
	Balda Lupaxi	3,157m	30	○	○	○		○		
Unidad Educativa Llin Llin	3,237m	5	○	○	○	○	○			
Riobamba	Guacona(Huacona) Grande	3,477m	27	○	○	○				
	Rumicruz	3,271m	22	○	○	○				
	San Miguel de Quera	3,494m	13	○	○	○				
	Shipalá	3,330m	20		○	○				
	实施集落数			24	24	31	4	3	6	9

郡	集落	標高 (m)	参加 者 (人)	コム ギ	レン ズマ メ	エン バク	カラ スノ エン ドウ	アル ファ ルフ ア	野菜	導入 数
Alausí	La Pacífica	3,312m	21	○	○	○	○	○		9
	La Merced (Tixán)	3,472m	20			○	○	○		7
	Pueblo Viejo	2,742m	31	○		○	○	○		8
	Pachagsi	3,157m	21	○	○	○	○	○		8
Guamote	Atapo Santa Cruz	3,329m	17			○	○	○		7
	Sarachupa	3,329m	21	○	○	○	○	○		7
	San Francisco de Bishud	3,319m	20	○	○	○	○	○		7
	San Pablo de Tipín	3,237m	22	○	○	○	○	○		7
	Chismaute Alto	3,619m	35			○	○	○		6
	San Lorenzo de Telan	3,478m	30			○	○	○		6
	JatumPampa	3,750m	36			○	○	○		6
	Santa Teresita	3,284m	25	○	○	○	○	○		7
	Sancahuan Tiocajas	3,284m	15	○	○	○	○	○		7
	San Vicente de Tipín	3,574m	25	○	○	○	○	○		8
	Achullay	3,545m	25			○	○	○	○	8
Colta	San Martín Alto	3,383m	20			○	○	○		6
	La Merced (Columbe)	3,184m	38			○	○	○		7
	Columbe lote 1 y 2	3,404m	50			○	○	○	○	8
	Columbe lote 3 y 4	3,460m	30			○	○	○	○	8
	Cashapamba	3,292m	22			○	○	○	○	8
	San Bernardo	3,267m	41			○	○	○	○	8
	Canal Guacona(Huacona)	3,340m	7			○	○	○		6
	El Lirio	3,480m	27			○	○	○		6
	Rumiloma	3,550m	14			○	○	○		6
	San Guisel Alto	3,700m	12			○	○	○	○	8
	Balda Lupaxi	3,157m	30			○	○	○		7
	Unidad Educativa Llin Llin	3,237m	5			○	○	○		8
Riobamba	Guacona(Huacona) Grande	3,477m	27			○	○	○		6
	Rumicruz	3,271m	22			○	○	○	○	7
	San Miguel de Quera	3,494m	13			○	○	○		6
	Shipalá	3,330m	20	○		○	○	○		6
	実施集落数			10	8	31	31	31	7	219

プロジェクトは、農機具の改良も行ってきた（写真 1）。新たな作付期を迎えた時期、畜牛や耕運機によって耕起した後、畝作りのために溝を掘るのに、以前は鍬で少しずつ圃場の土を掻き上げていくのが普通であったが、大型の鋤の四角形の刃先を三角形に切ることによって、一度に長い溝を掘れるようにした。改良された鋤は、参加集落に配付されている。



改良前の鋤

改良後

使用方法

写真 1：改良された鋤

また、プロジェクトは、収穫後の穀物を保存するためのトタン製のサイロも開発し、参加集落に配付した。高さ約 1.7m、幅約 1.2m あり、それが入る幅がある入口をもつ建物がある集落では小屋の中に置き、そのような建物がない集落では戸外に設置している。各集落では共同圃場から収穫された穀物の保存にこのサイロが使用されている。

対象集落の多くは灌漑施設がなく、天水に依存した作物栽培しかできない状況にあったため、プロジェクトは、雨水を雨どいでタンクに集めるウォーターハーベストを行い、その水を共同圃場での作物栽培に使用することを指導してきた。また、5 集落では、灌漑用の貯水池を建設してきた（表 6）。

表 6：建設された貯水池

集落	規模	容量 (m ³)	個数	合計容量 (m ³)
San Bernardo	4m×14m×2.5m	140	1	140
Huacón Grande	4m×8m×2.5m	80	1	80
La Merced de Tixán	6m×9m×2m	108	4	432
Rumicruz	28m×20.5m×4m	2,296	1	2,296
Cashapamba	4m×8m×2m	64	8	512
合計	—	—	15	3,460

優良種子を配付し、傾斜地での等高線栽培、圃場上部での浸透溝掘削、施肥の指導、病虫害防除法などの改良農法を指導した結果、また、一部の場所ではウォーターハーベストや貯水地による灌漑農業をもたらした結果、対象集落の作物栽培の単収が以前より増加している。

単収に関して、プロジェクトの農業生産ユニットから2種類のデータを入手した。1つは複数の作物の単収の変化に関するもので、もう1つはジャガイモの単収に関するものである。両者の間でベースライン時の数値やその後の単収に関して数値の違いがあるが、全般的傾向を示すものであるため、両者ともに紹介する。

表7は、プロジェクト対象集落での主要作物の栽培面積と単収を示すものである。ジャガイモの場合、単収の伸びが特に顕著で、ベースライン時の3.27t/haから2014年後半では8.45t/haとなり2倍半近く増えている。チョコマメとソラマメの場合、エクアドル平均より低いが、それでもチョコマメはベースライン調査結果の0.56t/haから2014年前半には0.65t/haに、ソラマメは1.37t/haから2013年には1.51t/haに増えている。コムギとキヌアの場合、エクアドル全国平均よりも高い数値を記録し、コムギはベースライン調査の0.88t/haから2013年の0.97t/haに増えている。オオムギの場合、ベースライン調査でエクアドル平均を大きく上回る数値(1.05t/ha)が記録されており、その数値と比較すると下回ることになるが、2012年の0.22t/haより2014年の0.24t/haを比較すると増えている。総じて、プロジェクト活動によって対象集落での作物栽培の単収が増えてきているといえる。

表7：対象集落での作物栽培の面積と単収の変化

	ジャガイモ	チョコマメ	オオムギ	コムギ	ソラマメ	レンズマメ	キヌア
栽培面積 (ha)							
2013年	50.25	35.10	59.12	17.65	32.75	-	12.88
2014年前半	39.47	42.85	28.25	9.80	10.76	9.53	-
2014年後半	33.00	31.30	28.50	-	-	-	-
単収 (t/ha)							
エクアドル平均	9.00	3.88	0.61	0.86	2.15	0.16	0.80
ベースライン調査	3.27	0.56	1.05	0.88	1.37	-	1.16
2012年	6.60	0.59	0.22	0.92	1.44	0.13	1.22
2013年	12.70	0.62	0.23	0.97	1.51	0.13	1.28
2014年前半	4.62	0.65	0.24	-	-	-	-
2014年後半	8.45	-	-	-	-	-	-

表 8 は、ジャガイモに関して、ベースライン調査結果と、共同圃場での単収と個人圃場での単収とを比較したものである。この表によれば、ベースライン調査でのジャガイモの平均単収は 10t/ha だったが、共同圃場では 21t/ha を、個人圃場では 15t/ha を記録している。一般的傾向として、ESDRUC の共同圃場で優良種子を用いた改良農法の指導では大きな単収の向上がみられる。それを模倣して行う個人圃場での実践では、共同圃場の単収より低い、プロジェクト以前のベースライン調査段階から比べると、以前より高い単収が記録されている。

表 8：ジャガイモ単収の比較

集落	ベースライン調査			2012～13 共同圃場			2012～13 個人圃場		
	t/ha	kg	qq	t/ha	kg	qq	t/ha	kg	qq
La Pacífica	4	4,299	96	16	16,013	356	10	10,142	225
La Merced (Tixán)	7	6,703	149	16	16,380	364	8	8,114	180
Pueblo Viejo	12	12,295	273	2	1,575	35	9	8,830	196
Atapo Santa Cruz	7	7,332	163	13	12,600	280			
Chismaute Alto	11	10,501	233	19	18,900	420	16	15,690	349
San Lorenzo de Tolan	7	7,101	158	27	26,775	595	13	13,244	294
JatumPampa	14	14,114	314	27	26,775	595			
San Martín Alto	8	7,674	171	14	14,175	315	11	11,025	245
La Merced (Columbe)	14	14,206	316	10	10,238	228	4	4,295	95
Columbe lote 1 y 2	11	10,948	243	17	17,010	378	20	20,412	454
Columbe lote 3 y 4	3	2,704	60	34	33,705	749	24	24,375	542
Cashapamba	11	11,277	251	30	29,925	665	27	27,011	600
San Bernardo	10	9,502	211	31	30,555	679	23	22,932	510
Guacona(Huacona) Grande	5	5,091	113	21	20,790	462	12	11,711	260
Canal Guacona(Huacona)	3	3,142	70	14	14,175	315	12	11,761	261
El Lirio	19	19,447	432	32	31,500	700			
Rumiloma	7	7,382	164	35	34,650	770	13	13,381	297
Rumieruz	7	7,092	158	13	12,600	280	15	15,399	342
San Miguel de Quera	20	19,710	438	35	34,650	770	23	22,793	507
平均	10	9,501	211	21	21,210	471	15	12,690	315

現地調査のインタビューで確認できた範囲では、研修を受けた参加者は、生計向上分野の農業生産に関係する栽培技術の改善及び作物の多角化に関連した活動を自分の圃場でも

実践しているとのことであった。表 9 は、農業生産関係の研修を受けた農家のうちどれくらいの割合が研修内容を実行しているかを、具体例を挙げて答えてもらったものである。ここで挙げられた内容は、圃場を観察しても、見た目では実践率を知ることができないものである。事例数が少ないが、表に挙げられている 5 つの訓練のうち 4 つの訓練で半分以上の農民が研修内容を実践している。

表 9：農業生産関係の訓練と受講後の訓練内容の実践率

実施時期	訓練	集落	参加者	内容	実践率
2014年2月	オオムギ栽培総合管理	San Pablo de Tipín	男性 16 名、 女性 8 名	さび病管理、施肥法	40%
2014年3月	ジャガイモ栽培総合管理	Chismaute Alto	男性 24 名、 女性 12 名	病虫害識別、必要時の殺虫剤の適切な使用	60%
2014年4月	殺虫剤の適切な取扱い	Sancahuan Tiocajas	男性 5 名、 女性 9 名	防除服、帽子、マスク、手袋、靴の使用など	50%
2014年5月	チョコマメ栽培総合管理	Pachagsi	男性 1 名、 女性 26 名	病虫害識別	80%
2014年6月	有機肥料作り	San Martín Alto	男性 11 名、 女性 9 名	集落内有機資源の有効活用、有機肥料の質の改善	50%

収入源創出/流通の領域では、優良種子を使って栽培された作物の販売、品種改良されたクイや鶏の飼育・加工・販売、鶏卵やチョコマメの販売などが指導された。

表 10 は、プロジェクトが導入した優良種子を使って栽培された主要作物の総売り上げの推定額を示している。ジャガイモは半分が自家消費に回され、30%が販売される。\$10/qq なので総売上げは\$74,250 になったと推定される。チョコマメとキヌアは 80%が販売され、それぞれの売上げは\$84,300 と\$17,300 だったと推測されている。オオムギとコムギは自家消費の割合が高い作物で、それぞれ販売に 15%と 5%が向けられ、\$1,320 と\$325 の売上げがあったと推定されている。なお、チョコマメは、煮豆の加工をしている種子生産組合 (CORPOPURUWA) に販売されたり、チョコマメパンの原料に使われたりしているので、この表の計算はあくまで推定上のものである。

コストが明らかになっていないので正確な収支は不明であるが、農民はプロジェクトの指導で以前より収益が増えたと感じている。また、作物の販売は、農家ごとに個人的レベルで行われている。農業生産の収支計算を取り入れた農家経営指導、市場の価格の動きをみた出荷や、共同出荷の可能性の検討などの課題が残されている。

表 10：主要作物の推定総売上げ (2013～2014 年)

	栽培実施 集落数	面積 (ha)	生産量 (qq)	自家消費		種子		販売		単価(\$)	売上(\$)
				%	qq	%	qq	%	qq		
ジャガイモ	24	125	24,750	50	12,875	15	3,713	30	7,425	10	74,250

チョコマメ	10	77.25	1,054	10	105	5	53	80	843	100	84,300
オオムギ	31	87.3	442	60	265	20	88	15	66	20	1,320
コムギ	12	27.4	265	70	185	20	53	5	13	25	325
キヌア	5	24	216	10	22	5	11	80	173	100	17,300

注：各作物とも損失分は5%。

表 11 は、プロジェクトが飼育を指導した小動物の販売の総売上げの推定額を示している。プロジェクトが改良種のクイ 1,400 匹を 28 集落に配付し、飼育法や衛生管理の技術指導を行ってきた。農民が飼育小屋を用意し飼料草（アルファルファなど）を自分達で給餌してきた。7%が死亡し、3,809 匹まで繁殖した。20%を自家消費し、60%を次の繁殖用に残し、13%の 510 匹を\$7/匹で販売し\$3,570 の総売上げがあったと推定されている。鶏は肥育用も卵用も、農民自身が購入し、自分たちで建てた鶏舎で飼育している。プロジェクトは飼育法や衛生管理の技術指導を行うとともに、配合飼料を提供している。3 集落の農民が計 3,812 羽の雛を購入し、成鶏に育てた。10%が死亡し、10%を自家消費し、80%の 3,050 羽を\$6.85/羽で販売し\$20,892.5 の売上げを上げたと推定されている。13 集落で産卵用に 2,828 羽の雛の飼育が始められたが、まだ 11 集落は卵が産めるまでの成鶏に育っていない。2 集落で産卵できるまでに鶏が育ち、6,923 個の卵が生産され、40%が自家消費され、60%の 4,942 個が\$0.25/卵で販売され\$1,235.5 の売上げがあったと推定されている。

表 11：小動物の推定総売上げ（2014 年）

	集落数	数	生産量	自家消費		繁養用		販売		単価(\$)	売上(\$)
				%	数	%	数	%	数		
クイ	28	1,400 匹	3,809 匹	20	762 羽	60	2,286 匹	13	510 匹	7.00	3,570.0
肥育鶏	3	3,812 羽	3,812 羽	10	382 羽	—	—	80	3,050 羽	6.85	20,892.5
産卵用鶏	2	約 435 羽	卵 6,923 個	40	1,981 個	—	—	60	4,942 個	0.25	1,235.5

注 1：クイの死亡率は 7%で、肥育鶏の死亡率は 10%。

注 2：現在鶏卵を出荷している 2 集落で飼育されている産卵用鶏の正確な羽数は不明。

Sarachupa 集落では 24 名が参加して、(小麦粉とチョコマメ粉を混ぜた) チョコマメパンの製造を行っている。プロジェクトで製造所を建設し、パン焼き釜や調理用品を供与し、パン作りと販売の技術指導を行ってきた。表 12 はチョコマメパンの収支を示している。9 カ月間で\$1,404 の収益が上がっている。しかし、これは初期投資（製造所、パン焼き釜、調理用品、技術指導料）を含まない粗収益である。将来の持続性を担保するために、自立的経営が確立できるように、維持管理の重要性や初期投資の減価償却の考え方を指導することが求められている。

表 12 : チョチョマメパンの収支

月に約 4,800 個製造販売	684 袋 (7 個入り)
単価	\$1.0/袋
9 カ月の売上げ	\$6,156
9 カ月のコスト (製造、輸送など)	\$4,752
粗収益	\$1,404

また、FAO のアンデス作物種子生産プロジェクトで育成され、INIAP の指導で設立された種子生産組合が、プロジェクトが指導して生産されたチョコチョマメの買取りを行っている。同組合は、グアモテ郡の農民組織であるが、オオムギ、キヌア、チョコチョマメの優良品種の生産販売を行うとともに、チョコチョマメの煮豆を世界食糧計画 (WFP) の学校給食プログラムに収めている。表 13 は、同組合のチョコチョマメの煮豆の製造コスト、売上、収益を示している。原料の乾燥チョコチョマメの代金が、農民に支払われている金額である。

表 13 : チョチョマメ煮豆製造のコスト、売上、収益(\$)

(1)製造コスト				
	内訳	数量	単価	月間費用
原料	乾燥チョコチョマメ	7 qq	160,00	1,120.00
労働	選別、調理、包装	10 人	35,00	350.00
	5 日間のアク抜き	2 人	50,00	100.00
	輸送	2 人	10,00	20.00
材料	袋	7 セット	3,00	21.00
	ラベル	1 セット	80,00	80.00
	調味料	10 鍋	2,00	20.00
一般経費	輸送	1 軽トラック		50.00
	水、電気	基本サービス		10.00
	会計	1 会計士	20,00	20.00
煮豆買取業者	コミッション	673 袋	0,10	67.30
合計				1,858.30

(2)売上			
品目	数量	単価	月間売上
チョコマメ煮豆 (約 900 グラム入り袋)	673	4	2,692.00
(3)収益			
項目	月間	2014 年 5～8 月 (4 カ月間)	
売上	2,692	10,768	
経費	1,858.30	7,433.20	
収益	833.70	3,334.80	

また、プロジェクトは、キヌア栽培が盛んなコルタ郡 San Martiñ Alto 集落に 2014 年製粉機材一式を供与している。現在、納入された洗浄機に不具合があったため、まだ稼動していないが、近い将来農民たち自身で製粉工場を運営していくことになっている。今までは、殻付きのキヌア（農作物）を製粉工場に販売してきたが、将来は農民が自分たちで製粉し、付加価値をつけた製品（キヌア粉、加工したクッキーやパスタなど）を販売していくことになる見込みである。

アラウシ郡 Pueblo Viejo 集落のように、使われなくなった製粉施設をもつ集落が幾つかあり、プロジェクトでは、それらを修理して稼動させることができないかを検討中である。製粉施設が使えるようになれば、配合飼料を自ら生産し、自分達の集落で使うだけでなく、販売もしていけるようになると考えている。

これらの収入源創出活動による収益を貯めておき、将来の事業の拡大に活用する目的で、共同金が 20 集落で設立された。共同基金は、主に所得創出活動の収入を貯めたものであるが、生産物の売上の積立に加えて、基金のメンバーが少額の積立も行っている場合もある。また、実際に活動を進めていくなかで、使用目的も単一ではなくなり、事業資金が 52%、共同利用を目的とした農機具や農業投入物などの購入が 35%、メンバーへの貸付が 13%と分化してきている。表 14 は共同基金の事例を紹介したものである。

表 14：共同基金の事例

活動	集落	参加者 (人)	共同基金活動
チョコマメパン製造販売	SARACHUPA	22	プロジェクトが、パン焼き釜やパン製造所建設などの初期費用と、パン製造販売を技術指導。グアモテ及びリオパンバの市場において \$ 1/袋(7 個入)で販売。2014 年 2 月から 8 月の純収益約 \$ 800 を共同基金として積み立てる。
鶏肉販売	CASHAPAMBA	20	プロジェクトが飼育・衛生を指導し、飼料等提供。農民自身が鶏を購入し鶏舎を用意。2014 年 6 月に肥育した鶏を販売。純収益 \$2,500 を共同基金に積み立てる。

ジャガイモ販売	JATUN PAMBA	36	プロジェクトが技術指導し、収穫されたジャガイモの約30%を2014年7月に販売。純収益\$720を共同基金に積み立てる。
クイとジャガイモの販売	RUMILOMA	14	プロジェクトが改良種を提供し飼育・衛生を指導し、農民が飼料を供給し育ったクイの一部を2014年7月に販売。同時に行ったジャガイモ販売の純収益と合わせ、\$700を共同基金に積み立てる。

表15は、収入源創出/流通関係の研修を受けた農民のうちどれくらいの割合が研修内容を実行しているかを、具体例を挙げて答えてもらったものである。事例数が少ないが、表で挙げられたすべての訓練で50%以上の農民が研修内容を実践している。

表15：収入源創出/流通関係の訓練と受講後の訓練内容の実践率

実施時期	訓練	集落	参加者	内容	実践率
2014年4月	基礎会計	MERCED DE TIXAN	男性10人、 女性8人	知識向上、記録した会計管理	50%
2014年4月	基礎会計	ACHULLAY	男性7人、 女性13人	会計記録と生産物販売	60%
2014年4月	基礎会計	RUMI CRUZ	男性4人、 女性13人	知識向上、会計記録	60%
2014年5月	基礎会計	COLUMBE 1 Y 2	男性2人、 女性17人	知識向上、会計記録	70%
2014年5月	共同基金	JATUN PAMBA	男性4人、 女性21人	共同基金設立、内部規則、執行部	60%
2014年5月	共同基金	SAN LORENZO DE TELAN	男性14人、 女性9人	共同基金設立、内部規則、執行部	60%
2014年5月	共同基金	SAN GUISEL ALTO	男性13人、 女性8人	共同基金設立、内部規則、執行部	70%
2014年6月	流通・ 付加価値	SARACHUPA	男性3人、 女性17人	包装・ラベルによる販売改善	80%
2014年6月	流通・ 付加価値	SANCAHUAN TIO CAJAS	男性5人、 女性9人	包装・ラベルによる販売改善	70%
2014年6月	流通・ 付加価値	PACHAGSI	男性1人、 女性26人	包装・ラベルによる販売改善	80%

10. アウトプット2に関連した活動の詳細

添付資料 10

アウトプット2に関連した活動の詳細

表1は、生活環境改善に関して行われた研修実績である。

表2は、2013年10月から2014年7月までの期間に、各集落で生活環境改善に関してどのような活動が実施されてきたか、また、参加型開発に関してどのような研修が実施されてきたかを表したものである。

生活環境改善分野の環境の領域に関しては、環境省と協力して、水土保持（植林と土壌保全）と環境教育（パラモ保全、アグロフォレストリー指導、廃棄物処理指導）などが、保健の領域に関しては、保健省と協力して、予防保健と栄養改善などが、教育の領域に関しては、教育省と協力して学校菜園指導が行われた。今後、日本の経験を生かした生活改善活動の普及も行われていくことになっている。

表 1：生活環境改善分野のスタッフ向け研修実績

年度	コース名	研修内容	講師	開催日	期間	参加人数	対象者
2012	植林・アグロフォレストリー技術研修	ルミクルス集落において、普及員・対象農民代表に対し植林・アグロフォレストリーの基本技術を説明後、共同圃場における代表的な在来樹種を使つての植林実習。今後、同分野の活動を強化する目的で実施。	県環境管理部技術者、当プロジェクト技術者、環境省職員、FAO 職員	2012.10.18	1 日間	33 名	プロジェクト普及員、対象集落住民
2012	県政府、環境省、農牧漁業省と合同環境保全セミナー	環境関係機関の技術者、農民代表、大学生を対象に、環境保全活動の現状と今後の展望について情報共有、意見交換を行い、環境保全事業の強化を図る目的で実施。	県環境管理部長、環境省職員、農牧漁業省職員、廣住清専門家	2013.2.7	1 日間	42 名	プロジェクト普及員、県政府環境管理部・環境省・農牧漁業省、農民代表、チンボラソ工科大学学生
2013	県政府環境管理部との土壌保全技術研修	傾斜地農業における自然にやさしいモデル農場の形成に向け、土壌保全技術（等高線栽培方法等）の実習をウァコーナ・グランデ集落の共同圃で実施。同研修には、同集落農民の他、一部他の対象集落の代表農民も参加。	県環境管理部長、環境省職員、当プロジェクト技術者	2013.5.3	1 日間	35 名	プロジェクト普及員 県政府環境管理部職員、環境省職員、対象集落農民
2013	環境省との環境保全型農業・植林研修	傾斜地農業における自然にやさしいモデル農場の形成に向け環境保全農業・植林管理に関する研修をウァコーナ・グランデ集落の共同圃で実施。	県環境管理部技術者、当プロジェクト技術者、環境省職員	2013.12.13	1 日間	24 名	プロジェクト普及員 県政府環境管理部職員、環境省職員、対象集落農民
2013 2014	職員対象の参加型農村開発手法「自然資源のコミュニティ管理」ワークショップ	制作教材「自然資源のコミュニティ管理」を活用し、自然資源管理の重要性、森林管理、水土保全、3R、自然にやさしい農法、参加型資源管理、診断、参加型計画手法等技術の研修	参加型開発ユニット、栗原敏昭専門家	2014.1.16～ （継続的に随時各機関にて開催）	1 日間	62 名	DPA 支援ユニット員、プロジェクト普及員、県政府社会管理部門員、農牧漁業省、環境省職員
2013 2014	職員対象の参加型農村開発手法「自然資源のコミュニティ管理」ワークショップ	制作教材「自然資源のコミュニティ管理」を活用し、自然資源管理の重要性、森林管理、水土保全、3R、自然にやさしい農法、参加型資源管理、診断、参加型計画手法等技術の研修	県政府（プロジェクト及び関係部署）・農牧漁業省・環境省普及員	2014.3.25～ （継続的に随時各集落にて開催）	1 日間	計 1,117 名	農家等集落住民（対象地域外も含む）、チンボラソ大学資源管理課学生等

表 2：集落別の生活環境改善分野と参加型開発分野の進捗状況

	集落	生活環境の改善				実施基盤の整備				
		環境		保健		教育		参加型開発		
		水土保全	環境教育	予防保健	栄養改善	識字教育	学校菜園	組織化	参加型開発 研修	参加型管理
		a. 植林研修 b. 植林実施 c. 植林用苗床 設置 d. 取水装置設 置	a. 環境保全 研修(パラモ の保全、アグ ロフォレス トリー) b. 廃棄物処 理研修(分 別、3R)	a. 予防保健の 研修実施 主要内容： ・予防保健基 礎 ・清潔改善、 手洗い ・食品の衛生 管理 ・生活習慣病 予防	a. 栄養改善 の研修実施 主要内容： ・母子の栄養 改善 ・高齢者の栄 養改善	a. ポスト識 字教育	a. 学校菜 園の設置 と活動の 実施 主要導入 作物：プロ ッコリ、ニ ンジン、カ ブ、サトウ ダイコン、 キャベツ、 レタス、フ ダンソウ、 コリアン ダ	a. 農民組織 設立 b. 内規作成 c. 運営委員 会設立	制作教材を 活用した参 加型開発手 法による農 民への研修 実施 a. 組織化活 動 b. 複合農業 c. 自然資源 のコミュニ ティ管理 d. 参加型コ ミュニテ ィ・プロジ ェクト・マ ネジメント	a. 参加型診 断 b. 参加型評 価 c. ローカル 普及員の選 出
1	La Pacifica	a), b)	a)	◎	◎		◎	◎	a), b)	◎
2	La Merced (Tixán)	a), b)	a)	◎	◎		◎	◎	a), b), c)	◎
3	Pueblo Viejo	a), b)	a)	◎	◎		◎	◎	a), b)	◎
4	Pachagsi	a), b)	a)				◎	◎	a), b)	◎
5	Atapo Santa Cruz	a), b)	a)	◎	◎			◎	a), b)	◎
6	Sarachupa	a), b)	a)	◎	◎		◎	◎	a), b), c)	◎
7	San Pablo de Tipín	a), b)	a)	◎	◎			◎	a), b), c)	◎

8	San Francisco de Bishud	a), b)	a)	◎	◎			◎	a), b), c)	◎
9	Chismaute Alto	a), b)	a)	◎	◎			◎	a), b), c)	◎
10	San Lorenzo de Telan	a), b)	a)	◎	◎			◎	a), b)	◎
11	Jatunpamba	a), b)	a)	◎	◎			◎	a), b)	◎
12	Sancahuan Tiocajas		a)					◎	c)	
13	San Vicente de Tipín							◎	a), b), c)	
14	Achullay							◎	a), b), c)	
15	San Martin Alto	a), b)	a)	◎	◎			◎	a), b), c)	◎
16	La Merced (Columbe)	a), b)	a)	◎	◎		a)	◎	a), b)	◎
17	Columbe lote 1 y 2	a), b)	a)	◎	◎		◎	◎	a), b)	◎
18	Columbe lote 3 y 4	a), b)	a)	◎	◎		◎	◎	a), b), c)	◎
19	Cashapamba	a), b)	a)	◎	◎			◎	a), b), c)	◎
20	San Bernardo	a), b), d)	a)	◎	◎		◎	◎	a), b)	◎
21	Huacona Grande	a), b), d)	a)	◎	◎			◎	a)	◎
22	Canal Huacona	a), b)	a)	◎	◎			◎	a), b), c)	◎
23	El Lirio	a), b)	a)	◎	◎			◎	a), b), c)	◎
24	Rumiloma	a), b)	a)	◎	◎			◎	a), b), c)	◎
25	San Guisel Alto							◎	a), b), c)	
26	Balda Lupaxi	a), b)						◎	a), b), c)	
27	Llin Llin							◎	a), b)	
28	Rumicruz	a), b)	a)	◎	◎			◎	a), b)	◎
29	San Miguel de Quera	a), b)	a)	◎	◎			◎	a), b), c)	◎
30	Shilpala							◎	a), b), c)	

【凡例】 ◎：項目のすべてを実施済みまたは実施中 a、b、c～の記号：当該項目を実施済みまたは実施中

環境領域の活動として、ミニショベルカーを使って、浸透溝（3 集落 850m）、排水溝（5 集落 1,580m）、低速形成テラス（2 集落 21,600 m²）などの土壌保全工が行われてきた。

生態系の回復、圃場の防風、生垣などの目的で、12 万 5,491 本の在来種（Yagual、Tilo、Aliso、Lupino、jigueron）が 314ha に植林されてきた。

また 4 郡に 1 つずつ集落管理の苗畑（温室 264 m²及び日よけ付き苗床 200 m²）が建設された（表 3）。それぞれで、在来種の Yagual、Tilo、Aliso、Lupino の苗木を 1 万 2,500 本ずつ生産しており、近い将来 4 郡合計で 20 万本を 500ha に植林することが計画されている。

表 3：プロジェクトが建設した苗畑施設

郡	集落
Riobamba	Rumicruz
Colata	Columbe 1 y 2
Guamote	Chismaute Alto
Alausí	Pueblo Viejo

表 4 は、環境関係の研修を受けた農民のうちどれくらいの割合が研修内容を実行しているかを、具体例を挙げて答えてもらったものである。事例数が少ないが、表で挙げられたすべての訓練で 75%以上の農民が研修内容を実践している。

表 4：環境関係の訓練と受講後の訓練内容の実践率

実施時期	訓練	集落	参加者	内容	実行率
2014 年 6 月 11 日	苗畑管理技術	Pueblo viejo	男性 30 人、 女性 20 人	苗畑の管理技術、在来種生産の知識	85%
2014 年 6 月 12 日	苗畑管理技術	Columbe 1y2	男性 30 人、 女性 50 人	苗畑の管理技術、在来種生産の知識	90%
2014 年 6 月 17 日	苗畑管理技術	Rumí cruz	男性 25 人、 女性 20 人	苗畑の管理技術、在来種生産の知識	80%
2014 年 8 月 6 日	苗畑管理技術	San Lorenzo de Telan	男性 1 人、 女性 26 人	共同圃場周囲の防風・アグロフォレストリー実践のための管理技術	75%
2014 年 9 月 8 日	苗畑管理技術	Chismaute Alto	男性 11 人、 女性 9 人	苗畑の管理技術、在来種生産の知識	80%

2010 年 10 月に発効された「国土編成・自治・地方分権組織法」により、保健と教育の主管は国家に帰属することになり、県政府の力が及ばないものとされた。

保健省は、すべての国民に対して保健サービスを提供する義務を有していることから、対象集落でも保健サービスへのアクセスを促進させる努力を行ってきた。それはプロジェクト対象集落だけに行われたものではなく、保健省独自の集落活動の一環として幅広く行われてきたものである。しかし、それらの活動が本プロジェクトの生活環境改善活動として役立ってきた。具体的には、公共医療サービスの利用促進活動、家族計画、性教育、家庭内暴力の防止、母子保健、幼児への鉄分接種促進活動、アンデス食材を使った栄養改善及び食品衛生の実習、家庭の水質管理活動、排泄物の適切な処理などについて研修が行われてきた。

表 5 は、プロジェクト対象集落で行われた保健省の保健栄養訓練のリストである。合計 13 集落において、2012 年に 1,020 人に対して、2013 年には 1,036 人に対して、2014 年には 1,078 人に対して訓練が行われてきた。それにより、農民の衛生意識が高まり、食品や飲み水の衛生に気をを使うようになり、農作業後や食事前に手洗いをするようになったと話している。

表 5：プロジェクト対象集落での保健省による保健栄養訓練

	集落	2012 年				2013 年				2014 年第 1 四半期			
		プログラム	目的	受益者数 (人)	MSP 要員 (人)	プログラム	目的	受益者数 (人)	MSP 要員 (人)	プログラム	目的	受益者数 (人)	MSP 要員 (人)
1	Jatunpamba									栄養、若年妊娠減	幼児死亡率減	151	2
										栄養ファローアップ	慢性的栄養失調減	400	3
2	Sarachupa	栄養失調ゼロ	生活の質の向上	20	2	栄養失調ゼロ	授乳率上昇	64	2	栄養	慢性的栄養失調減	20	1
3	San Francisco de Bishud	栄養失調ゼロ	幼児死亡率減	20	2	栄養失調ゼロ		17	2	栄養	慢性的栄養失調減	30	1
4	San Pablo de Tipín	健康増進	生活の質の向上	20	2				3	栄養	慢性的栄養失調減	25	2
5	San Miguel de Quera	健康の総合的配慮		80	9	栄養	健康的食生活	18	3	総合的健康	幼児死亡率減	22	4
6	Pueblo Viejo	健康増進	幼児死亡率減	92	1	栄養	健康のための栄養指導	156	4	栄養	幼児死亡率減	46	3
7	San Bernardo	健康増進	母子死亡率減、若年妊娠減	263	3	栄養	乳幼児死亡率減	320	4	栄養、若年妊娠の減	母子死亡率減、若年妊娠の減	102	4
8	Rumicruz					予防保健	成人病予防、安全な水の使用、集落の衛生、栄養	78	5	栄養、若年妊娠減、安全な水の使用	母子死亡率減、若年妊娠減、安全な水の使用		

9	La Pacífica	健康増進	若年妊娠減、家庭内暴力根絶	106	2					栄養	慢性的栄養失調減	44	3
10	Santa Teresita									栄養	慢性的栄養失調減	50	2
11	Llinllín									栄養、若年妊娠減	慢性的栄養失調減	136	1
12	Atapo Santa Cruz	健康増進	障害、結核予防、若年妊娠減、成人病予防、栄養、母子死亡率減	96	3	健康増進	高血圧予防 若年妊娠減、 栄養	126	4				
		健康増進	〃	18	2								
		健康増進	〃	74	3								
		健康増進	〃	47	3								
13	La Merced (Tixán)					栄養	母子死亡率減、 栄養	121	3	栄養失調ゼロ	慢性的栄養失調減	52	3
	合計			1,020	38			1,036	33			1,078	29

プロジェクト開始当初、教育分野の活動として識字教育が考えられたが、教育省の関連部門の実施体制が整っていないことや、農村人口の大半を占める高齢者や女性の識字教育受講のモチベーションの低さのため、識字教育は実施されていない。

表 6 は、チンボラソ県で近年実施されてきた集落での識字教育を示している。本プロジェクトの実施期間で行われているのは 4 番目の教育省主催のポスト識字教育のみである。これは、7 年間に 30 名ずつ 70 集落（1 年間に 10 集落）で、基礎知識を身につけている識字教育修了者に対して、基礎知識を伸ばし応用範囲を広げられるような教育を行おうというものである。プロジェクト対象集落では、12 カ月受講し続けられる 30 名の基礎的識字教育修了者を集めることは難しいため、プロジェクトから、教育省（本省）に対して、より負担が少ない条件を緩和したプログラムの検討を依頼したが、実現せずに、現在に至っている。

表 6：チンボラソ県で近年実施されてきた集落での識字教育

プログラム名	実施期間	集落数	参加者数	期間
Yo se Puedo	2007～2010 年	600	17,800 人	計 600 時間/4 カ月
Dolores Cacaguango	2006～2006 年	310	6,000 人	日 2 時間/6 カ月
Eugenio Espejo	2010～2012 年	400	8,000 人	不明
Pos Alfabetización	2008～2014 年	70	2,100 人	毎日 8 時間/12 カ月

表 7 に示すように、教育省との連携により、16 校で学校菜園活動が行われている。教師の参加者は計 30 名で、生徒の参加者は計 464 名であり、その面積は 5,760 m²である。アラウシ郡の学校菜園で栽培されている作物は、キャベツ、レタス、テンサイ、ハツカダイコン、フダンソウの 5 種であり、コルタ郡及びグアモテ郡の学校菜園の作物は、キャベツ、レタス、テンサイ、ハツカダイコン、フダンソウ、ニンジン、カリフラワーの 7 種である。生産物は各学校の給食に使われている。

表 7：学校菜園活動

	郡	集落	学校名	全教師及び生徒数	参加者(人)		面積 (m ²)
					教師	生徒	
1	コルタ	SAN BERNARDO	GONZALO DIAZ DE PINEDA	69	2	16	180
2		COLUMBE 1 Y 2	ESTANISLAO ZAMBRANO	170	2	25	400
3		COLUMBE 3 Y 4	CARLOS ARTURO LEON	90	2	22	300
4		LIRIO	U.E GENERAL RUMIÑAGUI	152	3	40	350
5		LLINLLIN	DUCHICELA SHIRY XII	303	1	30	1000
6		SAN GUISEL ALTO	U.E SAN GUISEL ALTO	165	2	35	200
7	グアモテ	ZARACHUPA	DOLORES CACUANGO	51	1	18	200
8		SAN FRANCISCO DE BISHUD	JUAN A COMNIO	217	3	45	350
9		SAN VICENTE DE TIPIN	LUIS ALBERTO CASTILLO	194	2	42	450
10		ACHULLAY	U.E ACHULLAY	212	2	30	200
11		CHISMAUTE ALTO	DR. POMPEYO MONTALVO	334	2	50	560
12		JATUM PAMBA	MANUEL DEL PINO	221	2	30	300
13	アラウシ	PUEBLO VIEJO	JUAN FRANCISCO YEROVI	180	2	23	300
14		PACHAGSI	ANTONIO ELIZALDE	84	1	18	220
15		LA PACIFICA	LA PACIFICA	84	1	15	300
16		LA MERCED DE TIXAN	GRAL. JOSE MARIA SAENZ	91	2	25	450
合計				2,617	30	464	5,760

11. アウトプット3に関連した活動の詳細

添付資料 11

アウトプット3に関連した活動の詳細

表1は、参加型開発/組織化分野のスタッフ及び農民向けに行われた研修実績である。

表 1： 参加型開発/組織化分野のスタッフ及び農民向け研修実績

年度	コース名	研修内容	講師	開催日	期間	参加人数	対象者
2012	住民参加型コミュニティ簡易調査手法ワークショップ	集落プロジェクト支援開始時における参加型コミュニティ調査（診断）手法の研修（SWOT分析、季節カレンダー作成等）	栗原敏昭専門家、ルベン・アウカンセラ技師（参加型開発/組織化<DPA>支援ユニット員）	2012.7.18、25、26	3日間	14名	DPA支援ユニット員、及びプロジェクト普及員
2012	農民組織化手法ワークショップ	2012年10月以降開始される集落プロジェクトにおける農民組織化手法の研修（参加者及び理事会の選出、内規作成、共同基金設立等）	栗原敏昭専門家、ロシア・ガルシア技師（参加型開発/組織化<DPA>支援ユニット員）	2012.8.15、22	2日間	9名	プロジェクト普及員
2012 2013 2014	職員対象の参加型農村開発手法「農民組織活動」ワークショップ	制作教材「組織活動」を活用し、組織化の意義、ジェンダー、組織化手法、普及員の役割、農家向け研修の進め方、リーダーシップ、コミュニケーション等の技術研修	参加型開発ユニット員、栗原敏昭専門家	2013.3.27～ （継続的に随時各機関にて開催）	1日間	103名	DPA支援ユニット員、プロジェクト普及員、県政府社会管理部員、農牧漁業省、環境省職員
2012 2013 2014	職員対象の参加型農村開発手法「農民組織活動」ワークショップ	制作教材「組織活動」を活用し、組織化の意義、ジェンダー、組織化手法、普及員の役割、農家向け研修の進め方、リーダーシップ、コミュニケーション等の技術研修	県政府（プロジェクト及び関係部署）・農牧漁業省・環境省普及員	2013.5.6～ （継続的に随時各集落にて開催）	1日間	計1,961名	農家等集落住民（対象地域外も含む）
2013	参加型評価手法ワークショップ	集落活動終了時に伴う参加者による活動評価手法の研修、その後受講した普及員が各集落で実施	ロシア・ガルシアC/P（参加型開発ユニット員）、栗原敏昭専門家	2013.9.12	1日間	12名	プロジェクト普及員

2014	持続的総合農村開発支援技術研修	プロジェクト内に設置されている運営ユニット、参加型開発/組織化支援ユニット、生産技術支援ユニット、流通支援ユニット、環境支援ユニット合同による、各分野を取りまとめた集中パッケージ研修。前半2日間はワークショップ形式、後半2日間は集落での実習形式にて実施。	各支援ユニット員及び、廣住清専門家、栗原敏昭専門家、岩瀬剛史専門家	2014.4.7 ～4.11	4日間	20名	プロジェクト普及員及び技師
2014	チンボラソ県内市長向け普及ネットワーク形成研修	プロジェクト概要及び普及ネットワークの構想案について県内市長の理解を深め、普及ネットワークを形成していくために実施。	廣住清専門家、A. グァノレマプロジェクト副マネジャー	2014.6.12	1日間	19名	5市長(含む代理)市職員
2014	アラウシ市議会向け普及ネットワーク形成研修	先のチンボラソ県内市長向け普及ネットワーク形成研修を受け、積極的な取り組み意欲を示したアラウシ市長及び市議会に対し、普及ネットワークの仕組みについて理解を深め、今後の具体的活動を定める目的で実施。	廣住清専門家、栗原敏昭専門家、アガピート・ムニョスプロジェクトマネジャー、A. グァノレマ副マネジャー	2014.7.1	1日間	13名	アラウシ市長、市会議員、ティクサン区長
2014	住民参加型普及イベント手法研修	他国事例を交えた活動参加者による外部向け農場公開イベント (Dia de Campo Participativo) 運営手法の研修 (プレゼンテーション)	栗原敏昭専門家	2014.7.10	1日間	12名	プロジェクト普及員及び技師

表 2 は、参加型開発/組織化の研修受講記録である。実施機関・関係機関職員及び普及員の組織活動に関する研修の受講率は 100%、複合農業に関する受講率は 97%、自然資源のコミュニティ管理の受講率は 96%であり、参加型コミュニティマネジメントの受講率は 92%に達している。

なお、複合農業という考え方は、単なる農業生産ではなく、環境と調和した農牧林業を推奨するもので、プロジェクトのコンセプトにかかわるものであるため、参加型開発/組織化分野で取り扱われている。個々の具体的な農業生産技術や土壌保全技術などは、それぞれ生計向上分野や生活環境改善分野で取り扱われている。

表 2：参加型開発/組織化分野の研修受講記録（2013 年 3 月～2014 年 7 月）

テーマ	組織活動 (R1) (2013 年 3 月～)	複合農業 (R2) (2013 年 7 月～)	自然資源の コミュニティ管理 (R3) (2014 年 1 月～)	参加型コミュニ ティ・プロジェク ト・マネジメント
実施機関・関係機関職員及び普及員対象（参加型開発支援ユニットによる研修）				
参加型開発支援ユニット (受講者数/対象者数)	10/10	7/7	7/7	5/5
プロジェクト C/P 技師・普及員 (受講者数/対象者数)	29/29	24/25	16/17	17/19
受講率 (PDM 成果指標 80%)	100%	97%	96%	92%
千葉県関係部署受講者	37	7	2	
農牧漁業省受講者	16	12	7	
環境省受講者	20	14	15	
他の支援機関受講者	0	0	0	
技師・職員受講者合計	112	64	47	
集落住民対象（研修を受講した普及員による研修）*				
プロジェクト支援集落参加者 (受講者数/対象者数)	691/782 (34 集落)	595/753 (30/33 集落)	575/674 (29 集落)	
受講率 (PDM 成果指標 80%)	88%	79%	85%	
農牧漁業省 支援集落参加者	526	412	148	
環境省 支援集落参加者	428	125	403	
県政府他部署 支援集落参加者	355	0	0	
その他（学生等）	0	0	57	
集落住民受講者合計	2,000	1,132	1,183	

注：ベースとなっている表は、参加型開発/組織化支援ユニットが作成したものだが、集落住民対象の複合農業研修の受講率は、別途入手したデータの数値を合わせて変更した。

表 2 の下側は、参加型開発/組織化の研修を受けた実施機関・関係機関職員及び普及員が、集落の住民に対して参加型開発/組織化の研修を行った際の、農民の研修受講率を示している。集落住民の組織活動に関する研修の受講率は 88%、複合農業に関する受講率は 79%、自然資源のコミュニティ管理の受講率は 85%である。

表 3 は、本プロジェクトの活動として行われた集落住民への組織化研修の実績である。表 4 は、本プロジェクトの組織化研修を受講した農牧漁業省の職員が同省の農村開発活動

として行った農民への組織化研修の実績である。表 5 は、組織化研修を受講した環境省の職員が同省の農村開発活動として行った農民への組織化研修の実績である。表 6 は、組織化研修を受講した県政府省の職員が県政府の農村開発活動として行った農民への組織化研修の実績である。これら合計で 2,000 名の農民が組織化の研修を受講している。

表 3 : プロジェクト活動における農民への組織化研修

	集落	対象人数 (人)	受講者数 (人)	日付	ファシリテーター
1	La Pacifica	20	20	2013年5月14日	Ramon Carguachi
2	La Merced (Tixán)	20	20	2013年5月31日	Ramon Carguachi
3	Pueblo Viejo	20	20	2013年5月15日	Ramon Carguachi
4	Atapo Santa Cruz	17	15	2013年5月13日	Ramon Carguachi
5	Sarachupa	21	22	2013年5月10日	Alfredo Muños
6	San Francisco Bishud	20	16	2013年5月8日	Alfredo Muños
7	San Pablo de Tipín	21	21	2013年5月6日	Alfredo Muños
8	Chismaute Alto	22	18	2013年6月19日	Juan Carlos Gavin
9	San Lorenzo de Telan	27	25	2013年6月3日	Juan Carlos Gavin
10	Jatunpamba	30	30	2013年6月4日	Juan Carlos Gavin
11	Santa Teresita	27	27	2013年5月10日	Juan Carlos Gavin
12	El Lirio	27	22	2013年5月20日	Jorge Chilibingua
13	La Merced (Columbe)	42	42	2013年5月15日 2013年12月11日	J. Chili, Jaime C
14	Columbe lote 1 y 2	25	25	2013年5月20日	Segundo Anilema
15	Columbe lote 3 y 4	25	20	2013年6月21日	Segundo Anilema
16	Cashapamba	22	18	2013年6月19日	Segundo Anilema
17	San Bernardo	25	19	2013年6月18日	Segundo Anilema
18	Canal Guacona	7	7	2013年5月6日	Mabel Pintag
19	San Martin Alto	24	20	2013年5月28日	Mabel Pintag
20	Rumiloma	14	14	2013年5月8日	Mabel Pintag
21	Rumieruz	23	21	2013年5月28日	Lucía García
22	San Miguel de Quera	7	7	2013年5月27日	Lucía García
23	Guacona Grande	28	28	2013年6月28日	Lucía García
24	Pachagsi	27	22	2014年7月21日	Ramón C
25	Sancahuan Tiocajas	15	17	2014年7月18日	Ramón C
26	San Vicente de Tipin	25	18	2013年11月18日	J.Carlos G
27	Achullay	25	25	2013年11月18日	Mabel P
28	Ban Guisel Alto	28	6	2013年12月2日	Jaime Curicama
29	Balda Lupaxi	30	20	2013年11月29日	Jaime Curicama
30	Unidad Edu Llin Llin	37	37	2013年11月12日	Jaime Curicama
31	Shilpala	21	13	2014年5月6日	Rubén Aucancela
32	La Merced Colta Gr. B	24	20	2013年1月22日	Jaime Curicama
33	Columbe 1 y 2 Gr. B	25	25	2014年3月11日	Lucia Garcia
34	Pueblo Viejo (Gr.B)	11	11	2014年1月20日	Alfredo M
	合計	782	691		

表 4 : 農牧漁業省の活動における農民への組織化研修

	集落	対象人数 (人)	受講者数 (人)	日付	ファシリテーター
1	Gualipe	22	18	2013年5月13日	ING.ALEXANDRA ERAZO
2	Santa Teresita	25	20	2013年5月21日	ING.ALEXANDRA ERAZO
3	Achullay	20	20	2013年5月28日	ING.ALEXANDRA ERAZO
4	Tejar Rayoloma	20	15	2013年6月11日	ING.ALEXANDRA ERAZO
5	Totorilla	25	25	2013年5月17日	ING. CARLOS ROJAS
6	La Merced-Guiltuz	25	25	2013年5月23日	ING. JAIME PILCO
7	Palacio Real	28	25	2013年6月4日	ING. CARLOS DIAZ
8	Chausan Alfonso	35	30	2013年5月10日	ING. JULIO CALDERON
9	San Martin Bajo	45	42	2013年6月4日	ING. VERONICA CRUZ
10	Sanrafael Alto	15	15	2013年6月28日	ING. VERONICA CRUZ

11	Balda Lupaxi Alto	20	18	2013年6月10日	ING. VERONICA CRUZ
12	Llin Llin Santafe	35	32	2013年6月12日	ING. MONICA CHALAN
13	Lig Lig	38	31	2013年6月6日	ING. PAOLA CABRERA
14	Quishuar Marria Elena	30	25	2013年6月18日	ING. NANCY CALI
15	Tixan - Matriz	27	25	2013年6月18日	ING. DANNY ANDRADE
16	Llin Llin Pucara	15	15	2014年2月20日	ING. MONICA CHALAN
17	Palmira Davalos	20	20	2014年2月19日	ING. JULIO CALDERON
18	San Carlos de Chuquirá	25	25	2014年3月12日	ING. ANTONIO ROMERO
19	Pull Chico	20	20	2014年4月9日	ING. ALEXANDRA ERAXO
20	Atapo Santa Cruz	10	10	2014年4月16日	ING. JOSE ROMERO
21	Cebollar	15	15	2014年4月22日	ING. JOSE ABARCA
22	San Bartolo de Rayoloma	20	20	2014年5月28日	ING. VERONICA CRUZ
23	Columne Alto	20	20	2014年5月14日	ING. MONICA CHALAN
24	Hospital Gatazo	15	15	2014年5月13日	ING. VERONICA MUÑOZ
	合計	570	526		

表 5：環境省の活動における農民への組織化研修

	集落	対象人数 (人)	受講者数 (人)	日付	ファシリテーター
1	Pomacocho	72	72	2013年6月11日	Mario Maza
2	Guarguallac	12	12	2013年6月17日	Karina Mancheno
3	Santa Teresita de Guabug	15	15	2013年6月11日	Silvia Orozco, Felipe Coello, José Paca y Pablo Toaza
4	Pulingui San Pablo	33	33	2013年6月28日	Mario Cuvi
5	Comunidad de Totoras	30	30	2014年2月19日	Mario Cuvi
6	Silveria	35	35	2014年2月18日	Jose Paca/ Marco Maldonado
7	Santa Teresita del Guabug	32	32	2014年2月11日	Verónica Erazo/ Rodrigo Guanguasi
8	Santiago de Quito	26	26	2014年3月18日	MARIO CUVI
9	Ichubamba	26	26	2014年3月11日	Miguel Acuña
10	Asociacion de Frejoleros – Pallatanga	27	27	2014年3月21日	Miguel Acuña
11	Yatzapuntzan	83	83	2014年3月26日	Jimena valdiviezo/ Marco Maldonado
12	Natawa	27	27	2014年3月18日	Veronica Erazo/ Pablo Toaza
13	Coop. Makita Kunchik	10	10	2014年4月23日	Miguel Acuña
	合計	428	428		

表 6：県政府社会部の活動における農民への組織化研修

	集落	対象人数 (人)	受講者数 (人)	日付	ファシリテーター
1	San Francisco	30	60	2013年9月16日	Hugo Zavala
2	Guallabamba	50	50	2013年9月18日	Hugo Zavala
3	Julquis	20	50	2013年9月21日	Hugo Zavala
4	Ainche	20	30	2013年10月21日	Hugo Zavala
5	Llucud	50	50	2013年10月24日	Hugo Zavala
6	Titaycun	30	30	2013年11月4日	Hugo Zavala
7	San Miguel de Guaructus	20	20	2013年11月7日	Hugo Zavala
8	Pantuz	30	20	2013年12月2日	Hugo Zavala

9	Pantaño	20	20	2013年12月3日	Hugo Zavala
10	Ulpan	25	25	2013年12月4日	Hugo Zavala
	合計	295	355		

表7は、本プロジェクトの活動として行われた集落住民への複合農業の研修の実績である。表8は、本プロジェクトの複合農業研修を受講した農牧漁業省の職員が同省の農村開発活動として行った農民への複合農業研修の実績である。表9は、複合農業研修を受講した環境省の職員が同省の農村開発活動として行った農民への複合農業研修の実績である。合計で1,132名の農民が複合農業の研修を受講している。

表7：プロジェクト活動での農民への複合農業研修

	集落	対象人数 (人)	受講者数 (人)	日付	ファシリテーター
1	La Pacifica	20	20	2013年8月27日	Ramon Carguachi
2	La Merced (Tixán)	20	20	2013年8月23日	Ramon Carguachi
3	Pueblo Viejo	20	20	2013年8月21日	Ramon Carguachi
4	Atapo Santa Cruz	15	15	2013年8月19日	Ramon Carguachi
5	Sarachupa	21	21	2013年8月23日	Alfredo Muños
6	San Francisco Bishud	20	20	2013年8月21日	Alfredo Muños
7	San Pablo de Tipín	21	21	2013年8月19日	Alfredo Muños
8	Chismaute Alto	22	15	2013年8月28日	Juan Carlos Gavin
9	San Lorenzo de Telan	27	25	2013年9月9日	Juan Carlos Gavin
10	Jatunpamba	30	31	2013年9月9日	Juan Carlos Gavin
11	Santa Teresita	27	22	2013年8月20日	Juan Carlos Gavin
12	El Lirio	27	—	—	Jorge Chilingua
13	La Merced (Columbe)	20	17	2013年8月19日	Jorge Chilingua
14	Columbe lote 1 y 2	26	22	2013年8月14日	Segundo Anilema
15	Columbe lote 3 y 4	25	19	2013年8月19日	Segundo Anilema
16	Cashapamba	22	22	2013年8月23日	Segundo Anilema
17	San Bernardo	25	18	2013年8月21日	Segundo Anilema
18	Canal Guacona	7	7	2013年8月20日	Mabel Pintag
19	San Martin Alto	24	17	2013年8月26日	Mabel Pintag
20	Rumiloma	14	14	2013年8月13日	Mabel Pintag
21	Rumicruz	23	22	2013年8月21日	Lucía García
22	San Miguel de Quera	7	7	2013年8月19日	Lucía García
23	Guacona Grande	28	—	—	—
24	Columbe 1y 2 Gr.B	25	25	2014年3月11日	Lucia Garcia
25	San Vicente de Tipin	25	21	2013年12月10日	J. Carlos G.
26	Achullay	25	20	2013年12月16日	Jaime Curicama
27	San Guisel Alto	28	28	2014年2月4日	Jaime Curicama
28	Balda Lupaxi	30	25	2014年1月31日	Jaime Curicama
29	U.Edu. Llin Llin	37	25	2014年1月20日	Jaime Curicama
30	Pachagsi	27	22	2014年7月21日	Ramon C
31	Sancahuan Tiocajas	15	—	—	Ramon C
32	Shilpala	21	13	2014年5月13日	Rubén Aucancela
33	San Guisel Alto	29	21	2014年6月4日	Rubén Aucancela y Ramón Carguachi
	計	753	595	79%	

表 8：農牧漁業省活動での農民への複合農業研修

	集落	対象人数 (人)	受講者数 (人)	日付	ファシリテーター
1	La Merced - Guiltuz	25	25	2013/8/6	ING. JAIME PILCO
2	Chausan San Alfonso	35	25	2013/8/16	ING. JULIO CALDERON
3	San Martin Bajo	30	28	2013/8/20	ING. VERONICA CRUZ
4	Llin Llin Santafe	30	20	2013/8/23	ING. MONICA CHALAN
5	Guacona Belen	25	20	2013/8/23	ING. PAOLA CABRERA
6	Tixan-Matriz	27	25	2013/8/22	ING. DANNY ANDRADE
7	Baldalupaxi Alto	12	9	2013/9/24	ING. VERONICA CRUZ
8	Santa Teresita	25	22	2013/9/13	ING. ALEXANDRA ERAZO
9	Uodic	22	22	2013/9/9	ING. PAOLA CABRERA
10	Centro Gatazo Zambrano	25	23	2013/9/14	ING. VERONICA MUÑOZ
11	El Altar	20	20	2014/1/22	ING. MARGARITA MOSCOSO
12	Palmira Davalos	20	20	2014/3/25	ING. JULIO CALDERON
13	Lig Lig	18	18	2014/3/21	ING. ALEX NORIEGA
14	Sanfrancisco Cunuhuachay	20	20	2014/4/16	ING. JAIME PILCO
15	Nueva Esperanza	20	20	2014/4/22	ING. DANNY ANDRADE
16	San Carlos de Chuquirá	25	25	2014/5/14	ING. ANTONIO ROMERO
17	Rumicruz	20	20	2014/5/22	ING. JAIME PILCO/CARLOS DIAZ
18	Columbe Alto	20	15	2014/6/25	Verónica Cruz
19	El Altar	20	20	2014/6/11	Margarita Moscoso
20	Hospital Gatazo	15	15	2014/6/18	Verónica Muñoz
	計	454	412		

表 9：環境省活動での農民への複合農業研修

	集落	対象人数 (人)	受講者数 (人)	日付	ファシリテーター
1	Cañi	28	28	2014年1月29日	Miguel Acuña y Efraín Villares
2	Tambohuasha	18	18	2014年1月12日	Veronica Erazo/Rodrigo Guanguasi
3	Santiago de Quito	26	26	2014年3月18日	MARIO CUVI
4	Ichubamba	26	26	2014年3月11日	Miguel Acuña
5	Asociacion de Frejoleros - Pallatanga	27	27	2014年3月21日	Miguel Acuña
	計	125	125		

表 10 は、本プロジェクトの活動として行われた集落住民への自然資源のコミュニティ管理の研修の実績である。表 11 は、本プロジェクトの自然資源のコミュニティ管理研修を受講した農牧漁業省の職員が同省の農村開発活動として行った農民への自然資源のコミュニティ管理研修の実績である。表 12 は、自然資源のコミュニティ管理研修を受講した環境省の職員が同省の農村開発活動として行った農民への自然資源のコミュニティ管理研修の実績である。表 13 は、チンボラソ大学 (UNACH) で行われた自然資源のコミュニティ管理の特別講義の実績である。農民と学生を合わせて、合計で 1,183 名が自然資源のコミュニティ管理の研修を受講している。

表 10：プロジェクト活動での農民への自然資源コミュニティ管理研修

	集落	対象人数 (人)	受講者数 (人)	日付	ファシリテーター
1	La Pacifica	25	23	2014年6月9日	Jorge Guamán
2	La Merced (Tixán)	20	16	2014年5月26日	Rubén Aucancela
3	Pueblo Viejo	20	18	2014年6月2日	Jaime Curicama
4	Atapo Santa Cruz	17	17	2014年6月2日	Juan C. Gavín
5	Sarachupa	21	17	2014年5月26日	Alfredo Muñoz
6	San Francisco Bishud	20	15	2014年5月7日	Alfredo Muñoz
7	San Pablo de Tipín	20	17	2014年6月3日	Alfredo Muñoz
8	Chismaute Alto	35	28	2014年5月9日	Rubén Aucancela
9	San Lorenzo de Telan	30	22	2014年6月18日	Nidia Rodriguez
10	Jatunpamba	36	37	2014年5月9日	Alfredo Muñoz
11	El Lirio	27	19	2014年5月30日	Samuel Gualán
12	La Merced (Columbe)	20	18	2014年6月2日	Nidia Rodriguez
13	Columbe lote 1 y 2	26	24	2014年5月20日	Juan C. Gavín
14	Columbe lote 3 y 4	25	23	2014年6月30日	Ramón Carguachi
15	Cashapamba	22	17	2014年6月11日	Jorge Guamán
16	San Bernardo	25	24	2014年6月30日	Jaime Curicama
17	Canal Guacona	7	8	2014年6月16日	Ana Yuquilema
18	San Martin Alto	24	22	2014年6月13日	Jorge Guamán
19	Rumiloma	14	12	2014年6月9日	Nidia Rodriguez
20	Rumicruz	22	18	2014年8月25日	Jaime Curicama
21	San Miguel de Quera	15	15	2014年6月6日	Ana Yuquilema
22	Guacona Grande	28	14	2014年7月16日	Jaime Curicama
23	Achullay	20	18	2014年5月7日	Samuel Gualán
24	Balda Lupaxi	30	21	2014年5月30日	Nidia Rodriguez
25	Unidad Edu. Llin Llin	37	35	2014年5月22日	Juan C. Gavín
26	Sacahuan Tiocajas	15	12	2014年5月16日	Ramón Carguachi
27	Pachagsi	27	24	2014年6月2日	Ramón Carguachi
28	Shilpalá	21	17	2014年6月3日	Rubén Aucancela
29	San Vicente de Tipin	25	24	2014年6月10日	Jorge Guamán
	計	674	575		

表 11：農牧漁業省活動での農民への自然資源コミュニティ管理研修

	集落	対象人数 (人)	受講者数 (人)	日付	ファシリテーター
1	PULL CHICO	20	20	2014年3月25日	ING. ALEXANDRA ERAXO
2	EL ALTAR	10	10	2014年4月16日	ING. MARGARITA MOSCOSO
3	LLIN LLIN PUCARA	20	20	2014年4月24日	ING. VERONICA CRUZ
4	Quera	45	45	2014年5月5日	ING. MERCEDES GALLARDO
5	Lig Lig	15	15	2014年5月15日	ING. ALEX NORIEGA
6	San Carlos de Chuquira	25	18	2014年6月16日	Antonio Romero
7	Palmira Davalos	20	20	2014年6月18日	Julio Calderon
	計		148		

表 12：環境省活動での農民への自然資源コミュニティ管理研修

	集落	対象人数 (人)	受講者数 (人)	日付	ファシリテーター
1	Coop. Makita Kunchik	10	10	2014年4月30日	César Amores
2	Asoc de Mujeres Ozogoché	35	35	2014年4月21日	César Amores/ Ma. José Campos
3	Jubal	10	10	2014年4月16日	César Amores

4	Chorrera Mirador	20	20	2014年4月3日	Verónica Erazo
5	Chorrera	20	20	2014年5月2日	José Paca/ Verónica Erazo
6	San Rafael de Chuquipogyo	66	66	2014年5月1日	Verónica Erazo
7	Totoras – Unidad Educativa	28	28	2014年5月15日	César Coronel/ Ma. José Campos
8	Ozogoche	35	35	2014年5月15日	César Coronel/ Ma. José Campos
9	Lirio San José	60	60	2014年5月21日	Mario Cuvi
10	Varias Comunidades Sector Penipe	11	11	2014年5月29日	César Coronel/ Ma. José Campos
11	San Vicente de Iqualata	22	22	2014年5月27日	Miguel Acuña
12	Yacapartina	36	36	2014年5月22日	Marco Maldonado
13	Guasan	50	50	2014年6月1日	Efraín Villares
	計	403	403		

表 13：大学での自然資源コミュニティ管理研修

	集落	対象人数（人）	受講者数（人）	日付	ファシリテーター
1	UNACH	57	57	2013年12月9日	Julio Logroño
	計	57	57		

表 14 は、参加型開発/組織化分野に関して作成された教材の印刷・配付実績を示している。リスト最後の教材の参加型プロジェクトマネジメントのマニュアルは、中間レビュー調査直前に初版が刷り上がったところだったので、まだ農民に配付されていない。他 3 種のマニュアルは約 80%以上が農民に配られている。紙芝居教材は、プロジェクト対象集落や関連機関に配付されてきたがまだ残部がある。

表 14：参加型開発/組織化分野の教材の印刷・配付実績

テーマ	紙芝居教材 初刷部数	紙芝居教材 増刷部数	紙芝居教材 残部数	マニュアル 初刷部数	マニュアル 増刷部数	マニュアル 残部数	農民への 配付率
組織活動	81	60	41	1000	800	448	88%
複合農業	70	60	42	1000	800	306	79%
自然資源の コミュニティ管理	90	90	49	1200	500	185	85%
参加型 プロジェクト マネジメント	80	60	112	1200	0	1200	0%*

表 15 は、各集落での参加型開発/組織化分野でどのような活動が行われてきたかを示したものである。

表 15： 参加型開発/組織化分野集落活動記録（2012年～2014年）

集落	農民組織化							参加型開発研修受講			参加型プロジェクト運営			協働作業							
	組織化説明会	村議会の合意	参加者選定	グループ理事会選出	グループ内規作成	共同基金設立	集落普及員選定	組織活動：紙芝居1	複合農業：紙芝居2	自然資源管理：紙芝居3	参加型計画実施	参加型モニタリング実施	参加型評価実施	共同生産運営	コミュニティ苗畑運営	共同販売実施	クイ共同生産	共同養鶏（鶏肉・採卵）	学校菜園運営	共同植林	参加型普及（農業公開）
2012年10月から参加																					
La Pacífica	X	X	X 20	X	X		X 4	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X		X	X
La Merced (Tixan)	X	X	X 20	X	X	X	X 4	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X	X	X
Pueblo Viejo	X	X	X 31 (20,11)	X	X	X	X 4	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X
Atapo Santa cruz	X	X	X 17	X	X		X 3	X	X	X		X	X	X		X					
Sarachupa	X	X	X 21	X		X	X 2	X	X	X	X		X	X		X	X		X	X	X
S. F. de Bishud	X	X	X 20	X	X	X	X 5	X	X	X	X	X	X	X (種子)		X	X		X	X	X
San Pablo de Tipín	X	X	X 20	X	X	X	X 5	X	X	X	X	X	X	X (種子)		X	X	X	X		X
Chismaute Alto	X	X	X 35	X	X	X	X 6	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
S. L. de Telán	X	X	X 30	X	X	X	X 5	X	X	X	X		X	X		X	X				X
Jatunpamba	X	X	X 36	X	X	X	X 6	X	X	X	X	X	X	X (種子)		X	X	X		X	X
San Martín Alto	X	X	X 20	X	X		X 4	X	X	X	X		X	X	X	X					
La Merced (Colta)	X	X	A16, B24	X	A.X, B.	X	X 4	A.X, B.X	A.X, B.	X	X	X	X	X		X	X		X		X

Columbe 1 y 2	X	X	A.25, B.25	X	X	X	X 5	X	A.X, B.X	X	X		X	X	X	X	X	X	X		X
Columbe 3 y 4	X	X	X 30	X	X	X	X 5	X	X	X	X		X	X		X	X		X	X	X
Cashapamba	X	X	X 22	X	X	X	X 1	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X		X	X
San Bernardo	X	X	A.21, B.20	X	X	X	X 4	X	X	X			X	X		X	X	X	X		X
Guacona Grande	X	X	X 27	X	X	X	X 4	X				X	X	X		X	X	X		X	X
Canal Guacona	X	X	X 7	X	X	X	X 1	X	X	X	X		X	X		X	X				
El Lirio	X	X	X 27	X	X	X	X 6	X		X	X		X	X		X	X	X	X		
Rumiloma	X	X	X 14	X	X	X	X 2	X	X	X	X		X	X		X	X	X			X
Rumicruz	X	X	X 22	X		X		X	X				X	X (種子)	X	X	X	X		X	X
San Miguel de Quera	X	X	X 13	X	X	X		X	X	X	X		X	X		X					
2013年10月から参加																					
Santa Teresita	X	X	X 25	X			X 5	X	X				Oct-2 014	X	X			X			
Pachagsi	X	X	X 27	X	X		-			X	X	X	Oct-2 015	X (種子)		X	X		X		X
Sancahuan Tiocajas	X	X	X 15	X			-			X	X		Oct-2 016	X							X
San Vicente de Tipín	X	X	X 25	X			-	X	X	X	X	X	Oct-2 017	X					X		X
Achullay	X	X	X 25	X	X		-	X	X	X	X	X	Oct-2 018	X					X		X
San Guisel Alto	X	X	X 28	X	X		-	X	X	X	X	X	Oct-2 019	X			X			X	X
Balda Lupaxi	X	X	X 30	X	X	X	-	X	X	X	X		Oct-2 020	X			X			X	
Unidad Edu.XII Llinllín	X	X	A.25, B.12	A.X, B.X	A.X, B.X	-	-	X	X	X	X		Oct-2 021	X					X		

Shilpala	X	X	X 21	X	X		X	X	X	X	X	X	Oct-2 022	X			X				X
実施集落数	31	31	31	31	26	20	22	29	27	27	26	16	22	31	5	23	23	14	15	12	22
実施割合	100%	100%	100%	100%	84%	65%	92%	94%	87%	87%	84%	52%	100%	100%	-	74%	74%	45%	48%	39%	71%

X: : 実施済み 無印: : 非実施, -: 不必要.

表 16 は、2014 年に実施された ESDRUC の参加型農場公開イベント（Día de Campo）の実績を示している。これは ESDRUC の共同圃場での活動や、個人圃場での農業生産や環境保全の様子、クイや鶏の飼育の様子などをプロジェクトに参加している農民が見学者に説明するイベントであり、説明する農民は自分達の活動を自分で説明することによって活動の意義を再認識し、見学者に対して改良技術・プロジェクト活動の展示宣伝となる。これらイベントは、通常、同じ集落内の ESDRUC に参加していない集落民を対象に行われるものであるが、各郡の中で活動レベルが高い集落に関しては、同一集落の人間だけでなく、郡内の近隣地区からも見学者を招いて大規模なイベントが行われている。

表 16：2014 年に実施された参加型農場公開イベント（Día de Campo）

集落	農民野外学校 参加者数（人）	見学者数（人）	実施日	ファシリテーター
LA PACIFICA	25	195	7 月 29 日	Jorge Guamán
LA MERCED DE TIXAN	20	75	8 月 4 日	Samuel Gualán
SARACHUPA	21	45	8 月 4 日	Alfredo Muñoz
San Bernardo	25	48	8 月 6 日	Jaime Curicama
CHISMAUTE ALTO	36	170	8 月 8 日	Rubén Aucancela
PACHAGSI	27	30	8 月 11 日	Ramón Carguachi
RUMILOMA	14	35	8 月 12 日	Nidia Rodriguez
ACHULLAY	20	44	8 月 13 日	Samuel Gualán
RUMICRUZ	23	30	8 月 14 日	Jaime Curicama
JATUNPAMBA	30	78	8 月 15 日	Alfredo Muñoz
LA MERCED DE COLUMBE	20	50	8 月 18 日	Nidia Rodriguez
COLUMBE 3,4	25	35	8 月 19 日	Ramón Carguachi
CASHA PAMBA	22	255	8 月 20 日	Jorge Guamán
SAN PABLO DE TIPIN	21	465	8 月 22 日	Alfredo Muñoz
COLUMBE GRANDE 1,2	26	58	8 月 26 日	Juan C. Gavín
S. F. DE BISHUD	20	30	8 月 27 日	Alfredo Muñoz
SACAHUAN TIOCAJAS	15	30	9 月 1 日	Ramón Carguachi

SAN VICENTE DE TIPIN	25	250	9月2日	Jorge Guamán
計	415	1,923		

**MINUTA DE REUNIÓN
ENTRE
LA AGENCIA DE COOPERACIÓN INTERNACIONAL DEL JAPÓN Y
LAS INSTITUCIONES EJECUTORAS DEL GOBIERNO
DE LA REPÚBLICA DEL ECUADOR
SOBRE EL ESTUDIO DE EVALUACIÓN INTERMEDIA
DEL PROYECTO “DESARROLLO RURAL INTEGRAL SOSTENIBLE EN LA
PROVINCIA DE CHIMBORAZO”**

La Agencia de Cooperación Internacional del Japón (en adelante referida como “JICA”) envió la Misión de Evaluación Intermedia (en adelante, la Misión”) encabezada por el Dr. Narihide Nagayo a la República del Ecuador (en adelante, “el Ecuador”) durante el período del 8 de septiembre al 2 de octubre de 2014, con el fin de realizar la Evaluación Intermedia (en adelante, “la Evaluación”) del Proyecto denominado “Desarrollo Rural Integral Sostenible en la Provincia de Chimborazo” (en adelante, “el Proyecto”).

La Evaluación fue realizada por el Equipo de la Evaluación Intermedia Conjunta, conformado por los miembros de la Misión y los miembros seleccionados de las autoridades ecuatorianas concernientes al Proyecto, mediante las actividades como el estudio in situ y entrevistas al personal y organizaciones relacionadas con el Proyecto.

Como resultado de la Evaluación se elaboró el Informe de Evaluación Intermedia Conjunta y se presentó al Comité de Coordinación Conjunta del Proyecto, en la reunión celebrada el 29 de septiembre de 2014, en la ciudad de Quito.

Los puntos acordados en la Reunión del Comité de Coordinación Conjunta se detallan en el documento adjunto.

Quito, 29 de septiembre de 2014



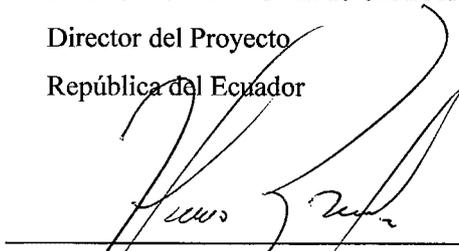
Dr. Narihide Nagayo
Asesor Senior
Agencia de Cooperación Internacional del Japón



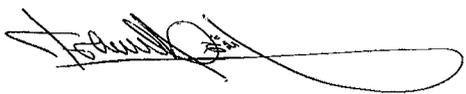
Abg. Mariano Curicama G.
Prefecto de la Provincia de Chimborazo
Director del Proyecto
República del Ecuador



Eco. Carlos Noboa
Coordinador General de Planificación,
Ministerio de Agricultura, Ganadería,
Acuicultura y Pesca
República del Ecuador



Ing. Álvaro Ruales
Director de Seguimiento y Evaluación
Ministerio del Ambiente
República del Ecuador



Mgs. Luis Álvarez Peralta
Coordinador General de la
Dirección Nacional de Educación para la
Democracia y el Buen Vivir
Ministerios de Educación
República del Ecuador



Dra. Claudia Ávila M.
Coordinadora Zona 3 del
Ministerio de Salud Pública
República del Ecuador

DOCUMENTO ADJUNTO

1. El Comité de Coordinación Conjunta aprobó la Matriz de Diseño del Proyecto (PDM) Versión 3 (Anexo I) presentado por el Proyecto.
2. El Comité de Coordinación Conjunta aprobó el Informe de Evaluación Intermedia Conjunta (Anexo II) presentado por el Equipo de la Evaluación Intermedia Conjunta y acordó tomar las medidas necesarias para cumplir las recomendaciones contempladas en dicho informe, los que se detallarán posteriormente.
3. El Comité de Coordinación Conjunta aprobó la Estrategia de Apoyo al Desarrollo Rural Integral Sostenible (Ver. 3) (Anexo 3), acordado el 5 de septiembre de 2014 por la Comisión Operativa del Proyecto (COP) y acordó la implementación del Proyecto con la articulación de las instituciones involucradas de acuerdo a la Estrategia mencionada.

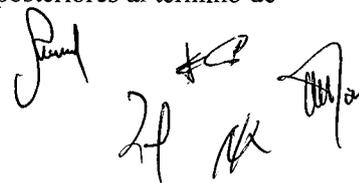
RECOMENDACIONES DEL INFORME DE EVALUACIÓN INTERMEDIA:

1. Realización de las actividades, priorizando la creación de la estructura de implementación para el desarrollo rural integral

El objetivo principal del presente Proyecto consiste en la creación de una estructura de implementación para continuar y ampliar el Proyecto de Desarrollo Rural con la iniciativa propia de la parte ecuatoriana, después de culminada la cooperación. Por consiguiente, en la segunda mitad del período del Proyecto, se requiere prestar atención especial a la creación o reorganización de divisiones administrativas dentro del GADPCH, al aseguramiento sostenible del personal y presupuesto, a la institucionalización necesaria, al fortalecimiento de la articulación asociativa, a la sistematización de técnicas y metodologías de desarrollo, entre otros

A continuación se mencionan algunas sugerencias relacionadas con las actividades para la creación de una estructura de implementación de proyectos de desarrollo:

- (1) Mediante las actividades realizadas hasta la fecha en las áreas del Proyecto Comunitario, se ha identificado la necesidad de crear la “Unidad de Desarrollo Rural Integral (UDRI)” y la “Red de Transferencia Técnica”. Ahora se necesita hacer funcionar estos conceptos en forma inmediata para analizar la eficacia, pertinencia y materialización de cada uno de ellos. Posteriormente, será necesario autorizar de forma definitiva la creación de la “Unidad de Desarrollo Rural Integral (UDRI)” y la “Red de Transferencia Técnica” durante el período del Proyecto, de acuerdo a los resultados del análisis.
- (2) En la segunda mitad del período del Proyecto, se requerirá una asignación del personal de contraparte y su capacitación, teniendo en cuenta la continuación y ampliación de las actividades posteriores al término de la cooperación de Japón.
- (3) Documento de Lineamientos señalado en el indicador de Propósito del Proyecto



- (a) Con respecto al documento de lineamientos, que es uno de los Resultados finales del Proyecto, será necesario elaborar inmediatamente un borrador preliminar del documento, analizando su composición, contenido y posicionamiento.
- (b) En la segunda mitad del período del Proyecto, se realizará y verificará una prueba de la estructura de implementación del desarrollo rural en las áreas del Proyecto Comunitario, de acuerdo al borrador preliminar, y se modificará según los resultados de la verificación con el fin de elaborar un documento de lineamientos específico y factible de llevar a cabo.
- (c) El documento de lineamientos elaborado deberá ser válido para que la parte ecuatoriana impulse los proyectos de desarrollo rural integral con los esfuerzos de autoayuda, después de terminar la cooperación de Japón. Es decir, el documento deberá estar compuesto de temas importantes para realizar el desarrollo rural integral en todas las comunidades de la sierra, de los cantones de la Provincia de Chimborazo, aprovechando los resultados del Proyecto. En las siguientes líneas se enuncian los siguientes temas:
- ① Estrategia de desarrollo (visión sobre la mejora de la calidad de vida, metodologías para el desarrollo rural integral, período de ejecución de un proyecto para una comunidad, costo necesario del proyecto de desarrollo de una comunidad, iniciativa integral con la duración específica para completar el proyecto de desarrollo rural integral de todas las comunidades de sierra de la Provincia)
 - ② Plan de implementación (plan de implementación de proyectos de desarrollo rural integral por año conforme a la estrategia de desarrollo)
 - ③ Estructura de implementación
Descripción específica de los 3 puntos indispensables para la ejecución de proyectos de desarrollo rural según la estrategia de desarrollo y el plan de implementación. A continuación se indican los 3 puntos:
 - Estructura interinstitucional (UDRI, Red de Transferencia Técnica y articulación interinstitucional, todos necesarios para implementar los proyectos de desarrollo rural)
 - Aseguramiento de los recursos humanos (número necesario de técnicos, promotores de los GAD'S y promotores comunitarios para la implementación del desarrollo rural, métodos de convocatoria, etc.)
 - Presupuesto (presupuesto anual que deberá asegurar cada organización para los proyectos de desarrollo rural)
 - ④ Creación de regímenes necesarios
Aspectos sobre la creación de regímenes como: ordenanzas y resoluciones administrativas provinciales necesarias para establecer la estructura de implementación,
- (d) El documento de lineamientos y sus anexos (manuales elaborados por el Proyecto) deberán ser no aprobados y aplicados por las instituciones involucradas, para realizar proyectos de desarrollo rural integral en la provincia de Chimborazo.

2. Implementación fluida del Proyecto

La parte japonesa hará sus máximos esfuerzos para enviar expertos según el plan inicialmente aprobado y además analizará la posibilidad de aprovechar el talento humano del Ecuador o de terceros países.

3. Ejecución equilibrada de proyectos de desarrollo rural

Para lograr el Propósito Superior del presente Proyecto “Mejorar la calidad de vida en las áreas rurales de la Provincia de Chimborazo.”, es indispensable realizar un desarrollo rural que consiste en el mejoramiento de ingresos y el mejoramiento del entorno de vida. Hasta la fecha, se han venido priorizando las actividades para el mejoramiento de ingresos: por lo que durante la segunda mitad del período del Proyecto, se deberá realizar las actividades en las dos direcciones, en forma equilibrada, y deberán ser válidos para el mejoramiento de la calidad de vida de la población rural.

4. Introducción de semillas y especies menores mejoradas y su sistema de suministro

Uno de los requisitos para aumentar la productividad agropecuaria es la producción, distribución y utilización de semillas y especies menores mejoradas. Por consiguiente, el GADPCH, INIAP-MAGAP y FAO deberán coordinar la creación de un “sistema sostenible de producción y suministro de semillas y especies menores mejoradas”, para ampliar las actividades de desarrollo rural después de terminar la cooperación de Japón.

5. Establecimiento del sistema de promotores comunitarios

La existencia de promotores comunitarios que cumplen un rol importante en la Red de Transferencia Técnica es indispensable para los proyectos de desarrollo rural. Por consiguiente, es necesario establecer en forma inmediata, el sistema de promotores comunitarios, considerando la ampliación del desarrollo rural posterior al término de la cooperación de Japón. Para establecer dicho sistema, se espera que se analice la posibilidad del otorgamiento de incentivos.

6. Mayor promoción de las actividades para la generación de fuentes de ingresos

Se ha venido realizando distintas actividades para la generación de fuentes de ingresos, pero no se ha hecho el análisis de costo – beneficio. Sobre negocios que necesitan inversión inicial, tales como adquisición de equipos y materiales, necesitarán realizar el análisis de costo – beneficio, considerando los costos de depreciación y mantenimiento para decidir si son o no rentables en el futuro. Para incrementar el impacto de estas actividades, es recomendable analizar la búsqueda de nuevos mercados o la posibilidad de ampliar la escala de sus negocios (por ejemplo, venta asociativa directa a supermercados).

7. Elaboración de manuales y folletos sobre técnicas agropecuarias y gestión agropecuaria

Se notan retrasos en el trabajo de recopilación de los resultados de las áreas de técnicas agropecuarias y gestión agropecuaria. Es necesario preparar, en forma inmediata, para los promotores, los manuales de varios temas, tales como técnicas de cultivo de papa, cebada, trigo, chocho y hortalizas; preparación de abonos

Handwritten signature and initials
24 N

orgánicos; mejora de la gestión agropecuaria (introducción de la rotación de cultivos, etc.). También, se espera la elaboración de folletos de los mismos temas para los productores. Además, se requiere la recopilación de información técnica sobre producción y multiplicación de semillas y especies menores mejoradas.

8. Mayor promoción de la conservación del suelo y agua

Debido a que la conservación del suelo y agua es indispensable para la agricultura sostenible, se trata la conservación como una de las actividades más importantes del Proyecto. La importancia de la conservación, sin embargo, no ha llegado en forma extensa al nivel de agricultores. Por lo tanto, en la segunda mitad del periodo del Proyecto, se necesitará difundir y aplicar las técnicas prácticas para la conservación del suelo y agua mediante la forestación, reforestación, etc.

9. Ejecución del estudio cuantitativo para verificar los efectos del Proyecto

Para identificar en forma numérica el grado de mejoramiento de la calidad de vida de los habitantes de las comunidades seleccionadas mediante las actividades del Proyecto en comparación con el momento del estudio de línea base realizado al inicio del Proyecto, es necesario realizar un monitoreo y seguimiento cuantitativo y justificar la aplicación adecuada de las metodologías de desarrollo. Complementariamente a ello, se requiere una mayor coordinación conjunta entre el Proyecto y el MAE, para garantizar una mejor calidad de las actividades comunitarias relacionadas que se llevan a cabo, tales como el manejo de viveros forestales, aprovechamiento de incentivos establecidos por el MAE, etc.

10. Promoción del Autodesarrollo

Disminuir paulatinamente el apoyo económico en la entrega de insumos, materiales y equipos a las comunidades, con el fin de eliminar la costumbre de recibir permanentemente recursos del Estado y organismos internacionales (paternalismo), mediante la capacitación en temas de emprendimiento y autonomía, administrativos y económicos.

11. Afianzar la Sostenibilidad

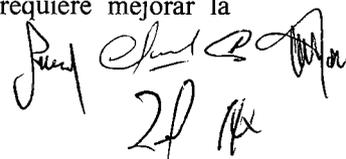
Reforzar en alcance y frecuencia, la capacitación a las comunidades beneficiarias en el fortalecimiento organizacional, con el fin de lograr su fortalecimiento estructural para asegurar que el proyecto sea sostenible y perdure luego de terminar la cooperación de Japón.

12. Revisión del plan de acción del Proyecto

En base a las sugerencias de la Evaluación Intermedia, se necesitará hacer una reformulación del PO (Plan Operativo) del Proyecto.

13. Fortalecimiento de la Coordinación y Articulación Interinstitucional

Con el propósito de fortalecer la coordinación y articulación interinstitucional, se requiere mejorar la

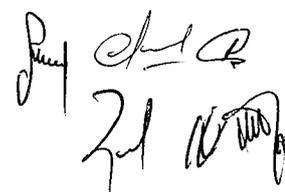


comunicación con los procesos descentralizados de los ministerios involucrados. Complementariamente, se sugiere definir efectivos mecanismos de comunicación interna en cada ministerio, en relación a este Proyecto.

ANEXO I: MATRIZ DE DISEÑO DEL PROYECTO (PDM) Versión 3

ANEXO II: INFORME DE EVALUACIÓN INTERMEDIA CONJUNTA

ANEXO III: ESTRATEGIA DE APOYO AL DESARROLLO RURAL INTEGRAL SOSTENIBLE

A handwritten signature in black ink, consisting of several stylized, cursive letters and symbols, located in the bottom right corner of the page.

Matriz de Diseño de Proyecto (PDM)

(Ver.3) 29/09/2014

Título del Proyecto : “Desarrollo Rural Integral Sostenible en la Provincia de Chimborazo”
 Duración del Proyecto : 14 de Marzo de 2012 ~ 13 de Marzo de 2017 (5 años)
 Área Objeto : Áreas Rurales en la Provincia de Chimborazo
 Área del Proyecto : 30 comunidades de 4 cantonas seleccionados en la Provincia de Chimborazo Comunitario
 Instituciones Ejecutoras : Gobierno Autónomo Descentralizado de la Provincia de Chimborazo (GADPCH), Ministerio de Agricultura, Ganadería, Acuacultura y Pesca (MAGAP), Ministerio del Ambiente (MAE), Ministerio de Educación (MINEDUC) y Ministerio de Salud Pública (MSP)
 Beneficiarios Directos (Áreas del Proyecto Comunitario) : Población de 30 comunidades en los 4 cantones seleccionados
 Beneficiarios Indirectos (Áreas de Extensión) : Población rural en la Provincia de Chimborazo

Resumen del Proyecto	Indicadores	Medios de Verificación	Condiciones Externas
<p>Propósito Superior</p> <p>Mejorar la calidad de vida en las áreas rurales de la Provincia de Chimborazo.</p>	<p>1. En las áreas de extensión aparecerán familias que mejoren sus ingresos y entorno de vida, mediante la aplicación de técnicas y conocimientos impartidos por el Proyecto, por la articulación interinstitucional entre el gobierno provincial, los gobiernos cantonales y parroquiales, así como con los ministerios involucrados.</p>	<p>1. Estudio de situación actual</p>	
<p>Propósito del Proyecto</p> <p>Se han mejorado los ingresos y el entorno de vida de la población que vive en las áreas del Proyecto Comunitario, y se ha fortalecido la estructura para mejorar la calidad de vida en las áreas de extensión.</p>	<p>1. En más de 50 % de las familias participantes, en más de 15 comunidades de las áreas de Proyecto Comunitario, incrementarán sus ingresos en un 30% por actividades en la comunidad, mediante la adquisición y aplicación de los conocimientos y técnicas básicas sobre el mejoramiento de los ingresos.</p> <p>1. Más de 50% de las familias participantes en más de 15 comunidades de las áreas del Proyecto Comunitario incrementarán su satisfacción sobre el entorno de vida.</p> <p>2. El Documento de Lineamientos para el establecimiento del sistema y metodologías del Desarrollo Rural Integral Sostenible en las áreas de extensión serán acordadas por las instituciones involucradas en el Proyecto (Nota1) y la estructura administrativa será</p>	<p>1. Estudio de situación actual</p> <p>2. Estudio de situación actual</p> <p>3. Documento de Lineamientos y documentos oficiales del gobierno provincial</p>	<p>1. No se empeora notablemente la economía del área de cooperación.</p>

<p>Resultados</p> <p>1. Los agricultores en las áreas del Proyecto Comunitario han adquirido y aplicado conocimientos básicos - técnicas sobre el mejoramiento de los ingresos (Nota 2).</p>	<p>fortalecida de acuerdo con dichos lineamientos.</p> <p>1.1 Más de 50% de las familias participantes en más de 15 comunidades en las áreas del Proyecto Comunitario adquirirán y aplicarán conocimientos y técnicas básicas sobre el mejoramiento de los ingresos.</p>	<p>1. Estudio de situación actual y registro de actividades del Proyecto</p>	<p>1. No existe cambio político en las instituciones involucradas.</p>
<p>2. En las áreas del Proyecto Comunitario, las familias participantes han adquirido y aplicado conocimientos y técnicas básicas sobre el mejoramiento del entorno de vida (Nota 3).</p>	<p>2.1 Más de 50% de los participantes capacitados, en más de 15 comunidades de las áreas del Proyecto Comunitario, aplicarán los conocimientos y técnicas básicas sobre mejoramiento del entorno de vida.</p>	<p>1. Estudio de situación actual y registro de actividades de las instituciones involucradas</p>	
<p>3. Se ha fortalecido la capacidad de los talentos humanos de las instituciones involucradas sobre el desarrollo participativo para el Desarrollo Rural Integral Sostenible.</p>	<p>3.1 Más de 80% de los funcionarios, técnicos y promotores dedicados al desarrollo rural participarán en capacitaciones del desarrollo participativo.</p> <p>3.2 Los técnicos y promotores capacitados en cursos del desarrollo participativo, estarán aplicando los conocimientos y técnicas adquiridas en el manejo del Proyecto Comunitario en más de 15 comunidades de las áreas del Proyecto Comunitario.</p>	<p>1. Registro de asistencia al curso 2. Registro de actividades y estudio de situación actual</p>	
<p>4. Se ha fortalecido la articulación entre las instituciones involucradas para el Desarrollo Rural Integral Sostenible.</p>	<p>4.1 Serán creadas y fortalecidas las Unidades de Apoyo Técnico con sus roles bien definidos y se realizarán las actividades de desarrollo rural por las instituciones involucradas, en forma transversal, con la orientación técnica de estas Unidades.</p> <p>4.2 Serán establecidos los procedimientos necesarios para lograr la articulación entre las instituciones involucradas y se estructurará la Red de Transferencia Técnica, según dichos procedimientos.</p>	<p>1. Organigrama estructural y funcional y, registro de actividades 2. Convenios de Delegación de Competencia del Fomento Productivo y otros y, registro de las actividades del Proyecto</p>	
<p>5. Se ha elaborado los lineamientos que plantean el sistema y metodología orientada al Desarrollo Rural Integral Sostenible.</p>	<p>5.1 Será elaborado el Documento de Lineamientos en el cual se reflejan las experiencias y lecciones aprendidas de las actividades realizadas dentro de las áreas del Proyecto Comunitario.</p> <p>5.2. Se presentará el Documento de Lineamientos elaborado, a cada una de las instituciones involucradas.</p>	<p>1 Documento de Lineamientos (Guía) presentada 2. El Documento de Lineamientos (Guía)</p>	

<p>Actividades</p> <p>1-1 Seleccionar el área del Proyecto Comunitario y realizar la encuesta de línea de base para el área.</p> <p>1-2 Reforzar las capacidades de los técnicos y promotores referentes a las actividades de mejoramiento de los ingresos (Nota 2).</p> <p>1-3 Organizar al grupo de agricultores y facilitar la planificación e implementación de capacitaciones destinadas al mejoramiento de los ingresos.</p> <p>1-4 Facilitar la planificación e implementación de las actividades del grupo de agricultores para mejorar de los ingresos en base a los resultados de la capacitación implementada.</p> <p>1-5 Facilitar el monitoreo y la evaluación periódica de las actividades del grupo de agricultores sobre</p>	<p>Aportes</p> <p>1. Parte japonesa</p> <ul style="list-style-type: none"> - Expertos de Largo Plazo <ul style="list-style-type: none"> 1) Jefe Asesor / Desarrollo Rural Integral Sostenible 2) Coordinador / Desarrollo Participativo 3) Comercialización de productos agrícolas/Generación de Ingresos 4) Extensión tecnológica de agricultura sostenible - Expertos de Corto Plazo <ul style="list-style-type: none"> 1) Conservación del Suelo y el Agua, Mejoramiento de la Calidad de Vida y otros - Consultores regionales y expertos de terceros países - Provisión de Maquinaria y Equipamiento. <ul style="list-style-type: none"> Equipamiento para la recuperación y conservación de suelos, Vehículos (para la movilización entre comunidades), Equipos para la oficina del Proyecto (copiadora, computadora y otros), pequeñas inversiones para sistemas de riego y otros. 	<p>1. No se producen desastres naturales o condiciones climáticas extremas en las áreas de cooperación</p>
---	--	--

Handwritten signatures and initials, including a signature with the number 3 below it.

<p>mejoramiento de de los ingresos.</p> <p>2-1 En base al aprovechamiento de los servicios públicos de las instituciones involucradas, planificar e implementar la capacitación dirigida al grupo de agricultores sobre el mejoramiento del entorno de vida</p> <p>2-2 Facilitar al grupo de agricultores la implementación de actividades diseñadas para el mejoramiento del entorno de vida en base a los resultados de la capacitación realizada.</p> <p>2-3 Facilitar al grupo de agricultores monitoreo y evaluaciones periódicas de las actividades diseñadas para el mejoramiento del entorno de vida, para su mejoramiento.</p> <p>3-1 Planificar e implementar la capacitación sobre el ciclo de desarrollo participativo (identificación de necesidades, planificación, ejecución, monitoreo-evaluación, retroalimentación) y los medios (Asociatividad, herramientas referentes al mejoramiento del entorno de vida y otros) destinadas al Desarrollo Rural Integral Sostenible para fortalecer la capacidad de los técnicos y promotores de las instituciones involucradas (incluida la elaboración de manuales y otros).</p> <p>3-2 Aplicar los conocimientos y las experiencias adquiridos referentes al desarrollo participativo en las actividades del Proyecto Comunitario.</p> <p>4-1 Crear las Unidades de Apoyo Técnico entre las instituciones involucradas y verificar su relevancia y eficacia.</p> <p>4-2 Constituir la Red de Transferencia Técnica entre las instituciones involucradas con la iniciativa de GADPCH y verificar su relevancia y eficacia.</p>	<ul style="list-style-type: none">• Capacitación de Contrapartes en Japón o en tercer(os) país(es):<ol style="list-style-type: none">1) Capacitación en Japón (mejoramiento de la calidad de vida y otras áreas)2) Capacitación en otro(s) país(es) (mejoramiento de la calidad de vida, generación de ingresos y otras áreas relacionadas)3) Intercambio tecnológico con proyectos similares en Bolivia y Perú.• Presupuesto operativo para el Proyecto Comunitario (este presupuesto será reducido a 0% para el final del período de implementación del Proyecto)• Seminarios, talleres, material didáctico para el plan de aprendizaje participativo de los agricultores, estudios conducidos por firmas consultoras locales, desarrollo de manuales y otros bienes de consumo <p>2. Parte ecuatoriana</p> <ul style="list-style-type: none">• Director del Proyecto• Administrador del Proyecto• Personal del Proyecto (funcionarios del GADPCH, de los GAD de las 4 canotones y de las direcciones provinciales de los Ministerios que pertenecen a varios sectores: Agricultura, Ambiente, Educación y Salud Pública)• Presupuesto (Costos operativos, costos de implementación del Proyecto Comunitario y otros)• Oficina del Proyecto (en el GADPCH, incluyendo mobiliario, materiales y servicios básicos, teléfono y conexión a Internet)• Personal de apoyo• Vehículos(s) para el Proyecto	<p>Precondición</p> <ol style="list-style-type: none">1. Se garantiza la seguridad pública en el área de cooperación.2. No hay un cambio frecuente de personal participantes de las instituciones contrapartes.
---	--	---



<p>4-3 Poner en marcha la red de transferencia técnica con el aporte de las Unidades de Apoyo Técnico y realizar las actividades articuladas con las instituciones involucradas para el desarrollo rural.</p> <p>5-1 Preparar la estructura tentativa del Documento de Lineamientos que plantee el sistema y metodologías para el Desarrollo Rural Integral Sostenible.</p> <p>5-2 Elaborar un borrador preliminar del Documento de Lineamientos, mediante las actividades realizadas en las áreas del Proyecto Comunitario.</p> <p>5-3 Continuar las actividades en las áreas del Proyecto Comunitario de acuerdo al borrador preliminar y completar el borrador final de este documento, en base a los resultados de las actividades realizadas y comentarios de las instituciones involucradas.</p> <p>5-4 Elaborar instructivos, reglamentos y ordenanzas provinciales necesarios para establecer la estructura de implementación mostrada en el borrador final de los Documentos de Lineamientos</p>		
---	--	--

Nota1: "Instituciones involucradas" se refieren al GADPCH, Ministerios involucrados, Gobiernos cantonales y parroquiales.

Nota2: "Mejoramiento de los ingresos" se compone por incremento de productividad agropecuaria, mejoramiento de gestión agropecuario, comercialización, y generación de fuentes de ingresos.

Nota3: "Entorno de vida" se refiere a salud e higiene, hábitos alimentarios, entorno ambiental y bienestar familiar.

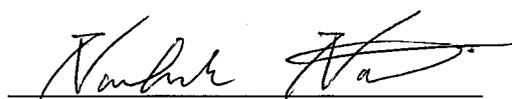
Handwritten signatures and initials:
NW
2-1
5

República del Ecuador

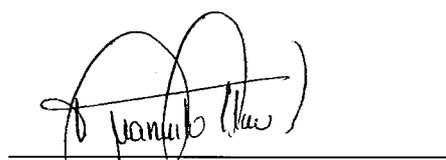
Proyecto del Desarrollo Rural Integral Sostenible en la Provincia de Chimborazo

Informe de la Evaluación Intermedia

26 de septiembre de 2014



Dr. Narihida Nagayo
Líder del Equipo de Evaluación
Intermedia,
Parte Japonesa
Agencia de Cooperación Internacional
del Japón (JICA)



Licda. Tránsito Lluco
Líder del Equipo de Evaluación
Intermedia,
Parte Ecuatoriana
Viceprefecta de la Provincia de
Chimborazo

Contenido

Cuadro de Abreviaturas	2
Capítulo 1. Información general de la Evaluación Intermedia	3
1-1 Objetivos de la Evaluación Intermedia.....	3
1-2 Miembros del Equipo de Evaluación Intermedia Conjunta	3
1-3 Programa de la Evaluación	4
1-4 Metodología de la Evaluación Intermedia	4
Capítulo 2. Información General del Proyecto	5
2-1 Antecedentes	5
2-2 Resumen del Proyecto	6
Capítulo 3. Resultados de la implementación del Proyecto	7
3-1 Resultados de los Insumos.....	7
3-2 Resultados obtenidos.....	9
3-3 Perspectivas para alcanzar el Propósito del Proyecto.....	38
3-4 Verificación del proceso de implementación.....	39
Capítulo 4. Resultados de la Evaluación.....	48
4-1 Pertinencia	48
4-2 Eficacia.....	50
4-3 Eficiencia.....	52
4-4 Impacto.....	55
4-5 Sostenibilidad.....	56
4-6 Conclusiones	58
Capítulo 5. Recomendaciones	59

Anexos

- 1: Cronograma de la Misión de Evaluación Intermedia
- 2: PDM ver.2
- 3: Resultado de la Asignación de Expertos de JICA
- 4: Resultado de la Capacitación en Japón
- 5: Provisión de Equipos y Materiales por JICA
- 6: Gastos locales asumidos por la parte japonesa
- 7: Resultado de la Asignación de personal de Contraparte por la parte ecuatoriana
- 8: Gastos asumidos por la parte ecuatoriana



Cuadro de Abreviaturas

Abreviatura	Inglés / Español
C/P	Contraparte
CCC	Comité de Coordinación Conjunta
COOTAD	Código Orgánico de Ordenamiento Territorial, Autonomía y Descentralización
COP	Comité Operativo del Proyecto
CORPOPURUWA	Corporación de Productores de Leguminosas y Guranos Andinos del Pueblo Puruwa Chimborazo
DPA	Desarrollo Participativo y Asociatividad
ESDRUC	Escuela de Desarrollo Rural Comunal Comunitario
FAO	Food and Agriculture Organization of United Nations / Organización de las Naciones Unidas para la Alimentación y Alimento Agricultura
GAD	Gobierno Autónomo Descentralizado
GADPCH	Gobierno Autónomo Descentralizado de la Provincia de Chimborazo
IEPARC	Incremento de Los Ingresos Económicos de Los Pequeños Productores Agrarios en La Región Cajamarca
INIAP	Instituto Nacional de Investigaciones Agropecuarias
JICA	Japan International Cooperation Agency / Agencia de Cooperación Internacional del Japón
MAEEA	Ministerio del Ambiente
MAGAP	Ministerio de Agricultura, Ganadería, Acuacultura y Pesca
MINEDUC	Ministerio de Educación
MSP	Ministerio de Salud Pública
OJT	On The Job Training / Capacitación a través del Trabajo Entrenamiento en la Práctica
PCM	Project Cycle Management / Manejo de Ciclo del Proyecto
PDM	Project Design Matrix / Matriz del Diseño de Proyecto
PDOT	Plan de Desarrollo y Ordenamiento Territorial
PMSK	Abreviatura en Kichwa del proyecto Minka Sumak Kawsay, y en español Proyecto de del “Fortalecimiento Estructural del Desarrollo Rural Integral Sostenible para la Reducción de la Pobreza en la Provincia de Chimborazo de la República del Ecuador” y “Desarrollo Rural Integral Sostenible en la Provincia de Chimborazo”.
PO	Plan Operativo
PRORRICAT	Proyecto de Reactivación del Proyecto de Riego y Drenaje de la Cuenca del Río Catarama
AR/D	Record of Discussion / Acta Registro de Discusiones
SETECI	Secretaría Técnica de Cooperación Internacional
UDRI	Unidad de Desarrollo Rural Integral
WFP / PMA	World Food Program / Programa Mundial de Alimentos

Capítulo 1. Información general de la Evaluación Intermedia

1-1 Objetivos de la Evaluación Intermedia

El Proyecto de Desarrollo Rural Integral Sostenible en la Provincia de Chimborazo” (en adelante el Proyecto), es un proyecto de Cooperación Técnica de cinco años de duración, iniciado en marzo de 2012. Al haber transcurrido dos años y medio desde esa fecha, actualmente se encuentra en la mitad de su período de implementación y por ello la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (JICA) envió una Misión de Estudio de Evaluación Intermedia, que llevó a cabo la Evaluación Intermedia conjuntamente con las instituciones ejecutoras y entidades involucradas de la parte ecuatoriana. La presente Evaluación se realizó con el objetivo de constatar el estado de avance y el proceso de implementación del Proyecto, verificar el grado de cumplimiento de las metas y objetivos, y a través del análisis por medio de los Cinco Criterios de Evaluación, estudiar los temas por resolver y la dirección que debe seguir en lo que resta de su período, para luego resumir el Estudio en el Informe de Evaluación Intermedia Conjunta y llegar a un consenso entre los involucrados de las partes ecuatoriana y japonesa.

1-2 Miembros del Equipo de Evaluación Intermedia Conjunta

(1) Miembros evaluadores de la parte japonesa

Función	Nombre y Apellido	Cargo / Entidad
Jefe de la Misión	Dr. Narihido Nagayo	Asesor Senior, JICA
Planificación de la Cooperación	Sr. Ryosuke Murakami	Oficial del Departamento de Desarrollo Rural, JICA
Análisis de la evaluación	Sr. Hirohisa Ohmori	Asociación Japonesa para Colaboración Internacional de Agricultura y Silvicultura
Traductor	Sr. Yoshimi Sugano	Centro de Cooperación Internacional de Japón

(2) Miembros evaluadores de la parte ecuatoriana

Función	Nombre y Apellido	Cargo / Entidad
Representante de los miembros evaluadores	Licda. Tránsito Lluco	Viceprefecta de la Provincia de Chimborazo
Miembro evaluador	Ing. Pablo Erazo	Analista de la Coordinación General de Planificación, MAGAP
Miembro evaluador	Eco. Sandra Cuenca	Analista de la Dirección de Preinversión y Cooperación Nacional e Internacional-CGP-MAGAP
Miembro evaluador	Ing. Paulina Japón	Técnica de la Dirección Nacional Forestal, MAE
Miembro evaluador	Ing. Erika Benavides Orellana.	Analista de Seguimiento y Evaluación, SETECI

1-3 Programa de la Evaluación

El presente Estudio de Evaluación Intermedia se llevó a cabo durante el período del 9 de septiembre al 26 de septiembre de 2014. Ver los detalles del Programa en el Anexo 1: Programa de la Evaluación.

1-4 Metodología de la Evaluación Intermedia

La Evaluación Intermedia se realizó siguiendo los Lineamientos de la JICA para la Evaluación de Proyectos y de acuerdo al método del Ciclo de Manejo del Proyecto (CMP). La Matriz de Diseño del Proyecto (MDP) utilizada como base es la Versión 02, modificada el 26 de febrero del 2013 (Ver el Anexo 2: MDP). El proceso de la Evaluación es como se indica a continuación:

- 1) Verificar y acordar entre los involucrados, el diseño de la evaluación.
- 2) Recopilar los datos e información necesarios.
- 3) Verificar el estado de avance y el proceso de implementación del Proyecto.
- 4) Realizar el análisis por medio de los Cinco Criterios de Evaluación.
- 5) Estudiar los temas por resolver, recogidos de los resultados del análisis, y la dirección que se tomará en adelante.
- 6) Elaborar el Informe de la Evaluación Intermedia Conjunta y llegar a un consenso entre las partes ecuatoriana y japonesa.

La recopilación de los datos e información necesarios se realizó con el método indicado a continuación:

Método de la Evaluación	Fuente de Información
Revisión de documentos	<ul style="list-style-type: none">• Informe de Estudio de Planificación Detallada, Registro de Discusiones (R/D), Informes de Avance del Proyecto, Informe de Estudio de línea de base, otros documentos elaborados por el Proyecto• Otros materiales y textos relacionados
Entrevistas	<ul style="list-style-type: none">• Instituciones Ejecutoras de la parte ecuatoriana (Gobierno Autónomo de Chimborazo, MAGAP, MAE, MINEDUC y MSP) Expertos japoneses• Productores agrícolas en las áreas del Proyecto Comunitario• Otros involucrados.
Visitas de campo	<ul style="list-style-type: none">• Cantón Colta: San Martín Alto, Columbe 1 y 2, San Bernardo*, Uacona Grande*• Cantón Riobamba: Shilpala, Rumicruz*• Cantón Guamote: Sarachupa, S.F. de Bishud, San Pablo de Tipín, Chismaute Alto, Jatumpamba, Cooperativa Corpopuruwa• Cantón Alausi: Pueblo Viejo*, La Pacífica*, Alcaldía de Alausi*

* Comunidades visitadas en conjunto por los miembros evaluadores de la parte ecuatoriana y japonesa.

La información recopilada fue analizada según los “Cinco Criterios de Evaluación”. Son los criterios de evaluación de la asistencia para el desarrollo propuestos en el Comité de Asistencia para el Desarrollo de la Organización para la Cooperación y el Desarrollo Económico (OCDE-CAD) en el año 1991 y constan de los siguientes ítems:

5 Criterios	Puntos de vista
Pertinencia	Nivel de coherencia entre la asistencia para el desarrollo y las políticas, lineamientos y prioridades de los grupos meta, país receptor o donante.
Eficacia	Parámetro para medir el nivel de cumplimiento de los objetivos de la asistencia para el desarrollo.
Eficiencia	Se miden cuantitativa y cualitativamente los resultados (outputs) en comparación con los insumos (inputs). Es un término económico que se usa para mostrar que la asistencia para el desarrollo ha utilizado los recursos menos costosos para obtener los resultados esperados. Con el propósito de verificar que se haya tomado el proceso más eficaz, normalmente se necesita hacer la comparación con otros métodos de enfoque.
Impacto	Se refiere a los cambios positivos o negativos que se generan con o sin intención, directa o indirectamente, por la asistencia para el desarrollo. Incluye la influencia y efectos principales que genera la asistencia para el desarrollo en los indicadores del desarrollo de la sociedad local, economía, medio ambiente, entre otros.
Sostenibilidad	Se analiza si siguen los beneficios obtenidos por la asistencia para el desarrollo aún después de terminar la asistencia por el donante. La asistencia para el desarrollo debe ser sostenible en aspectos ambientales y financieros.

Fuente: Nuevo Lineamientos de la JICA para la Evaluación de Proyectos (Junio de 2010)

Capítulo 2. Información General del Proyecto

2-1 Antecedentes

La Provincia de Chimborazo en Ecuador se sitúa en el centro de la región sierra con una población de 458.000 habitantes. Esta provincia tiene serios problemas de pobreza dentro de las 10 provincias de la Región, debido a los bajos ingresos agrícolas que son los principales ingresos para vivir, las malas condiciones del entorno para la vida cotidiana por falta de servicios de educación y salud de buena calidad así como la infraestructura básica, y además existe el deterioro de los recursos naturales (desolación de las cuencas hidrográficas, erosión del suelo, etc. debido a la explotación forestal excesiva).

Se necesita la preparación de una estrategia del desarrollo a mediano y largo plazo destinada al desarrollo integral de diversos aspectos para solucionar estos problemas complejos. En respuesta a la solicitud presentada por el Gobierno del Ecuador, JICA había ejecutado el Proyecto “Fortalecimiento Estructural del Desarrollo Rural Integral Sostenible para la Reducción de la Pobreza en la Provincia

de Chimborazo de la República del Ecuador (Proyecto PMSK Primera Fase)” desde febrero de 2009 hasta agosto de 2011 con el propósito de estructurar un sistema organizativo para la ejecución de desarrollo rural integral sostenible tipo participativo para reducir la pobreza. Mediante la ejecución del Proyecto, se estableció la “Estrategia del Desarrollo Rural Integral Sostenible en la Provincia de Chimborazo” y se elaboró el plan de desarrollo conforme a dicha estrategia.

Además, se reconocieron los siguientes temas en el Proyecto. 1) la necesidad de preparar e implementar un plan correspondiente a la realidad dentro del marco de la Estrategia mencionada, identificando los problemas que enfrentan los habitantes de cada comunidad, para llevar a cabo la Estrategia en forma sostenible, 2) la necesidad de promover la comprensión y colaboración de los habitantes sobre el mejoramiento del entorno de vida y de los ingresos económicos a través de la formación de sus propias iniciativas y esfuerzos de ayuda propia de los habitantes y también sobre el desarrollo participativo impulsado por los planes territoriales, y 3) la necesidad de fortalecer un sistema de ejecución mediante la articulación y coordinación entre las instituciones administrativas involucradas de diversos sectores y también fortalecer las capacidades de las instituciones involucradas para el análisis de problemas y la planificación e implementación de planes para ejecutar adecuadamente la estrategia del desarrollo integral.

En tales situaciones, el Gobierno del Ecuador solicitó al Gobierno de Japón la ejecución del nuevo proyecto posterior para abordar los temas mencionados. JICA llevó a cabo el Estudio para la Elaboración del Plan Detallado desde el día 14 de julio hasta el día 4 de agosto de 2011 para verificar la necesidad del proyecto y justificar la solicitud. Como resultado del Estudio, se acordó el marco básico del proyecto y se firmó el acuerdo de ejecución en el día 7 de diciembre de 2011.

Así comenzó el proyecto del “Desarrollo Rural Integral Sostenible en la Provincia de Chimborazo” (en adelante “Proyecto”, y la abreviatura “PMSK” en los dibujos y cuadros también se refiere al presente Proyecto) con el propósito de establecer una base de implementación de actividades del desarrollo para el mejoramiento de los ingresos y del entorno de vida por un período previsto de 5 años desde marzo de 2012 hasta marzo de 2017 con las instituciones contrapartes (en adelante “C/P”), tales como el Gobierno Autónomo Descentralizado de la Provincia de Chimborazo (en adelante “GADPCH”), el Ministerio de Agricultura, Ganadería, Acuacultura y Pesca (en adelante “MAGAP”), el Ministerio de Ambiente (en adelante “MAE”), el Ministerio de Educación (en adelante “MINEDUC”) y el Ministerio de Salud Pública (en adelante “MSP”).

2-2 Resumen del Proyecto

La información general del Proyecto es como sigue:

Cuadro 1: Resumen del Proyecto

Período del Proyecto	5 años, desde el 14 de marzo de 2012 hasta el 13 de marzo de 2017
Instituciones Ejecutoras	GADPCH, MAGAP, MAE, MINEDUC y MSP

Área del Proyecto Comunitario	30 comunidades en 4 cantones en la Provincia de Chimborazo (Número de las familias enfocadas para la asistencia: 776 familias)
Actividades enfocadas	Mejoramiento de los ingresos, el mejoramiento del entorno de vida y el establecimiento de la estructura organizativa de implementación
Propósito Superior	Mejorar la calidad de vida en las áreas rurales de la Provincia de Chimborazo.
Propósito del Proyecto	Se mejoran los ingresos y el entorno de vida de la población que vive en las áreas del Proyecto Comunitario, y se establece la estructura para las actividades destinadas a la mejora de la calidad de vida en las áreas de extensión.
Resultados	<ol style="list-style-type: none"> 1. Los agricultores en las áreas del Proyecto Comunitario adquieren y aplican conocimientos básicos - técnicas sobre el mejoramiento de los ingresos. 2. Las familias participantes adquieren y aplican los conocimientos básicos - técnicas sobre el mejoramiento del entorno de vida (áreas de ambiente, salud, y educación). 3. Se fortalece la capacidad de los talentos humanos de las instituciones involucradas sobre el desarrollo participativo para el Desarrollo Rural Integral Sostenible 4. Se fortalece la articulación entre las instituciones involucradas para el Desarrollo Rural Integral Sostenible. 5. Se elabora la guía que plantea el sistema y metodología del Desarrollo Rural Integral Sostenible.

Capítulo 3. Resultados de la implementación del Proyecto

3-1 Resultados de los Insumos

3-1-1 Insumos de la parte japonesa

(1) Asignación de Expertos

Como se indica en el cuadro 2, desde el inicio del Proyecto hasta finales de agosto de 2014, se han asignado 6 expertos en los siguientes rubros. Ver los detalles en el Anexo 3: Resultados de la Asignación de Expertos de JICA.

Cuadro 2: Resultados de la Asignación de Expertos

No.	Cargo	Período de envío		Asignación hecha y prevista				
		Inicio	Fin	2012	2013	2014	2015	2016
1	Jefe Asesor / Experto en Desarrollo Rural Sostenible	14 marzo 2012	8 marzo 2015	→ → → → →				
2	Coordinador / Experto en Desarrollo Participativo	30 mayo 2012	29 mayo 2015	→ → → → →				

3	1er año: Gestión Agrícola 2do y 3er año: Difusión de Tecnología Agrícola Sostenible	25 abril 2012	26 feb. 2015	→	→	→						
4	1er año: Generación de Ingresos/Comercialización 2do año: Generación de Ingresos / Comercialización de Productos Agrícolas	18 abril 2012	8 mayo 2014	→	→							
5	Conservación de suelo y agua	9 nov. 2012	19 feb. 2013	→								
6	Conservación de suelo y agua	30 junio 2014	26 agosto 2014					→				

(2) Capacitaciones en Japón

Como se indica en el cuadro siguiente, se llevaron a cabo 2 capacitaciones en Japón y una capacitación en Perú y participaron un total de 11 personas de la contraparte. Ver los detalles en el Anexo 4: Resultados de la Capacitación en Japón.

Cuadro 3: Resultados de las Capacitaciones en Japón

Capacitación	Nombre del curso asistido	Duración	Nº
Primera Capacitación en Japón	Seminario "Desarrollo de áreas rurales mediante el mejoramiento de vida"	20. enero 2013 – 2 febrero 2013 (14 días)	1 persona
Segunda Capacitación en Japón	Desarrollo Económico Regional Endógeno Utilizando Recursos Locales en los Países de América Central y del Sur	13 feb.2013 – 16 marzo 2013 (32días)	1 persona
Tercera Capacitación en el Perú	Capacitación del Desarrollo Rural Integral Sostenible para los/las Contrapartes del Proyecto "Manejo Participativo de Agricultura Sostenible y los Recursos Naturales en el Perú"	9 julio 2013– 16 de julio. 2013 (8días)	9 personas

(3) Provisión de Equipos y Materiales

Se proveyeron vehículos (2 camionetas, 1 jeep, 2 furgonetas), 4 azadones mecánicos, 6 moto cultivadoras, 2 miniexcavadoras, equipos de oficina como computadoras e impresoras, equivalentes en total a 322,858.72 dólares americanos. Ver los detalles en el Anexo 5: Provisión de Equipos y Materiales.

(4) Gastos locales de JICA

En la implementación del Proyecto, hasta finales de junio de 2014, JICA ha desembolsado el total de US\$ 365,231.87 bajo el concepto de gastos locales que incluyen la contratación de personal y consultores locales, gestión de la Oficina del Proyecto y de Escuelas de Campo de Agricultores, etc. Ver los detalles en el Anexo 6: Gastos locales asumidos por la parte japonesa

3-1-2 Insumos de la parte ecuatoriana

(1) Asignación de personal de Contraparte

A finales de agosto de 2014, está asignado el personal de Contraparte por cada institución ejecutora como se indica en el cuadro siguiente. Ver los detalles en el Anexo 7: Resultados de la Asignación de personal de Contraparte por la parte ecuatoriana.

Cuadro 4: Personal de Contraparte Asignada (finales de agosto en 2014)

Instituciones	Número de personas
GADPCH	19
MAGAP	3
MAE	2
MSP	2
MINEDUC	4
Total	30

(2) Instalaciones

Están proporcionadas las siguientes instalaciones: oficina del Proyecto, estacionamiento y bodega, como se indica en el siguiente cuadro. En la oficina del Proyecto están instalados los teléfonos con la conexión a internet. El GADPCH asume los gastos de luz y agua.

Cuadro 5: Lista de Oficinas e Instalaciones Proporcionados por la parte ecuatoriana

Oferente	Tipo de instalaciones	Superficie
GADPCH	Oficina	118 m ²
GADPCH	Estacionamiento	Para 7 vehículos
GADPCH	2 Bodegas	16 m ² y 18 m ²

Nota: en los talleres, están estacionados 2 furgonetas, 2 excavadoras y 10 moto-cultivadoras.

(3) Gastos operativos

El GADPCH ha aportado como gastos operativos el monto total equivalente a 901,656.81 dólares americanos (incluyendo los gastos del personal de Contraparte) hasta finales de julio de 2014. Ver los detalles en el Anexo 8: Gastos asumidos por la parte ecuatoriana.

3-2 Resultados obtenidos

(1) Resultado 1: Los agricultores en las áreas del Proyecto Comunitario han adquirido y aplicado

conocimientos básicos - técnicas sobre el mejoramiento de los ingresos.

Se seleccionaron las 30 comunidades en 4 cantones indicados en el cuadro 6, como áreas del Proyecto Comunitario, según el criterio de la selección elaborado en el Proyecto. La población total de las 30 comunidades enfocadas para el Proyecto Comunitario es de 12,278 habitantes y el número total de familias serán de 2,233, puesto que el promedio de miembros por familia es de 5.5 personas. Al 15 por ciento aproximadamente de dicha población, o sea, 352 personas y a los 30 líderes de las comunidades, fue realizada la encuesta de línea base sobre la producción agropecuaria, la creación de fuentes de ingresos, el medio ambiente, la salud y la educación para identificar las condiciones reales de los agricultores de las comunidades enfocadas. El número de los beneficiarios directos del Proyecto, es decir, el número de las familias objeto de la asistencia es de 776 familias (4,300 personas aproximadamente).

Posteriormente se elaboró un plan de capacitación para el mejoramiento de los ingresos según las necesidades de los agricultores y se realizó la capacitación a los grupos de agricultores formados por los participantes en las escuelas de campo (ESDRUC). Para analizar el resultado de las capacitaciones, se realizaron el monitoreo y evaluación tipo participativo.

El cuadro 7 muestra los temas abordados en las capacitaciones sobre el mejoramiento de los ingresos realizadas en cada comunidad durante el período entre octubre de 2013 y julio de 2014. Con el apoyo prestado por el MAGAP, casi todos los agricultores que participaron en las capacitaciones están llevando a cabo la conservación del suelo con la construcción de terrazas, zanjas de infiltración y zanjas de desviación de agua, el mejoramiento de técnicas de cultivo y la diversificación de cultivo.

Las parcelas comunales de la ESDRUC se utilizan para demostrar y difundir las técnicas del cultivo. Por ejemplo, en caso de hacer un cultivo de variedades mejoradas en las parcelas comunales, se entregan sus semillas a todos los participantes. Primeramente en las parcelas se enseñan a los participantes unas técnicas nuevas del cultivo con las semillas de variedades mejoradas y posteriormente los participantes realizan el cultivo con las semillas recibidas y las técnicas aprendidas en sus parcelas individuales. Según se observó en el estudio de campo, los participantes de la ESDRUC están aplicando en sus parcelas, las técnicas de mejoramiento de los ingresos aprendidas en las capacitaciones.

Para la generación de ingresos, hubo asesoramiento sobre la cría del cuy de raza mejorada, faenamiento y venta de su carne, la comercialización de chocho y cebada con valor agregado, entre otros. Además ya están formados los fondos comunes dentro de las 20 comunidades. Los fondos comunes provienen principalmente de las ganancias, que son producto de la venta realizada en las actividades de generación de los ingresos y de los depósitos de pequeños montos, de algunos participantes. Dichos fondos se destinan para comprar equipos y materiales agrícolas de uso común y también para ampliar sus emprendimientos.

Previo o paralelamente a las capacitaciones para los agricultores, se ejecutaron capacitaciones a los técnicos y promotores de las instituciones involucradas para el fortalecimiento de sus

capacidades sobre el mejoramiento de ingresos. El cuadro 8 muestra las capacitaciones realizadas sobre el mejoramiento de ingresos.

El cuadro 9 indica el grado actual de cumplimiento en el momento de Evaluación Intermedio del Proyecto con respecto al indicador del Resultado 1. Se puede decir que están logrando el Resultado 1 sin contratiempos.



Cuadro 6: Comunidades enfocadas para el Proyecto Comunitario (2014)

Cantón		Comunidad	Altitud (m)	Población
Alausí	1	La Pacífica	3,312m	450
	2	La Merced (Tixán)	3,472m	700
	3	Pueblo Viejo	2,742m	900
	4	Pachagsí	3,157m	750
Guamote	5	Atapo Santa Cruz	3,329m	840
	6	Sarachupa	3,329m	230
	7	San Pablo de Tipín	3,237m	144
	8	San Francisco de Bishud	3,319m	945
	9	Chismaute Alto	3,619m	1200
	10	San Lorenzo de Telan	3,478m	358
	11	Jatunpamba	3,750m	400
	12	Sancahuan Tiocajas	3.284m	82
	13	San Vicente de Tipín	3.574m	116
	14	Achullay	3.545m	120
	15	San Martín Alto	3,383m	300
Colta	16	La Merced (Columbe)	3,184m	600
	17	Columbe lote 1 y 2	3,404m	800
	18	Columbe lote 3 y 4	3,460m	500
	19	Cashapamba	3,292m	240
	20	San Bernardo	3,267m	530
	21	Huacona Grande	3,477m	100
	22	Canal Huacona	3,340m	130
	23	El Lirio	3,480m	600
	24	Rumiloma	3,550m	120
	25	San Guisel Alto	3,700m	80
	26	Balda Lupaxi	3,157m	180
	27	Llin Llin	3,237m	303
Riobamba	28	Rumicruz	3,271m	340
	29	San Miguel de Quera	3,494m	120
	30	Shipalá	3,330m	100
		Total		12,278

Cuadro 7: Avance de Actividades por Comunidad sobre el Mejoramiento de Ingresos

	Comunidades	Número de participantes	Producción agropecuaria							
			Implementación de base de producción	Mejoramiento de tecnología de cultivo			Diversificación de cultivos	Manejo de banco de semillas	Cría de los especies menores	Capacitaciones
			a) Construcción de terraza b) Construcción de zanjas de infiltración c) Construcción de zanjas de desviación d) Construcción de reservorios e) Rehabilitación de reservorios existentes f) Está en investigación o planificación	a) Introducción de semillas mejoradas b) Producción de semillas mejoradas propias	c) Cultivos en curvas de nivel d) Introducción de rotación de cultivo	e) Introducción de abonos orgánicos f) Humus de lombriz g) BOKASHI	Cultivos: a) Papa b) Haba c) Cebada d) Trigo e) Chocho f) Arveja g) Quinua h) Maíz i) Pastos j) Hortalizas de hojas k) Lenteja	Establecimiento de banco de semillas de: a) Papa b) Haba c) Cebada d) Chocho	a) Mejoramiento en el manejo de especies menores -cuy -gallona	a) Taller sobre técnicas para sacar muestra de tierra para análisis químico b) Manejo de cultivos (papa, haba, cebada, trigo, chocho, arveja, quinua, maíz) c) Seminarios y Gira de observación en cultivo de chocho
1	La Pacifica	25	b), c), d)	⊙	⊙		a), b), c), d), e), i), k)	⊙	a)	⊙
2	La Merced (Tixán)	21	d), e)	⊙	⊙	f)	a), b), c), e), i)	⊙	a), b)	⊙
3	Pueblo Viejo	31	f)	⊙	⊙	e)	a), b), c), h), i)	a), d)	a)	⊙
4	Pachagsi	27	f)	⊙	⊙	g)	a), c), d), e), f), i)	a), c), d),	a)	b)
5	Atapo Santa Cruz	17		⊙	⊙		a), b), c), f)	a), d)	a)	⊙
6	Sarachupa	22		⊙	⊙	⊙	c), d), e), f), h), i), j)	d)	a)	⊙
7	San Pablo de Tipín	22		⊙	⊙		c), d), e), f),	c) d)	a), b)	⊙

							i)			
8	San Francisco de Bishud	18		⊙	⊙		a), c), d), e), f), i)	c), d)	a)	⊙
9	Chismaute Alto	36		⊙	⊙	f)	a), b), c), i)	a), c)	a), b)	⊙
10	San Lorenzo de Telan	27		⊙	⊙	f)	a), b), c), i), f)	a)	a), b)	⊙
11	Jatunpamba	38		⊙	⊙	e), f)	a), b), c), i)	a), f)	a), b)	⊙
12	Sancahuan Tiocajas	15		a)			c), d), e), f), i)			b)
13	San Vicente de Tipín	25		a)			a), b), c), d), e), i)		a), b)	b)
14	Achullay	21		a)			a), b), c)		a)	b)
15	San Martin Alto	22		⊙	⊙		a), b), c), g), i)	a)	a)	⊙
16	La Merced (Columbe)	44		⊙	⊙		a), b), c), i)	a)	a)	⊙
17	Columbe lote 1 y 2	50		⊙	⊙		a), b), c), g), i)	a)	a)	⊙
18	Columbe lote 3 y 4	32		⊙	⊙		a), b), c), g), i)	a)	a)	⊙
19	Cashapamba	19		⊙	⊙		a), b), c), g), i)	a)	a), b)	⊙
20	San Bernardo	41	a), d)	⊙	⊙		a), b), c), g), h), i)	a)	a), b)	⊙
21	Huacona Grande	27	a), b), c), d)	⊙	⊙		a), b), c), i)	a)	a)	⊙
22	Canal Huacona	7		⊙	⊙	e)	a), b), c)	a)	a)	⊙
23	El Lirio	26		⊙	⊙	e)	a), b), c), i)	a)	a), b)	⊙
24	Rumiloma	14		⊙	⊙	e)	a), b), c), i), j)	a)	a), b)	⊙
25	San Guisel Alto	27		⊙			a), b), c), i)			
26	Balda Lupaxi	30		⊙		f)	a), b), c), i)		a)	
27	Llin Llin	37		⊙						

28	Rumicruz	21	d)	⊙	⊙	e)	a), b), c), i)	a)	a), b)	⊙
29	San Miguel de Quera	14		⊙	⊙		a), b), c), i)	a), d)	a)	⊙
30	Shilpala	20		⊙			b), c), d), e), i)		a)	b)

	Comunidades	Número de participantes	Comercialización de productos agropecuarias/Generación de ingresos				
			Ampliación de mercado	Valor Agregado	Generación de nuevas fuentes de ingresos	Capacitación	Fondo común
			a) Feria b) Venta bajo pedido c) Venta a las tiendas o instituciones	a) Clasificación b) Medición de peso c) Venta asociativa d) Mejoramiento en conservación y empacamiento e) Venta de cuy y gallina procesados	a) Procesamiento de Chocho b) Producción de abono c) Procesamiento de cebada d) Venta de queso con valor agregado e) Venta de cuy y gallinas procesados f) Pan de cebada g) Papas en sacos h) Huevos	a) Contabilidad básica b) Fondo común c) Procesamiento de especies menores d) Tratamiento de post-cosecha e) Ampliación de mercado f) Generación de nuevas fuentes de ingresos	a) Manejo de fondo común
1	La Pacifica	25		a), b), c), d)		a), b), d)	⊙
2	La Merced (Tixán)	21	c)	a), b), c), d)		a), b), d)	⊙
3	Pueblo Viejo	31	⊙	⊙	d), e)	⊙	⊙
4	Pachagsi	27	a)	a), b), c), d)		a), b)	⊙
5	Atapo Santa Cruz	17	a), c)	a), b), c), d)		a), b), c), d), e)	⊙
6	Sarachupa	22	⊙	⊙	a), e), f)	⊙	⊙
7	San Pablo de Tipín	22	⊙	⊙	a), e)	⊙	⊙
8	San Francisco de Bishud	18	a), c)	⊙	a)	⊙	⊙

9	Chismaute Alto	36	c)	a), b), c), d)		a), b), d), e)	⊙
10	San Lorenzo de Telan	27	⊙	⊙	e)	⊙	⊙
11	Jatunpamba	38	b)	⊙	e), g)	a), b), c), d), e)	⊙
12	Sancahuan Tiocajas	15					
13	San Vicente de Tipín	25	a)			a), b)	⊙
14	Achullay	21	a)			⊙	⊙
15	San Martin Alto	22	a)	a), b), c), d)		a), b), d), e)	⊙
16	La Merced (Columbe)	44				a), b), d), e)	⊙
17	Columbe lote 1 y 2	50	⊙	a), b), c), d)	e)	a), b), c), d), e)	⊙
18	Columbe lote 3 y 4	32	⊙	a), b), c), d)	e)	a), b), c), d), e)	⊙
19	Cashapamba	19	⊙	⊙	e)	⊙	⊙
20	San Bernardo	41	⊙	⊙	e)	⊙	⊙
21	Huacona Grande	27	c)	⊙	d), e)	⊙	⊙
22	Canal Huacona	7	c)	a), b), c), d)	e)	a), b), d), e)	⊙
23	El Lirio	26	⊙	⊙	e), h)	⊙	⊙
24	Rumiloma	14	⊙	⊙	d), e), f)	⊙	⊙
25	San Guisel Alto	27				a), b)	⊙
26	Balda Lupaxi	30	a)	a), b)		⊙	⊙
27	Llin Llin	37					
28	Rumicruz	21	⊙	⊙	b), e)	⊙	⊙
29	San Miguel de Quera	14	⊙	a), b), c), d)		a), b), d), e)	⊙
30	Shilpala	20					

Nota ⊙: Se ha ejecutado o está en ejecución todas las actividades

a),b),c),.....: Se ha ejecutado o está en ejecución las actividades indicadas en las celdas de arriba

Handwritten marks:
A large stylized signature or mark on the left side of the page.

Cuadro 8: Capacitaciones para el Personal del Proyecto sobre el Mejoramiento de Ingresos

Año	Nombre del curso	Contenido del curso	Facilitadores	Fecha	Duración	# de participantes	Dirigido a:
2012	Capacitación tecnológica de práctica de la agricultura integral	La capacitación consistió en la visita de parcela de un agricultor quien realiza agricultura integral en el cantón Guamote y práctica de tecnología de agricultura integral guiada por el mismo agricultor (elaboración de insumos orgánicos, manejo de especies menores, cultivo de hortalizas, control biológico de plagas, etc.).	Sr. César Ayol (Agricultor colaborador)	2012.9.17,18	2 días	7 participantes	Promotores del Proyecto
2012	Seminario sobre tecnología de comercialización asociativa por las asociaciones de los agricultores	Capacitación sobre tecnología de venta y comercialización asociativa de los pequeños agricultores en base a los casos ejemplares de otros países latinoamericanos o Japón.	Toshiaki Kurihara (Experto)	2012.10.26	1 día	23 participantes	Promotores de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH
2012	Capacitación sobre manejo de moto-cultivador y azadón mecánico	Se implementó en la pendiente de la comunidad Rumiloma para practicar la manipulación del moto-cultivador y azadón mecánico, los mismos que habían sido introducidos en el marco de mecanización de la agricultura.	Operadores de proveedores de las maquinas como: Solo, Husqvarna	2012.11.15	1 día	Alrededor de 50 participantes	Promotores del Proyecto, moradores de la comunidad Rumiloma
2012	Capacitación de manejo de abonado de parcela de papa, cebada y trigo	Capacitación sobre tecnología de manejo de abonado de parcelas de papa, cebada y trigo, los que son productos relevantes en la zona sierra.	Investigadores de INIAP	2012.11.29	1 día	20 participantes	Agricultores participantes del Proyecto, Promotores y técnicos del Proyecto, Promotores del MAGAP
2012-2013	(Contabilidad) Seminario conjunto sobre contabilidad básica y fondo común	Se implementó dirigido a los moradores de 28 comunidades objetivas del Proyecto. Se tomó la forma de taller de trabajo para capacitar sobre registro y manejo de contabilidad básica y la importancia de establecimiento de fondo común y el proceso del mismo.	Técnicos y promotores del Proyecto, Takeshi Iwase (Experto)	2013.01.20-2013.12.01	3 días en cada comunidad	400 participantes	Participantes del Proyecto en las comunidades respectivas
2012	Tratamiento de pos cosecha de los productos agrícolas y manejo del cuy	1) Tecnología de tratamiento de pos cosecha de los productos agrícolas y la importancia del tratamiento 2) Manejo de cría de cuy	Investigadores de INIAP	2013.1.31	1 día	30 participantes	Agricultores participantes del Proyecto, Promotores y técnicos del Proyecto, Promotores del MAGAP
2013-2014	(Agregación de valor) Capacitación sobre tratamiento de pos cosecha	Se implementó dirigido a los moradores de 22 comunidades objetivas del Proyecto. Se orientó en los sitios respectivos sobre los puntos importantes de cada proceso de tratamiento de pos cosecha (Clasificación, empacamiento, almacenamiento, etc.).	Técnicos y promotores del Proyecto, Takeshi Iwase (Experto)	2013.04.01-2014.04.30	3 días en cada comunidad	300 participantes	Participantes del Proyecto en las comunidades respectivas
2013-2014	(Agregación de valor) Capacitación de venta asociativa	Se implementó dirigido a los moradores de 22 comunidades objetivas del Proyecto. Se orientó individualmente la condición necesaria para realizar venta asociativa (Logística, empacamiento, negociación con los compradores, etc.).	Técnicos y promotores del Proyecto, Takeshi Iwase (Experto)	2013.04.01-2014.04.30	3 días en cada comunidad	200 participantes	Participantes del Proyecto en las comunidades respectivas

2013-2014	(Agregación de valor) Taller de trabajo de procesamiento de cuy y pollo	Se implementó dirigido a los moradores de 20 comunidades objetivas del Proyecto. Tuvo forma de taller de trabajo en cada comunidad capacitando sobre procesamiento de cuy y pollo los cuales se crían en las comunidades.	Técnicos y promotores del Proyecto, Takeshi Iwase (Experto)	2013.04.01-2014.04.30	3 días en cada comunidad	300 participantes	Participantes del Proyecto en las comunidades respectivas
2013	(Generación de fuentes de ingreso) Taller de trabajo asociativo sobre producción de pan	Se dirigió a los moradores de tres comunidades intervenidas por el Proyecto. Tuvo forma de taller de trabajo en comunidad a comunidad sobre fabricación de pan utilizando como ingrediente el Chocho, como una forma de dar valor agregado.	Técnicos y promotores del Proyecto, Takeshi Iwase (Experto)	2013.06.01-12.01	3 días en cada comunidad	60 participantes	Participantes del Proyecto en las comunidades respectivas
2013 2014	Taller de trabajo sobre "Agricultura integral" en el marco de metodología de desarrollo rural participativo, dirigido a los facilitadores	En este taller se capacita sobre la tecnología de diversificación de cultivos, agricultura familiar, agricultura amigable al ambiente, agricultura integral, huerto familiar, BPA, insumos orgánicos, cultivado y consumido localmente, etc., aprovechando el material didáctico "Agricultura Integral".	Unidad de Desarrollo Participativo, Toshiaki Kurihara (Experto)	(Se implementa continuamente en cada comunidad)	1 día	62 participantes	Miembros de la unidad de DPA, Promotores del Proyecto, Técnicos de la Coordinación de Gestión Social del GADPCH, Técnicos del MAGAP y del MAE
2013	Capacitación en Granos Andinos	1) Importancia de Granos Andinos en el aspecto de alimentación y gestión agrícola de los agricultores, 2) Importancia de semillas de calidad, 3) Producción de semillas de calidad de granos andinos, 4) Resultado de orientación técnica de cultivo de Chocho en le ESDRUC.	Investigadores de la INIAP, Técnico encargado de registro de semilla en el MAGAP, Representante de la Asociación de productores de semilla andina, Promotores encargados del Proyecto, Harunobu Inoue (Experto)	2013.8.16	1 día	70 participantes	Agricultores participantes del Proyecto, Promotores y técnicos del Proyecto, Promotores del MAGAP
2013-2014	Taller de trabajo sobre "Agricultura integral" en el marco de metodología de desarrollo rural participativo, dirigido a los agricultores	En este taller se capacita sobre la tecnología de diversificación de cultivos, agricultura familiar, agricultura amigable al ambiente, agricultura integral, huerto familiar, BPA, insumos orgánicos, cultivado y consumido localmente, etc., aprovechando el material didáctico "Agricultura Integral".	Promotores del GADPCH (Proyecto y Coordinaciones relacionadas), del MAGAP, del MAE	2013.8.19-(Se implementa continuamente en cada comunidad)	1 día	1089 participantes	Agricultores de las comunidades (incluye las comunidades no objetivas del Proyecto)
2013	(Generación de fuentes de ingreso) Seminario conjunto sobre generación de fuentes de ingreso	Se celebró conjuntamente con un proyecto implementado por el gobierno de Canadá. Se ejecutó con el objetivo de mejorar las tecnologías de los técnicos contrapartes a través de teórica y taller de trabajo.	Técnicos del Proyecto, Técnicos de institución gubernamental de Canadá, Takeshi Iwase (Experto)	2013.09.17	1 día	40 participantes	Técnicos y promotores del Proyecto, promotores del proyecto del gobierno de Canadá, etc.

2013	(Agregación de valor) Capacitación de control de higiene	Se realizó para los agricultores de dos comunidades intervenidas por el Proyecto. Se indicaron sobre la importancia de control de higiene y puntos a cuidar.	Técnicos y promotores del Proyecto, Takeshi Iwase (Experto)	2013.09.30-2013.12.01	3 días en cada comunidad	40 participantes	Participantes del Proyecto en las comunidades respectivas
2013	(Generación de fuentes de ingreso) Gira de observación de una comunidad modelo sobre generación de ingresos	La gira tiene como objetivo que los contrapartes adquieren conocimientos de comercialización asociativa y generación de fuentes de ingreso. Esta visita fue realizado en una comunidad llamada Salinas que es reconocido por su desarrollo autónomo, y incluyó las charlas y visita a las fábricas.	Técnicos de las empresas comunitarias	2014.02.13	1 día	20 participantes	Técnicos y promotores del PMSK, Técnicos del Proyecto de Banco Mundial, Técnicos del MAGAP

Cuadro 9: Estado de Cumplimiento del Indicador del Resultado 1 en el momento de la Evaluación Intermedia

Indicador	Estado de cumplimiento
1.1 Más de 50% de las familias participantes en las áreas del Proyecto Comunitario adquirirán y aplicarán conocimientos - técnicas sobre el mejoramiento de los ingresos.	1-1: Según se observó en el estudio de campo, los participantes de la ESDRUC en las comunidades enfocadas para el Proyecto Comunitario están aplicando a sus parcelas las técnicas aprendidas sobre el mejoramiento de los ingresos .

NOTA.- No es posible determinar un porcentaje de cumplimiento, debido a que todavía no se ha establecido un sistema de monitoreo cuantitativo.

(2) Resultado 2: Las familias participantes han adquirido y aplicado conocimientos básicos - técnicas sobre el mejoramiento del entorno de vida (áreas de ambiente, salud, y educación).

Se elaboró el plan de capacitaciones sobre el mejoramiento del entorno de vida de acuerdo a las necesidades de los agricultores identificadas mediante la encuesta de línea de base y la observación directa por las visitas a cada comunidad y teniendo en cuenta los servicios públicos de las instituciones involucradas. Se ejecutaron las actividades y capacitaciones sobre el mejoramiento del entorno de vida para los grupos de agricultores. Para analizar los resultados de las actividades, se realizaron el monitoreo y evaluación tipo participativo.

Se ejecutaron asesoramientos de los distintos sectores en colaboración con las instituciones correspondientes, tales como la conservación de agua y suelo (reforestación y conservación del suelo) y la educación ambiental (conservación de Páramo, asesoramiento de agro-forestación y disposición de desechos) en el sector ambiental con MAE; la salud preventiva y el mejoramiento de la nutrición en el sector de la salud con MSP; y los huertos escolares en el sector de la educación con MINEDUC. En adelante está previsto realizar un asesoramiento sobre las actividades de mejoramiento de vida, aprovechando las experiencias del Japón.

Según el “Código Orgánico de Organización Territorial, Autonomía y Descentralización” que fue promulgado en el 19 de octubre de 2010, la salud y la educación son competencias del Estado Nacional y los gobiernos provinciales no pueden ejercer sus influencias sobre ellas.

Debido a que el MSP tiene la obligación de prestar los servicios de salud a todo el pueblo ecuatoriano, ha venido esforzándose por facilitar el acceso a los servicios de salud en las comunidades enfocadas en el Proyecto. Las actividades de este propósito se consideran como parte del trabajo propio del MSP, pero al mismo tiempo contribuyen al mejoramiento del entorno de vida en el Proyecto. Los casos concretos son las capacitaciones realizadas sobre la promoción del acceso al servicio público de salud, la planificación familiar, la educación sexual, la violencia intrafamiliar, la salud materno-infantil, la promoción de los nutrientes con alto contenido de hierro, para infantes, el mejoramiento de la nutrición usando alimentos andinos, la práctica de la sanidad alimentaria, el control de calidad de agua en el hogar, la disposición apropiada de excrementos, entre otros.

Se había considerado la alfabetización como un parte de la esfera de educación en el comienzo del Proyecto, pero no se realizó por falta de la disponibilidad del sistema organizativo del MINEDUC para la implementación de alfabetización y la motivación de la asistencia a la alfabetización por parte de los ancianos y mujeres que ocupan la mayor parte de la población rural. Los huertos escolares se han implementado en las escuelas de 16 comunidades.

El cuadro 10 muestra qué tipos de actividades fueron realizadas para el mejoramiento del entorno de vida y qué tipos de capacitaciones sobre el fortalecimiento de la estructura en cada comunidad desde octubre de 2013 hasta julio de 2014.

Antes de iniciar las capacitaciones a los agricultores o paralelo a ellas, se habían hecho otras a los técnicos y promotores de las instituciones involucradas sobre el mejoramiento del entorno de vida. El cuadro 11 muestra las capacitaciones realizadas sobre el mejoramiento de entorno de vida.

El cuadro 12 muestra el grado de cumplimiento del Resultado 2 con respecto a sus indicadores en el punto intermedio del Proyecto. Se puede decir que están logrando el Resultado 2 sin contratiempos, si no se incluye la ejecución de la alfabetización.

Cuadro 10: Avance de Actividades por Comunidad sobre el Mejoramiento del Entorno de Vida y el Desarrollo Participativo

	Comunidades	Se ha mejorado el entorno de vida					Se ha fortalecido la estructura				
		Ambiente		Salud		Educación		Desarrollo participativo			
		Conservación de agua y suelos	Educación ambiental	Salud preventiva	Nutrición	Alfabetización	Huerto escolar	Asociatividad	Capacitación sobre desarrollo participativo	Administración participativa	
		a) Capacitación de reforestación b) Implementación de reforestación c) Instalación de viveros para reforestación d) Instalación de sistema de captación de agua	a) Capacitación sobre protección del ambiente (sobre protección de páramos y agroforestería) b) Capacitación de tratamiento de desechos sólidos (clasificación, 3R)	a) Implementación de capacitación de salud preventiva Contenido principal: -Conocimiento básico de salud preventiva -Mejoramiento de higiene, costumbre de lavar manos -Control higiénico de alimentación -Prevención de enfermedades relacionadas con el estilo de vida	a) Capacitación sobre mejoramiento de nutrición Contenido principal: -Mejoramiento de nutrición de maternidad -Mejoramiento de nutrición de los ancianos	a) Curso de post-alfabetización	a) Instalación y manejo de huertos escolares Productos principales introducidos: Brócoli, zanahoria, papa nabo, remolacha, col, lechuga, acelga, cilantro	a) Establecer el grupo de agricultores b) Elaboración de normativas c) Establecer comité administrativo	Capacitación a los agricultores con metodologías de desarrollo participativa utilizando materiales didácticos a) Asociatividad b) Agricultura integral c) Manejo Comunitario de los Recursos Naturales d) Manejo Participativo de Proyectos Comunitarios	a) Diagnóstico y Planificación participativos b) Evaluación participativa c) Selección de promotores comunitarios	
1	La Pacifica	a), b)	a)	⊙	⊙		⊙	⊙	a), b)	⊙	
2	La Merced (Tixán)	a), b)	a)	⊙	⊙		⊙	⊙	a), b), c)	⊙	
3	Pueblo Viejo	a), b)	a)	⊙	⊙		⊙	⊙	a), b)	⊙	
4	Pachagsi	a), b)	a)				⊙	⊙	a), b)	⊙	
5	Atapo Santa Cruz	a), b)	a)	⊙	⊙			⊙	a), b)	⊙	
6	Sarachupa	a), b)	a)	⊙	⊙		⊙	⊙	a), b), c)	⊙	
7	San Pablo de Tipín	a), b)	a)	⊙	⊙			⊙	a), b), c)	⊙	

NV
D

8	San Francisco de Bishud	a), b)	a)	⊙	⊙			⊙	a), b), c)	⊙
9	Chismaute Alto	a), b)	a)	⊙	⊙			⊙	a), b), c)	⊙
10	San Lorenzo de Telan	a), b)	a)	⊙	⊙			⊙	a), b)	⊙
11	Jatunpamba	a), b)	a)	⊙	⊙			⊙	a), b)	⊙
12	Sancahuan Tiocajas		a)					⊙	c)	
13	San Vicente de Tipín							⊙	a), b), c)	
14	Achullay							⊙	a), b), c)	
15	San Martin Alto	a), b)	a)	⊙	⊙			⊙	a), b), c)	⊙
16	La Merced (Columbe)	a), b)	a)	⊙	⊙	a)		⊙	a), b)	⊙
17	Columbe lote 1 y 2	a), b)	a)	⊙	⊙	⊙		⊙	a), b)	⊙
18	Columbe lote 3 y 4	a), b)	a)	⊙	⊙	⊙		⊙	a), b), c)	⊙
19	Cashapamba	a), b)	a)	⊙	⊙			⊙	a), b), c)	⊙
20	San Bernardo	a), b), d)	a)	⊙	⊙	⊙		⊙	a), b)	⊙
21	Huacona Grande	a), b), d)	a)	⊙	⊙			⊙	a)	⊙
22	Canal Huacona	a), b)	a)	⊙	⊙			⊙	a), b), c)	⊙
23	El Lirio	a), b)	a)	⊙	⊙			⊙	a), b), c)	⊙
24	Rumiloma	a), b)	a)	⊙	⊙			⊙	a), b), c)	⊙
25	San Guisel Alto							⊙	a), b), c)	
26	Balda Lupaxi	a), b)						⊙	a), b), c)	
27	Llin Llin							⊙	a), b)	
28	Rumicruz	a), b)	a)	⊙	⊙			⊙	a), b)	⊙
29	San Miguel de Quera	a), b)	a)	⊙	⊙			⊙	a), b), c)	⊙
30	Shilpala							⊙	a), b), c)	

Nota ⊙: Se ha ejecutado o está en ejecución todas las actividades

a),b),c),.....: Se ha ejecutado o está en ejecución las actividades indicadas en las celdas de arriba

**Cuadro 11: Capacitaciones realizadas para el Personal del Proyecto
sobre el Mejoramiento del Entorno de Vida**

Año	Nombre del curso	Contenido del curso	Facilitadores	Fecha	Duración	# de participantes	Dirigido a:
2012	Capacitación de tecnología de forestación y agroforestería	Se realizó la práctica de forestación utilizando las variedades de árboles tradicionales representadas en la parcela comunitaria de la comunidad Rumicruz, luego de dar indicación teórica sobre tecnología básica de forestación y agroforestería, dirigiendo a los promotores y representantes de agricultores. Esta capacitación se implementó teniendo como objetivo fortalecer las actividades en este tema.	Técnicos de la Coordinación de Gestión Ambiental del GADPCH, Técnicos del Proyecto, Técnicos del MAE, Técnicos de la FAO.	2012.10.18	1 día	33 participantes	Promotores del Proyecto, Moradores de la comunidad objetiva del Proyecto
2012	Seminario de conservación de ambiente junto con los GADPCH, MAE y MAGAP	Se implementó con la intención de fortalecer los proyectos de conservación de medio ambiente a través de intercambio de información y opinión sobre el estado actual y pronóstico de las actividades de conservación de medio ambiente, siendo como objetivos los técnicos de las instituciones involucrados, representantes de los agricultores y universitarios.	Coordinador de la Gestión Ambiental del GADPCH, Técnicos del MAE, Técnicos del MAGAP, Kiyoshi Hirozumi (Experto)	2013.2.7	1 día	42 participantes	Promotores del Proyecto, Técnicos de la Coordinación de Gestión Ambiental del GADPCH, del MAE y del MAGAP, Estudiantes de la ESPOCH
2013	Capacitación de conservación de agua y suelo bajo colaboración de coordinación de gestión ambiental del GADPCH	Se implementó en la parcela comunitaria de la comunidad Huacona Grande, con el objetivo de capacitar sobre tecnología de conservación de suelo y agua (cultivos en contorno) para la formación de parcela modelo amigable al ambiente en los pendientes. En esta oportunidad se observó participación de agricultores de otras comunidades no solo de las comunidades intervenidas por el Proyecto.	Coordinador de la Coordinación de Gestión Ambiental, Técnicos del MAE, Técnicos del Proyecto	2013.5.3	1 día	35 participantes	Promotores del Proyecto, Técnicos de la Gestión Ambiental del GADPCH, Técnicos del MAE, agricultores de las comunidades objetivas del Proyecto
2013	Capacitación de tecnología de agricultura de conservación y de forestación con colaboración del MAE	Se implementó en la parcela comunitaria de la comunidad Huacona Grande, con el objetivo de capacitar sobre agricultura de conservación y manejo de forestación para la formación de parcela modelo amigable al ambiente en los pendientes.	Técnicos de la Gestión Ambiental del GADPCH, técnicos del Proyecto, técnicos del MAE	2013.12.13	1 día	24 participantes	Promotores del Proyecto, técnicos de la Gestión Ambiental del GADPCH, técnicos del MAE, agricultores de las comunidades objetivas del Proyecto

2013 2014	Taller de trabajo sobre "Manejo Comunitario de los Recursos Naturales" en el marco de metodología de desarrollo rural participativo, dirigido a los facilitadores	En este taller se capacita sobre la importancia de manejo de recursos naturales, manejo forestal, conservación de agua y suelo, 3R, tecnología agrícola amigable al ambiente, manejo participativo de recursos naturales, metodología de diagnóstico, metodología de planificación participativa, etc., aprovechando el material didáctico "Manejo Comunitario de los Recursos Naturales".	Unidad de Desarrollo Participativo, Toshiaki Kurihara (Experto)	2014.1.16- (Se implementa continuamente en cada comunidad)	1 día	62 participantes	Miembros de la unidad de DPA, Promotores del Proyecto, Técnicos de la Coordinación de Gestión Social del GADPCH, Técnicos del MAGAP y del MAE.
2013 2014	Taller de trabajo sobre "Manejo Comunitario de los Recursos Naturales" en el marco de metodología de desarrollo rural participativo, dirigido a los agricultores	En este taller se capacita sobre la importancia de manejo de recursos naturales, manejo forestal, conservación de agua y suelo, 3R, tecnología agrícola amigable al ambiente, manejo participativo de recursos naturales, metodología de diagnóstico, metodología de planificación participativa, etc., aprovechando el material didáctico "Manejo Comunitario de los Recursos Naturales".	Promotores del GADPCH (de Proyecto y de Coordinaciones relacionadas), del MAGAP y del MAE	2014.3.25- (Se implementa continuamente en cada comunidad)	1 día	1117 participantes	Agricultores de las comunidades (incluye las comunidades no objetivas del Proyecto), universitarios de la ESPOCH (Facultad de Recursos Naturales) etc.

Cuadro 12: Estado de Cumplimiento de los Indicadores del Resultado 2 en el momento de la Evaluación Intermedia

Indicadores	Estado de cumplimiento
2.1 Más de 50% de los participantes en las capacitaciones en las áreas del Proyecto Comunitario aplicarán los conocimientos - técnicas sobre la conservación ambiental.	2-1: Según se observa en el estudio de campo, los participantes de la ESDRUC practican alguna tecnología de la conservación ambiental en sus parcelas.
2.2 Más de 50% de los participantes en las áreas del Proyecto Comunitario adquirirán y aplicarán los conocimientos - técnicas sobre la salud preventiva.	2-2: Según se observa en el estudio de campo, los participantes de la ESDRUC practican alguna técnica aprendida en la capacitación de la salud preventiva en sus casas.
2.3 Más de 50% de los participantes en las áreas del Proyecto Comunitario aplicarán los conocimientos - técnicas sobre el mejoramiento de la alimentación y nutrición.	2-3: Según se observa en el estudio de campo, los participantes de la ESDRUC practican alguna técnica aprendida en la capacitación del mejoramiento de la nutrición en sus casas.
2.4 Más de 50% de personas en las áreas del Proyecto Comunitario participarán en cursos de alfabetización y de	2-4: La alfabetización no se ha ejecutado debido a la condición incompleta de la estructura de implementación y la falta de la motivación de los

pos-alfabetización.	agricultores.
---------------------	---------------

NOTA.- No es posible determinar un porcentaje de cumplimiento, debido a que todavía no se ha establecido un sistema de monitoreo cuantitativo.

(3) Resultado 3: Se ha fortalecido la capacidad de los talentos humanos de las instituciones involucradas sobre el desarrollo participativo para el Desarrollo Rural Integral Sostenible.

El cuadro 13 es el registro de las capacitaciones en el área de desarrollo participativo. La tasa de participación en la capacitación sobre la asociatividad por parte del personal y promotores de las instituciones ejecutoras e involucradas, fue del 100%. La tasa de participación en la capacitación sobre la agricultura integral fue del 97%. La tasa de participación en la capacitación sobre el manejo comunitario de recursos naturales fue del 96%. La tasa de participación en la capacitación sobre el manejo participativo de proyecto comunitario alcanzó el 92%.

Como se ha mencionado, el cuadro 10 muestra qué tipos de capacitaciones fueron realizadas para el mejoramiento del entorno de vida y el desarrollo participativo en cada comunidad desde octubre de 2013 hasta julio de 2014. El cuadro 14 muestra cómo se han desarrollado las actividades en el área del desarrollo participativo y la asociatividad en cada comunidad.

El cuadro 15 muestra las capacitaciones realizadas sobre el desarrollo participativo para el personal del Proyecto y agricultores. El cuadro 16 muestra el grado de cumplimiento del Resultado 3 respecto a sus indicadores.

Fueron realizadas las capacitaciones sobre el desarrollo participativo para los funcionarios y promotores de las instituciones ejecutoras y otras instituciones involucradas y los funcionarios, técnicos y promotores capacitados han venido aplicando los conocimientos y técnicas aprendidas a las actividades de las comunidades. Se puede decir que están logrando el Resultado 3 sin contratiempos.

Cuadro13: Registro de las Capacitaciones sobre el Desarrollo Rural Participativo
(Marzo de 2013 a julio de 2014)

Tema	Asociatividad (R1) (De Mar. 2013)	Agricultura Integral (R2) (De Jul. 2013)	Manejo Comunitario de Recursos Naturales (R3) (De Ene. 2014)	Manejo Participativo de Proyecto Comunitario
Técnicos y funcionarios de apoyos institucionales (Capacitación por la Unidad DPA)				
Unidad de DPA (Realización/Listado)	10/10	7/7	7/7	5/5
CP de PMSK, GADPCH (Realización/Listado)	29/29	24/25	16/17	17/19
<i>% de participación (Para indicador del PDM)</i>	100%	97%	96%	92%
Otros gestiones de GADPCH	37	7	2	
MAGAP	16	12	7	
MAE	20	14	15	
Otros instituciones de apoyo	0	0	0	
Participante Total	112	64	47	
Participantes de las comunidades (Capacitación por los promotores)				
Participantes de PMSK	691/782 (31/31cmd.)	574/724 (28/31cmd.)	575/674 (30/31cmd.)	
<i>% de participación (Para indicador del PDM)</i>	88%	79%	85%	
Participantes de MAGAP	526	412	148	
Participantes de MAE	428	125	403	
Participantes de otros gestiones en GADPCH	355	0	0	
Otros (Alumnos, etc)	0	0	57	
Participante Total	2000	1111	1183	
Elaborado por la Unidad de Desarrollo Participativo y Asociatividad (DPA) en fin de Julio 2014				

Cuadro 14: Registro de las Actividades Realizadas para el Desarrollo Participativo y Asociatividad
(2012 – 2014)

Comunidad	Promotor/a responsable	Socialización de organización	Convencios con Cabildo	Selección de Participantes	Selección de Directiva	Elaboración de Reglamento	Creación de Fondo Común	Selección de Promotor local	Capacitación Rotafolio 1	Capacitación Rotafolio 2	Capacitación Rotafolio 3	Planificación Participativa	Monitoreo Participativo	Evaluación Participativa	Producción Asociada	Vivero Comunal	Comercialización Asociada	Cria Asociada de Cuy	Cria Asociada Pollo o gallina	Huerto Escolar	Agroforestería Asociada	Día de campo Participativo	
A PARTIR DE OCT 2012														(2013)									
1. La Pacifica	Jorge G.	X	X	X 20	X	X		X 4	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X		X	X	
2. La Merced (Tixan)	Samuel G.	X	X	X 20	X	X	X	X 4	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X	X	X	X	
3. Pueblo Viejo	Jaime C	X	X	X 31 (20,11)	X	X	X	X 4	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X	
4. Atapo Santa cruz	J.Carlos G	X	X	X 17	X	X		X 3	X	X	X		X	X	X		X						
6. Sarachupa	Alfredo M	X	X	X 21	X		X	X 2	X	X	X	X		X	X		X	X		X	X	X	
7. S. F. de Bishud	Alfredo M	X	X	X 20	X	X	X	X 5	X	X	X	X	X	X	X (Semilla)		X	X		X	X	X	
8. San Pablo de Tipín	Alfredo M	X	X	X 20	X	X	X	X 5	X	X	X	X	X	X	X (Semilla)		X	X	X	X		X	
10. Chismaute Alto	Rubén A.	X	X	X 35	X	X	X	X 6	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	
11. S. L. de Telán	Nidia R.	X	X	X 30	X	X	X	X 5	X	X	X	X		X	X		X	X				X	
12. Jatunpamba	Alfredo M	X	X	X 36	X	X	X	X 6	X	X	X	X	X	X	X (Semilla)		X	X	X		X	X	
14. San Martín Alto	Jorge G.	X	X	X 20	X	X		X 4	X	X	X	X		X	X	X	X						
15. La Merced (Colta)	Nidia R.	X	X	A16, B24	X	A.X, B.	X	X 4	A.X, B.X	A.X, B.	X	X	X	X	X		X	X		X		X	
16. Columbe 1 y 2	J.Carlos G	X	X	A.25, B.25	X	X	X	X 5	X	A.X, B.X	X	X		X	X	X	X	X	X	X		X	

17. Columbe 3 y 4	Ramón C.	X	X	X 30	X	X	X	X 5	X	X	X	X		X	X		X	X		X	X	X
18. Cashapamba	Jorge G.	X	X	X 22	X	X	X	X 1	X	X	X	X	X	X	X		X	X	X		X	X
19. San Bernardo	Jaime C	X	X	A.21, B.20	X	X	X	X 4	X	X	X			X	X		X	X	X	X		X
20. Guacona Grande	Jaime C	X	X	X 27	X	X	X	X 4	X				X	X	X		X	X	X		X	X
21. Canal Guacona	Ana Y.	X	X	X 7	X	X	X	X 1	X	X	X	X		X	X		X	X				
22. El Lirio	Samuel G.	X	X	X 27	X	X	X	X 6	X		X	X		X	X		X	X	X	X		
23. Rumiloma	Nidia R.	X	X	X 14	X	X	X	X 2	X	X	X	X		X	X		X	X	X			X
26. Rumicruz	Jaime C	X	X	X 22	X		X		X	X				X	X (Semilla)	X	X	X	X		X	X
28. San Miguel de Quera	Ana Y.	X	X	X 13	X	X	X		X	X	X	X		X	X		X					
A PARTIR DE OCT 2013																						
31. Santa Teresita	J.Carlos G	X	X	X 25	X			X 5	X	X				Oct-2 014	X	X			X			
32. Pachagsi	Ramón C.	X	X	X 27	X	X		-			X	X	X	Oct-2 015	X (Semilla)		X	X		X		X
33. Sanchuan Tiocajas	Ramón C.	X	X	X 15	X			-			X	X		Oct-2 016	X							X
34. San Vicente de Tipín	Jorge G.	X	X	X 25	X			-	X	X	X	X	X	Oct-2 017	X					X		X
35. Achullay	Samuel G.	X	X	X 25	X	X		-	X	X	X	X	X	Oct-2 018	X					X		X
36. San Guisel Alto	Ramón C.	X	X	X 28	X	X		-	X	X	X	X	X	Oct-2 019	X			X			X	X
37. Balda Lupaxi	Nidia R.	X	X	X 30	X	X	X	-	X	X	X	X		Oct-2 020	X			X			X	
38. Unidad Edu.XII Llinlín	J.Carlos G	X	X	A.25, B.12	A.X, B.X	A.X, B.X	-	-	X	X	X	X		Oct-2 021	X					X		
39. Shilpala	Rubén A.	X	X	X 21	X	X		X	X	X	X	X	X	Oct-2 022	X			X				X
Total	Ejecutada	31	31	31	31	26	20	22	29	27	27	26	16	22	31	5	23	23	14	15	12	22
Meta en PDM: 50%	Logro	100%	100%	100%	100%	84%	65%	92%	94%	87%	87%	84%	52%	100%	100%	-	74%	74%	45%	48%	39%	71 96

Nota X: Ejecutado, Sin marca: No ejecutado, -: No necesario

Cuadro 15: Capacitaciones realizadas para el Personal del Proyecto y Agricultores sobre Desarrollo Participativo

Año	Nombre del curso	Contenido del curso	Facilitadores	Fecha	Duración	# de participantes	Dirigido a:
2012	Taller de trabajo diagnóstico participativo en las comunidades seleccionadas	Este taller se implementó al inicio del apoyo para los proyectos comunitarios tomando forma de taller de trabajo diagnóstico participativo. (Ejecución de análisis FODA, elaboración de calendario de trabajo agrícola de la comunidad, etc.)	Toshiaki Kurihara (Experto), Rubén Aucancela (Miembro de la unidad de DPA)	2012.7.18,25,26	3 días	14 participantes	Miembro de la unidad de DPA, Promotores del Proyecto
2012	Taller de trabajo sobre metodología de asociar a los agricultores (asociatividad)	Fue implementado para capacitar sobre metodología de asociar a los agricultores (Selección de participantes y dirigentes, elaboración de reglas internas, establecimiento de fondo común, etc.) poniendo mira en los proyectos comunitarios que se iban a arrancar desde el octubre de 2012.	Toshiaki Kurihara (Experto), Lucía García (Miembro de la unidad de DPA)	2012.8.15,22	2 días	9 participantes	Promotores del Proyecto
2012 2013 2014	Taller de trabajo sobre "Asociatividad" en el marco de metodología de desarrollo rural participativo, dirigido a los facilitadores	En este taller se capacita sobre la tecnología de diversificación de cultivos, agricultura familiar, agricultura amigable al ambiente, agricultura integral, huerto familiar, BPA, insumos orgánicos, cultivado y consumido localmente, etc., aprovechando el material didáctico "Agricultura Integral".	Unidad de Desarrollo Participativo, Toshiaki Kurihara (Experto)	2013.3.27- (Se implementa continuamente en cada comunidad)	1 día	103 participantes	Miembros de la unidad de DPA, Promotores del Proyecto, Técnicos de la Coordinación de Gestión Social del GADPCH, Técnicos del MAGAP y del MAE
2012 2013 2014	Taller de trabajo sobre "Asociatividad" en el marco de metodología de desarrollo rural participativo, dirigido a los agricultores	En este taller se capacita sobre la tecnología de diversificación de cultivos, agricultura familiar, agricultura amigable al ambiente, agricultura integral, huerto familiar, BPA, insumos orgánicos, cultivado y consumido localmente, etc., aprovechando el material didáctico "Agricultura Integral".	Promotores del GADPCH (Proyecto y Coordinaciones relacionadas), del MAGAP, del MAE	2013.3.9- (Se implementa continuamente en cada comunidad)	1 día	1961 participantes	Agricultores de las comunidades (incluye las comunidades no objetivas del Proyecto)
2013	Taller de trabajo sobre metodología de evaluación participativa	Se ejecutó con el fin de dar capacitación a los promotores sobre metodología de evaluación participativa por los participantes del Proyecto al concluir las actividades en las comunidades. Luego los promotores capacitados realizó la evaluación en las comunidades encargadas.	Lucía García (Miembro de la unidad de desarrollo participativo), Toshiaki Kurihara (Experto)	2013.9.12	1 día	12 participantes	Promotores del Proyecto

2014	Capacitación de Desarrollo Rural Integral Sostenible	Es un paquete de capacitación intensiva sobre temas respectivas realizado por las unidades de apoyo técnico del Proyecto (Unidad de Administración, de Desarrollo Participativa y Asociatividad, de Producción Agrícola, de Comercialización y de Ambiente). En los dos días anteriores se implementó tomando la forma de taller de trabajo y en los dos días posteriores se realizó en las comunidades tomando forma de práctica.	Miembros de las unidades, Kiyoshi Hirozumi (Experto), Toshiaki Kurihara (Experto), Takeshi Iwase (Experto)	2014.4.7-4.11	4 días	20 participantes	Promotores y técnicos del Proyecto
2014	Taller de socialización sobre formación de la Red de Transferencia Técnica dirigido a los alcaldes de la provincia de Chimborazo	Este taller tiene como objetivo socializar el Proyecto y la Red de Transferencia Técnica a los alcaldes de la provincia de Chimborazo, para luego dirigirse a la formación de la misma.	Kiyoshi Hirozumi (Experto), Alejandro Guanolema (Administrador Adjunto)	2014.6.12	1 día	19 participantes	Cinco alcaldes (incluido delegados), servidores públicos de alcaldías
2014	Taller de socialización sobre formación de la Red de Transferencia Técnica dirigido a la alcaldía de Alausí	Se implementó contestando al alto interés y entusiasmo demostrados por el alcalde y alcaldía de Alausí en el taller ejecutado anteriormente, con el fin de concretar actividades de ahora en adelante, fortaleciendo sus conocimientos más sobre el sistema de la Red de Transferencia Técnica.	Kiyoshi Hirozumi (Experto), Toshiaki Kurihara (Experto), Agapito Muñoz (Administrador), Alejandro Guanolema (Administrador Adjunto)	2014.7.1	1 día	13 participantes	Alcalde de Alausí, Concejales de Alausí, Presidente de parroquia Tixán
2014	Capacitación de metodología de la implementación del Día del Campo Participativo	Es una capacitación sobre la metodología de Día de Campo abierto al público manejado por los participantes, citando los casos de otros países. Utilizando esta capacitación los promotores y técnicos del PMSK facilitarán el día del campo participativo en cada comunidad ejecutando de ESDRUC.	Toshiaki Kurihara (Experto)	2014.7.10	1 día	12 participantes	Promotores y técnicos del Proyecto
2014	Capacitación de Desarrollo Rural Integral Sostenible	Es un paquete de capacitación intensiva sobre temas respectivas realizado por las unidades de apoyo técnico del Proyecto (Unidad de Administración, de Desarrollo Participativa y Asociatividad, de Producción Agrícola, de Comercialización y de Ambiente). En los dos días anteriores se implementó tomando la forma de taller de trabajo y en los dos días posteriores se realizó en las comunidades tomando forma de práctica.	Miembros de las unidades de apoyo del Proyecto y los expertos japoneses	2014.8.11, 12, 18 y 19	4 días	30 participantes	Presidentes, técnicos de GAD Alausí

Cuadro 16: Estado de cumplimiento de los indicadores del Resultado 3 en el momento de la Evaluación Intermedia

Indicadores	Estado de cumplimiento
3.1 Más de 80% de los funcionarios, técnicos y promotores de las instituciones involucradas participarán en capacitaciones del desarrollo participativo.	3-1: Más de 90% de los funcionarios, técnicos y promotores de las instituciones involucradas participaron en capacitaciones del desarrollo participativo.
3.2 Más de 50% de los funcionarios, técnicos y promotores capacitados en cursos del desarrollo participativo, estarán aplicando los conocimientos y experiencias adquiridas en el manejo de los Proyectos Comunitarios.	3-2: Todos los funcionarios, técnicos y promotores capacitados en el desarrollo participativo están aplicando los conocimientos y tecnología adquirida al desarrollo participativo de las comunidades.

(4) Resultado 4: Se ha fortalecido la articulación entre las instituciones involucradas para el Desarrollo Rural Integral Sostenible.

El dibujo 1 es el organigrama del Proyecto. La coordinación de gestión de fomento productivo del GADPCH se encarga de gestionar el Proyecto. La autoridad máxima es el director de proyecto, y por debajo del director se posiciona la Unidad de Administración y por debajo de dicha unidad se posiciona la Unidad de Apoyo Técnico encargada de dar asesoramiento técnico del Proyecto. Esta Unidad orienta a los promotores que desarrollan actividades en las comunidades. El cuadro 17 muestra la composición actual de la Unidad de Apoyo Técnico.

El dibujo 2 es la sinopsis de la red de transferencia técnica. La unidad de desarrollo rural integral (UDRI) en la coordinación de gestión de fomento productivo del GADPCH ejecuta la orientación técnica a cada una de las UDRI cantonales. Cada UDRI cantonal hace la difusión técnica a cada una de las UDRI parroquiales bajo su jurisdicción. Cada UDRI parroquial dirige la UDRI de cada comunidad. En esta forma se establece el flujo de la transferencia técnica. En 2015 se establecerán los gobiernos comunales, formando una red administrativa de los gobiernos provincial, cantonal, parroquial y comunal. El presente Proyecto está proponiendo que cada gobierno local tenga su propia UDRI. Los miembros de la UDRI comunal son promotores comunales nombrados en forma democrática por el cabildo de la comunidad. Los promotores comunales no son empleados públicos de algún gobierno, sino son pobladores que toman iniciativas para desarrollar sus comunidades a nivel comunitario con sus propios esfuerzos.

Actualmente, el gobierno cantonal de Alausí, 1 de los 4 cantones de las áreas del Proyecto Comunitario, acaba de suscribir un convenio con el gobierno provincial para establecer la Red de Transferencia Técnica y está procediendo a la firma de convenios del mismo índole con los gobiernos parroquiales de su jurisdicción. Se prevé que los otros 3 cantones también procedan a

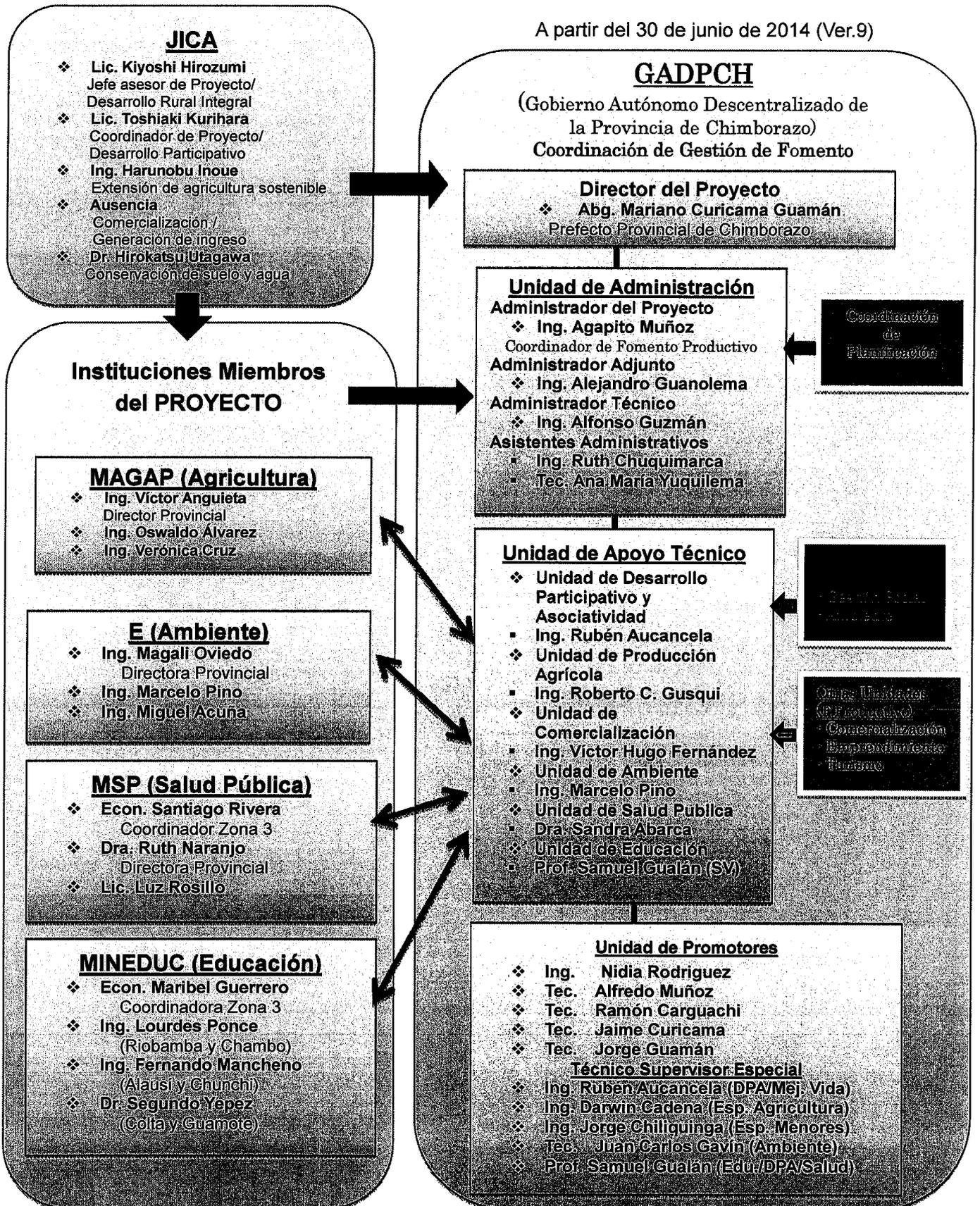
conformar la Red de Transferencia Técnica. .

Por otro lado, las Unidades de Apoyo Técnico del Proyecto desarrollan sus actividades en colaboración con las instituciones de Contraparte que están participando en otros proyectos no propios de la Provincia de Chimborazo. Dentro del Proyecto, las actividades del sector agropecuario se desarrollan en cooperación con el MAGAP, las del ambiental con el MAE y las de salud con el MSP. La alfabetización en el sector educativo no ha sido realizada como se ha mencionado, pero las actividades en los huertos escolares vienen realizándose en colaboración con el MINEDUC.

El cuadro 18 muestra el grado de cumplimiento respecto a los indicadores del Resultado 4 en el momento de la Evaluación Intermedia. Se puede decir que están logrando el Resultado 4 sin contratiempos.

Dibujo 1: Organigrama del Proyecto

A partir del 30 de junio de 2014 (Ver.9)



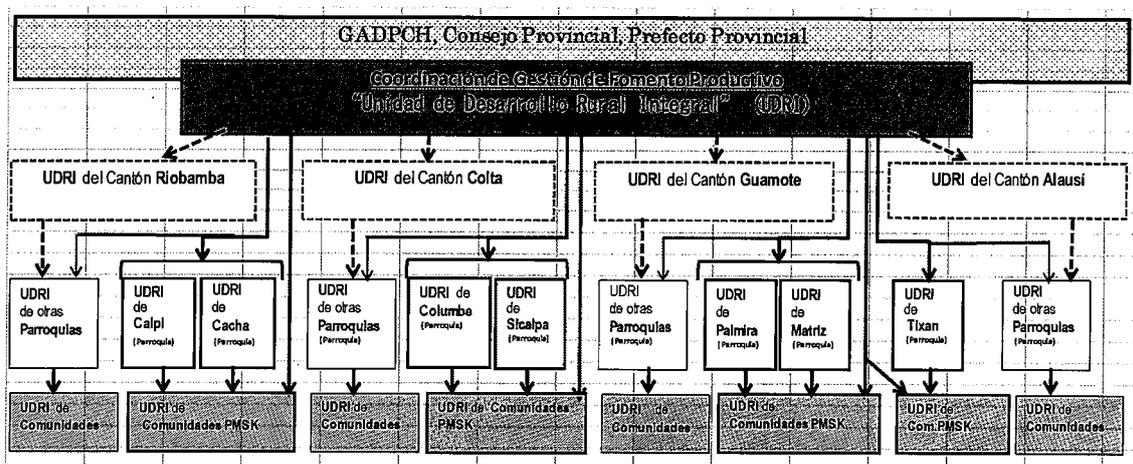
Handwritten signature and initials.

Cuadro 17: Unidades de Apoyo Técnico

ADMINISTRACIÓN GENERAL: **Ing. Agapito Muñoz (Administrador del Proyecto)****Lic. Kiyoshi Hirozumi (Jefe Asesor del Proyecto)****En julio de 2014**

No	Unidad	Coordinación General	Asesor de JICA	Miembros Responsables	Dependencia
1	Desarrollo Participativo y Asociatividad	Ing. Alfonso Guzmán	Lic. Toshiaki Kurihara	Ing. Rubén Aucancela (Coordinador/SV) Ing. Verónica F. Cruz Ing. Miguel Acuña Tec. Samuel Gualán Tec. Bacilio Chimbolema	GADPCH/Proyecto MAGAP MAE GADPCH/Proyecto GADPCH/G. Social
2	Producción Agrícola		Ing. Harunobu Inoue	Ing. Roberto C. Gusqui (Coordinador) Ing. Darwin Cadena (SV en Agricultura) Ing. Jorge Chiliquina (SV en Especies menores) Ing. Oswaldo Álvarez Tec. Alfredo Muñoz	GADPCH/Proyecto GADPCH/ProyectoK GADPCH/Proyecto MAGAP GADPCH/Proyecto
3	Ambiente		Lic. Kiyoshi Hirozumi	Ing. Marcelo Pino (Coordinador) Tec. J. Carlos Gavin (SV) Tec. Jaime Curicama Ausencia	MAE GADPCH/Proyecto GADPCH/Proyecto GADPCH/G. Ambiente
4	Comercialización		Ausencia	Ing. Víctor Hugo Fernández (Coordinador, SV) Ing. Jackeline Tapia Ing. Marcelino Guamán	GADPCH/Proyecto GADPCH/F. Productivo G. Social
5	Salud Pública	Ing. Alejandro Guanolema	Lic. Kiyoshi Hirozumi	Dra. Ruth Naranjo (Coordinadora) Ing. Rubén Aucancela (SV) Ing. Samuel Gualán	MSP Proyecto Proyecto
6	Educación		Lic. Kiyoshi Hirozumi	Prof. Samuel Gualán (SV) Ing. Lourdes Ponce Ing. Fernando Mancheno Dr. Segundo Yépez	Pproyecto MINEDUC (Riobamba) MIINEDUC (Alausi) ME (Colta, Guamote)

Dibujo 2: Sinopsis de la Red de Transferencia Técnica



Cuadro 18: Estado de cumplimiento de los indicadores del Resultado 4

Indicadores	Estado de cumplimiento
4.1 Estarán en funcionamiento las Unidades de Apoyo Técnico.	4-1: Las Unidades de Apoyo Técnico están funcionando como núcleo técnico, dirigiendo a los promotores que trabajan en las comunidades.
4.2 Estará en funcionamiento una Red de Transferencia Técnica.	4-2: Dentro del cantón de Alausí, están avanzando los trámites para formar la red de transferencia técnica y dentro de poco tiempo iniciarán las actividades concretas.
4.3 Se implementarán los proyectos de desarrollo rural en cada comunidad en colaboración de las instituciones involucradas.	4-3: En cada comunidad, están implementando las actividades de desarrollo rural en coordinación con las instituciones involucradas, tales como: producción agropecuaria con MAGAP; conservación del agua y suelo y educación ambiental con MAE; salud preventiva y mejora de la nutrición con MSP; y asesoramiento en los huertos escolares con MINEDUC.

(5) Resultado 5: Se ha elaborado el documento de lineamientos que plantea el sistema y metodología del Desarrollo Rural Integral Sostenible.

Como se ha mencionado anteriormente acerca de los Resultados de 1 a 3, están desarrollando las actividades para el mejoramiento de los ingresos, el mejoramiento del entorno de vida y el desarrollo participativo en las 30 comunidades enfocadas por el Proyecto, acumulando varias experiencias valiosas. En base a estas experiencias y considerando la situación actual y problemas

que tienen las áreas de extensión (áreas rurales de toda la Provincia), se preparará, antes de terminar el Proyecto, una guía que plantea la creación de una estructura organizativa y establecimiento de metodologías para el desarrollo rural integral sostenible.

Para lograrlo, están realizando la elaboración de una estrategia de apoyo para el desarrollo rural integral, la preparación de herramientas de transferencia técnica (materiales didácticos y metodologías de capacitación), la creación de mecanismos de transferencia (establecimiento de la red de transferencia técnica y creación de la UDRI), etc. El contenido clave del documento de lineamientos ya está elaborado como “Estrategia de Apoyo al Desarrollo Rural Integral Sostenible (ya aprobado por el Director de Proyecto)” y en adelante se tratará de enriquecerla, agregando las metodologías y herramientas de cada sector.

El cuadro 19 muestra la lista de manuales, etc. elaborados por el Proyecto como herramientas de la transferencia técnica. El cuadro 20 muestra el grado de cumplimiento del indicador del Resultado 5 en la etapa de la Evaluación Intermedia. Se considera que pueden lograr el Resultado 5 hasta el término del Proyecto, si se desarrollan las actividades del Proyecto en forma favorable de aquí en adelante.

Cuadro 19: Lista de Manuales Elaborados

No.	Título	Fiche de publicación	Presentación del producto	Unidad responsable de su elaboración	Experto responsable de la coordinación
1	Serie de Desarrollo Rural Participativo 1: "Asociatividad"	Abril, 2013	Rotafolio Libro (Guía para uso de rotafolio)	Unidad de apoyo técnico de Desarrollo Participativo y Asociatividad	Toshiaki Kurihara
2	Serie de Desarrollo Rural Participativo 2: "Agricultura Integral"	Junio, 2013	Rotafolio Libro (Guía para uso de rotafolio)	Unidad de apoyo técnico de Desarrollo Participativo y Asociatividad	Toshiaki Kurihara
3	Guía Técnica de cultivo de CHOCHO	Julio, 2013	Tríptico	Unidad de apoyo técnico de Producción Agrícola	Harunobu Inoue
4	Serie de Desarrollo Rural Participativo 3: "Manejo Comunitario de Los Recursos Naturales"	Octubre, 2013	Rotafolio Libro (Guía para uso de rotafolio)	Unidad de apoyo técnico de Desarrollo Participativo y Asociatividad	Toshiaki Kurihara
5	Tecnologías de Chakra Integral Familiar para Pequeños Agricultores	Octubre, 2013	Afiche (Para difusión tecnológica)	Unidad de Administración	Toshiaki Kurihara
6	Guía Técnica Control de GUSANO BLANCO	Octubre, 2013	Tríptico	Unidad de apoyo técnico de Producción Agrícola	Harunobu Inoue
7	Guía de Comercialización Asociativa	Noviembre, 2013	Libro (Guía técnica)	Unidad de apoyo técnico de Comercialización	Takeshi Iwase
8	Mi Huerto Escolar	Noviembre, 2013	Libro (Guía técnica)	Unidad de apoyo técnico de Educación	Kiyoshi Hirozumi
9	Guía Técnica: Manejo de Gallinas de campo	Enero, 2014	Tríptico (Guía técnica de manejo)	Unidad de apoyo técnico de Producción Agrícola	Toshiaki Kurihara
10	Preparación de Alimentos de Mi Chakra	Marzo, 2014	Libro (Guía técnica)	Unidad de apoyo técnico de Comercialización	Takeshi Iwase
11	Serie de Desarrollo Rural Participativo 4: "Manejo Participativo de Proyecto Comunitario"	Mayo, Julio de 2014	Rotafolio Libro (Guía para uso de rotafolio)	Unidad de apoyo técnico de Desarrollo Participativo y Asociatividad	Toshiaki Kurihara
12	Agroforestería	Julio, 2014	Afiche (Para difusión tecnológica)	Unidad de apoyo técnico de Ambiente	Kiyoshi Hirozumi
13	Manejo de Viveros Forestales	Julio, 2014	Libro (Guía técnica)	Unidad de apoyo técnico de Ambiente	Kiyoshi Hirozumi

Cuadro 20: Estado de cumplimiento del indicador del Resultado 5

Indicador	Estado de cumplimiento
5.1 Presentarán a las instituciones involucradas de la guía que plantea el sistema y metodología del Desarrollo Rural Integral Sostenible.	5-1: El Resultado 5 se logrará hasta la terminación del Proyecto, si avanzan bien las actividades del Proyecto, elaborando en forma apropiada la estrategia de apoyo, herramientas de transferencia técnica, mecanismos de la difusión, entre otros. Ya está preparado el contenido clave del documento de lineamientos como "Estrategia de Apoyo al Desarrollo Rural Integral Sostenible".

3-3 Perspectivas para alcanzar el Propósito del Proyecto

El propósito del Proyecto es: "Se han mejorado los ingresos y el entorno de vida de la población que vive en las áreas del Proyecto Comunitario, y se ha fortalecido la estructura para mejorar la calidad de vida en las áreas de extensión".

Se han implementado las actividades para los mejoramientos de ingresos y entorno de vida por el Proyecto y se han venido logrando los resultados deseados. Basándose en estos resultados, están creando una base de implementación del desarrollo rural que permita difundir los resultados del Proyecto en las áreas de extensión, es decir, por todas las áreas rurales de la Provincia de Chimborazo en el futuro.

Para crear este tipo de mecanismo, está previsto realizar las siguientes actividades: establecimiento y fortalecimiento de funciones de la "red de transferencia técnica"; creación y fortalecimiento de funciones de la "UDRI"; fortalecimiento de las actividades y funciones de los técnicos y promotores en las comunidades; fortalecimiento del monitoreo, evaluación y realimentación; y fortalecimiento de la comunicación entre las personas involucradas.

Existe una alta probabilidad de lograr el propósito del Proyecto si se observa el desarrollo de los Resultados y esfuerzos de los expertos y personal de contraparte. Pero para asegurar dicha probabilidad, será necesario impulsar la creación del mecanismo mencionado con mucha firmeza.

El cuadro 21 muestra el estado de cumplimiento respecto a los indicadores del Propósito del Proyecto en el momento de su Evaluación Intermedia .

Cuadro 21: Estado de cumplimiento de los indicadores del Propósito del Proyecto

Indicadores	Estado de cumplimiento
1. Los ingresos de las familias de las comunidades participantes en las áreas de Proyecto Comunitario aumentarán en un 30% mediante la adquisición y aplicación de los conocimientos básicos - técnicas	1: Se está mejorando los ingresos de las familias participantes por la introducción de la semilla mejorada, la adopción de la tecnología adecuada del cultivo y el mejoramiento de comercialización (búsqueda de mercados y creación de valor agregado).

<p>sobre el mejoramiento de los ingresos.</p> <p>2. Más de 50% de las familias del área del Proyecto Comunitario incrementarán su nivel de satisfacción sobre el entorno de vida.</p> <p>3. El documento de lineamientos del sistema y metodologías del Desarrollo Rural Integral Sostenible será acordado por las instituciones involucradas del Proyecto.</p>	<p>2: Se observa el alto grado de satisfacción entre las familias participantes sobre las actividades del mejoramiento del entorno de vida, tales como la reforestación, la educación ambiental, el fortalecimiento de acceso al servicio público de salud, el huerto escolar (uso de productos para comidas escolares), entre otros.</p> <p>3: El contenido clave del documento de lineamientos ya está preparado como “Estrategia de Apoyo al Desarrollo Rural Integral Sostenible. En adelante, se ejecutará el establecimiento del mecanismo del desarrollo rural integral sostenible, además del enriquecimiento del contenido del documento de lineamientos y el establecimiento de la metodología de la transferencia técnica.</p>
---	---

3-4 Verificación del proceso de implementación

(1) Implementación de las actividades del Proyecto

Se elaboró el Plan Operativo (PO) sobre las actividades del Proyecto, después del inicio del Proyecto. El presente Plan Operativo (Cuadro 22) es el que fue aprobado por las instituciones involucradas en el tercer Comité de Coordinación Conjunta (CCC) celebrado en mayo de 2013. Las actividades del Proyecto se han implementado sin tener inconvenientes mayores a lo largo del Plan Operativo. Pero como se ha descrito en “3-2 Resultados obtenidos”, solo la alfabetización no se ejecutará debido a problemas de la estructura de implementación y falta de demanda en la población de edad avanzada de las comunidades.

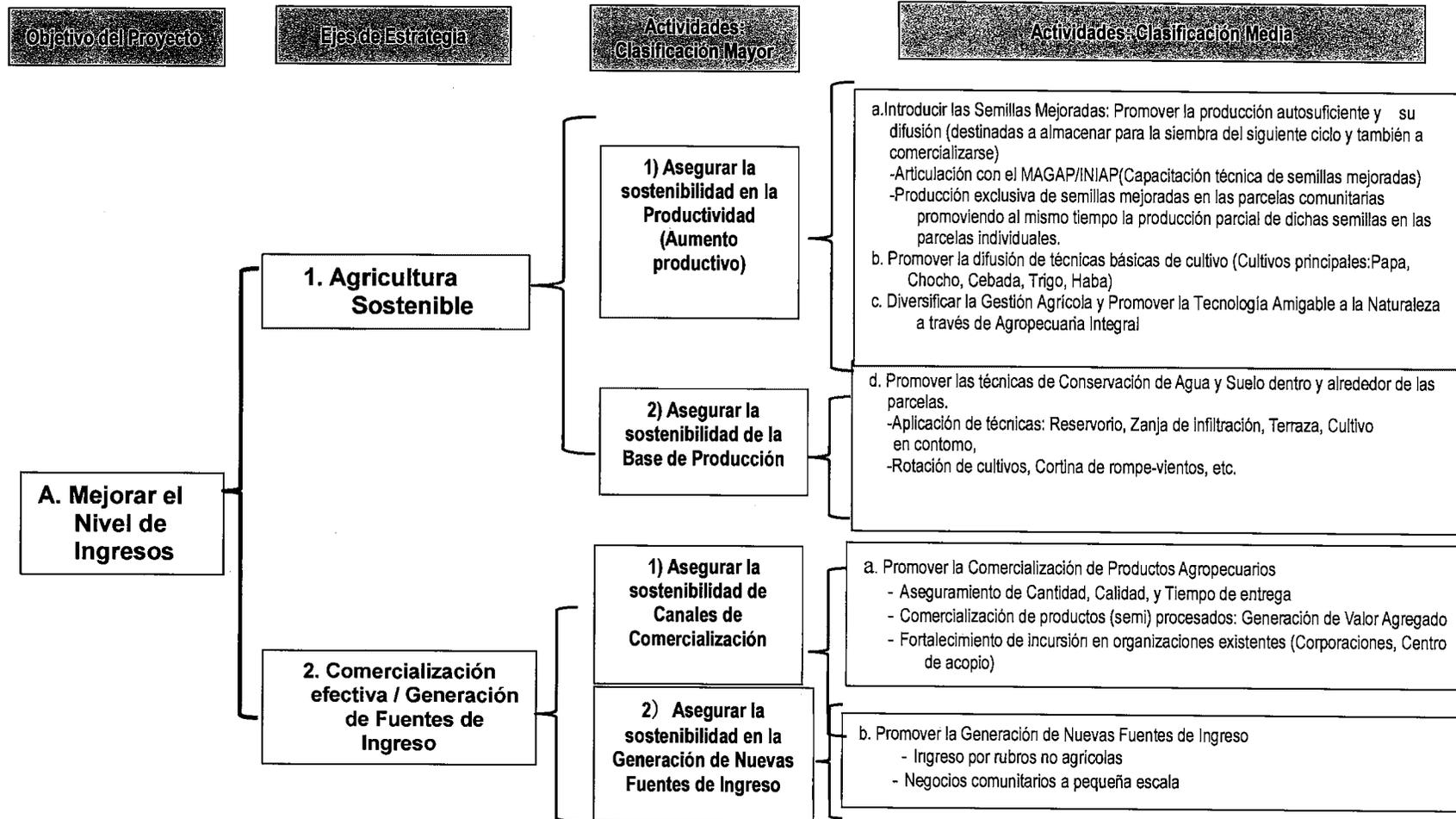
En el Dibujo 3, se indican las actividades específicas del Proyecto y éstas fueron planificadas y adoptadas de acuerdo al resultado de la investigación de línea base y otros estudios, teniendo en consideración el Propósito del Proyecto.

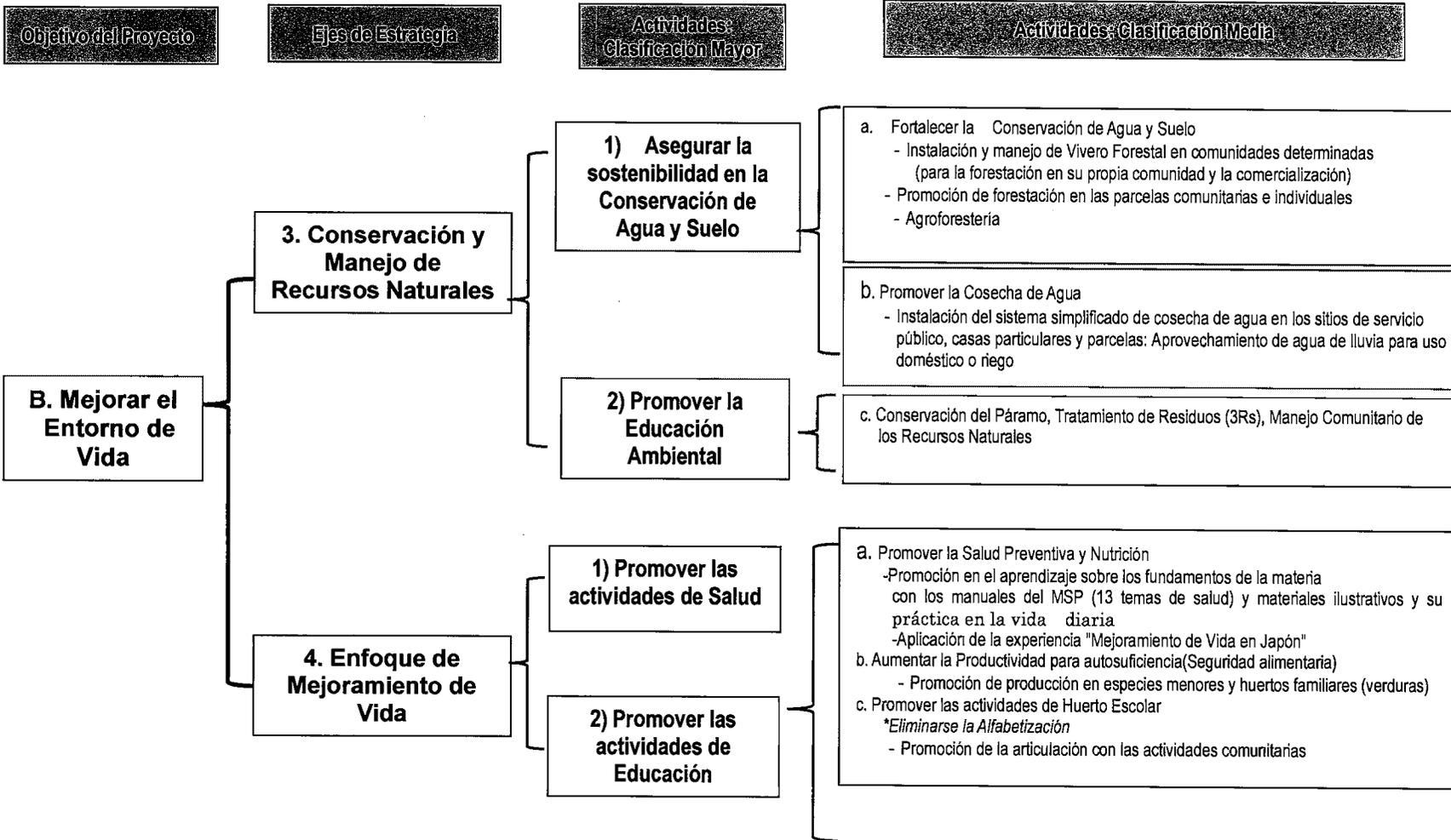
Cuadro 22: Plan Operativo del Proyecto (Ver. 2)

Resultados	Actividades	2012				2013				2014				2015				2016				17
		I	II	III	IV	I																
1. Los agricultores en las áreas del Proyecto Comunitario han adquirido y aplicado conocimientos básicos - técnicas sobre el mejoramiento de ingresos	1-1 Seleccionar el área del Proyecto Comunitario y realizar la encuesta de línea de base para el área.																					
	1-2 Reforzar las capacidades de los técnicos y promotores referentes a las actividades de mejoramiento de ingresos																					
	1-3 Organizar al grupo de agricultores y facilitar la planificación e implementación de capacitaciones destinadas al mejoramiento de ingresos.																					
	1-4 Facilitar la planificación e implementación de las actividades del grupo de agricultores para mejorar los ingresos en base a los resultados de la capacitación implementada.																					
	1-5 Facilitar el monitoreo y la evaluación periódica de las actividades del grupo de agricultores sobre mejoramiento de los ingresos..																					
2. Las familias participantes han adquirido y aplicado conocimientos básicos - técnicas sobre el mejoramiento del entorno de vida (áreas de ambiente, salud, y educación).	2-1 En base al aprovechamiento de los servicios públicos de las instituciones involucradas, planificar e implementar la capacitación dirigida al grupo de agricultores sobre el mejoramiento del entorno de vida (conservación del ambiente, salud preventiva, mejoramiento de los alimentos y nutrición, alfabetización y otros)																					
	2-2 Facilitar al grupo de agricultores la implementación de actividades diseñadas para el mejoramiento del entorno de vida en base a los resultados de la capacitación realizada.																					
	2-3 Facilitar al grupo de agricultores monitoreo y evaluaciones periódicas de las actividades diseñadas para el mejoramiento del entorno de vida, para su mejoramiento.																					

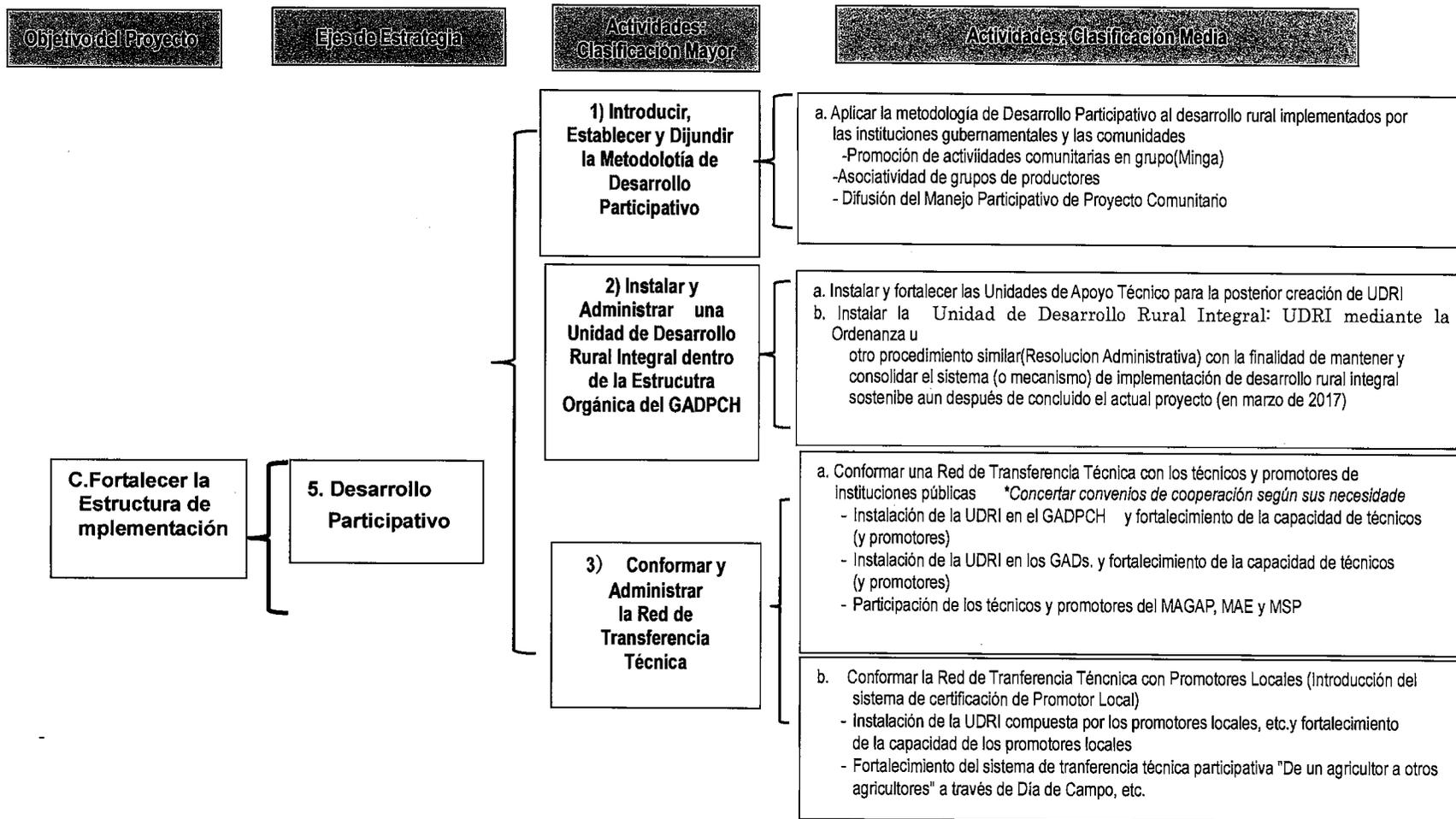
Dibujo 3 : Actividades del Proyecto (Septiembre de 2014)

Estrategia de Apoyo a Desarrollo Rural Integral Sostenible en la Provincia de Chimborazo / Categorización de Actividades Ver.1) Julio de 2014





Handwritten signature



Nota : Fue aprobado por el Comité Operativo del Proyecto (COP) del día 5 de septiembre de 2014.

(2) Estructura de gestión e implementación del Proyecto

En la implementación del Proyecto, están involucradas las siguientes instituciones ecuatorianas: el GADPCH, MAGAP, MAE, MSP y MINEDUC, , lo cual exige mucho esfuerzo para lograr una coordinación eficiente y más aún si se considera el involucramiento previsto de los gobiernos cantonales y parroquiales. Sin embargo, las actividades del Proyecto vienen avanzando, gracias a los esfuerzos del personal involucrado. Hasta la fecha, se han celebrado 4 reuniones del Comité de Coordinación Conjunta (CCC) a nivel central, 6 reuniones del Comité Operativo del Proyecto (COP) a nivel provincial, varias reuniones directivas, según necesidades, reuniones mensuales con el Prefecto, reuniones de cada una de las unidades del apoyo técnico y reuniones semanales de promotores para facilitar la comunicación entre las instituciones involucradas, dando a conocer las actividades realizadas y también elaborando planes y tomando decisiones.

Se ha establecido la estructura de implementación del Proyecto como se ha descrito antes en “(4) Resultado 4” de “3-2 Resultados Obtenidos”, lo cual está permitiendo el avance de las actividades mediante la articulación entre las instituciones involucradas.

(3) Metodología de la transferencia tecnológica

Respecto a los conocimientos y técnicas necesarias para dar la orientación técnica a los productores, los técnicos y promotores de las instituciones involucradas, quienes los aprenden en cursos de capacitación, seminarios y entrenamiento en la práctica a través de las actividades diarias del Proyecto.

En cuanto a la transferencia técnica a los productores, inicialmente había una idea de establecer el “Centro de Mejoramiento Agrícola de la Región Andina para la Provincia de Chimborazo” con el fin de establecer un núcleo de transferencia de técnicas mejoradas y prácticas, sistematizando las técnicas adaptadas a las zonas. No se implementó este plan porque no se encontró un lugar adecuado; por lo que no se pudo ejecutar la capacitación en técnicas agropecuarias como estaba inicialmente previsto y, en su lugar, se realizó la capacitación a nivel comunitario, a través de la implementación de parcelas demostrativas. En la cuarta reunión del Comité Operativo del Proyecto (COP) fue aprobado el abandono del plan de construcción del centro.

Al comienzo del Proyecto, los expertos japoneses habían brindado asesoramiento directamente a los promotores y posteriormente los promotores a los agricultores en cada comunidad. En la actualidad, básicamente, los expertos japoneses están asesorando a los técnicos y los técnicos a los agricultores en cada comunidad.

No es suficiente el número de promotores para trabajar en las 30 comunidades. Únicamente existen 5 promotores que pueden atender 20 comunidades, mientras que los 4 técnicos deben atender a 10 comunidades restantes, descuidando sus responsabilidades principales, como la supervisión.

Hoy en día se está aplicando un sistema en el que las Unidades de Apoyo Técnico, como núcleo del Proyecto para la transferencia técnica práctica, transmiten la tecnología mejorada a los técnicos y promotores, quienes a su vez las transmiten a las comunidades, en cooperación con los gobiernos

cantonales y parroquiales. Este sistema se fortalecerá aún más hasta convertirse en el futuro, en la Red de Transferencia Técnica . Después de haberse establecido y fortalecido esta Red , los promotores comunitarios seleccionados por cada cabildo se encargarán de la transferencia técnica a los agricultores . Es decir, se promueve que un agricultor enseñe técnicas a otros agricultores.

(4) Participación y contribución de los involucrados

El personal de las instituciones de la contraparte ecuatoriana contribuye al desarrollo de las actividades del Proyecto, en el ámbito de su rectoría. Cada Unidad de Apoyo Técnico recibe asistencia técnica de parte de los procesos descentralizados de cada ministerio participante; Es decir, cada institución está implementando el Proyecto en cooperación con otras. Se ha venido tratando de promover el entendimiento del concepto del Proyecto mediante la comunicación estrecha con cada institución, a pesar de que existe una elevada rotación de sus autoridades y personal técnico..

Actualmente, el GADPCH, a través de su Coordinación de Gestión de Fomento Productivo está encargándose del manejo del Proyecto y además se encuentra fortaleciendo sus capacidades institucionales que le permitan, en coordinación con los ministerios involucrados, potenciar en el futuro, las actividades del desarrollo rural por sus propios esfuerzos.

(5) Revisión de la Matriz de Diseño de Proyecto (PDM)

La PDM ha sido revisada y modificada en dos ocasiones mediante el consenso en reuniones formales del Proyecto. La primera PDM (versión 0) fue el borrador elaborado en el Estudio de Diseño Detallado y se formalizó como la versión 1 al inicio del Proyecto (suscripción del Registro de Discusiones (R/D)). Posteriormente se volvió a modificar para ajustarse a las condiciones reales del Proyecto a medida que este progresaba. En el momento de iniciar la Evaluación Intermedia, la PDM que se utiliza es la versión 2. En adelante puede que haya posibilidades de modificar la PDM, de acuerdo a las condiciones del avance del Proyecto.

Cuadro 23: Revisiones de la PDM

Versión de la PDM	Día de revisión	Principales puntos modificados
Ver.0 ⇒ Ver.1	07 de diciembre de 2011 (momento de la firma de RA/D)	<ul style="list-style-type: none"> - Ver. 0 fue el borrador de la Misión del Estudio de Diseño Detallado y no fue aprobado formalmente. - Ver.1 fue aprobada en el R/D y la primera PDM formal.
Ver.1 ⇒ Ver.2	26 de febrero de 2013 (Minuta en la Misión de Consulta, mediante la 4 ^a Reunión COP)	<ul style="list-style-type: none"> - Introducción de indicadores con valor numérico - Definición de unas palabras - Supresión del plan del “Centro de Mejoramiento Agrícola de la Región Andina para la Provincia de Chimborazo”

Capítulo 4. Resultados de la Evaluación

4-1 Pertinencia

(1) Coherencia con las necesidades del área objeto

Como se ha señalado en “2-1 Antecedentes del Proyecto”, la provincia Chimborazo tiene un alto índice de pobreza y la mayoría de la población de escasos recursos se dedica a la agricultura de pequeña escala. Para mejorar la calidad de vida de estas familias, se exigen el mejoramiento de ingresos y entorno de vida y el fortalecimiento de la estructura de implementación del desarrollo rural. Estas necesidades de las áreas objeto vienen existiendo sin tener muchos cambios en el momento de la Evaluación Intermedia.

Para mejorar los ingresos, el Proyecto ha venido intentando estructurar un sistema de gestión agrícola con distintas actividades tales como: la introducción de semillas mejoradas, el mejoramiento de técnicas básicas de cultivo, la promoción de la agricultura integral, agricultura mecanizada, la promoción de la comercialización de productos agropecuarios y la generación de nuevas fuentes de ingresos. Para mejorar el entorno de vida, se han ejecutado las siguientes actividades: el fortalecimiento de la conservación de agua y suelo, la promoción de la cosecha de agua, el manejo comunitario de los recursos naturales, la promoción de la salud preventiva y nutrición, el aumento de la productividad para autosuficiencia (seguridad alimentaria), los huertos escolares y otros. Para fortalecer la estructura de implementación, vienen promoviendo la participación por su propia iniciativa en el autodesarrollo de la población comunitaria, mediante la aplicación de la metodología de desarrollo participativo para el desarrollo rural. Además, comenzando por el establecimiento de la ReTd de Transferencia Técnica del desarrollo rural, se ha iniciado la introducción del sistema de promotores comunitarios. Estas actividades se han originado según las necesidades identificadas en los resultados de la encuesta de línea base y el estudio del estado actual. Por lo tanto, el presente Proyecto tiene coherencia con las necesidades de la población de las comunidades enfocadas.

(2) Coherencia con las políticas

El “Plan Nacional para el Buen Vivir 2013-2017” tiene 12 objetivos. El Proyecto ejecuta las actividades correspondientes a los siguientes objetivos: objetivo 3 (Mejorar la calidad de vida de la población), objetivo 4 (Fortalecer las capacidades y potencialidades de la ciudadanía), objetivo 7 (Garantizar los derechos de la naturaleza y promover la sostenibilidad ambiental territorial y global), objetivo 8 (Consolidar el sistema económico social y solidario, de forma sostenible) y objetivo 10 (Impulsar la transformación de la matriz productiva).

Cuadro 24: Objetivos del Plan Nacional para el Buen Vivir 2013-2017

Objetivo 1.	Consolidar el Estado democrático y la construcción del poder popular
Objetivo 2.	Auspiciar la igualdad, la cohesión, la inclusión y la equidad social y territorial, en la diversidad
Objetivo 3.	Mejorar la calidad de vida de la población
Objetivo 4.	Fortalecer las capacidades y potencialidades de la ciudadanía
Objetivo 5.	Construir espacios de encuentro común y fortalecer la identidad nacional, las identidades diversas, la plurinacionalidad y la interculturalidad
Objetivo 6.	Consolidar la transformación de la justicia y fortalecer la seguridad integral, en estricto respeto a los derechos humanos
Objetivo 7.	Garantizar los derechos de la naturaleza y promover la sostenibilidad ambiental territorial y global
Objetivo 8.	Consolidar el sistema económico social y solidario, de forma sostenible
Objetivo 9.	Garantizar el trabajo digno en todas sus formas
Objetivo 10.	Impulsar la transformación de la matriz productiva
Objetivo 11.	Asegurar la soberanía y eficiencia de los sectores estratégicos para la transformación industrial y tecnológica
Objetivo 12.	Garantizar la soberanía y la paz, profundizar la inserción estratégica en el mundo y la integración latinoamericana

Además, puesto que el presente Proyecto está dirigido a la revitalización comunitaria, está alineado al “Código Orgánico de Organización Territorial, Autonomía y Descentralización - COOTAD” (2010) y al “Plan de Desarrollo y Ordenamiento Territorial – PDOT de Chimborazo 2011” que se orienta al desarrollo local. Por eso el Proyecto tiene coherencia alta con las políticas nacionales y provinciales.

Respecto a la política de asistencia del gobierno japonés, en los “Lineamientos de la asistencia por países hacia la República del Ecuador”, vigente a la fecha, se señalan la disminución de la brecha en la distribución de los ingresos y el desarrollo sostenible como uno de los temas prioritarios de asistencia, y en ese sentido la coherencia del Proyecto es alta.

(3) Idoneidad como medio

El Proyecto prevé establecer una estrategia para mejorar la calidad de vida de los productores en forma sostenible, a través de los siguientes tres componentes: 1) mejoramiento de ingresos, 2) mejoramiento del entorno de vida, 3) fortalecimiento de la estructura de implementación (desarrollo participativo).

Se verificó que cada uno de los componentes es necesario para poder mejorar la calidad de vida de los productores de pequeña escala. Además, se constató que cada una de las instituciones involucradas considera que es adecuado promover el desarrollo rural integral como asistencia para

estos productores .

(4) Coordinación y armonización con los proyectos relacionados del gobierno y/o cooperantes

La Coordinación de Gestión de Fomento Productivo del GADPCH está encargada de la gestión del Proyecto y varias actividades de desarrollo rural han sido realizadas en estrecha cooperación con el presente Proyecto.

El MAGAP, el MAE, el MSP y el MINEDUC están implementando sus propias actividades de desarrollo rural. Realizan sus actividades también en las comunidades objeto del Proyecto y cuando , articulando esfuerzos que permiten la integralidad de este Proyecto..

El Proyecto compra y utiliza las semillas mejoradas de papa producidas por una corporación de producción de semillas formada por un proyecto de producción de semillas de cultivos andinos de la FAO y también compra el chocho y cebada producidos por otra corporación de producción de semillas (CORPOPURUWA) formado por la dirección del INIAP. En 2014, el INIAP prestó las semillas de dos variedades de cebada de y de una variedad trigo de para producir las semillas. Además el programa de alimentación escolar del Programa Mundial de Alimentos (PMA) está comprando una parte de la cosecha del chocho y cebada cultivados con el apoyo del Proyecto.

Como articulación con otros proyectos similares de JICA, se realizaron visitas e intercambios con el Proyecto de "Incremento de los Ingresos Económicos de los Pequeños Productores Agrarios en la Región Cajamarca" (IEPARC) en el Perú, en julio de 2013 y, el "Proyecto de Reactivación del Proyecto de Riego y Drenaje de la Cuenca del Río Catarama" en Ecuador, en mayo de 2014.

4-2 Eficacia

(1) Perspectivas para alcanzar el propósito del Proyecto

Como ya se ha señalado en el punto "3-3 Perspectivas para alcanzar el propósito del Proyecto", los resultados y lecciones logradas a través de las actividades de los Resultados 1 al 4 se aprovecharán para establecer el documento de lineamientos del desarrollo rural integral sostenible en el Resultado 5. Para que esta guía no solo sea un informe, sino un modelo del desarrollo rural de la provincia de Chimborazo, será indispensable crear un mecanismo que permita aprovecharla. Eso es uno de los indicadores del propósito del Proyecto.

El contenido clave del documento de lineamientos ya se preparó como la "Estrategia de Apoyo al Desarrollo Rural Integral Sostenible" y ya han iniciado la creación de la Red de Transferencia Técnica y establecimiento de la base de implementación de acuerdo a dicha Estrategia. Debido a que están avanzando en el desarrollo de las actividades individuales sin contratiempos, se considera que existe mucha posibilidad de lograr el propósito del Proyecto. Se espera que en adelante se cree y establezca el mecanismo junto con las metodologías y herramientas apropiadas para las actividades individuales.

(2) Relación causa-efecto entre el propósito del Proyecto y los Resultados

El proceso de elevar el nivel de alcance de los Resultados de 1 a 4, elaborar el documento de

lineamientos del Resultado 5, aprovechando los Resultados anteriores y estructurar la base de implementación de acuerdo a dicha guía, forma un flujo de actividades convincente, es decir, no habrá dificultades para aceptar la lógica de que la elevación del nivel de alcance en los Resultados conduce al logro del propósito del Proyecto.

El enriquecimiento posterior de las metodologías y tecnologías a ser obtenidas de los Resultados de 1 a 4, permitirá elaborar el contenido del documento de lineamientos más eficiente y práctico. En la segunda mitad del período del Proyecto, se espera la toma de acciones para lograr cada uno de los Resultados, teniendo en cuenta su aplicabilidad y practicidad como modelo.

Con respecto al documento de lineamientos del Resultado 5, para que se aplique en todas las áreas rurales de la provincia de Chimborazo luego del término del Proyecto, se exige que se aproveche para estructurar la base de implementación más práctica. Además, se exige la cooperación de las instituciones involucradas para construir la base de implementación en adelante.

(3) Condiciones externas para lograr el propósito del Proyecto

En la PDM, se menciona “No se empeora notablemente la economía del área de cooperación.” como condiciones externas para lograr el propósito del Proyecto. No ha habido cambios significativos en las políticas de las instituciones involucradas, pero sí en sus estructuras organizativas.

En base al Plan Nacional del Desarrollo y del Ordenamiento Territorial, se introdujo la zonificación territorial y la provincia de Chimborazo se integró en la zona 3. La zona 3 se compone de 4 provincias: Chimborazo, Cotopaxi, Tungurahua y Pastaza. El MAGAP y MSP tienen sus oficinas zonales en Riobamba, cabecera de la provincia de Chimborazo para cubrir la zona 3, pero el MAE y MINEDUC tienen sus oficinas zonales en Ambato, cabecera de la provincia de Tungurahua.

El MAGAP y MAE tienen sus oficinas provinciales, pero el MSP y MINEDUC tienen oficinas zonales y distritales y no provinciales, debido a que según el Plan Nacional de Ordenamiento Territorial, los gobiernos provinciales ya no tienen competencias en los asuntos de educación y salud. La provincia de Chimborazo se compone de 5 distritos: distrito de Riobamba y Chambo, distrito de Chunchi y Alausí, distrito de Pallatanga y Cumanda, distrito de Colta y Guamote, y distrito de Guano y Penipe.

El Plan Nacional del Desarrollo y del Ordenamiento Territorial fue publicado en 2010 y gradualmente sus políticas están implementándose cada vez más. Al inicio del presente Proyecto, aunque ya había oficinas zonales instaladas, cada ministerio tenía también una oficina provincial. Sin embargo, posteriormente durante la ejecución del Proyecto, el MSP y MINEDUC dejaron de ocupar sus oficinas provinciales. Al inicio de la implementación del Proyecto, se suponía que iban a desarrollarse las actividades del Proyecto dentro del marco provincial, pero para el MSP y MINEDUC ya no existe el marco provincial. El MSP tiene su oficina zonal en Riobamba, lo cual permite comunicarse fácilmente, pero en caso de comunicarse con el MINEDUC hay que acudir a Ambato para conversar con los encargados de la zona 3. Debido a que las áreas objeto del presente Proyecto están cubiertas por 4 cantones, el Proyecto se relacionará con 3 oficinas distritales

encargadas de las áreas (una oficina distrital atiende dos cantones, Colta y Guamote y para otros 2 cantones, hay una oficina distrital una para cada uno). Por consiguiente, el número de las instituciones ministeriales que el Proyecto debe atender se ha incrementado, haciendo más complicada la gestión de coordinación.

4-3 Eficiencia

(1) Estado de producción de los Resultados

En el cuadro 25, se indican el estado de producción de los Resultados y los principales temas por resolver. Se considera que las actividades progresan favorablemente para que se origine cada uno de los Resultados.

Cuadro 25: Estado de producción de los Resultados y principales temas por resolver

Resultado	Estado de producción	Principales temas pendientes
1: Los agricultores en las áreas del Proyecto Comunitario han adquirido y aplicado conocimientos básicos - técnicas sobre el mejoramiento de los ingresos.	Según se observa en el estudio de campo, que los participantes de la ESDRUC en las 30 comunidades seleccionadas, practican las técnicas relacionadas con el mejoramiento de ingresos.	<ul style="list-style-type: none"> - Fortalecer la organización de los agricultores - Mejorar la capacidad técnica de los promotores del Proyecto
2 : Las familias participantes han adquirido y aplicado conocimientos básicos - técnicas sobre el mejoramiento del entorno de vida (áreas de ambiente, salud, y educación).	Según se observa en el estudio de campo, los participantes de la ESDRUC aplican tecnologías para el manejo de recursos de naturales, salud preventiva y mejoramiento de la nutrición. Con respecto a la alfabetización, no se ha ejecutado debido a la falta de la motivación y demanda de los agricultores de edad avanzada.	<ul style="list-style-type: none"> - Fortalecer la organización de los agricultores - Mejorar la capacidad técnica de los promotores - Analizar la necesidad de excluir la alfabetización como actividad del Proyecto
3: Se ha fortalecido la capacidad de los talentos humanos de las instituciones involucradas sobre el desarrollo participativo para el Desarrollo Rural Integral Sostenible	Más del 90% de los funcionarios, técnicos y promotores participan en la capacitación sobre desarrollo participativo y aplican los conocimientos y técnicas en estas actividades .	<ul style="list-style-type: none"> - Incrementar el nivel de conciencia de la población comunitaria sobre la importancia de la participación. - Sensibilizar a las entidades territoriales (provincial, cantonal, parroquial, y comunitaria, que se incluirán en el futuro.)

4: Se ha fortalecido la articulación entre las instituciones involucradas para el Desarrollo Rural Integral Sostenible.	La Unidad de Apoyo Técnico en articulación con las instituciones involucradas, gestiona las actividades de desarrollo rural en cada comunidad.	- Fortalecer el mecanismo de articulación con el MSP y el MINEDUC, que ya no tienen sus oficinas provinciales
5: Se ha elaborado el documento de lineamientos que plantea la estructura y metodología del Desarrollo Rural Integral Sostenible.	Se podrá lograr antes de terminar el Proyecto si progresan favorablemente sus actividades con la formulación de la estrategia de apoyo, preparación de herramientas para la transferencia técnica y preparación de los mecanismos de difusión.	-Sistematización de las metodologías y herramientas. - Establecimiento de mecanismos específicos

Como elementos que contribuyen a la obtención de los Resultados arriba señalados, se han identificado los siguientes:

- La contribución positiva del GADPCH, institución principal de contraparte.
- La contribución del MAGAP en la tecnología agropecuaria: por ejemplo, en el apoyo en: la adquisición de semillas mejoradas de la FAO e INIAP, la adquisición de especies menores, en el asesoramiento de tecnología agropecuaria, entre otros.
- La contribución del MAE en la educación ambiental: Por ejemplo, forestación, reforestación, conservación de suelo, entre otros.
- La contribución del MSP en salud preventiva y nutrición: Por ejemplo, la promoción del uso del servicio de salud pública, planificación familiar, mejoramiento de la nutrición usando alimentos andinos, higiene alimenticia, entre otros.
- La asistencia del MINEDUC en la implementación de huertos escolares: Se ejecutan los huertos escolares en 16 centros educativos. No solo sirven para los estudios de la biología y la aritmética por cálculo de productividad, sino también para el mejoramiento de la nutrición, la salud preventiva usando los productos, y la educación ambiental.

Por otro lado, como temas pendientes por resolver para la obtención de los Resultados, se encontraron los siguientes:

- Aún persiste la inconformidad de los habitantes que no participan en las actividades de la ESDRUC por no obtener los beneficios del Proyecto. Esta situación se ha aliviado, después de dar a conocer que las actividades del Proyecto están destinadas a todas las comunidades.
- Aunque la ESDRUC viene contribuyendo en el cambio de actitud de los agricultores sobre la participación en el autodesarrollo, se identifican diferentes niveles de motivación. Por lo tanto, será necesario seguir tomando medidas para sensibilizar a los agricultores sobre la

importancia de su participación en el desarrollo.

- Con respecto a la comercialización, se necesita promover medidas rentables para crear ingresos. Se requiere que el Proyecto impulse el mejoramiento de los ingresos de los productores, mediante la comercialización de los productos que generan en el proyecto, buscando el acceso a nuevos mercados.
- En cuanto a los aspectos técnicos impulsados por el Proyecto, algunos promotores aún no han adquirido un adecuado nivel de conocimientos. ni se encuentran suficientemente motivados por la temporalidad de sus contrataciones y otras causas. Por lo tanto, se requiere que el Proyecto establezca mecanismos que permitan elevar el nivel técnico y rendimiento de los promotores para que contribuyan adecuadamente al desarrollo rural.

(2) Relación causa-efecto entre las actividades y la obtención de Resultados

El estado de obtención de los Resultados antes indicado, está directamente relacionado con el avance de las actividades realizadas hasta la fecha. Como se ha señalado en el punto “(1) Implementación de las actividades del Proyecto”, inciso “3-4 Verificación del proceso de Implementación”, las actividades han sido implementadas en general de acuerdo a lo planeado, a excepción de la alfabetización indicada en el Resultado 2.

A través de las actividades realizadas por el Proyecto, se están generando las condiciones adecuadas para lograr los Resultados. Se puede considerar que se está formando una relación adecuada de causa-efecto entre las actividades y la obtención de los Resultados.

(3) Oportunidad, calidad y cantidad de los insumos

Casi todos los insumos fueron aportados por ambas partes según lo planeado y están siendo utilizados en las actividades. Al momento existe la ausencia del experto de largo plazo para la generación de ingresos. Según lo planeado, el experto debía ser enviado desde junio de este año; sin embargo, se espera que un experto sucesor pueda dirigir la promoción de la comercialización efectiva de los productos generados, aprovechando los resultados obtenidos por su predecesor. Aunque actualmente en el Proyecto están trabajando los técnicos capacitados por el experto predecesor, se requiere brindar asistencia técnica en lo relacionado a la ampliación de los canales de comercialización, etc. La inversión de lo demás es adecuada en su cantidad, calidad y oportunidad.

En cuanto a la asignación de personal de contraparte ecuatoriana, se considera adecuada en términos generales. El número del personal asignado por el GADPCH en septiembre de 2012, poco después de haber iniciado el Proyecto, fue 12 personas, pero el número actual al 30 de junio de 2014 es de 19 personas, como se indica en el cuadro 4. Esto muestra el cumplimiento adecuado de los compromisos asumidos por el GADPCH.

En cuanto a otras inversiones de la parte ecuatoriana, no se presentaron mayores inconvenientes, sin embargo, la adquisición y entrega de algunos materiales (semillas, fertilizantes, insecticidas, etc.) resultó muy demorada durante el año 2014, afectando el avance normal de las actividades del Proyecto. En este mismo año, las semillas de papa entregadas también presentaron problemas de

calidad. ;por lo tanto se espera que se mejore el mecanismo de adquisición y entrega.

(4) Condiciones externas para lograr los Resultados

Para lograr los Resultados, como condiciones externas se menciona “No se producen desastres naturales o condiciones climáticas extremas en las áreas de cooperación”. Hasta la fecha no se han identificado factores negativos que afecten el logro de los Resultados, a pesar de que se evidenciaron daños a causa del cambio climático, tales la falta de lluvia, etc.

4-4 Impacto

(1) Perspectivas para alcanzar el Propósito Superior

El Proyecto tiene por Propósito Superior “Mejorar la calidad de vida en las áreas rurales de la Provincia de Chimborazo.” Al momento de la Evaluación Intermedia todavía es prematuro pronosticar el nivel de logro. Se considera posible replicar los resultados obtenidos en el Proyecto en las comunidades rurales de la provincia de Chimborazo porque es probable lograr los tres ejes del Proyecto, es decir, el mejoramiento de ingresos, mejoramiento del entorno de vida y fortalecimiento de la estructura de implementación para el desarrollo rural.

Para lograr el Propósito Superior, se requieren varias condiciones, tales como: el establecimiento de la Red de Transferencia Técnica como mecanismo para implementar la guía preparada por el Proyecto; el establecimiento de la UDRI provincial, cantonal, parroquial y comunitaria, encargada de la práctica sostenible de transferencia en el área rural de la provincia de Chimborazo; el fortalecimiento del sistema de promotores comunitarios que permita hacer la transferencia de un agricultor a otros; y la difusión de este sistema de transferencia técnica en toda la provincia.

Si avanza favorablemente el establecimiento de los mecanismos previstos en la segunda mitad del periodo del Proyecto, se formará una base de difusión de los resultados del Proyecto en toda el área rural de la provincia de Chimborazo. Se considera alta la posibilidad de lograr el Propósito Superior del Proyecto.

(2) Efectos multiplicadores

Como efectos multiplicadores de este Proyecto se pueden mencionar los siguientes puntos:

- Si se establece el modelo de Desarrollo Rural Integral Sostenible mediante el Proyecto y se mejora la calidad de vida en el área rural de la provincia de Chimborazo, tal como se establece en el Propósito Superior, podrá difundirse y replicarse el modelo a otras provincias de la sierra del Ecuador.
- Los habitantes de las comunidades donde avanzan adecuadamente las actividades para el mejoramiento de los ingresos y del entorno de vida, tienden a esforzarse positivamente con sus iniciativas de hacia su autodesarrollo.. Está mejorando la nutrición debido al aumento del consumo de hortalizas producidas como parte de las actividades de huertos familiares, impulsados del Proyecto.

- Existe una mayor unidad de los participantes de la ESDRUC , quienes realizan conjuntamente diferentes estudios y trabajos.
- Los agricultores que están participando en el Proyecto han comenzado a elevar su esperanza en el futuro, expresando, por ejemplo, que pudieron incrementar la rentabilidad de sus cultivos por la introducción de variedades mejoradas, el mejoramiento de la fertilidad del suelo por la conservación del suelo y agua y generaron ingresos a través de la venta de productos con valor agregado, tales como pan de chocho, pollo procesado, huevos y otros.
- Los habitantes de las comunidades beneficiarias han comenzado a tener clientes fijos por la venta periódica de productos de mejor calidad en el mercado, tales como pan de chocho, pollo procesado, huevos y otros.
- Había inconformidad entre los participantes de la ESDRUC y los otros miembros de la comunidad, en razón de que sólo los primeros se beneficiaban . Actualmente este problema ya no existe porque se ha comprendido que el Proyecto beneficia a toda la comunidad, si se cuenta con la colaboración con el cabildo comunal.
- Las actividades de huertos escolares no está dirigido solo a los profesores y alumnos, sino también a los agricultores que colaboran en la gestión del huerto. Es por ello que las técnicas transferidas por el Proyecto en los huertos escolares se transmiten también a los agricultores y las técnicas aprendidas por ellos, se aprovechan en los huertos escolares. Por consiguiente, los huertos escolares no solo son lugares de aprendizaje para los alumnos, sino también lugares para estrechar los vínculos entre las escuelas y las comunidades.
- El chocho que se cultiva con el apoyo del Proyecto en las comunidades seleccionadas, se vende a la CORPOPURUWA, quien procesa y comercializa este producto al Programa Mundial de Alimentos que apoya al programa de alimentación escolar. De esta forma, se asegura el canal de comercialización del chocho, contribuyendo a la estabilidad de la gestión agrícola de estas comunidades.

4-5 Sostenibilidad

(1) Políticas y regímenes

Como se ha indicado en “4-1 Pertinencia”, las actividades del Proyecto tienen coherencia con las principales políticas del gobierno del Ecuador. También se verificó que son coherentes con la política de la provincia. El mandato del Prefecto Provincial de Chimborazo, Director del Proyecto, estará vigente hasta mayo del 2019. Si se institucionalizara el sistema de desarrollo rural con las iniciativas del Prefecto, se estaría asegurando la sostenibilidad.

Por otro lado, la Red de Transferencia Técnica que materializa el modelo de Desarrollo Rural Integral, es lo que no podría establecerse sin la cooperación activa de los gobiernos provincial, cantonal y parroquial, y también de las comunidades. En este contexto, el gobierno cantonal de Alausí ya ha manifestado su intención de participar en la formación de esta Red y se espera que otros gobiernos cantonales y parroquiales también se unan a esta iniciativa.

Se espera fortalecer aún más la participación y colaboración con los Ministerios.

(2) Aspectos organizativos y financieros

El GADPCH es la única institución que asume los gastos de la parte ecuatoriana del Proyecto, facilitando los recursos económicos requeridos. El presupuesto actual del Proyecto viene de una partida especial y para asegurar la sostenibilidad del desarrollo rural será necesario asegurar la creación de una partida presupuestaria, considerando la futura institucionalización de las actividades, principalmente a través de la creación de la UDRI. Además, si se establece la Red de Transferencia Técnica, los gobiernos cantonales y parroquiales, y las comunidades realizarán las actividades de desarrollo rural con sus propios recursos, con lo que se disminuirá la carga económica del gobierno provincial.

Debido a que el MAGAP y el MAE tienen sus oficinas provinciales y el MSP tiene su oficina zonal 3 en Riobamba, no existen muchas dificultades para que el gobierno provincial articule y coordine con estos Ministerios. El MINEDUC, sin embargo, tiene 5 oficinas distritales dentro de la provincia, dificultando la coordinación.

Hay que tomar en cuenta las condiciones financieras de los beneficiarios desde el punto de vista de sostenibilidad. Después de terminar el Proyecto, si los beneficiarios no pudieran asumir todos sus gastos, habría posibilidad de que limiten las actividades, afectando la sostenibilidad. Actualmente, los productores cuentan con un fondo común que también contribuye a la continuidad de las actividades

Las actividades que no necesitan mucha inversión, tales como conservación del suelo y preparación del abono orgánico, tendrán alta posibilidad de continuar; sin embargo, para aquellas actividades de creación de fuentes de ingresos que necesitan inversión inicial alta, como elaboración de pan, se necesitará asesorar a los productores en el mantenimiento y depreciación, con el fin de asegurar la sostenibilidad.

(3) Aspectos técnicos

Con respecto a los funcionarios de Contraparte, sus conocimientos técnicos se ven fortalecidos a través de los cursos de capacitación y el entrenamiento durante el trabajo, sin embargo, se espera la adopción de medidas para que los técnicos desarrollen adecuadamente sus capacidades para implementar, por su propia iniciativa, actividades de desarrollo rural, antes de la terminación del Proyecto, garantizando así la sostenibilidad.

Además, se requiere que el personal de la contraparte ecuatoriana tenga la capacidad de brindar asesoramiento en creación de fuentes de ingresos rentables, por lo que se espera llenar la ausencia y asignar a un experto japonés en comercialización y generación de fuentes de ingresos.

En cuanto a las técnicas de gestión agrícola y de conservación ambiental, el Proyecto mantiene un nivel técnico que permite satisfacer las necesidades de los agricultores, no solo por los esfuerzos de los expertos japoneses y el personal de la contraparte ecuatoriana, sino también por la participación de las instituciones involucradas; por lo que se espera mantener la cooperación y

articulación interinstitucional.

El MSP está llevando a cabo actividades de salud preventiva y nutrición de acuerdo a su propia planificación, en las comunidades seleccionadas del Proyecto. A pesar de que para lograr el desarrollo rural integral sostenible, la salud es un componente importante, no es competencia del GADPCH, según el COOTAD; por lo que se espera que el GADPCH mantenga una efectiva coordinación con el MSP según las necesidades de la población rural. Además, la articulación entre el MINEDUC y el GADPCH se ha implementado a través de las actividades de los huertos escolares, tal como se ha mencionado anteriormente.

4-6 Conclusiones

- El Proyecto mantiene una alta coherencia con las necesidades de las áreas beneficiarias y con las políticas de las partes ecuatoriana y japonesa. Además se considera apropiado como medio para contribuir al incremento de los ingresos y al mejoramiento del entorno de vida de los pequeños productores agrícolas, así como a construir la estructura de implementación para las actividades de desarrollo. Por lo tanto, se considera que su pertinencia es alta.
- Con respecto a la eficacia, se espera que se materialice el contenido de la “Guía para el Desarrollo Rural Integral Sostenible”, objeto del presente Proyecto, y se establezca como modelo del proyecto de desarrollo rural de alta eficacia, elevando el grado de cumplimiento en los cinco Resultados.
- En cuanto a la Eficiencia, se verificó que la obtención de los Resultados obedece al uso apropiado en tiempo, calidad y cantidad de los insumos y actividades, y están logrando el mejoramiento de los ingresos, el mejoramiento del entorno de vida y el establecimiento de la estructura de implementación, para los cuales han desarrollado actividades en forma priorizada.
- En cuanto al Impacto, se puede considerar que el Propósito Superior será muy probable de cumplir, debido a que el Propósito del Proyecto será también posible alcanzar. Además, durante el período del Proyecto se establecerá una estructura para aplicar los resultados a todas las áreas rurales de la provincia de Chimborazo. Después de culminar la cooperación del Japón, aplicará el modelo de desarrollo rural en las áreas de extensión, mediante la conformación de la Red de Transferencia Técnica, el establecimiento de las UDRI y el establecimiento del sistema de promotores comunitarios. En relación a la Sostenibilidad, se puede apreciar que las políticas vigentes promueven el desarrollo rural. Para continuar las actividades del Proyecto y replicar el modelo de desarrollo rural, es necesario institucionalizar, a nivel provincial, los proyectos de desarrollo rural y una intervención unificada de los gobiernos, provincial, cantonal y parroquial. Además, es necesario que las instituciones involucradas en las distintas áreas técnicas también cooperen en adelante en el desarrollo rural. En los aspectos técnicos, se requiere un mayor fortalecimiento de la capacidad técnica del personal de contraparte.
- Finalmente, si en adelante las actividades del Proyecto avanzan fluidamente, se concluirá que el Propósito del Proyecto y el Propósito Superior son posibles de lograr, pero como premisas para ello, se requiere estudiar las recomendaciones y mejoras que se indican a continuación.

Capítulo 5. Recomendaciones

5-1 Realización de las actividades, priorizando la creación de la estructura de implementación para el desarrollo rural integral

El objetivo principal del presente Proyecto consiste en la creación de una estructura de implementación para continuar y ampliar el Proyecto de Desarrollo Rural con la iniciativa propia de la parte ecuatoriana, después de culminada la cooperación. Por consiguiente, en la segunda mitad del período del Proyecto, se requiere prestar atención especial a la creación o reorganización de divisiones administrativas dentro del GADPCH, al aseguramiento sostenible del personal y presupuesto, a la institucionalización necesaria, al fortalecimiento de la articulación asociativa, a la sistematización de técnicas y metodologías de desarrollo, entre otros

A continuación se mencionan algunas sugerencias relacionadas con las actividades para la creación de una estructura de implementación de proyectos de desarrollo:

- (1) Mediante las actividades realizadas hasta la fecha en las áreas del Proyecto Comunitario, se ha identificado la necesidad de crear la “Unidad de Desarrollo Rural Integral (UDRI)” y la “Red de Transferencia Técnica”. Ahora se necesita hacer funcionar estos conceptos en forma inmediata para analizar la eficacia, pertinencia y materialización de cada uno de ellos. Posteriormente, será necesario autorizar de forma definitiva la creación de la “Unidad de Desarrollo Rural Integral (UDRI)” y la “Red de Transferencia Técnica” durante el período del Proyecto, de acuerdo a los resultados del análisis.
- (2) En la segunda mitad del período del Proyecto, se requerirá una asignación del personal de contraparte y su capacitación, teniendo en cuenta la continuación y ampliación de las actividades posteriores al término de la cooperación de Japón.
- (3) Documento de Lineamientos señalado en el indicador de Propósito del Proyecto
 - (a) Con respecto al documento de lineamientos, que es uno de los Resultados finales del Proyecto, será necesario elaborar inmediatamente un borrador preliminar del documento, analizando su composición, contenido y posicionamiento.
 - (b) En la segunda mitad del período del Proyecto, se realizará y verificará una prueba de la estructura de implementación del desarrollo rural en las áreas del Proyecto Comunitario, de acuerdo al borrador preliminar, y se modificará según los resultados de la verificación con el fin de elaborar un documento de lineamientos específico y factible de llevar a cabo.
 - (c) El documento de lineamientos elaborado deberá ser válido para que la parte ecuatoriana impulse los proyectos de desarrollo rural integral con los esfuerzos de autoayuda, después de terminar la cooperación de Japón. Es decir, el documento deberá estar compuesto de temas importantes para realizar el desarrollo rural integral en todas las comunidades de la sierra, de los cantones de la Provincia de Chimborazo, aprovechando los resultados del Proyecto. En las siguientes líneas se enuncian los siguientes temas:

- ① Estrategia de desarrollo (visión sobre la mejora de la calidad de vida, metodologías para el desarrollo rural integral, período de ejecución de un proyecto para una comunidad, costo necesario del proyecto de desarrollo de una comunidad, iniciativa integral con la duración específica para completar el proyecto de desarrollo rural integral de todas las comunidades de sierra de la Provincia)
 - ② Plan de implementación (plan de implementación de proyectos de desarrollo rural integral por año conforme a la estrategia de desarrollo)
 - ③ Estructura de implementación
Descripción específica de los 3 puntos indispensables para la ejecución de proyectos de desarrollo rural según la estrategia de desarrollo y el plan de implementación. A continuación se indican los 3 puntos:
 - Estructura interinstitucional (UDRI, Red de Transferencia Técnica y articulación interinstitucional, todos necesarios para implementar los proyectos de desarrollo rural)
 - Aseguramiento de los recursos humanos (número necesario de técnicos, promotores de los GAD'S y promotores comunitarios para la implementación del desarrollo rural, métodos de convocatoria, etc.)
 - Presupuesto (presupuesto anual que deberá asegurar cada organización para los proyectos de desarrollo rural)
 - ④ Creación de regímenes necesarios
Aspectos sobre la creación de regímenes como: ordenanzas y resoluciones administrativas provinciales necesarias para establecer la estructura de implementación,
- (d) El documento de lineamientos y sus anexos (manuales elaborados por el Proyecto) deberán ser no aprobados y aplicados por las instituciones involucradas, para realizar proyectos de desarrollo rural integral en la provincia de Chimborazo.

5-2 Implementación fluida del Proyecto

La parte japonesa hará sus máximos esfuerzos para enviar expertos según el plan inicialmente aprobado y además analizará la posibilidad de aprovechar el talento humano del Ecuador o de terceros países.

5-3 Ejecución equilibrada de proyectos de desarrollo rural

Para lograr el Propósito Superior del presente Proyecto “Mejorar la calidad de vida en las áreas rurales de la Provincia de Chimborazo.”, es indispensable realizar un desarrollo rural que consiste en el mejoramiento de ingresos y el mejoramiento del entorno de vida. Hasta la fecha, se han venido priorizando las actividades para el mejoramiento de ingresos: por lo que durante la segunda mitad

del período del Proyecto, se deberá realizar las actividades en las dos direcciones, en forma equilibrada, y deberán ser válidos para el mejoramiento de la calidad de vida de la población rural.

5-4 Introducción de semillas y especies menores mejoradas y su sistema de suministro

Uno de los requisitos para aumentar la productividad agropecuaria es la producción, distribución y utilización de semillas y especies menores mejoradas. Por consiguiente, el GADPCH, INIAP-MAGAP y FAO deberán coordinar la creación de un “sistema sostenible de producción y suministro de semillas y especies menores mejoradas”, para ampliar las actividades de desarrollo rural después de terminar la cooperación de Japón.

5-5 Establecimiento del sistema de promotores comunitarios

La existencia de promotores comunitarios que cumplen un rol importante en la Red de Transferencia Técnica es indispensable para los proyectos de desarrollo rural. Por consiguiente, es necesario establecer en forma inmediata, el sistema de promotores comunitarios, considerando la ampliación del desarrollo rural posterior al término de la cooperación de Japón. Para establecer dicho sistema, se espera que se analice la posibilidad del otorgamiento de incentivos.

5-6 Mayor promoción de las actividades para la generación de fuentes de ingresos

Se ha venido realizando distintas actividades para la generación de fuentes de ingresos, pero no se ha hecho el análisis de costo – beneficio. Sobre negocios que necesitan inversión inicial, tales como adquisición de equipos y materiales, necesitarán realizar el análisis de costo – beneficio, considerando los costos de depreciación y mantenimiento para decidir si son o no rentables en el futuro. Para incrementar el impacto de estas actividades, es recomendable analizar la búsqueda de nuevos mercados o la posibilidad de ampliar la escala de sus negocios (por ejemplo, venta asociativa directa a supermercados).

5-7 Elaboración de manuales y folletos sobre técnicas agropecuarias y gestión agropecuaria

Se notan retrasos en el trabajo de recopilación de los resultados de las áreas de técnicas agropecuarias y gestión agropecuaria. Es necesario preparar, en forma inmediata, para los promotores, los manuales de varios temas, tales como técnicas de cultivo de papa, cebada, trigo, chocho y hortalizas; preparación de abonos orgánicos; mejora de la gestión agropecuaria (introducción de la rotación de cultivos, etc.). También, se espera la elaboración de folletos de los mismos temas para los productores. Además, se requiere la recopilación de información técnica sobre producción y multiplicación de

semillas y especies menores mejoradas.

5-8 Mayor promoción de la conservación del suelo y agua

Debido a que la conservación del suelo y agua es indispensable para la agricultura sostenible, se trata la conservación como una de las actividades más importantes del Proyecto. La importancia de la conservación, sin embargo, no ha llegado en forma extensa al nivel de agricultores. Por lo tanto, en la segunda mitad del periodo del Proyecto, se necesitará difundir y aplicar las técnicas prácticas para la conservación del suelo y agua mediante la forestación, reforestación, etc.

5-9 Ejecución del estudio cuantitativo para verificar los efectos del Proyecto

Para identificar en forma numérica el grado de mejoramiento de la calidad de vida de los habitantes de las comunidades seleccionadas mediante las actividades del Proyecto en comparación con el momento del estudio de línea base realizado al inicio del Proyecto, es necesario realizar un monitoreo y seguimiento cuantitativo y justificar la aplicación adecuada de las metodologías de desarrollo. Complementariamente a ello, se requiere una mayor coordinación conjunta entre el Proyecto y el MAE, para garantizar una mejor calidad de las actividades comunitarias relacionadas que se llevan a cabo, tales como el manejo de viveros forestales, aprovechamiento de incentivos establecidos por el MAE, etc.

5-10 Promoción del Autodesarrollo

Disminuir paulatinamente el apoyo económico en la entrega de insumos, materiales y equipos a las comunidades, con el fin de eliminar la costumbre de recibir permanentemente recursos del Estado y organismos internacionales (paternalismo), mediante la capacitación en temas de emprendimiento y autonomía, administrativos y económicos,

5.11 Afianzar la Sostenibilidad

Reforzar en alcance y frecuencia, la capacitación a las comunidades beneficiarias en el fortalecimiento organizacional, con el fin de lograr su fortalecimiento estructural para asegurar que el proyecto sea sostenible y perdure luego de terminar la cooperación de Japón.

5.12 Revisión del plan de acción del Proyecto

En base a las sugerencias de la Evaluación Intermedia, se necesitará hacer una reformulación del PO (Plan Operativo) del Proyecto.

5.13 Fortalecimiento de la Coordinación y Articulación Interinstitucional

Con el propósito de fortalecer la coordinación y articulación interinstitucional, se

requiere mejorar la comunicación con los procesos descentralizados de los ministerios involucrados. Complementariamente, se sugiere definir efectivos mecanismos de comunicación interna en cada ministerio, en relación a este Proyecto.

A handwritten signature in black ink, located in the bottom right corner of the page. The signature is stylized and appears to consist of several cursive letters.

Cronograma de la Misión de Evaluación Intermedia

	Fecha		Actividades		Hospedaje
			Dr. NAGAYO, Sr. MURAKAMI, Sr. SUGANO Viceprefecta, evaluadores de los Ministerios	Sr. OMORI	
1	8-Sep	Lun.		DL296 15:55 Tokyo/Narita → 15:11 Atranta DL673 17:41 Atranta → 22:00 Quito	Quito
2	9-Sep	Mar.		09:00 Reunión en JICA Ecuador 10:00 Quito → Riobamba, Check In Mansión Santa Isabella 16:00-18:00 Reunión con los expertos japoneses en la Oficina de PMSK	Riobamba
3	10-Sep	Miér.		08:30-08:55 Reunión con CPs de PMSK (Confirmación de la agenda) 09:00-09:30 Visita de cortesía al Sr. Prefecto 09:30-10:00 Explicación (a la evaluadora de GADPCH) sobre PCM, PDM, Metodología de Evaluación y Reseña del Proyecto. 10:00-18:00 Entrevista con los técnicos Contrapartes de GADPCH 10:00-10:30 Entrevista al administrador del Proyecto (Agapito M) 10:30-11:30 Unidad de Administración (Alejandro, Alfonso, Ruth y Anita) 11:30-12:00 Unidad de DPA (Ruben) 14:00-14:30 Unidad de Producción (Roberto, Jorge C, Darwin) 14:30-15:00 Unidad de Comercialización (Hugo) 15:00-15:30 Unidad de Ambiente (Carlos Bonilla, J Gavin) 15:30-16:00 Unidad de Salud (Alejandro) 16:00-16:30 Unidad de Educación (Samuel) 16:30-17:30 Unidad de Promotores (Alfonso, Nidia, Samuel, Gavin, Jorge G, Anita, Ruben, Alfredo, Ramon)	Riobamba
4	11-Sep	Jue.		Entrevista con los Directores y personal contraparte de los ministerios en la oficina de Chimborazo (Alejandro, Ruth, Hirozumi) 9:00-10:15 MAGAP (Ing. Lucy Montarvo, Ing. V Anguieta, Ing. Oswaldo Alvares, Ing. Veronica Cruz, Ing. Javier Checo) 10:30-11:45 MAE (Ing. M. Oviedo, Ing. M. Pino, Ing. M. Acuña) 14:00-15:15 MSP (Dra. Ruth Naranjo, Dra. Luz Rocillo) 16:00-17:15 MINEDUC (Dr. Segundo Yopez)	Riobamba
5	12-Sep	Vier.		Salida de la oficina 8:30 A.M. 9:30-12:00 Estudio en San Martín Alto (Alfonso, Jorge G) P.M. 13:00-15:30 Estudio en Columbe 1 y 2 (Alfonso, Gavin)	Riobamba
6	13-Sep	Sab.		Preparación de documento	Riobamba
7	14-Sep	Dom.		Salida de la oficina 8:30 09:00-13:00 Día de Campo en Silpala (Alfonso, Rubén)	Riobamba
8	15-Sep	Lun.		Salida de la oficina 8:30 A.M. 9:30-10:30 Estudio en Sarachupa (Alejandro, Hugo, Alfredo) 10:45-12:00 S.F. de Bishud (Alejandro, Hugo, Alfredo) P.M. 13:00-14:00 Estudio en San Pablo de Tipín (Alejandro, Hugo, Alfredo) 14:15-15:30 CORPOPURUWA (Alejandro, Hugo, Alfredo)	Riobamba
9	16-Sep	Mar.		Riobamba → Quito P.M. Explicación al evaluador de SETECI sobre PCM, PCM, PDM, Metodología de Evaluación y Reseña del Proyecto.	Riobamba
10	17-Sep	Miér.	DL296 15:55 Tokyo/Narita → 15:11 Atranta DL673 17:41 Atranta → 22:00 Quito	A.M. Explicación a los evaluadores de MAGAP y MAE sobre PCM, PCM, PDM, Metodología de Evaluación y Reseña del Proyecto. P.M. Visita de cortesía y entrevista con el MSP y MINEDUC	Quito

11	18-Sep	Jue.	En Quito AM Reunión interna de la Misión (JICA) AM Visita de cortesía al MAGAP y MAE PM Quito → Riobamba	Riobamba
12	19-Sep	Vier.	08:30-08:55 Reunión con CPs de PMSK (Confirmación de la agenda) 09:00-09:30 Visita de cortesía y entrevista con el Sr. Prefecto de la Provincia de Chimborazo 09:30-09:50 Reunión con los expertos japoneses (Hirozumi) 09:50-10:10 Reunión con los expertos japoneses (Kurihara) 10:10-10:30 Reunión con los expertos japoneses (Inoue) 11:00-12:00 Entrevista con la a Unidad de Administración (Agapito, Alejandro, Alfonso, Ruth) 14:00-14:30 Entrevista con la Unidad de DPA (Ruben, Veronica C, Miguel A, Samuel G, Basilio C) 14:30-15:00 Entrevista con la Unidad de Producción (Roberto, Jorge C, Darwin, J Checo, Alfredo) 15:00-15:30 Entrevista con la Unidad de Comercialización (Hugo, Jaquelin) Receso 16:00-16:30 Entrevista con la Unidad de Ambiente (Marcelo Pino, Carlos Bonilla, J. Gavin, Jaime) 16:30-17:00 Entrevista con la Unidad de Salud (Alejandro) 17:00-17:30 Entrevista con la Unidad de Educación (Samuel)	Riobamba
13	20-Sep	Sab.	Salida de la oficina 8:15 Estudio en Guamote: 9:30-10:30 Chismaute Alto y 11:00-12:00 Jatumpamba (Alfonso, Hirozumi, Ruben, Alfredo)	Riobamba
14	21-Sep	Dom.	Preparación de documentos (De ser posible, los evaluadores ecuatorianos se trasladan a Riobamba)	Riobamba
15	22-Sep	Lun.	Salida de la oficina 8:15 A.M. 9:30-10:30 Estudio en San Bernardo y 11:30-12:30 Huacona Grande (Inoue, Roberto, Jaime) P.M. 14:00-16:30 Estudio en Rumicruz (Inoue, Roberto, Jaime)	Riobamba
16	23-Sep	Mar.	Salida de la oficina 8:00 A.M. 09:30-10:45 Estudio en Pueblo Viejo (Kurihara, Alfonso, Jaime) 11:30-12:00 Entrevista al Alcalde de Alausí (Abg. Manuel Vargas, Ing. Rodrigo) (Kurihara, Alfonso) P.M. 14:00-15:30 Estudio en La Pacífica (Kurihara, Alfonso, Jorge G)	Riobamba
17	24-Sep	Miér.	Reunión conjunta de evaluadores (1)	Riobamba
18	25-Sep	Jue.	Reunión conjunta de evaluadores (2)	Riobamba
19	26-Sep	Vier.	A.M. Reunión conjunta de evaluadores (3) y Firma del informe de evaluación conjunta P.M. Preparación de la Minuta de Discusión y su envío a los Ministerios (Los evaluadores ecuatorianos retornan a Quito) 16:00-18:00 Reunión de Planificación con los expertos japoneses (Nagayo, Murakami, Hirozumi, Kurihara)	Riobamba
20	27-Sep	Sab.	Riobamba → Quito Preparación de documento	Quito
21	28-Sep	Dom.	Preparación de documento	Quito
22	29-Sep	Lun.	A.M. 9:15- Lectura del Informe de Evaluación Conjunta en la CCC A.M. Intercambio de opiniones sobre la Minuta de Discusión A.M. Firma de la Minuta de Discusión	Quito
23	30-Sep	Mar.	Informe en JICA Ecuador Informe en la Embajada del Japón DL680 23:00 Quito →	—
24	1-Oct	Miér.	→ 05:46 Atranta DL295 13:30 Atranta →	—
25	2-Oct	Jue.	→ 16:55 Tokyo/Narita	—

Título del Proyecto : “Desarrollo Rural Integral Sostenible en la Provincia de Chimborazo”
 Duración del Proyecto : 14 de Marzo de 2012 ~ 13 de Marzo de 2017 (5 años)
 Área Objeto : Áreas Rurales en la Provincia de Chimborazo
 Área del Proyecto : 30 comunidades de 4 cantonas seleccionados en la Provincia de Chimborazo
 Comunitario
 Instituciones Ejecutoras : Gobierno Autónomo Descentralizado de la Provincia de Chimborazo (GADPCH), Ministerio de Agricultura, Ganadería, Acuacultura y Pesca (MAGAP), Ministerio del Ambiente (MAE), Ministerio de Educación (ME) y Ministerio de Salud Pública (MSP)
 Beneficiarios Directos : Población de 30 comunidades en las 4 cantones seleccionados
 Beneficiarios Indirectos : Población rural en la Provincia de Chimborazo

Resumen del Proyecto	Indicadores	Medios de Verificación	Condiciones Externas
Propósito Superior Mejorar la calidad de vida en las áreas rurales de la Provincia de Chimborazo.	1. Se logrará incrementar los ingresos en las áreas objeto de la provincia de Chimborazo, mediante la adquisición y puesta en práctica de conocimientos básicos - técnicas sobre el mejoramiento de ingresos. 2. Se pondrán en práctica conocimientos - técnicas sobre el mejoramiento del entorno de vida en las áreas de ambiente, salud y educación, implementadas por el Proyecto.	1. Investigación in situ	
Propósito del Proyecto Se han mejorado los ingresos y el entorno de vida de la población que vive en las áreas del Proyecto Comunitario, y se ha fortalecido la estructura para mejorar la calidad de vida en las áreas de extensión.	1. Los ingresos de las familias de las comunidades participantes en las áreas de Proyecto Comunitario aumentarán en un 30% mediante la adquisición y aplicación de los conocimientos básicos - técnicas sobre el mejoramiento de los ingresos. 2. Más de 50% de las familias del área del Proyecto Comunitario incrementarán su satisfacción sobre el entorno de vida. 3. La guía del sistema y metodologías del Desarrollo Rural Integral Sostenible será acordado por las instituciones involucradas del Proyecto (Nota1).	1. Investigación in situ 2. Documento acordado sobre la guía	1. No se empeora notablemente la economía del área de cooperación.
Resultados 1. Los agricultores en las áreas del Proyecto Comunitario han adquirido y aplicado conocimientos básicos - técnicas sobre el mejoramiento de los ingresos (Nota2). 2. Las familias participantes han adquirido y aplicado conocimientos básicos - técnicas sobre el mejoramiento del entorno de vida (áreas de ambiente, salud, y educación).	1.1 Más de 50% de las familias participantes en las áreas del Proyecto Comunitario adquirirán y aplicarán conocimientos - técnicas sobre el mejoramiento de los ingresos. 2.1 Más de 50% de los participantes en las capacitaciones en las áreas del Proyecto Comunitario aplicarán los conocimientos - técnicas sobre la conservación ambiental. 2.2 Más de 50% de los participantes en las áreas del Proyecto Comunitario adquirirán y aplicarán los conocimientos - técnicas sobre la salud preventiva. 2.3 Más de 50% de los participantes en las áreas del Proyecto Comunitario aplicarán los conocimientos - técnicas sobre el	1.1. Investigación in situ 1.2 Registro de actividades del Proyecto 2.1 Investigación in situ 2.2 Registro de actividades de cada ministerio	1. No existe cambio político en las instituciones involucradas.

	<p>mejoramiento de la alimentación y nutrición.</p> <p>2.4 Más de 50% de personas (Nota 3) en las áreas del Proyecto Comunitario participarán en cursos de alfabetización y de pos-alfabetización.</p>		
<p>3. Se ha fortalecido la capacidad de los talentos humanos de las instituciones involucradas sobre el desarrollo participativo para el Desarrollo Rural Integral Sostenible.</p>	<p>3.1 Más de 80% de los funcionarios, técnicos y promotores de las instituciones involucradas participarán en capacitaciones del desarrollo participativo.</p> <p>3.2 Más de 50% de los funcionarios, técnicos y promotores capacitados en cursos del desarrollo participativo, estarán aplicando los conocimientos y experiencias adquiridos en el manejo de los Proyectos Comunitarios.</p>	<p>3.1 Registro de asistencia al curso</p> <p>3.2 Registro de actividades</p> <p>3.3 Investigación in situ</p>	
<p>4. Se ha fortalecido la articulación entre las instituciones involucradas para el Desarrollo Rural Integral Sostenible.</p>	<p>4.1 Estarán en funcionamiento las Unidades de Apoyo Técnico.</p> <p>4.2 Estará en funcionamiento una Red de Transferencia Técnica.</p> <p>4.3 Se implementarán los proyectos de desarrollo rural en cada comunidad en colaboración de las instituciones involucradas.</p>	<p>4.1 Registro de actividades</p> <p>4.2 Investigación in situ</p> <p>4.3 Documento del reglamento de la Red de Transferencia Técnica</p>	
<p>5. Se ha elaborado la guía que plantea el sistema y metodología del Desarrollo Rural Integral Sostenible.</p>	<p>5.1 Presentarán a las instituciones involucradas de la guía que plantea el sistema y metodología del Desarrollo Rural Integral Sostenible.</p>	<p>5.1 Documento acordado sobre la guía</p>	
<p>Actividades</p> <p>1-1 Seleccionar el área del Proyecto Comunitario y realizar la encuesta de línea de base para el área.</p> <p>1-2 Reforzar las capacidades de los técnicos y promotores referentes a las actividades de mejoramiento de los ingresos (Nota 2).</p> <p>1-3 Organizar al grupo de agricultores y facilitar la planificación e implementación de capacitaciones destinadas al mejoramiento de los ingresos.</p> <p>1-4 Facilitar la planificación e implementación de las actividades del grupo de agricultores para mejorar de los ingresos en base a los resultados de la capacitación implementada.</p> <p>1-5 Facilitar el monitoreo y la evaluación periódica de las actividades del grupo de agricultores sobre mejoramiento de los ingresos.</p> <p>2-1 En base al aprovechamiento de los servicios públicos de las instituciones involucradas, planificar e implementar la capacitación dirigida al grupo de agricultores sobre el</p>	<p>Aportes</p> <p>1. Parte japonesa</p> <ul style="list-style-type: none"> • Expertos de Largo Plazo <ul style="list-style-type: none"> 1) Jefe Asesor / Desarrollo Rural Integral Sostenible 2) Coordinador / Desarrollo Participativo 3) Generación de Ingreso / Comercialización 4) Gestión Agrícola • Expertos de Corto Plazo <ul style="list-style-type: none"> 1) Riego, Conservación del Suelo y el Agua, Mejoramiento de la Calidad de Vida, Género, Consideración Social y otros • Consultores regionales y expertos de terceros países <ul style="list-style-type: none"> Cultivos, Desarrollo Local con Enfoque Territorial y otros • Provisión de Maquinaria y Equipamiento <ul style="list-style-type: none"> Equipamiento para la recuperación y conservación de suelos, Vehículos (para la movilización entre 		<p>1. No se producen desastres naturales o condiciones climáticas extremas en las áreas de cooperación</p>

<p>mejoramiento del entorno de vida (conservación del ambiente, salud preventiva, mejoramiento de los alimentos y nutrición, alfabetización y otros)</p> <p>2-2 Facilitar al grupo de agricultores la implementación de actividades diseñadas para el mejoramiento del entorno de vida en base a los resultados de la capacitación realizada.</p> <p>2-3 Facilitar al grupo de agricultores monitoreo y evaluaciones periódicas de las actividades diseñadas para el mejoramiento del entorno de vida, para su mejoramiento.</p> <p>3-1 Planificar e implementar la capacitación sobre el ciclo de desarrollo participativo (identificación de necesidades, planificación, ejecución, monitoreo-evaluación, retroalimentación) y los medios (Asociatividad, herramientas referentes al mejoramiento del entorno de vida y otros) destinadas al Desarrollo Rural Integral Sostenible para fortalecer la capacidad de los técnicos y promotores de las instituciones involucradas (incluida la elaboración de manuales y otros).</p> <p>3-2 Aplicar los conocimientos y las experiencias adquiridos referentes al desarrollo participativo en las actividades del Proyecto Comunitario.</p> <p>4-1 Crear las Unidades de Apoyo Técnico entre las instituciones involucradas.</p> <p>4-2 Constituir la Red de Transferencia Técnica entre las instituciones involucradas con la iniciativa de GADPCH.</p> <p>4-3 Implementar la transferencia técnica del desarrollo rural mediante las actividades articuladas por la Red de Transferencia Técnica.</p> <p>5-1 Preparar la guía que plantee el sistema y metodología para el Desarrollo Rural Integral Sostenible, en base a las experiencias de las diferentes actividades realizadas en las áreas del Proyecto Comunitario, así como al análisis de la situación actual y tareas pendientes en las áreas de extensión.</p>	<p>comunidades), Motocicletas para el uso de los promotores (adición), Equipos para la oficina del Proyecto (copiadora, computadora y otros), pequeñas inversiones para sistemas de riego y otros.</p> <ul style="list-style-type: none"> • Capacitación de Contrapartes en Japón o en tercer(os) país(es): <ol style="list-style-type: none"> 1) Capacitación en Japón (mejoramiento de la calidad de vida y otras áreas) 2) Capacitación en otro(s) país(es) (mejoramiento de la calidad de vida, generación de ingresos y otras áreas relacionadas) 3) Intercambio tecnológico con proyectos similares en Bolivia y Perú. • Presupuesto operativo para proyectos comunitarios (este presupuesto será reducido a 0% para el final del período de implementación del Proyecto) • Seminarios, talleres, material didáctico para el plan de aprendizaje participativo de los agricultores, estudios conducidos por firmas consultoras locales, desarrollo de manuales y otros bienes de consumo <p>2. Parte ecuatoriana</p> <ul style="list-style-type: none"> • Director del Proyecto • Administrador del Proyecto • Personal del Proyecto (funcionarios del GADPCH, de los GAD de las 4 cantones y de las direcciones provinciales de los Ministerios que pertenecen a varios sectores: Agricultura, Ambiente, Educación y Salud Pública) • Presupuesto (Costos operativos, costos de implementación de proyectos comunitarios y otros) • Oficina del Proyecto (en el GADPCH, incluyendo mobiliario, materiales y servicios básicos, teléfono y conexión a Internet) • Personal de apoyo • Vehículos(s) para el Proyecto 	<p>Precondición</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Se garantiza la seguridad pública en el área de cooperación. 2. No hay un cambio frecuente de personal participantes de las instituciones contrapartes.
--	--	--

Nota1: Instituciones involucradas se refieren al GADPCH, Ministerios involucrados, Gobiernos cantonales y parroquiales.

Nota2: Mejoramiento de los ingresos se compone por incremento de productividad agropecuaria, mejoramiento de gestión agropecuario, comercialización, y generación del fuente de ingresos.

Nota3: Personas correspondientes significán aquellas personas puestas en lista por el Ministerio de Educación.

Resultado de la Asignación de Expertos de JICA

Envío de los expertos a largo plazo

No.	Nombre y apellido	Cargo	Duración del envío		Empresa a que pertenece	Resultado del envío				
			Inicio	Término		2012	2013	2014	2015	2016
1	Lic. Kiyoshi Hirozumi	Jefe Asesor / Experto en Desarrollo Rural Sostenible	2012.3.14	2015.3.8	Forum 21 Co., Ltd.	→	→	→		
2	MS.c. Toshiaki Kurihara	Coordinador / Experto en Desarrollo Participativo	2012.5.30	2015.5.29	No pertenece a ninguna empresa	→	→	→		

Envío de expertos a corto plazo

No.	Nombre y apellido	Cargo	Duración del envío		Empresa a que pertenece	Resultado del envío				
			Inicio	Término		2012	2013	2014	2015	2016
1	Ing. Harunobu Inoue	1er año: Gestión Agrícola 2do y 3er año: Difusión de Tecnología Agrícola Sostenible	2012.4.25	2015.2.26	Japan Development Service Co., Ltd.	→	→	→		
2	MBA. Takeshi Iwase	1er año: Generación de Ingresos/Comercialización 2do año: Comercialización de Productos Agrícolas/ Generación de Ingresos	2012.4.18	2014.5.8	Unico International Corporation	→	→			
3	Ing. Shigeo Sakai	Conservación de suelo y agua	2012.11.9	2013.2.19	Oriental Consultants Co.,Ltd.	→				
4	Dr. Hirokatsu Utagawa	Conservación de suelo y agua	2014.6.30	2014.8.26	Kokusai Kogyo Co., Ltd.			→		

Resultado de la Capacitación en Japón

No.	Nombres y apellidos	Duración	Nombre del programa asistido	País	Lugar de implementación	Nota	Cargo en el momento del envío	Cargo actual / Fecha del cese, lugar de nuevo empleo
1	Agapito Muñoz	2013.1.20 - 2013.2.2	Seminario "Desarrollo de áreas rurales mediante el mejoramiento de vida"	Japón	Tsukuba International Center de JICA	Curso en Nivel Directivo	Coordinador de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Mismo cargo a la izquierda
2	Blanca Guijarro	2013.2.13 - 2013.3.16	Desarrollo Económico Regional Endógeno Utilizando Recursos Locales en los Países de América Central y del Sur	Japón	Chubu International Center de JICA	Curso en Nivel Técnico	Servidora Pública de la Coordinación de Planificación del GADPCH	Servidora Pública de la Coordinación de Riego del GADPCH

Provisión de Equipos y Materiales por JICA

*Frecuencia de uso: A: Uso frecuente - B: Uso medio - C: Uso excepcional

1. Equipos y materiales para donación								
No.	Nombre de equipo	Precio unitario (US\$)	Cantidad	Precio total (US\$)	Fecha de adquisición	Lugar de custodia	Frecuencia de uso*	Estado
1	Vehículo (Camioneta) Nissan Frontier (Color blanco y plomo)	20.836,00	2	41.672,00	15/03/2012	Parqueadero del GADPCH	A	Bueno
2	Computadora (Escritorio) OPTIPLEX 990/C15	825,00	5	4.125,00	14/03/2012	Oficina del Proyecto	A	Bueno
3	Computadora (Laptop) LATITUDE E6320	1.276,00	2	2.552,00	14/03/2012	Oficina del Proyecto	A	Bueno
4	Monitor DELL 19	174,00	5	870,00	14/03/2012	Oficina del Proyecto	A	Bueno
5	Impresora a color HP LASER JET COLOR 3525DN	1.010,24	1	1.010,24	19/03/2012	Oficina del Proyecto	A	Bueno
6	Impresora blanco y negro HP LASER JET 2055DN	363,88	1	363,88	21/03/2012	Oficina del Proyecto	A	Bueno
7	Licencia de programa MS Office	280,00	7	1.960,00	14/03/2012	Oficina del Proyecto	A	Bueno
8	Azadón mecánico Solo 508	1.482,40	4	5.929,60	19/11/2012	Taller del GADPCH	B	Bueno
9	Moto cultivadora Husqvarna TR530	3.100,00	6	18.600,00	20/11/2012	Taller del GADPCH	B	Bueno
10	Mini excavadora John Deere 35D	62.606,00	1	62.606,00	21/12/2012	Taller del GADPCH	A	Bueno
11	Vehículo (Jeep) Toyota Fortuner (Color negro)	35.290,00	1	35.290,00	21/12/2012	Parqueadero del GADPCH	A	Bueno
12	Vehículo (Furgoneta) Toyota Hiace (Color blanco y plomo)	36.700,00	2	73.400,00	31/01/2013	Taller del GADPCH	A	Bueno
13	Mini excavadora JCB 8040 ZTS	74.480,00	1	74.480,00	13/09/2014	Taller del GADPCH	-	Nuevo
	Total			\$322.858,72				

2. Equipos para realizar el trabajo de los expertos								
No.	Nombre de equipo	Precio unitario (US\$)	Cantidad	Precio total (US\$)	Fecha de adquisición	Lugar de custodia	Frecuencia de uso*	Estado
	No hay adquisición			\$0,00				

Gastos locales asumidos por la parte japonesa

Al momento de: 2014/07/10

(Unidad monetaria:US\$)

Año fiscal 2012 (De abril de 2012 a marzo de 2013)

Rubro	Abril	Mayo	Junio	Julio	Agosto	Septiembre	Octubre	Noviembre	Diciembre	Enero	Febrero	Marzo	Total
Gastos de pasajes aéreos													0,00
Gastos de transporte (excepto aéreo)			138,80	135,40	38,00		30,00	140,80		162,00		30,00	675,00
Contratación de trabajo (Consultores locales)													0,00
Contratación de trabajo (ONG locales)					15.127,00	15.127,00							30.254,00
Contratación de trabajo													0,00
Remuneración (No para personal del Proyecto)					700,00	1.400,00	700,00		700,00	700,00	1.002,40	1.400,00	6.602,40
Reuniones, sesiones y conferencias			509,05										509,05
Gastos generales	178,34	308,30	440,00	7.775,39	1.698,81	2.531,98	7.649,60	14.568,10	10.487,51	15.416,86	17.717,77	23.721,75	102.494,41
Total	178,34	308,30	1.087,85	7.910,79	17.563,81	19.058,98	8.379,60	14.708,90	11.187,51	16.278,86	18.720,17	25.151,75	140.534,86

Año fiscal 2013 (De abril de 2013 a marzo de 2014)

Rubro	Abril	Mayo	Junio	Julio	Agosto	Septiembre	Octubre	Noviembre	Diciembre	Enero	Febrero	Marzo	Total
Gastos de pasajes aéreos			15.872,78										15.872,78
Gastos de transporte (excepto aéreo)	30,00		336,00	10.095,59	30,00				21,00	132,00	21,00	132,00	10.797,59
Contratación de trabajo (Consultores locales)													0,00
Contratación de trabajo (ONG locales)													0,00
Contratación de trabajo													0,00
Remuneración (No para personal del Proyecto)		901,00	1.802,00		901,00	1.802,00		901,00	1.802,00		901,00	1.802,00	10.812,00
Reuniones, sesiones y conferencias									927,60				927,60
Gastos generales	7.324,39	17.784,28	11.354,99	18.377,47	1.908,73	3.254,45	7.281,94	25.353,09	10.711,81	11.614,20	27.837,15	11.856,13	154.658,63
Total	7.354,39	18.685,28	29.365,77	28.473,06	2.839,73	5.056,45	7.281,94	26.254,09	13.462,41	11.746,20	28.759,15	13.790,13	193.068,60

Año fiscal 2014 (De abril de 2014 a marzo de 2015)

Rubro	Abril	Mayo	Junio	Julio	Agosto	Septiembre	Octubre	Noviembre	Diciembre	Enero	Febrero	Marzo	Total
Gastos de pasajes aéreos													0,00
Gastos de transporte (excepto aéreo)		90,00											90,00
Contratación de trabajo (Consultores locales)													0,00
Contratación de trabajo (ONG locales)													0,00
Contratación de trabajo													0,00
Remuneración (No para personal del Proyecto)		1.802,00	901,00										2.703,00
Reuniones, sesiones y conferencias													0,00
Gastos generales	16.631,93	415,58	11.787,90										28.835,41
Total	16.631,93	2.307,58	12.688,90	0,00	31.628,41								

Resultado de la Asignación del personal de Contraparte por la parte ecuatoriana

No.	Nombres y apellidos	Cargo	Puesto que ocupa en el proyecto	Nombre del experto quien realizó la transferencia técnica	Período laboral en el Proyecto		Duración de asignación para el Proyecto					Nota
					Inicio	Término	2012	2013	2014	2015	2016	
1	Abg. Mariano Curicama	Prefecto de Chimborazo	Director del Proyecto	Kiyoshi Hirozumi	2012.3	Vigente	█	█	█			Ex Becario del Programa de Capacitación y Diálogo de JICA (2010)
2	Ing. Agapito Muñoz	Coordinador de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Administrador del Proyecto	Kiyoshi Hirozumi	2012.3	Vigente	█	█	█			Ex Becario del Programa de Capacitación y Diálogo de JICA (2012)
3	Ing. Alejandro Guanolema	Servidor Público de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Administrador Adjunto del Proyecto (Unidad de Apoyo Técnico)	Kiyoshi Hirozumi Toshiaki Kurihara	2012.3	Vigente	█	█	█			Fue promotor del Proyecto en su primera fase.
4	Ing. Alfonso Guzmán	Servidor Público de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Administrador Técnico del Proyecto (Unidad de Apoyo Técnico)	Kiyoshi Hirozumi Toshiaki Kurihara	2014.2	Vigente			█			
5	Ing. Fausto López	Servidor Público de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Coordinador de la Unidad de Apoyo Técnico de Producción Agrícola	Harunobu Inoue	2012.7	2013.12	█	█				Cambio departamental
6	Ing. Marcia Altamirano	Servidora Pública de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Coordinadora de la Unidad de Apoyo Técnico de Comercialización	Takeshi Iwase	2012.7	2013.12	█	█				Cambio departamental
7	Ing. Rubén Aucancela	Servidor Público de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Coordinador de la Unidad de Apoyo Técnico de Desarrollo Participativo y Asociatividad	Toshiaki Kurihara	2012.7	Vigente	█	█	█			Ex Becario del Programa de Capacitación y Diálogo de JICA (2010), inició su labor exclusivamente en el Proyecto desde abril del 2014
8	Ing. Marcelo Pino	Técnico del MAE Chimborazo	Coordinador de la Unidad de Apoyo Técnico de Ambiente	Kiyoshi Hirozumi	2012.3	Vigente	█	█	█			No labora exclusivamente para el Proyecto.
9	Ing. Oswaldo Álvarez	Técnico del MAGAP Chimborazo	Miembro de la Unidad de Apoyo Técnico de Producción Agrícola	Harunobu Inoue	2012.3	Vigente	█	█	█			No labora exclusivamente para el Proyecto.
10	Ing. Roberto Carlos Mata	Técnico del MAGAP Chimborazo	Coordinador de la Unidad de Apoyo Técnico de Producción Agrícola	Harunobu Inoue	2014.3	Vigente			█			
11	Ing. Alejandro Barreto	Servidor Público de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Supervisor de la Unidad de Apoyo Técnico de Producción Agrícola	Harunobu Inoue	2012.3	2013.12	█	█				No ha renovado el contrato.
12	Ing. Darwin Cadena	Servidor Público de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Miembro de la Unidad de Apoyo Técnico de Producción Agrícola	Harunobu Inoue	2014.4	Vigente			█			
13	Ing. Jorge Chiliquina	Servidor Público de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Supervisor (en Especies Menores) de la Unidad de Apoyo Técnico de Producción Agrícola	Harunobu Inoue	2013.1	Vigente		█	█			
14	Ing. Blanca Guijarro	Servidora Pública de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Miembro de la Unidad de Apoyo Técnico de Comercialización	Takeshi Iwase	2013.1	2014.1	█	█				Ex Becaria del Programa de Capacitación y Diálogo de JICA, Cambio departamental.
15	Ing. Hugo Fernández	Servidor Público de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Coordinador de la Unidad de Apoyo Técnico de Comercialización	Takeshi Iwase	2014.3	Vigente			█			
16	Ing. Jaqueline Tapia	Servidora Pública de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Miembro de la Unidad de Apoyo Técnico de Comercialización	Takeshi Iwase	2012.7	Vigente	█	█	█			No labora exclusivamente para el Proyecto.
17	Ing. Marcelino Guamán	Servidor Público de la Coordinación de Gestión Social del GADPCH	Miembro de la Unidad de Apoyo Técnico de Comercialización	Takeshi Iwase	2012.7	Vigente	█	█	█			No labora exclusivamente para el Proyecto.
18	Ing. Verónica Cruz	Técnica del MAGAP Chimborazo	Miembro de la Unidad de Apoyo Técnico de Desarrollo Participativo y Asociatividad	Toshiaki Kurihara	2012.7	Vigente	█	█	█			
19	Ing. Freddy Abarca	Técnico del MAE Chimborazo	Miembro de la Unidad de Apoyo Técnico de Desarrollo Participativo y Asociatividad	Toshiaki Kurihara	2012.7	2013.7	█	█				
20	Ing. Miguel Acuña	Técnico del MAE Chimborazo	Miembro de la Unidad de Apoyo Técnico de Desarrollo Participativo y Asociatividad	Toshiaki Kurihara	2013.7	Vigente			█			
21	Lic. Hugo Zavala	Servidor Público de la Coordinación de Gestión Social del GADPCH	Miembro de la Unidad de Apoyo Técnico de Desarrollo Participativo y Asociatividad	Toshiaki Kurihara	2012.7	2014.4	█	█	█			Cambio departamental
22	Lic. Basilio Chimbolema	Servidor Público de la Coordinación de Gestión Social del GADPCH	Miembro de la Unidad de Apoyo Técnico de Desarrollo Participativo y Asociatividad	Toshiaki Kurihara	2014.4	Vigente			█			

No.	Nombres y apellidos	Cargo	Puesto que ocupa en el proyecto	Nombre del experto quien realizó la transferencia técnica	Período laboral en el Proyecto		Duración de asignación para el Proyecto					Nota	
					Inicio	Término	2012	2013	2014	2015	2016		
23	Ing. Lucia García	Servidor Público de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Miembro de la Unidad de Apoyo Técnico de Desarrollo Participativo y Asociatividad / Promotora del Proyecto	Toshiaki Kurihara	2012.3	2014.4	█	█					Cese
24	Tlgo. Julio Logroño	Servidor Público de la Coordinación de Gestión Ambiental del GADPCH	Miembro de la Unidad de Apoyo Técnico de Ambiente	Kiyoshi Hirozumi	2012.7	2013.12	█	█					
25	Dra. Daysi Miñaca	Técnica del MSP Chimborazo	Coordinadora de la Unidad de Apoyo Técnico de Salud Pública	Kiyoshi Hirozumi	2012.3	2013.3	█						
26	Dra. Silvana Andrade	Técnica del MSP Chimborazo	Coordinadora de la Unidad de Apoyo Técnico de Salud Pública	Kiyoshi Hirozumi	2013.3	2013.12		█					Cese
27	Dra. Luz Rosillo	Técnica del MSP Chimborazo	Coordinadora de la Unidad de Apoyo Técnico de Salud Pública	Kiyoshi Hirozumi	2014.3	Vigente			█				
28	Ing. Roberto Vizuete	Técnico del MINEDUC Chimborazo	Coordinador de la Unidad de Apoyo Técnico de Educación	Kiyoshi Hirozumi	2012.3	2013.12	█	█					Cese
29	Ing. Virgilio Pilamunga	Técnico del MINEDUC Chimborazo	Coordinador de la Unidad de Apoyo Técnico de Educación	Kiyoshi Hirozumi	2012.3	2013.12	█	█					Cese
30	Prof. Samuel Gualán	Servidor Público de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Supervisor de la Unidad de Apoyo Técnico de Educación / Promotor del Proyecto	Kiyoshi Hirozumi	2014.4	Vigente			█				
31	Lic. Ana Lucía Oleas	Directora Distrital de Riobamba-Chambo del MINEDUC	Miembro de la Unidad de Apoyo Técnico de Educación	Kiyoshi Hirozumi	2014.4	Vigente			█				
32	Lic. Fernando Mancheno	Director Distrital de Chunchi y Alausi del MINEDUC	Miembro de la Unidad de Apoyo Técnico de Educación	Kiyoshi Hirozumi	2014.4	Vigente			█				
33	Lic. Luis Quishpe	Director Distrital de Coita y Guamote del MINEDUC	Miembro de la Unidad de Apoyo Técnico de Educación	Kiyoshi Hirozumi	2014.4	Vigente			█				
34	Ing. Segundo Anilema	Servidor Público de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Promotor del Proyecto	Todos los expertos	2012.3	2013.12	█	█					No ha renovado el contrato.
35	Ing. Mabel Pintag	Servidora Pública de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Promotora del Proyecto	Todos los expertos	2012.3	2013.12	█	█					No ha renovado el contrato.
36	Tlgo. Juan Carlos Gavín	Servidor Público de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Promotor del Proyecto	Todos los expertos	2012.3	Vigente	█	█	█				
37	Ing. Martha Chucho	Servidora Pública de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Promotora del Proyecto	Todos los expertos	2012.3	2012.12	█						No ha renovado el contrato.
38	Tlgo. Alfredo Muñoz	Servidor Público de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Promotor del Proyecto	Todos los expertos	2013.1	Vigente		█	█				
39	Prof. Ramón Carguachi	Servidor Público de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Promotor del Proyecto	Todos los expertos	2013.1	Vigente		█	█				
40	Tlgo. Jaime Curicama	Servidor Público de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Promotor del Proyecto	Todos los expertos	2013.4	Vigente		█	█				
41	Ing. Nidia Rodríguez	Servidora Pública de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Promotora del Proyecto	Todos los expertos	2014.3	Vigente			█				
42	Tlgo. Anita Yuquilema	Servidora Pública de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Promotora del Proyecto	Todos los expertos	2014.2	Vigente			█				
43	Tlgo. Jorge Guamán	Servidor Público de la Coordinación de Fomento Productivo del GADPCH	Promotor del Proyecto	Todos los expertos	2014.4	Vigente			█				

Gastos asumidos por la parte ecuatoriana

Año fiscal 2012 Gasto ejecutado con el presupuesto del GADPCH

Rubro	Año fiscal 2012												Total	
	Enero	Febrero	Marzo	Abril	Mayo	Junio	Julio	Agosto	Septiembre	Octubre	Noviembre	Diciembre		
Materiales didácticos		980,00		476,00										1.456,00
Instrumental médico menor								746,00						746,00
Materiales de construcción, plomería y carpintería									500,00					500,00
Suministros para actividades agropecuarias, pesca y caza		3305,03								1.519,00	2.125,00			6.949,03
Semovientes					2.174,00									2.174,00
Herramientas		5000,00												5.000,00
Otros de uso y consumo de inversión		4202,00				864,00								5.066,00
Útiles de oficina				1800,00										1.800,00
Materiales de impresión, fotografía, reproducción		670,00			782,00						4.000,00			5.452,00
Plantas										19.800,00				19.800,00
Maquinaria y equipos												18.000,00		18.000,00
Medicinas y productos farmacéuticos			3193,00											3.193,00
Alimentos y bebidas					359,00				800,00	100,00	500,00			1.759,00
Combustible				225,60	368,40	439,20	531,60	501,60	420,00					2.486,40
Mantenimiento vehículos				96,65	65,13	650,62	404,61	137,09	244,00					1.598,10
Salario de Administrativos				2113,00	2113,00	2113,00	2113,00	2113,00	2697,00	2113,00	2113,00	2113,00	2113,00	19.601,00
Honorarios de 2 Técnicos				986,00	986,00	986,00	2.072,00	2.072,00	2.656,00	2.072,00	2.072,00	2.072,00	2.072,00	15.974,00
Salario de 5 Promotores*				3305,00	3305,00	3305,00	3.305,00	3305,00	4765,00	3305,00	3305,00	3305,00	3305,00	31.205,00
Salario de 3 choferes				1611,00	1611,00	1611,00	1.611,00	1611,00	3363,00	1611,00	1611,00	1611,00	1611,00	16.251,00
Total	-	14.157,03	3.193,00	10.613,25	11.763,53	9.968,82	10.037,21	10.485,69	15.445,00	30.520,00	15.726,00	27.101,00	159.010,53	

Año fiscal 2013 Gasto ejecutado con el presupuesto del GADPCH

Rubro	Año fiscal 2013												Total	
	Enero	Febrero	Marzo	Abril	Mayo	Junio	Julio	Agosto	Septiembre	Octubre	Noviembre	Diciembre		
Materiales didácticos												1.101,00		1.101,00
Materiales de construcción, plomería y carpintería	26000													26.000,00
Suministros para actividades agropecuarias, pesca y caza	200000											124.287,08		324.287,08
Semovientes	13000												3.392,00	16.392,00
Herramientas	13000													13.000,00
Útiles de oficina														-
Materiales de impresión, fotografía, reproducción														-
Medicinas y productos farmacéuticos														-
Alimentos y bebidas	70												1.500,00	1.570,00
Combustible	700													700,00
Mantenimiento vehículos	150													150,00
Salario de Administrativos	2113,00	2113,00	2113,00	2113,00	2113,00	2113,00	2113,00	2113,00	2113,00	2113,00	2113,00	2113,00	2113,00	25.356,00
Honorarios de 5 Técnicos	1972,00	1972,00	1972,00	1972,00	1972,00	1972,00	5424,00	5424,00	5424,00	5424,00	5424,00	5424,00	5424,00	44.376,00
Salario de 8 Promotores*	4354,00	4354,00	4354,00	4354,00	4354,00	4354,00	5155,00	5155,00	5155,00	5155,00	5155,00	5155,00	5155,00	57.054,00
Salario 1 Operador	670,00	670,00	670,00	670,00	670,00	670,00	670,00	670,00	670,00	670,00	670,00	670,00	670,00	8.040,00
Total	262.029,00	9.109,00	9.109,00	9.109,00	9.109,00	9.109,00	13.362,00	13.362,00	13.362,00	13.362,00	13.362,00	138.750,08	18.254,00	518.026,08

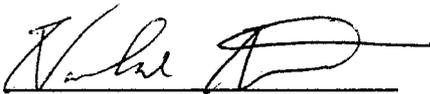
Año fiscal 2014 Gasto ejecutado con el presupuesto del GADPCH

Rubro	Año fiscal 2014												Total
	Enero	Febrero	Marzo	Abril	Mayo	Junio	Julio	Agosto	Septiembre	Octubre	Noviembre	Diciembre	
Materiales de construcción, plomería y carpintería		14.074,00					15.763,00						29.837,00
Suministros para actividades agropecuarias, pesca y caza													-
Semovientes													-
Herramientas							9.690,00						9.690,00
Viveros Forestales		32.518,00											32.518,00
Materiales de impresión, fotografía, reproducción							10.430,00						10.430,00
Medicinas y productos farmacéuticos		34.390,00				3.896,00							38.286,00
Alimentos y bebidas					75,00								75,00
Plantas Nativas		5.639,00		1.700,00									7.339,00
Materiales para viveros forestales						10.650,00							10.650,00
Mantenimiento vehículos													-
Construcciones							11.500,00						11.500,00
Salario de Administrativos			2.121,00	2.121,00	2.121,00	2.121,00	2.121,00						10.605,00
Honorarios de 6 Técnicos			6.337,00	6.337,00	6.337,00	6.337,00	6.337,00						31.685,00
Salario de 8 Promotores*			5.864,00	5.864,00	5.864,00	5.864,00	5.864,00						29.320,00
Salario 1 Operador			537,00	537,00	537,00	537,00	537,00						2.685,00
													-
Total	-	86.621,00	14.859,00	16.559,00	14.934,00	29.405,00	62.242,00	-	-	-	-	-	224.620,00

ACTA DE SUSCRIPCIÓN DEL INFORME DE EVALUACIÓN INTERMEDIA DEL PROYECTO DE DESARROLLO RURAL INTEGRAL SOSTENIBLE EN LA PROVINCIA DE CHIMBORAZO

En la ciudad de Riobamba, a los 26 días del mes de septiembre de 2014, los miembros de la Comisión de Evaluación Intermedia Conjunta del "Proyecto de Desarrollo Rural Integral Sostenible en la Provincia de Chimborazo", suscriben la presente Acta, en la cual se adjunta el Informe de Evaluación Intermedia del mencionado Proyecto, en la que se sintetiza el trabajo desarrollado durante la semana del 22 al 26 de septiembre del presente año:

Por la parte japonesa



Dr. Narihide Nagayo
ASESOR SENIOR DE JICA
LÍDER



Sr. Ryosuke Murakami
MIEMBRO DE MISIÓN



Sr. Hirohisa Ohmori
MIEMBRO DE MISIÓN



Sr. Yoshimi Sugano
TRADUCTOR

Por la parte ecuatoriana



Lcda. Tránsito Lluco
VICEPREFECTA DE CHIMBORAZO
LÍDER



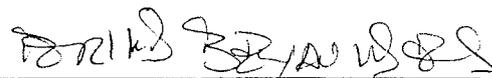
Ing. Pablo Erazo
REPRESENTANTE DE MAGAP



Eco. Sandra Cuenca
REPRESENTANTE DEL MAGAP



Ing. Paulina Japón
REPRESENTANTE DEL MAE



Ing. Érika Benavides
REPRESENTANTE DE SETECI

A. Desarrollo Rural Integral Sostenible

1. Desarrollo Rural

(1) Actividades que realizan todos los participantes para lograr un “Buen Vivir Rural”^{nota1} en áreas rurales.

*-Nota 1. Conceptos básicos de “Buen Vivir Rural” Satisfacción de las necesidades (Soberanía alimentaria, Agricultura familiar, Incremento de productividad, Mejoramiento de ingresos por comercialización efectiva), Armonía con la naturaleza (Conservación de agua y suelo), Respeto a la diversidad cultural incluyendo la ancestral (Reactivación de cultura ancestral en producción agrícola limpia) y Equidad de géneros (Salud preventiva, Mejoramiento de Vida) *Palabras escritas en parentesis indican partes de las actividades del PMSK*

2. Integral

(1) Integrarse los componentes de las actividades para Buen Vivir: Producción Agropecuaria, Conservación Ambiental, Salud Preventiva y Nutrición, Educación.

(2) Integrarse los actores de desarrollo rural: GADPCH, GADs, Ministerios, Organizaciones e Instituciones relacionadas y comunidades

3. Sostenible

(1) Vida rural sostenible “económicamente” con la producción agropecuaria “rentable”.

(2) Vida rural sostenible “ambientalmente” a través de las actividades productivas amigables con el ambiente.

(3) “Mecanismo (Estructura) “ sostenible de implementación de desarrollo rural integral a todos los niveles de intervención.

B. Proyecto de Desarrollo Rural Integral Sostenible en la Provincia de Chimborazo / PMSK

1. **Generalidades del PMSK** *Expresión Resumida del PDM (Marco Lógico) *Verse Figura 1.

-Nombre del Proyecto: Proyecto de Desarrollo Rural Integral Sostenible en la Provincia de Chimborazo / “Proyecto Minka Sumak Kawsay (PMSK)”

-Duración: 5 años (Marzo de 2012 – Marzo de 2017)

-Instituciones: GADPCH, MAGAP, MAE, MSP, MINEDUC

-Comunidades beneficiarias: 30 comunidades en 4 cantones

-Objetivo Superior (Meta): Mejorar la calidad de vida en las áreas rurales de la Provincia de Chimborazo

-Objetivos del Proyecto: Mejorar los ingresos y el entorno de vida, y fortalecer la estructura de implementación

Objetivos y Actividades del PMSK

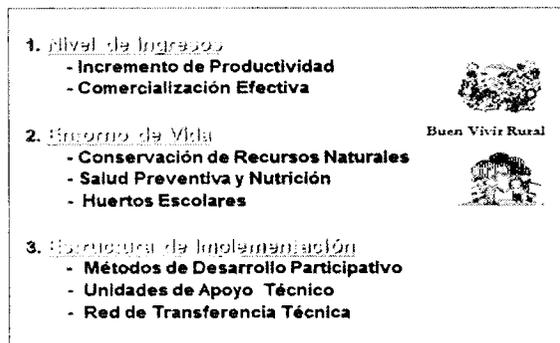
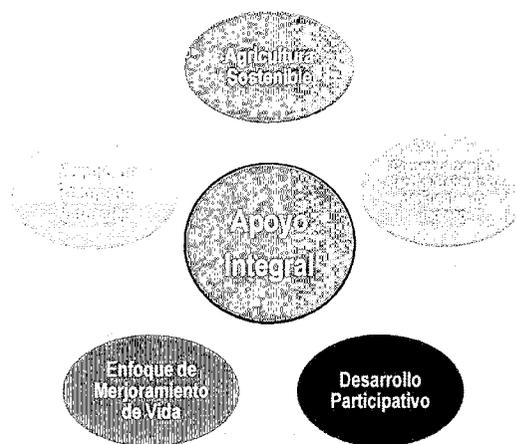


Figura 1. Objetivos y Actividades del PMSK

2. 5 Ejes de la Estrategia de Implementación del PMSK *Verse Figura 2.

- Agricultura Sostenible: Implementar gestión agrícola ecológicamente sostenible con conservación de agua y suelo, y también sostenible económicamente por ser rentable.
- Comercialización y Generación de Ingresos: Aumentar el ingreso mediante la comercialización efectiva de productos agropecuarios y la generación de valor agregado.
- Conservación y Manejo de Recursos Naturales: Implementar un desarrollo amigable a la naturaleza mediante la aplicación de técnicas de conservación de agua y suelo, y la concientización por la educación ambiental.
- Enfoque de Mejoramiento de Vida: Salud Preventiva, Mejoramiento de Nutrición, Educación (Huerto Escolar, Mejoramiento de Hábitos de Vida)
- Desarrollo Participativo: Implementar un desarrollo sostenible mediante la iniciativa de participación y articulación de todos los actores involucrados (Ministerios, GADPCH, GADs. y Comunidades)

Figura 2. Estrategia del PMSK



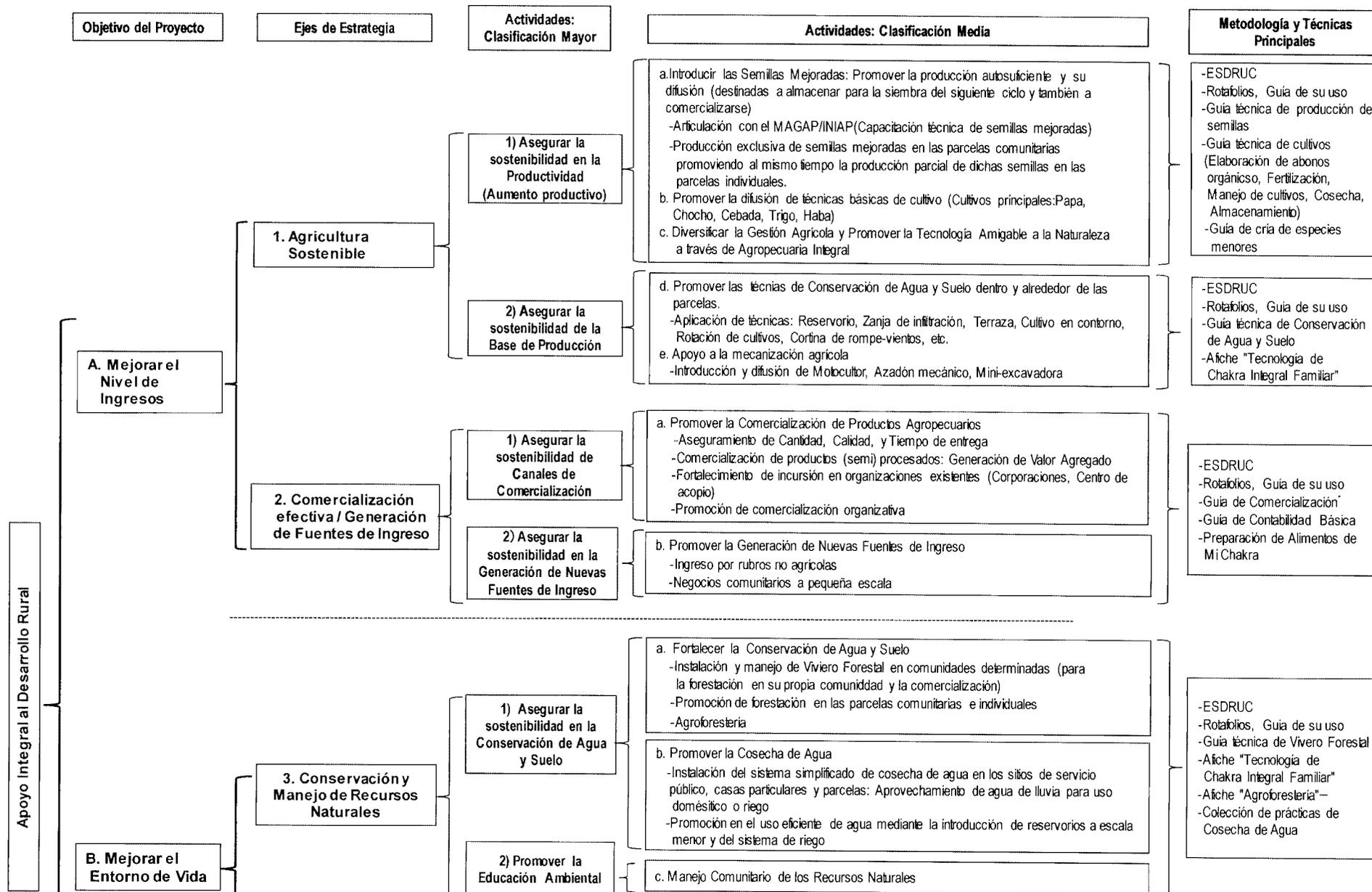
Componentes reemplazados

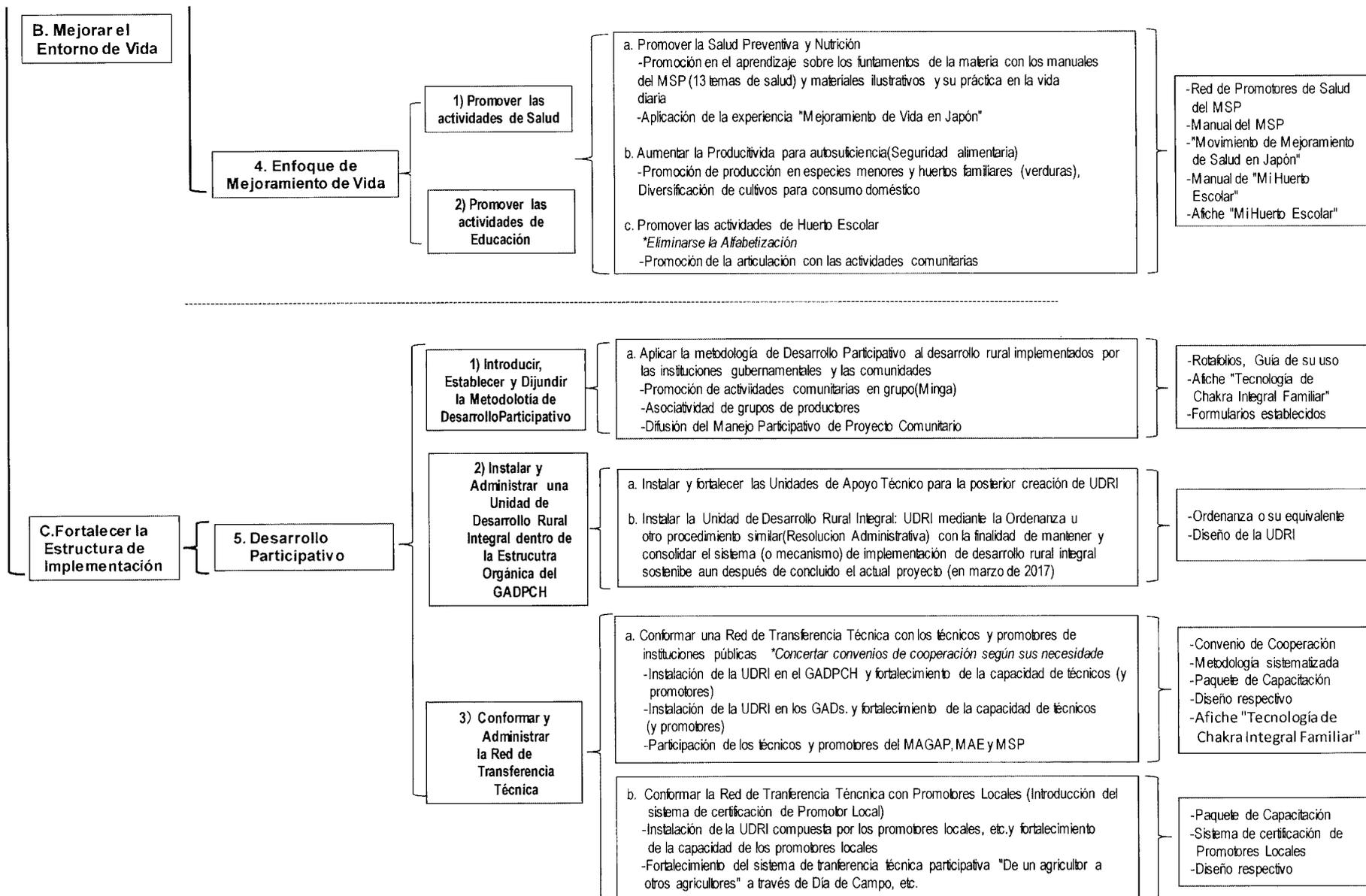
- Agricultura Integral → Manejo de Recursos Naturales
- Agricultura Mecanizada → Desarrollo Participativo

Categorización de las actividades

Estrategia de Apoyo a Desarrollo Rural Integral Sostenible en la Provincia de Chimborazo / Categorización de Actividades

(Ver.1) Julio de 2014





4. Cronograma general del PMSK (5 años)

Año	Primer Año	Segundo Año	Tercer Año	Cuarto Año	Quinto Año
Componentes del PCM	Diagnóstico / Planificación	Ejecución/Monitoreo-Evaluación	Ejecución/Monitoreo-Evaluación	Monitoreo-Evaluación/ Retroalimentación	Retroalimentación/ Construcción de Modelo
Actividades Principales	-Estudio y Análisis -Selección de Comunidades -Elaboración de Planes de Actividades -Inicio de Actividades Piloto	- Ejecución, Verificación y Mejoramiento de Actividades Piloto y de la Estructura de implementación	- Comprobación y Establecimiento del Proceso de Actividades Piloto y de la Estructura de implementación	-Transferencia-Difusión -Mejoramiento -Elaboración del Modelo	-Sistematización de Actividades ejecutadas del Proyecto -Formulación del Modelo de Desarrollo Rural Integral

5. Procedimiento básico para la implementación de las actividades del PMSK

- (1) Capacitación a capacitadores en teoría y en práctica (Capacitación interna “Técnicos facilitadores” y Capacitación a los promotores locales), bajo el enfoque de “aprender y enseñar haciendo.
- (2) Acompañamiento a los promotores locales para la aplicación de lo aprendido y compartirlo con los demás habitantes de su comunidad
- (3) Monitoreo-Evaluación durante y después de la ejecución
- (4) Retroalimentación para el mejoramiento constante
- (5) Sistematización y Estandarización de lo arriba mencionado para establecer y aplicar el Modelo asegurando así la sostenibilidad del mecanismo de implementación.

6. Metodología y Tecnologías principales

(1) Metodología básica del Manejo de Proyecto: Manejo del Ciclo de Proyecto / PCM **Verse Figura 3. y 4.*

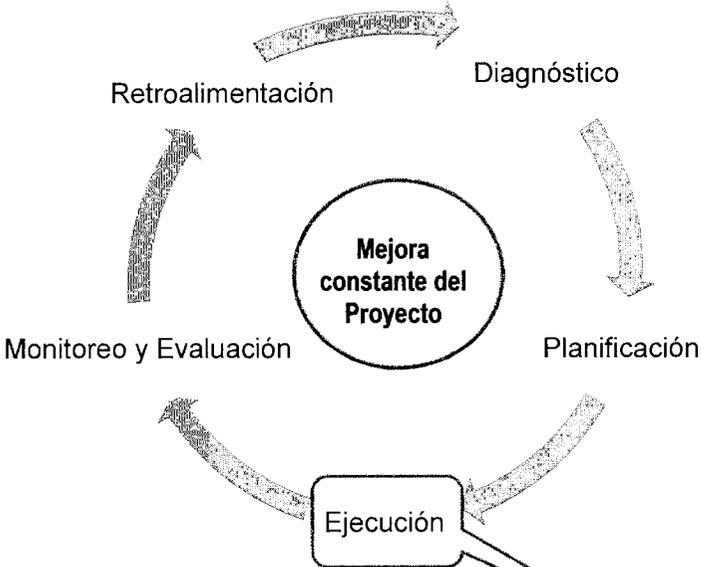
**Materiales didácticos: Rotafolio y su guía de uso “Manejo Participativo de Proyecto Comunitario” publicado por el PMSK, y otros*

- 1) Estudio y Análisis para el diagnóstico (Estudio de Línea Base)
- 2) Planificación de acuerdo a los resultados de dicho análisis
- 3) Ejecución de lo planificado
- 4) Monitoreo y Evaluación durante y después de la ejecución de lo planificado
- 5) Retroalimentación (Mejora constante) a base de los resultados de la evaluación

Nota) En cada una de las etapas arriba mencionadas, utilizar guías técnicas y formatos elaborados y a elaborarse por un proyecto para ir estandarizando las metodologías.

Figura 1. PCM (Vista frontal: Ciclo)

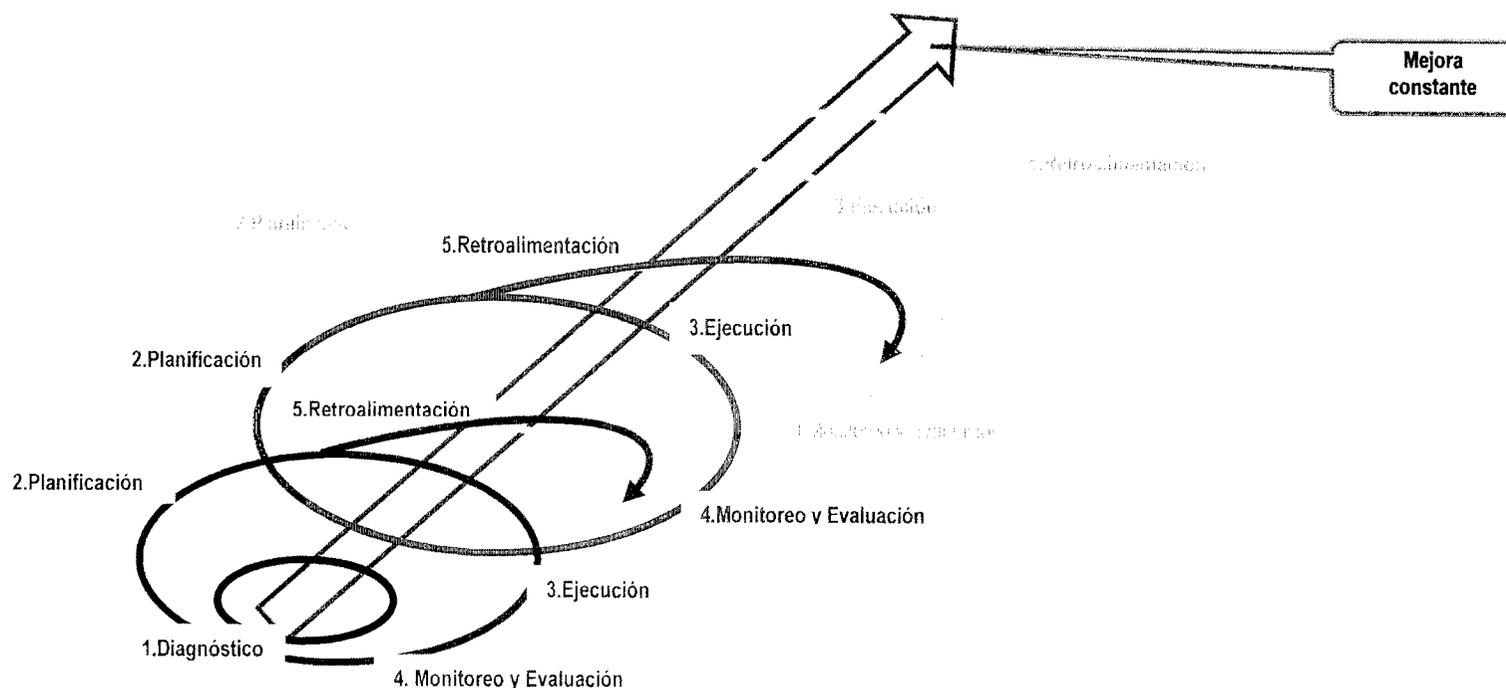
1. PCM para administrar un Proyecto entero (Macro)



2. PCM para administrar proyectos particulares (Micro) como proyectos comunitarios



Figura 4. PCM (Vista lateral: Espiral Progresiva)



(2) Metodología de transferencia y Difusión de técnicas sostenibles:

- Talleres y Aplicación de Paquete de Capacitación elaborado a base de la metodología “Aprender y enseñar haciendo”
- Escuela de Desarrollo Rural Comunitario / ESDRUC *Verse la Figura 5
- Visitas y Giras de observación a casos de mejores prácticas
- Planificación y Realización de “Días de Campo”
- Presentación técnica en Ferias
- Elaboración y Difusión de Material didáctico: Rotafolios y guías de uso, Guías Técnicas, Afiches Técnicos, Maqueta
- Difusión de tecnología “de agricultores a agricultores” mediante la participación de los promotores locales
- Formación de talentos humanos de los GADs. y su participación activa

1) Transferencia técnica desde los Técnicos del PMSK hacia los Promotores Locales de comunidades

a. Capacitación “teórica” a través de:

- Reuniones con Unidad de Desarrollo Rural Sostenible comunitario , en casa comunal
- Talleres en el Gobierno Parroquial
- Cursos - Seminarios en el GADPCH, Direcciones Provinciales de los Ministerios participantes del PMSK.

*El personal contraparte del PMSK desarrolla y difunde el Paquete de Capacitación “Desarrollo Rural Integral Sostenible”

b. Capacitación práctica a través de:

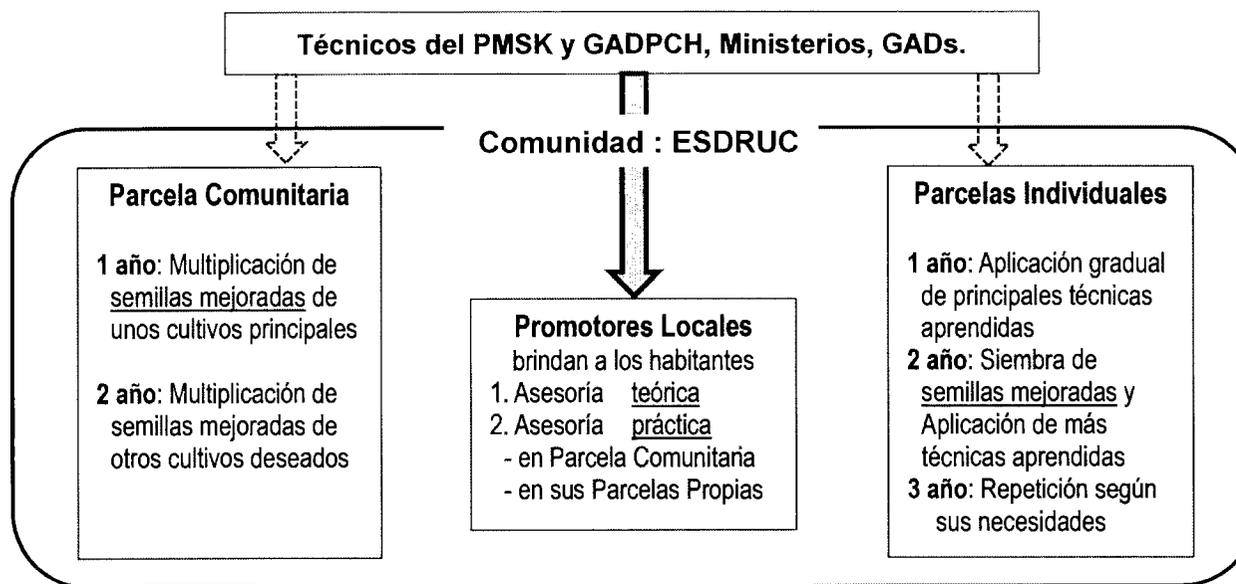
- ESDRUC en su parcela comunitaria **Verse la Figura 5*
- ESDRUC en parcelas individuales de los Promotores Locales

2) Transferencia técnica desde los Promotores Locales hacia los demás productores/ras de su comunidad

a. Capacitación a productores y capacitadores solamente práctica a través de:

- ESDRUC en parcelas individuales de los Promotores Locales con los productores/ras participantes
- Seguimiento por los Promotores Locales en parcelas individuales de los habitantes participantes

Figura 5.
ESDRUC



(3) Criterios de selección de promotores locales, sus obligaciones y beneficios.

-El cabildo de la comunidad participante nombrará a los Promotores Comunitarios (de 3 a 20 personas según la cantidad poblacional de cada comunidad) de acuerdo al criterio establecido por el PMSK tomando en cuenta sus obligaciones y beneficios.

a) Criterios de selección de Promotores Locales:

- Persona que tenga menos de 60 años y más de 18 años de edad
- Persona que reside en su comunidad (Persona que permanece más de 5 días durante la semana)
- Persona que tenga más de 10 años de experiencia en agricultura
- Persona que tenga tiempo y deseo fuerte de participar en cursos de capacitación
- Persona que tenga deseo firme de contribuir al desarrollo de su comunidad
- Persona que tenga deseo de compartir lo aprendido con las demás personas de su comunidad

b) Obligaciones:

- Participar en todos los cursos que organiza periódicamente el PMSK (teoría y práctica).
- Aplicar las técnicas aprendidas a sus propias parcelas de inmediato (obligación de registrar y presentar las actividades de transferencia).
- Transmitir las técnicas aprendidas a otras personas de su comunidad (obligación de realizar capacitación en su propia parcela y hacer seguimiento visitando a las parcelas de sus compañeros, y registrar y presentar estas actividades).
- Asumir la responsabilidad de producción de semillas mejoradas en la parcela comunitaria en colaboración con las demás personas.
- Someterse a los exámenes de calificación (teórico y práctico) para obtener y renovar el Certificado de Promotor Local emitido por el MAGAP/GADPCH.

c) Beneficios:

- Recibir mayor cantidad de semillas mejoradas producidas en la parcela comunitaria (Esto obedece al acuerdo previo de la cantidad de distribución de cosecha proporcional conforme al volumen de trabajo dedicado a la producción: tiempo/hombre).
- Recibir el Certificado (reconocimiento) de Promotor Local expedido por el MAGAP/GADPCH (se les otorgará a las personas aprobadas en el examen de calificación, y se renovará anualmente por la evaluación de sus desempeños y el examen de validación).
- Recibir otros beneficios como la utilización de maquinaria para las obras de conservación de agua y suelos en sus parcelas propias (mini-excavador, motocultor, azadón mecánico, etc.).

Nota) El PMSK deberá preparar y coordinar lo siguiente junto con el GADPCH y MAGAP:

- Preparar cursos de capacitación para los promotores comunitarios (teoría y prácticas) incluyendo elaboración de textos.
- Coordinar la expedición de Certificado de Promotor Comunitario por parte del GADPCH (preparación de examen y criterios de calificación).

(4) Materiales didácticos, formatos para la transferencia y difusión técnica sostenible

**Se pretende que el GADPCH oficialice el uso de los materiales didácticos elaborados y comprobados por el PMSK.*

**Los materiales indicadas en paréntesis va a elaborarse próximamente.*

1) Desarrollo Participativo

- a. Rotafolio y su guía “Asociatividad” y formatos (formularios) varios
- b. Rotafolio y su guía “Agricultura Integral”
- c. Rotafolio y su guía “Manejo Comunitario de los Recursos Naturales”
- d. Rotafolio y su guía “Manejo de Ciclo de Proyecto”
- e. Afiche “Tecnologías de Chakra Integral Familiar para Pequeños Agricultores”
- f. (Rotafolio y su guía “Mejoramiento de Vida”)

2) Producción Agrícola *Verse Figura 6.

- a. Rotafolio y su guía “Agricultura Integral”
- b. Rotafolio y su guía “Manejo Comunitario de los Recursos Naturales”
- c. Afiche “Tecnologías de Chakra Integral Familiar para Pequeños Agricultores”
- d. (Guía técnica de preparación de chakra para la siembra de cultivos principales: Papa, Cebada, Trigo, Habas, Arveja, etc.)
- e. (Guía técnica para la siembra de cultivos principales)
- f. (Guía técnica de elaboración de abonos orgánicos principales para los cultivos principales)
- g. (Guía técnica de aplicación de abonos orgánicos y abono verde, y fertilizantes para los cultivos principales)
- h. (Guía técnica para el control de plagas de los cultivos principales)
- i. (Guía técnica para conservación de suelo y agua: Reservorio, Zanjas de Infiltración, Terrazas)
- j. (Guía técnica para el control de plagas de los cultivos principales)
- k. (Guía técnica para la multiplicación de semillas mejoradas en parcela comunitaria y producción de cultivos con dichas semillas)

3) Producción de Especies Menores

- a. Rotafolio y su guía “Agricultura Integral”
- b. (Producción de Cuyes: construcciones y medida técnicas, Cómo ordenar su cuyera técnicamente, Implementación y manejo de registros, Manejo técnico del cuy, Alimentación y Nutrición, Prevención de Enfermedades, Tratamiento de Enfermedades, Selección de Reproductores)
- c. (Producción de Aves de Postura: Construcciones y medidas técnicas, Recepción de pollitas bb y manejo de las 4 primeras semanas, Alimentación y Nutrición, Manejo de calendario sanitario, Manejo de gallinas dentro del galpón, Prevención de enfermedades, Tratamiento de enfermedades, Manejo de producción de huevos)

4) Comercialización

- a. “Guía de Comercialización Asociativa”
- b. “Cuaderno de Contabilidad Básica”

5) Ambiente: Forestación *Verse Figura 6.

- a. Rotafolio y su guía “Agricultura Integral”
- b. Rotafolio y su guía “Manejo Comunitario de los Recursos Naturales”

7. Articulación global *Verse los artículos referidos a las competencias y la articulación: Art. 260 de la Constitución 2008, y los Arts. 41-f), 63-g) y 135 (cuarto párrafo) del COOTAD, respectivamente.

1) Articulación interna del GADPCH

- a. Unidades(Equipos) de Apoyo Técnico con las Coordinaciones de Fomento Productivo, Gestión Ambiental, Gestión Social, etc.
- b. “Resolución Administrativa” para la creación de la Unidad de Desarrollo Rural Integral en la estructura orgánica del GADPCH
- c. Red de Transferencia Técnica con los Ministerios, GADs. y Comunidades

2) Articulación externa *Verse Figura 6.

- a. Ministerios
 - Unidades(Equipos) de Apoyo Técnico con las Direcciones Provinciales del MAGAP, MAE, MSP y MINEDUC
 - Red de transferencia técnica mediante el Convenio de Cooperación
- b. GADs.
 - Difusión de tecnología y metodología del PMSK
 - Seguimiento hacia sus comunidades y aseguramiento del presupuesto
 - Red de transferencia técnica mediante el Convenio de Cooperación con los Gobiernos Cantonales y Parroquiales.
 - Unidad Cantonal de Desarrollo Rural Integral y Unidad Parroquial de Desarrollo Rural Integral
- c. Comunidades
 - Unidad de Desarrollo Rural Integral del Cabildo, Selección de promotores locales
 - Red de transferencia técnica entre las Unidades de Desarrollo Rural Integral del Cabildos, y las del GADPCH, Ministerios, Gobierno Cantonal y Gobierno Parroquial.

8. Diferencias y Ventajas sobresalientes de la Estructura de Implementación del PMSK

- 1) Asesoría técnica con acompañamiento a los Promotores Locales de la Unidad de Desarrollo Rural Integral (UDRI) del Cabildo no directamente a una multitud “heterogénea” de los habitantes
 - ⇒ Ventajas: Fortalecimiento de la transferencia técnica y difusión sostenible de los Promotores Locales a un número mayor de habitantes
- 2) Capacitación mediante la Escuela de Campo(ESDRUC) en parcela comunitaria
 - ⇒ Aprendizaje práctico y Multiplicación de semillas mejoradas para asegurar la autosuficiencia de semillas y la productividad sostenible de cultivos por parte de la comunidad
- 3) Suministro (dotación “parcial” no total para evitar “Paternalismo”) de los materiales indispensables para la multiplicación de semillas mejoradas en su parcela comunitaria a la UDRI no a cada uno de habitantes.
 - ⇒ Disminución del presupuesto de adquisición de materiales destinados a las comunidades y de la costumbre de “Paternalismo”
- 4) Intervención articulada de diferentes sectores y actividades de desarrollo rural: Agropecuaria, Ambiente, Comercialización, Salud Preventiva y Nutrición, Huerto Escolar y HuertoFamiliar, Desarrollo Participativo, Mejoramiento de Vida (Metodología Japonesa, etc.)
 - ⇒ Reducción de duplicidad de esfuerzos y Efectos sinérgicos de desarrollo rural
- 5) Creación de las Unidades de Desarrollo Rural Integral (UDRI) a diferentes niveles del Gobierno (GADPCH, GADs.,Cabildo).
 - ⇒ Demarcación de la responsabilidad de actividades de desarrollo rural integral, y Mejor eficiencia y efectividad de sus labores

Figura 7. Estructura general de implementación

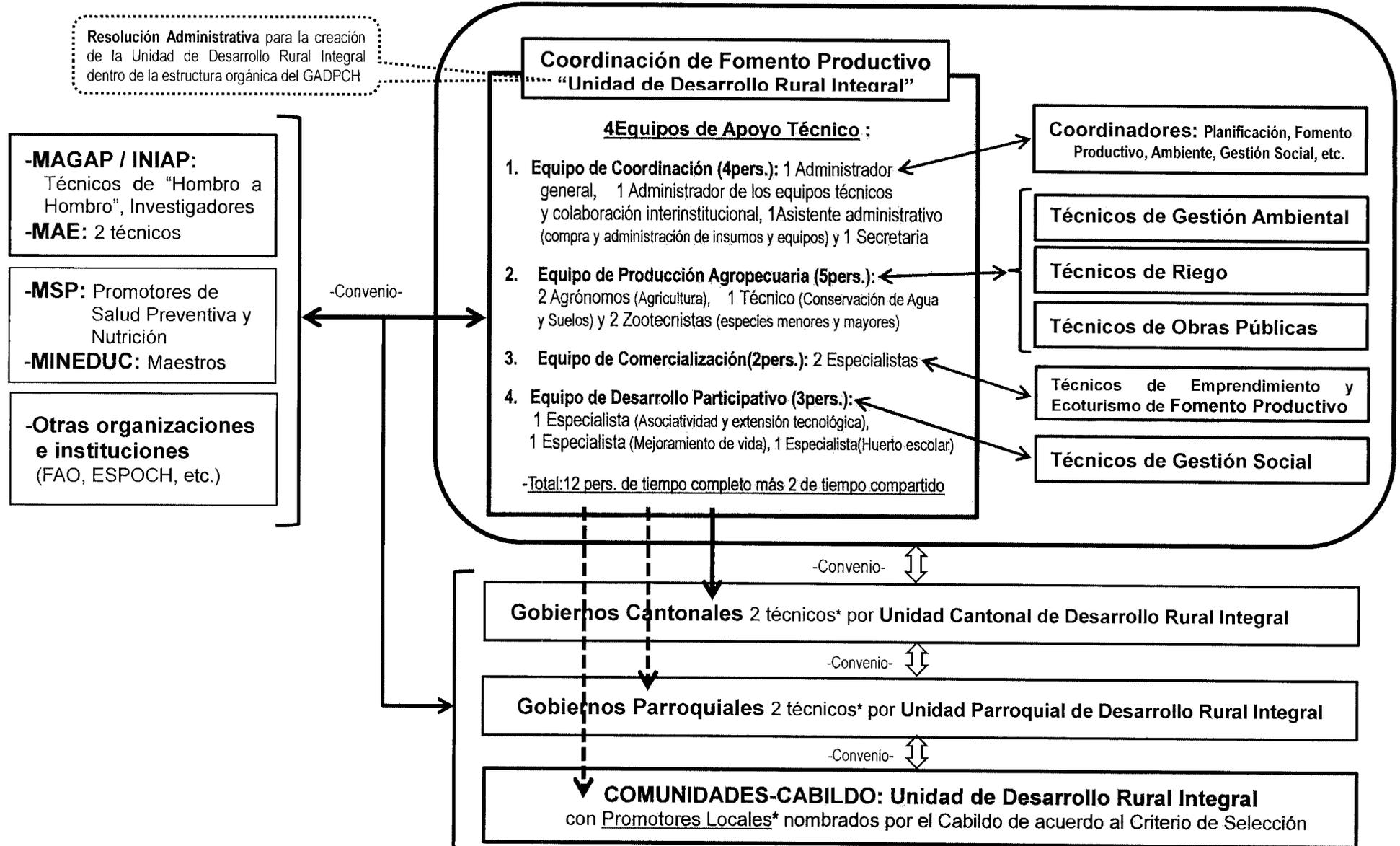
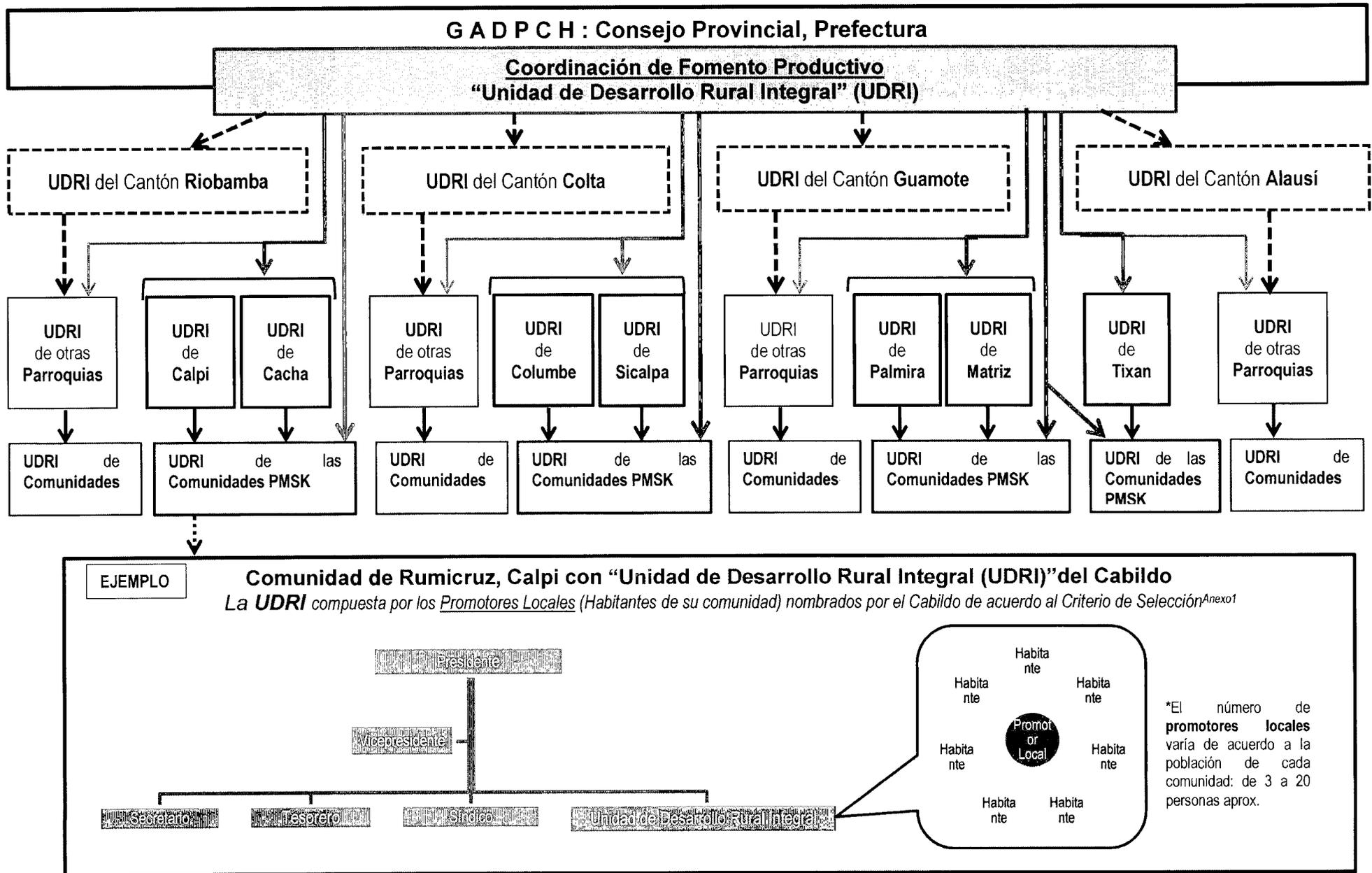
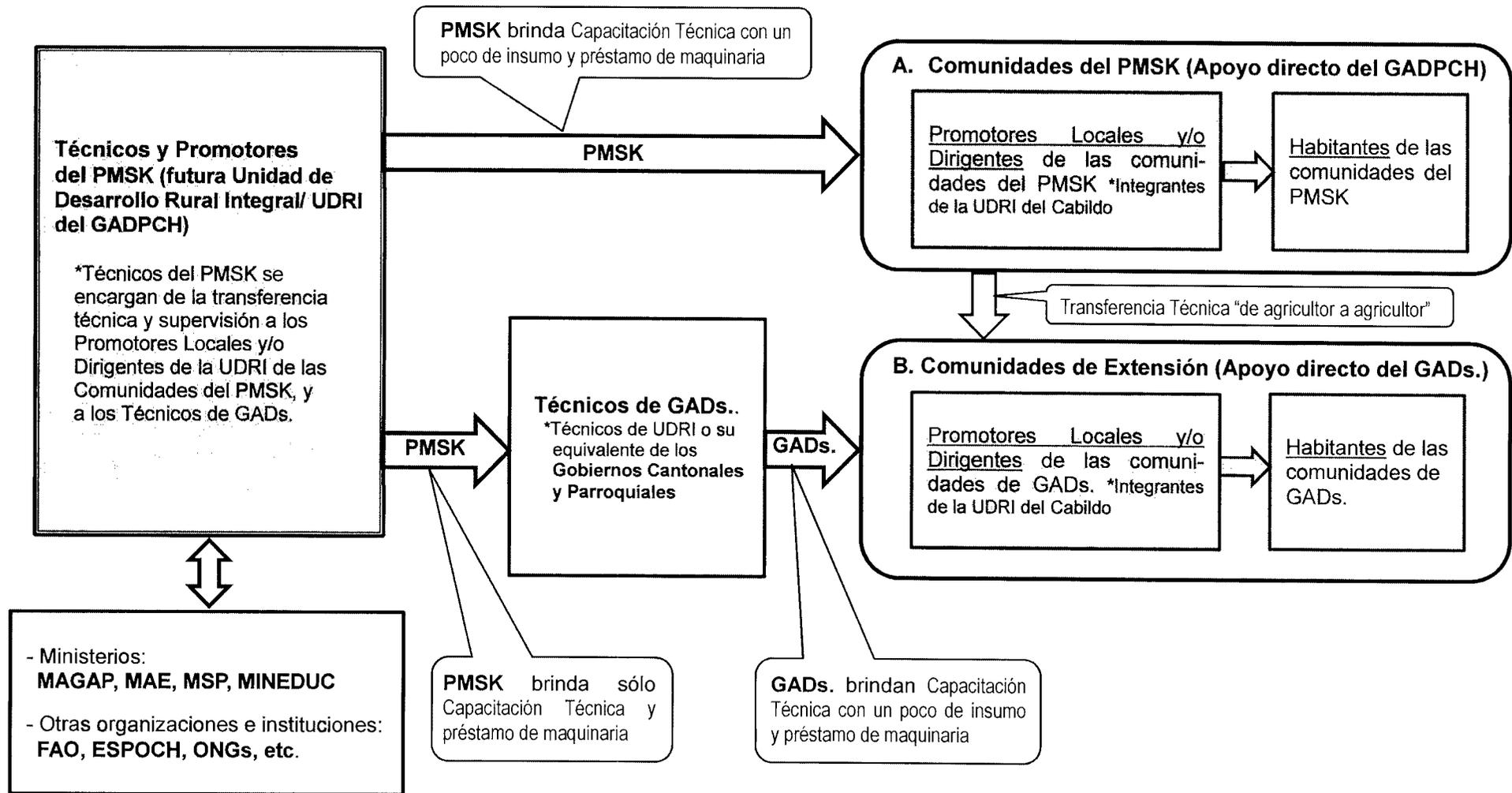


Figura 8. Imagen focalizada a la Red de Transferencia Técnica del GADPCH a los GADs y a las Comunidades



- 161 -

Figura 9. Esquema de Transferencia Técnica dirigida a Promotores Locales del Cabildo



1. El papel que desempeñan los promotores locales será una clave para la transferencia técnica y su difusión sostenible. Por lo tanto los promotores deberán ser seleccionados estrictamente de acuerdo al criterio de selección y ser nombrados oficialmente por el Cabildo para conformar con ellos una Unidad de Desarrollo Rural Integral de la Comunidad.
2. Los técnicos de la Unidad de Desarrollo Rural Integral del GADPCH, en colaboración con las Instituciones participantes (MAGAP, INIAP, MAE, etc.), brindarán asesoría técnica y su seguimiento a los Promotores Locales del Cabildo.
3. Los Promotores Locales, a la vez, comparten todo lo aprendido con los demás habitantes de su comunidad ("Capacitación desde un agricultor a otro agricultor").
4. Al concluir el PMSK, es probable que solamente el esquema B subsista.

9. Enfoque al Ordenamiento Territorial

De acuerdo al Código Orgánico de Ordenamiento Territorial, Autonomía y Descentralización” (COOTAD) que entró en vigor en octubre de 2010, en el área de agricultura, el MAGAP y el GADPCH definen las zonas apropiada de cada uno de los cultivos principales de las áreas rurales para activar la agricultura a través de la priorización y concentración de la producción agrícola.

De igual manera, el PMSK está fortaleciendo las actividades productivas de acuerdo al territorio de los cultivos principales definido por el MAGAP y el GADPCH. Asimismo, el PMSK, junto con el mejoramiento de producción en cada territorio, continuará fortaleciendo las actividades de huertos familiares y escolares desde un punto de vista de la soberanía alimentaria y de mejoramiento de vida.

A. MAGAP (Dirección Provincial)

- 1) Producción agropecuaria prioritaria por la Estrategia de Intervención Territorial de la Dirección Provincial Agropecuaria de Chimborazo 2013: 7 rubros que son Papa, Maíz, Cebada, Quinoa, Frejol, Trigo, Chocho, y Leche
- 2) Cultivos prioritarios y Parroquias base de producción prioritaria

No.	Cultivos prioritarios	Parroquias base de producción prioritaria	Observación
1	Papa	San Andres, San Isidoro de Patulu, Calpi , Ilapo, Villa la Unión , Columbe , Guamote , Palmira , Tixan , Junan de Velasco, Quimig, Pungala, Cebadas	-Beneficiarios: 3976 familias -Meta de producción: 8,58tm/Ha
2	Maíz	San Jose del Chazo, San Isidro de Patulu, La providencia, El Altar, Penipe, Quimiag, Chambo, Licto , Sibambe, Chuchi, Capzol, Llagos, Compud	-Beneficiarios: 2933 familias -Meta de producción: 5,85tm/Ha
3	Cebada	Villa la Unión , Columbe , Palmira , Tixan , Guamote , Santiago de Quito, Achupallas	-Beneficiarios: 6376 familias -Meta de producción: 0,52tm/Ha
4	Quinoa	Calpi , San Juan, Villa la Unión , Columbe , Palmira , Licto , Cacha , Guamote , Flores	-Beneficiarios: 2730 familias -Meta de producción: 1,3tm/Ha
5	Frejol	Pallatanga	-Beneficiarios: 1713 familias -Meta de producción: 0,52tm/Ha
6	Trigo	Alausí , Sibambe, Pistishi, Gonzol, Guasuntos, Pumallacta, Sevilla, Chunchi	-Beneficiarios: 1914 familias -Meta de producción: 0,72tm/Ha
7	Chocho	Tixan , Alausí , Ilapo	-Beneficiarios: 743 familias -Meta de producción: 0,88tm/Ha

*Los cultivos y las parroquias con negritas indican los productos y las áreas del PMSK.

B. GADPCH

Los cultivos prioritarios del GADPCH son de 8 rubros: Papa, Maíz, Cebada, Quinoa, Frejol, Trigo, Chocho y Lenteja

No.	Cultivos prioritarios	Parroquias base de producción prioritaria	Observación
1	Papa	Achupallas, Alausi, Bilbao, Calpi, Cacha , Cañi, Capzol, Cebadas, Chambo, Chunchi, Columbe , Compud, Cubijies, El Altar, Flores, Gonzol, Guamote , Guanando, Guasuntos, Guano, Ilapo, Juan de Velazco, La Candelaria, la Providencia, Lican, Licto, Llagos, Matus, Multitud, Pallatanga, Palmira , Penipe, Pistishi, Puela, Pumallacta. Pungala, Punin, Quimiag, Riobamba, San Andres, San Antonio de Bayushig, San Gerardo de Pacaicaguan, San Juan, San Isidro de Patulu, Santa fe de Galan, San Jose del Chazo, Santa fe de Galan, Santiago de Quito, Sibambe, Sevilla, Tixan, Villa la Unión , Valparaiso	
2	Maíz	Achupallas, Alausi, Calpi, Cacha, Cañi, Capzol, Cebadas, Chambo, Chunchi, Columbe, Flores, Gonzol, Guamote, Guasuntos, Guano, Ilapo, Juan de Velazco, Lican, Licto, Multitud, Pallatanga, Palmira, Pistishi, Pumallacta. Pungala, Punin, Quimiag, Riobamba, San Andres, San Juan, San Luis, San Isidro de Patulu, Santa fe de Galan, San Jose del Chazo, Santa fe de Galan, Santiago de Quito, Sibambe, Sevilla, Tixan, Villa la Unión, Valparaiso	
3	Cebada	Achupallas, Alausi, Calpi, Cañi, Cebadas, Chambo, Columbe , Cubijies, Gonzol, Guamote, Guasuntos, Huigra, Juan de Velazco, Lican, Licto, Multitud, Pallatanga, Palmira, Pistishi, Punin, Quimiag, Riobamba, San Juan, San Luis, Santiago de Quito, Sevilla, Sibambe, Tixan, Villa la Unión , Ilapo, Valparaiso, Guano, San Isidro de Patulu, San Andres, Quimiag	
4	Quinoa	Achupallas, Alausi, Bilbao, Cacha, Cebadas, Chambo, Columbe , Flores, Gonzol, Guamote , Guasuntos, Juan de Velazco, Licto, Pallatanga, Palmira, Pistishi, Punin, Quimiag, San Andres, San Juan, San Isidro de Patulu, Santiago de Quito, Sibambe, Sevilla, Tixan, Villa la Unión	

5	Frejol	Achupallas, Alausi, Bilbao, Cacha, Cañi, Capzol, Chambo, Chunchi, Compud, Cubijies, Flores, Gonzol, Guasuntos, Guano, Huigra, Juan de Velazco, Licto, Matus, Multitud, Pallatanga, Penipe, Pistishi, Pumallacta, Punin, Quimiag, Riobamba, San Andres, San Antonio de Bayushig, San Gerardo de Pacaicaguan, San Isidro de Patulu, San Luis, Santiago de Quito, Sibambe, Sevilla, Tixan, Villa la Unión	
6	Trigo	Achupallas, Alausi, Bilbao, Calpi, Cacha, Cañi, Capzol, Cebadas, Chambo, Chunchi, Columbe , Compud, Cubijies, El Altar, Flores, Gonzol, Guamote, Guanando, Guasuntos, Guano, Ilapo, Juan de Velazco, La Candelaria, la Providencia, Lican, Licto, Llagos, Matus, Multitud, Pallatanga, Palmira , Penipe, Pistishi, Puela, Pumallacta. Pungala, Punin, Quimiag, Riobamba, San Andres, San Antonio de Bayushig, San Gerardo de Pacaicaguan, San Juan, San Luis, San Isidro de Patulu, Santa fe de Galan, San Jose del Chazo, Santa fe de Galan, Santiago de Quito, Sibambe, Sevilla, Tixan , Villa la Unión, Valparaiso	
7	Chocho	Achupallas, Alausi, Calpi , Cacha , Cebadas, Chambo, Columbe , Flores, Gonzol, Guamote , Guasuntos, Ilapo, Licto, Llagos, Pallatanga, Palmira , Pistishi, Pungala, Punin, Quimiag, Riobamba, San Juan, San Jose del Chazo, San Isidro de Patulu, San Juan, Santa fe de Galan, Sibambe, Tixan , Villa la Unión , Valparaiso	
8	Lenteja	Achupallas, Alausi, Calpi, Cacha, Cebadas, Chambo, Columbe, Flores, Gonzol, Guamote, Guasuntos, Licto, Llagos, Pallatanga, Palmira, Pistishi, Pungala, Punin, Quimiag, Riobamba, San Juan, San Isidro de Patulu, San Juan, Santa fe de Galan, Sibambe, Tixan, Villa la Unión	

** Los cultivos y las parroquias con negrillas indican los productos y las áreas del PMSK.*

C. PMSK

Los cultivos prioritarios del PMSK son de 6 rubros: Papa, Cebada, Chocho, Trigo, Haba y Quinoa.

No.	Cultivos prioritarios	Parroquias base de producción prioritaria	Observación
1	Papa	Tixan (La Merced), Palmira (San Vicente de Tipín), Guamote/La Matriz (Jatumpamba), Columbe (Columbe1y2, Columbe3y4), Silalpa/Villa la Unión (Huacona Grande, Rumiloma), Cacha	La meta de productividad (tm/Ha) en promedio se definirá posteriormente.
2	Cebada	Villa la Unión (Canal Huacona), Columbe (La Merced, Cashapamba, Balda Lupaxi, San Guisel Alto)	ídem
3	Chocho	Tixan (La Pacífica, Pachagsi), Palmira (Sarachupa, S F de Bishud, San Pablo de Tipín), La Matriz (Sacahuan Tiocajas), Columbe (Cashapamba), Calpi (Rumicruz), Cacha (Shilpalá)	ídem
4	Trigo	Tixan (La Pacífica, Pueblo Viejo, Pachagsí), Columbe (Sarachupa), Palmira (S F de Bishud, San Pablo de Tipín, San Vicente de Tipín)	ídem
5	Haba	Tixan (La Merced), Guamote/La Matriz (Jatumpamba), Sicalpa/Villa la Unión (Rumiloma, Lirio, Huacona Grande), Cacha (San Miguel de Quera)	ídem
6	Quinoa	Columbe (Balda Lupaxi, Columbe1y2, Columbe3y4, La Merced), La Matriz (Achullay)	ídem

**Los cultivos y las parroquias con negrillas indican los productos y las áreas del PMSK.*

CEBADA

MAGAP

GADPCH

PMSK



LUGARES DE INTERVENCIÓN CIRCUITO CEBADA



11 Parroquias

1594 Ha

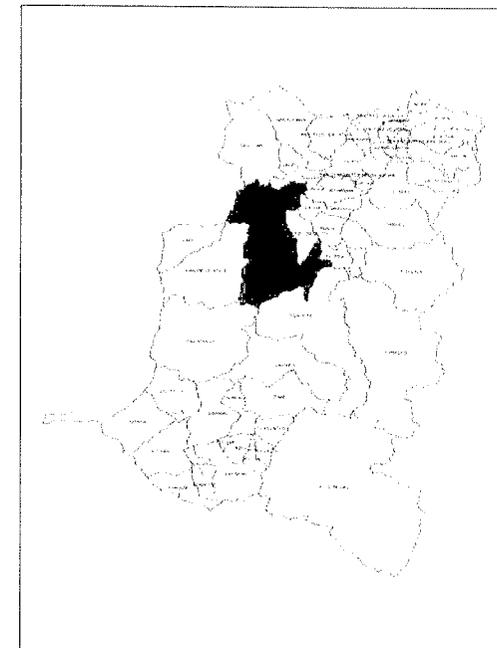
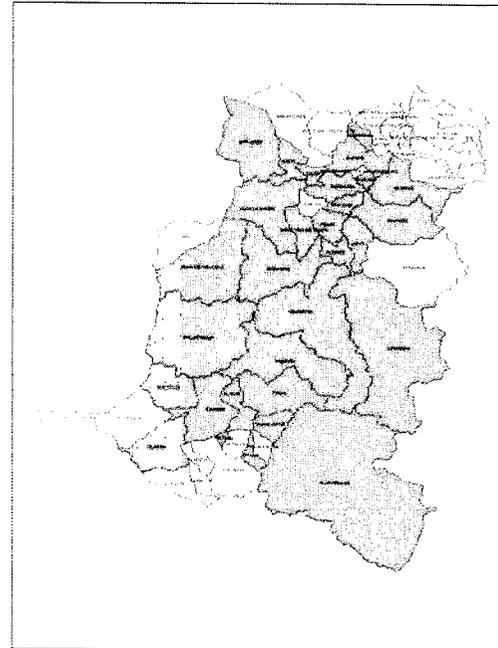
6376 familias

META

Rendimiento 0,52TM/Ha*20
USD(Precio QQ)=228,8USD

2 Canal de
comercialización

LA REPUBLICA
DE ECUADOR
CHIMBORAZO
San Mateo

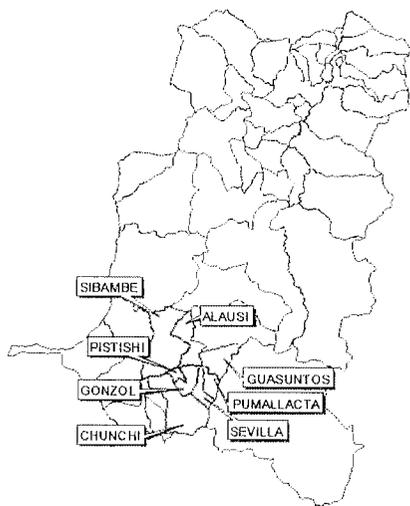


TRIGO

MAGAP	GADPCH	PMSK
--------------	---------------	-------------



LUGARES DE INTERVENCIÓN CIRCUITO TRIGO



8 Parroquias

478 Ha

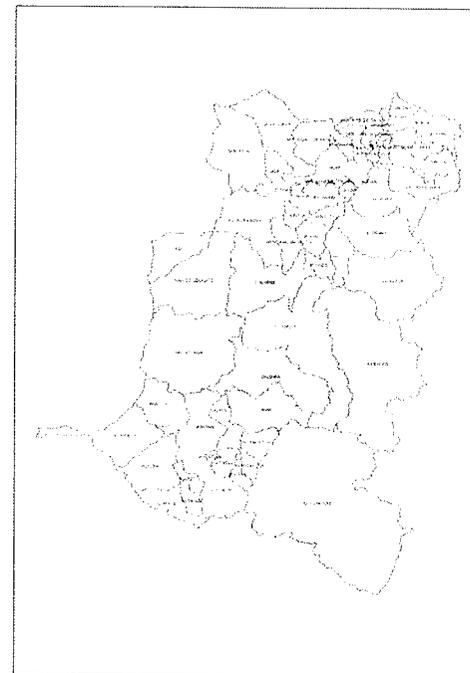
1914 familias

META

Rendimiento 0,72TM/Ha *
\$22 = 348

2 Canal de
comercialización

LA R=VOLACON
CIUDADANA
MAGAP



QUINUA

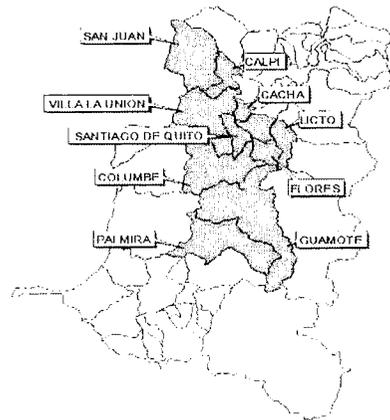
MAGAP

GADPCH

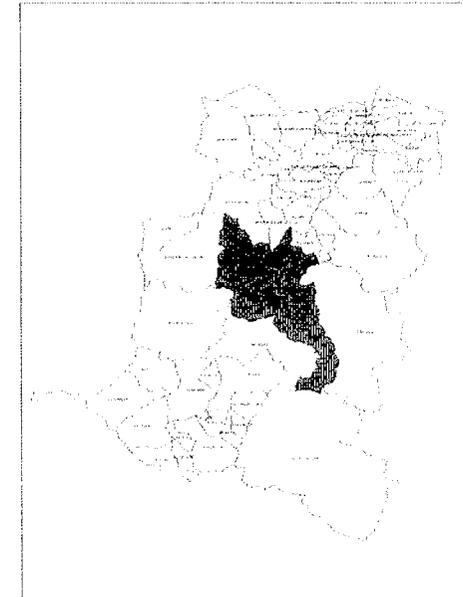
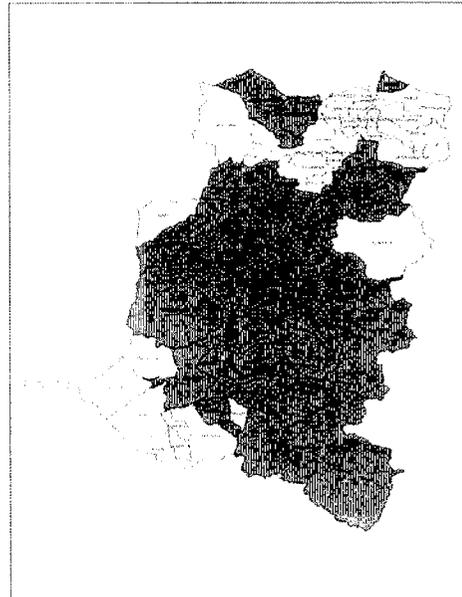
PMSK



LUGARES DE INTERVENCIÓN CIRCUITO QUINUA



11 Parroquias
 2730 Ha
 2730 familias
META
 2730 Ha sembradas
 Rendimiento 1,3TM/Ha *
 \$80 = 2288
 2 Canales de comercialización



10. Inversión y Autodesarrollo **Figura 11.*

Para asegurar la sostenibilidad en el desarrollo rural, es fundamental que los habitantes mismos continúen con sus esfuerzos propios. Por lo tanto, los actores externos deberán procurar que la gente comunitaria, en vez de esperar siempre la ayuda, vaya forjando el espíritu de independencia, y reducir gradual y estratégicamente las inversiones orientando a que los habitantes vaya aumentando sus aportes.

Figura 11.
Inversión(Insumos)
y Autodesarrollo

